

板橋区高齢者ニーズ調査

シニア世代の生活・健康・生きがい・仕事についてのアンケート調査
報告書

令和3年3月

板 橋 区

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査対象	1
3. 調査期間	1
4. 調査方法	1
5. 調査項目	1
6. 回収結果	1
7. 前回調査について	2
8. 調査結果を見る上での注意事項	2
第2章 調査結果の概要	3
1. 回答者の属性.....	3
2. 仕事、働くことについて.....	3
3. 健康について	3
4. 外出・人とのつきあいについて	4
5. インターネットなどの利用について.....	4
6. 地域活動などへの参加状況について.....	5
7. 区の事業について	5
8. 新型コロナウイルス感染症の影響・今後の意向・希望する支援施策について.....	5
第3章 調査結果の詳細	6
1. 回答者の属性.....	6
(1) 調査票の記入者	6
(2) 現在の居住地	6
(3) 性別・年齢.....	7

（４）居住地区.....	8
（５）現在の地区での居住年数.....	11
（６）世帯構成.....	14
（７）家族の介護状況.....	17
（８）最後に卒業した学校.....	20
（９）年収.....	22
（10）定期的な収入源.....	23
（11）現在の暮らし向き.....	24
2. 仕事、働くことについて.....	27
（１）現在の仕事.....	27
（２）今後の就業意向.....	40
（３）仕事に関する情報を提供している施設などの認知度・利用状況.....	51
3. 健康について.....	58
（１）健康に対する自己認識.....	58
（２）心配ごとや悩みごとの状況.....	59
（３）日常の活動状況・ふだんの生活.....	62
4. 外出・人とのつきあいについて.....	67
（１）外出頻度・外出の主な目的.....	67
（２）近所づきあいの程度.....	74
（３）友人・知人・別居の家族・親戚と会う頻度.....	78
（４）友人・知人・別居の家族・親戚と連絡をとる頻度.....	81
（５）予定がなくても気軽に行ける場所.....	84
5. インターネットなどの利用について.....	87
（１）携帯電話・スマートフォン・パソコンなどの利用状況.....	87
（２）インターネットの利用状況.....	117
（３）今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと.....	120
（４）今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと.....	121
（５）インターネットの利用に関する希望.....	122

6. 地域活動などへの参加状況について.....	124
(1) 過去1年間に参加した活動・今後新たに参加したい活動	124
(2) 過去1年間に最も多く参加した活動.....	142
(3) 活動に参加していない理由	148
(4) 老人クラブへの加入状況.....	150
7. 区の事業について	154
(1) 区の事業に対する認知度・利用または参加状況.....	154
(2) 区の事業を知った情報源.....	171
(3) 区の事業への参加による効果	174
(4) 区の事業に参加するときに重視すること	175
(5) 区の事業に参加しない理由	176
8. 新型コロナウイルス感染症の影響・今後の意向・希望する支援施策について.....	177
(1) 「社会参加」に対する新型コロナウイルス感染症の影響.....	177
(2) 今後、今まで以上に取り組みたい・心がけたいもの	178
(3) 行政で行ってほしいと思う支援施策.....	181
9. 自由意見	182

第4章 調査結果の分析 194

1. 仕事、働くことについて.....	194
2. 健康について	196
3. 外出・人とのつきあいについて	197
4. インターネットなどの利用について.....	199
5. 地域活動などへの参加状況について.....	200
6. 区の事業について	202
7. 新型コロナウイルス感染症の影響・今後の意向・希望する支援施策について.....	204

第5章 資料編 205

調査票.....	205
----------	-----

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

板橋区では、介護を要しない元気高齢者の活躍促進に向け、地域活動や就労の支援、フレイル予防等からなる板橋区シニア世代活動支援プロジェクトを実施している。今後のプロジェクトの推進のため、元気高齢者の状況やニーズ等を把握する調査を行った。

2. 調査対象

65～84歳の板橋区民（要介護認定者を除く）3,000人

※日常生活圏域ごとの人口規模で、男女3,000人を無作為に案分抽出した。

3. 調査期間

令和2年10月30日（金）～11月20日（金）

4. 調査方法

調査票の郵送配布・回収

※調査期間中に1回、対象者全員に礼状兼協力依頼のはがきを送付した。

5. 調査項目

- （1）年齢、居住地区、世帯の状況などについて
- （2）仕事、働くことについて
- （3）健康について
- （4）外出、活動などについて
- （5）対象者自身のことについて

6. 回収結果

3,000票を配布し、回収数は1,721票、回収率は57.4%であった。

なお、本年度の調査においては無効回答票がなかったため、有効票数・有効回収数も上記と同数となっている。

7. 前回調査について

(1) 調査対象

今回調査と同様

※今回は改めて対象者を抽出しているため、前回と回答者は一致していない。

(2) 調査期間

平成29年1月10日（火）～1月25日（水）

(3) 調査方法

今回調査と同様、65～84歳の板橋区民（要介護認定者を除く）3,000人

(4) 調査項目

主な項目は今回調査と同様だが、一部の設問は変更している。

(5) 回収結果

3,000票を配布し、回収数は1,924票、回収率は64.1%であった。

うち無効回答が6票あったため、有効票数は1,918票、有効回収率は63.9%であった。

8. 調査結果を見る上での注意事項

(1) 図表中の「n」は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。

(2) 調査結果の比率は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、すべての比率を合計しても100.0%にならないことがある。

(3) 複数回答の設問では、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。

(4) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。

(5) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち、件数が10以下の項目については、全体結果と比率に大きな差がある選択肢があっても、本文中ではふれていない場合がある。

第2章 調査結果の概要

1. 回答者の属性

○性別・年齢（問3）

回答者の性別は、男性が41.9%、女性が52.6%となっている。また、年齢は、65～69歳が28.6%、70～74歳が32.2%、75～79歳が25.5%、80～84歳が11.7%となっている。（図表3-1-3・図表3-1-4）

2. 仕事、働くことについて

①現在の職業（問10）

「その他」が5.3%、「清掃、配達」が4.9%、「会社・団体の役員、管理職」が4.6%の順となっている。また、「無職・仕事からは引退した」が36.7%、「主婦・主夫（専業）」が21.8%で、現在仕事についていない人は6割近くとなっている。（図表3-2-1）

②雇用形態（問10-1）

4割が「パート・アルバイト・契約社員（40.0%）」となっており、「自営業主、自由業」が16.7%、「正社員・正規職員・正規従業員」が9.7%と続いている。（図表3-2-3）

③現在の仕事に「生きがい」を感じているか（問10-4）

「とても感じる」の17.2%と「まあまあ感じる」の53.7%を合わせた『感じる』が70.9%、「あまり感じない」の23.0%と「全く感じない」の1.7%を合わせた『感じない』が24.7%となっている。（図表3-2-10）

④今後の就業意向（問11）

5割近くが「今は働いておらず、今後も働く予定はない（48.9%）」、3割弱が「今も働いており、今後も働きたい（29.4%）」となっており、「今は働いていないが、今後働きたい」が6.9%となっている。（図表3-2-14）

3. 健康について

①健康に対する自己認識（問13）

「とても健康」の10.7%と「まあまあ健康」の63.3%を合わせた『健康』が74.0%、「あまり健康でない」の17.0%と「健康でない」の6.3%を合わせた『不健康』が23.3%となっている。（図表3-3-1）

②現在の心配ごとや悩みごと（問14）

6割が「自分の健康のこと（60.0%）」、約4割が「家族・親族の健康のこと（40.7%）」、3割近くが「生活費など経済的なこと（27.1%）」となっている。（図表3-3-2）

4. 外出・人とのつきあいについて

①外出頻度（問17）

前回調査（2016年度）と去年（2019年）・今年（2020年）とを比較すると、「2～3日に1回程度」が一貫して上昇し、「毎日2回以上」が一貫して低下している。（図表3-4-1）

また、去年（2019年）・今年（2020年）ともに、「毎日1回（去年49.8%・今年45.9%）」が最も高く、次いで「毎日2回以上（24.9%・22.9%）」、「2～3日に1回程度（18.1%・22.3%）」の順となっている。（図表3-4-2・図表3-4-3）

②外出の主な目的（問17）

去年（2019年）・今年（2020年）ともに、「買い物（去年66.9%・今年66.3%）」が最も高く、次いで「運動、散歩（36.6%・36.4%）」、「仕事（31.6%・28.9%）」の順となっている。（図表3-4-6・図表3-4-7）

③近所づきあいの程度（問18）

つきあいがあると回答している人の中では、3割を超えているのが「立ち話をする程度の人がいる（35.5%）」「あいさつをする程度の人がいる（34.1%）」で、次いで「お互いに訪問しあう人がある」が10.7%となっている。一方、「つきあいはない」は13.5%となっている。（図表3-4-8）

④予定がなくても気軽に行ける場所の有無（問21）

「1か所ある（26.2%）」「2か所ある（22.7%）」「3か所以上ある（22.4%）」を合わせた『気軽に行ける場所がある』は71.3%、「ない」は25.6%となっている。（図表3-4-19）

5. インターネットなどの利用について

①携帯電話・スマートフォン・パソコンなどの利用状況（問22）

「今年（2020年）から」「それより前から」を合わせた『使っている』は、「スマートフォン」が57.5%と最も高く、次いで「携帯電話」が42.9%、「パソコン」が33.5%の順となっている。特にスマートフォンは「今年（2020年）から」が他の利用端末と比較して高くなっている。（図表3-5-1）

②インターネットの利用状況（問23）

前回調査（2016年度）と去年（2019年）・今年（2020年）とを比較すると、「ほぼ毎日利用する」が一貫して上昇しており、特に前回調査（2016年度）（23.8%）から去年（2019年）（35.1%）にかけては11.3ポイント上昇している。（図表3-5-31）

また、去年（2019年）・今年（2020年）ともに、利用していると回答している人の中では「ほぼ毎日利用する（去年35.1%・今年36.5%）」が最も高く、次いで「2～3日おきに利用する（6.3%・6.3%）」、「週に1回程度利用する（4.8%・4.9%）」の順となっている。（図表3-5-32・図表3-5-34）

③今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと（問24）

6割を超えているのが「インターネットのニュースを読むこと（66.3%）」「メールやLINEなどでやりとりすること（63.7%）」で、次いで「インターネットで買い物をすること」が31.6%となっている。（図表3-5-36）

6. 地域活動などへの参加状況について

①過去1年間に最も多く参加した活動（問27-1①）

2割を超えているのが「健康・スポーツの活動、習いごと（体操・ゲートボール・ダンスなど）（24.3%）」
「趣味や学習の活動・習いごと（語学・音楽・囲碁・俳句など）（21.9%）」で、次いで「スポーツジ
ム」が11.6%、「町会・自治会の役員、事務局活動」が9.2%、「ボランティア活動（上記以外の活動）」
が4.0%の順となっている。（図表3-6-18）

②今後新たに参加したい活動（問27）

「健康・スポーツの活動、習いごと」が15.5%と最も高く、次いで「趣味や学習の活動・習いごと」
が14.1%、「ボランティア活動（上記以外の活動）」が13.4%の順となっている。（図表3-6-1）

③老人クラブへの加入状況（問28）

「加入している」が6.9%、「加入していない」が87.6%となっている。（図表3-6-25）

④老人クラブに加入していない理由（問28-1）

「仕事などで忙しいから」が25.9%と最も高く、次いで「老人クラブ」を知らないから」が23.3%、
「会員同士の間関係がわずらわしいから」が20.8%の順となっている。（図表3-6-27）

7. 区の事業について

①区の事業を知った情報源（問30）

4割強が「広報いたばし（42.9%）」となっており、「回覧板」が15.8%、「掲示板ポスター」が14.5%
と続いている。（図表3-7-17）

②区の事業に参加するときに重視すること（問32）

「自分のしたいこと、興味のあることに役立つ内容である」が32.9%と最も高く、次いで「健康に
役立つ」が28.4%、「費用がかからない・安い」が21.1%の順となっている。（図表3-7-21）

8. 新型コロナウイルス感染症の影響・今後の意向・希望する支援施策について

①「社会参加」に対する新型コロナウイルス感染症の影響（問34）

3割台半ばが「外出を自粛しており、以前のように参加できない（35.0%）」となっており、「活動・
催し・イベント・会合などがなくなり、参加できない」が18.3%、「通っていた場所が休止・閉鎖に
なり、行くことができない」が14.5%と続いている。（図表3-8-1）

②行政で行ってほしいと思う支援施策（問36）

3割強が「健康づくりの支援（31.4%）」となっており、「活動に関する情報提供」が17.2%、「活動
参加のきっかけづくりの支援」が12.9%と続いている。（図表3-8-4）

第3章 調査結果の詳細

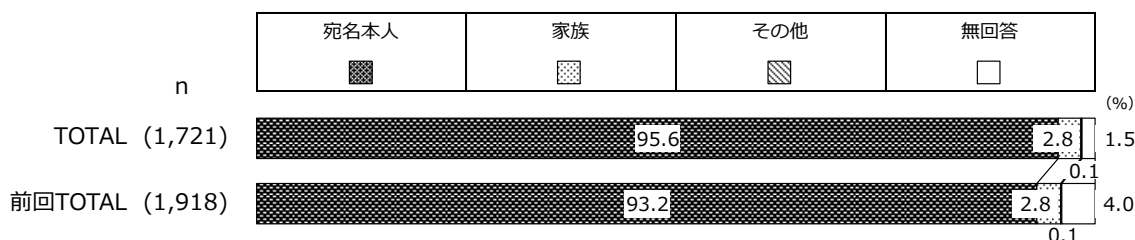
1. 回答者の属性

(1) 調査票の記入者

問1 この調査票を記入するのはどなたですか。(○は1つのみ)

調査票の記入者は、「宛名本人」が95.6%、「家族」が2.8%、「その他」が0.1%となっている。

図表3-1-1 調査票の記入者



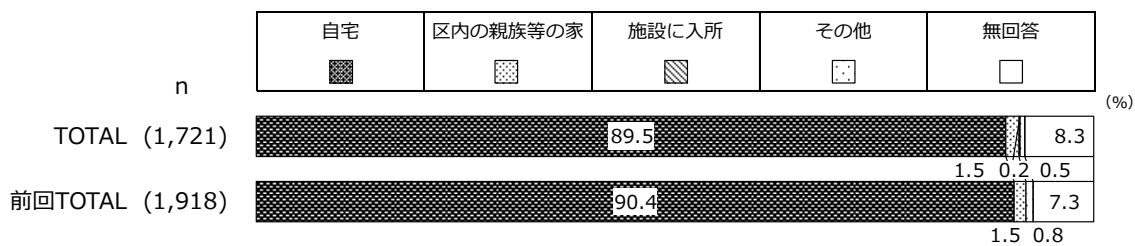
(2) 現在の居住地

問2 あなた（宛名のご本人）は現在、どちらに住んでいますか。(○は1つのみ)

調査対象者（宛名本人）の現在の居住地は、「自宅（ショートステイ利用を含む）」が89.5%、「区内の親族等の家」が1.5%、「施設に入所」が0.2%、「その他（入院中、区外転出、亡くなったなど）」が0.5%となっている。

「施設に入所」「その他」の回答者（計13人）は、問2で調査終了とした。

図表3-1-2 現在の居住地



	n	自宅	区内の親族等の家	施設に入所	その他	無回答
TOTAL	1,721	1,540	25	4	9	143
		89.5	1.5	0.2	0.5	8.3
前回TOTAL	1,918	90.4	1.5	-	0.8	7.3

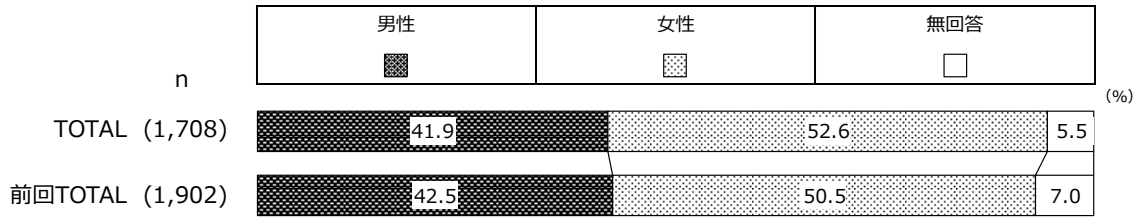
※今回調査では「施設に入所」の選択肢を追加している。

(3) 性別・年齢

問3 あなた(宛名のご本人)の性別と、令和2年8月1日現在の満年齢をお答えください。(それぞれ○は1つ)

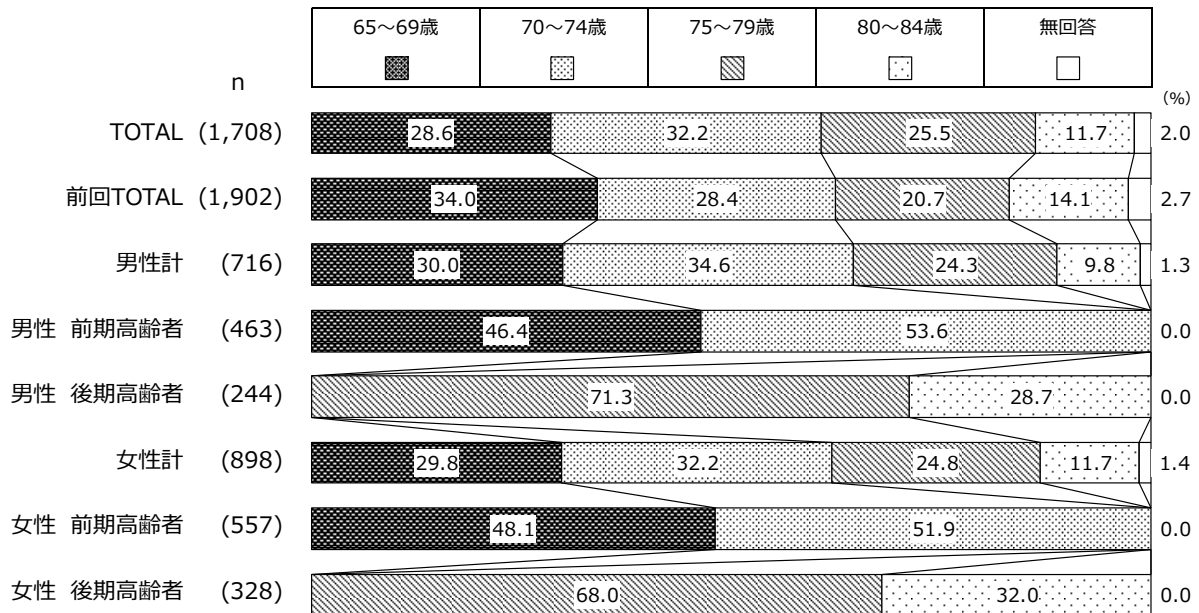
回答者の性別は、男性が41.9%、女性が52.6%となっている。

図表3-1-3 性別



回答者の年齢は、65～69歳が28.6%、70～74歳が32.2%、75～79歳が25.5%、80～84歳が11.7%となっている。

図表3-1-4 年齢：性年代別



(4) 居住地区

問4 あなた（宛名のご本人）のお住まいはどちらですか。あてはまる地区に○をつけてください。
丁目がある場合には、あてはまる丁目にも○をつけてください。（それぞれ○は1つ）

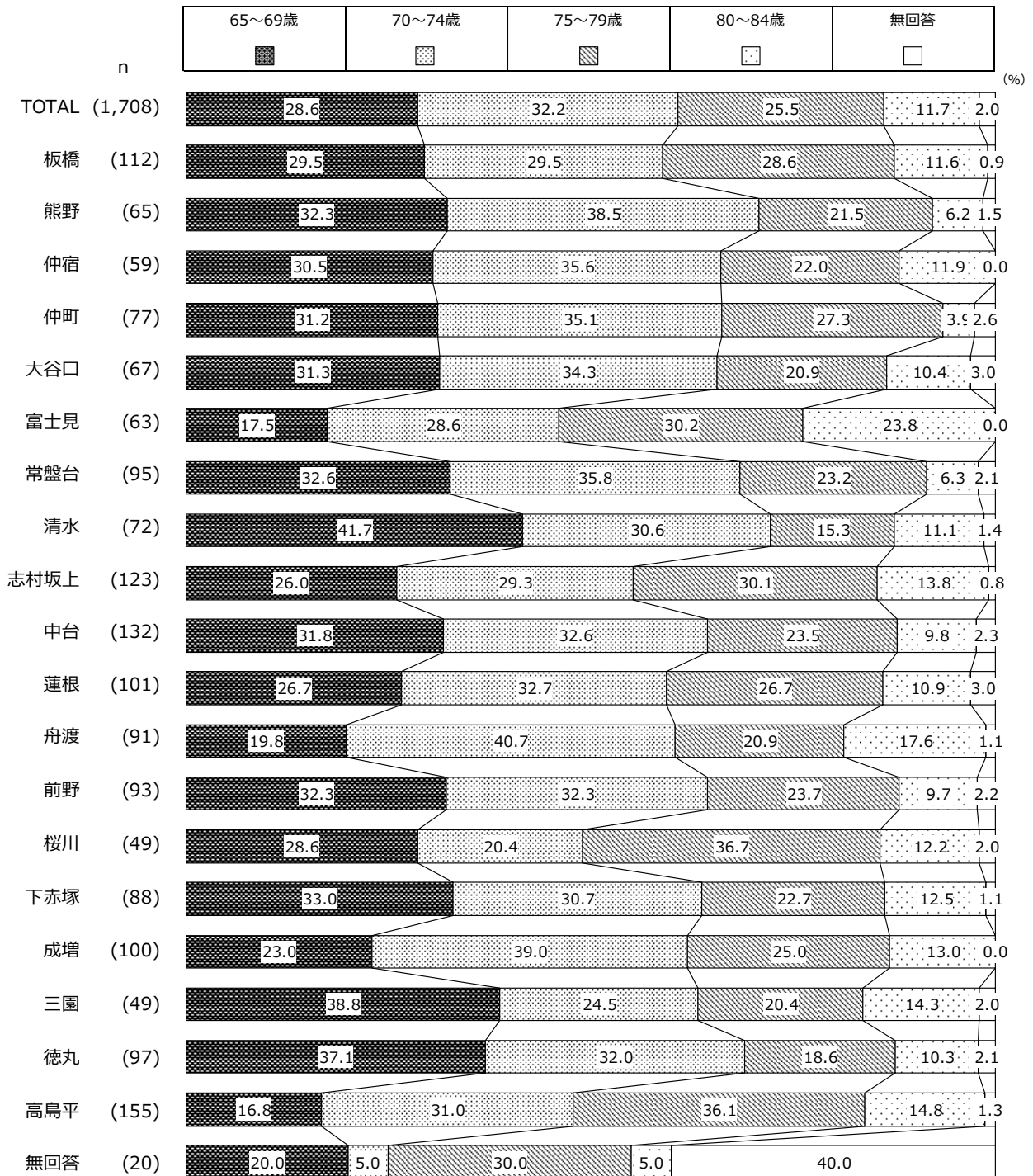
地区名及び丁目の回答内容より、居住地区をおとしより相談センター（地域包括支援センター）のエリア区分を参考に下記の19地区に分けて、集計を行った。

図表3-1-5 居住地区一覧

名称	該当エリア（おとしより相談センターの担当地区を元に作成）
板橋	加賀1・2丁目、板橋1～4丁目
熊野	大山金井町、大山東町、熊野町、中丸町、南町
仲宿	稲荷台、仲宿、氷川町、栄町
仲町	大山町、幸町、大山西町、弥生町、仲町、中板橋
大谷口	大谷口1・2丁目、大谷口上町、大谷口北町、向原1～3丁目、小茂根1・2丁目
富士見	本町、大和町、双葉町、富士見町
常盤台	上板橋1～3丁目、常盤台1～4丁目、南常盤台1・2丁目、東新町1丁目
清水	清水町、蓮沼町、大原町、泉町、宮本町
志村坂上	志村1～3丁目、小豆沢1～4丁目、坂下1丁目、東坂下1丁目、相生町
中台	若木1～3丁目、中台1～3丁目、西台1～4丁目
蓮根	蓮根1～3丁目、坂下2・3丁目、東坂下2丁目
舟渡	舟渡1～4丁目、新河岸1・2丁目、高島平7～9丁目
前野	前野町1～6丁目
桜川	小茂根3～5丁目、東山町、東新町2丁目、桜川1～3丁目
下赤塚	赤塚1・2丁目、6～8丁目、赤塚新町1～3丁目、大門、四葉1～2丁目
成増	赤塚3～5丁目、成増1～4丁目
三園	高島平4～6丁目、成増5丁目、三園1・2丁目、新河岸3丁目
徳丸	徳丸1～8丁目
高島平	高島平1～3丁目

回答者の居住地区は、高島平が155人と最も多く、桜川と三園がともに49人と最も少なくなっている。年代別にみると、他の地域と比べて前期高齢者が多いのは清水（65～69歳が41.7%・70～74歳が30.6%で合わせて72.3%）・熊野（32.3%・38.5%で70.8%）、後期高齢者が多いのは富士見（75～79歳が30.2%・80～84歳が23.8%で合わせて54.0%）・高島平（36.1%・14.8%で50.9%）・桜川（36.7%・12.2%で48.9%）となっている。

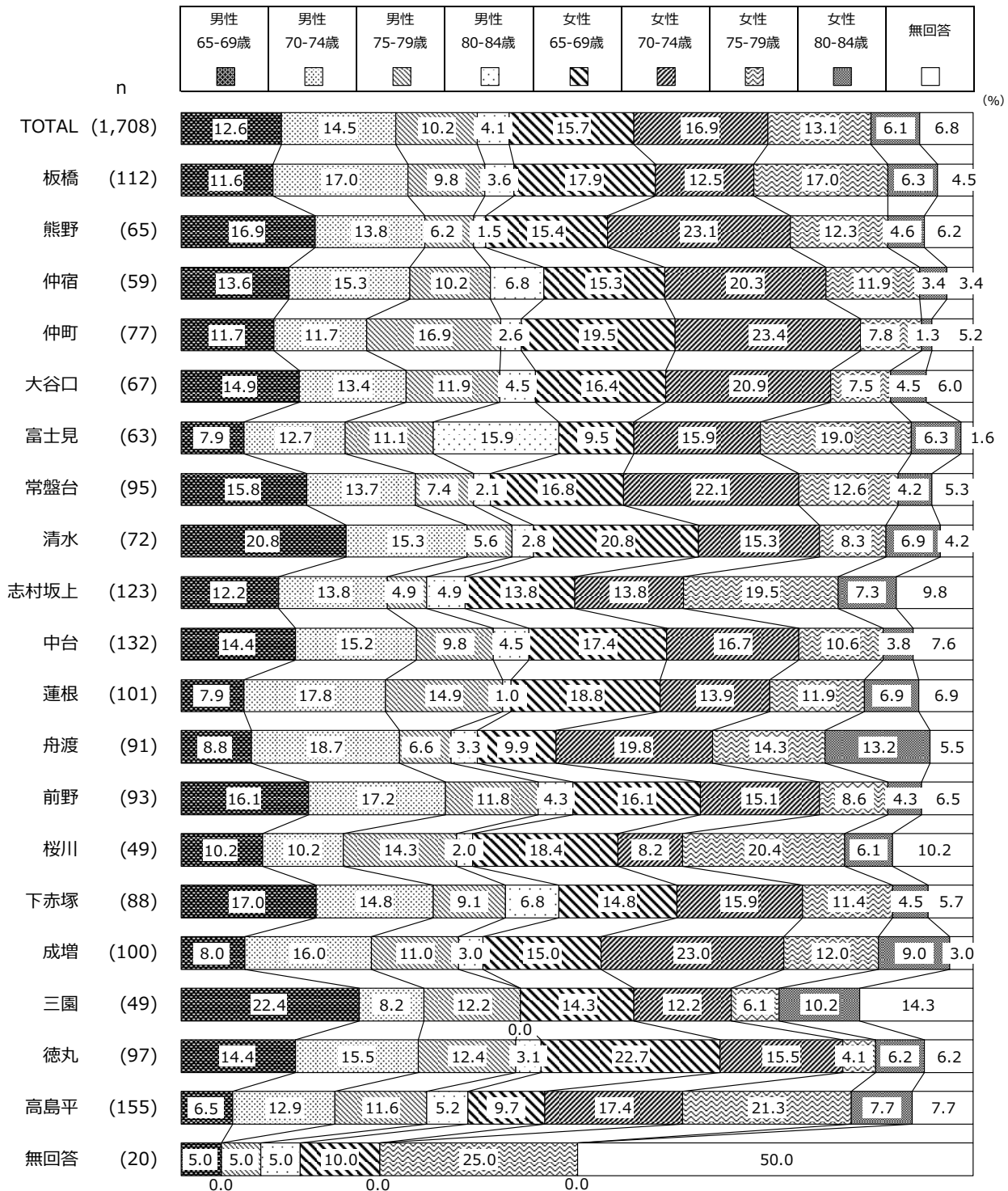
図表3-1-6 年代（詳細）：地区別



第3章 調査結果の詳細

詳細な年齢区分別でみると、男性65～69歳は三園（22.4%）・清水（20.8%）で、男性75～79歳は仲町（16.9%）で、男性80～84歳は富士見（15.9%）で、それぞれ多くなっている。一方、男性70～74歳は三園（8.2%）で少なくなっている。また、女性65～69歳は徳丸（22.7%）・清水（20.8%）で、女性70～74歳は仲町（23.4%）・熊野（23.1%）・成増（23.0%）・常盤台（22.1%）で、女性75～79歳は高島平（21.3%）・桜川（20.4%）・志村坂上（19.5%）・富士見（19.0%）で、女性80～84歳は舟渡（13.2%）で、それぞれ多くなっている。

図表3-1-7 性年代（詳細）：地区別



(5) 現在の地区での居住年数

問5 あなた（宛名のご本人）は、問4でお答えの地区にどのくらい住んでいますか。

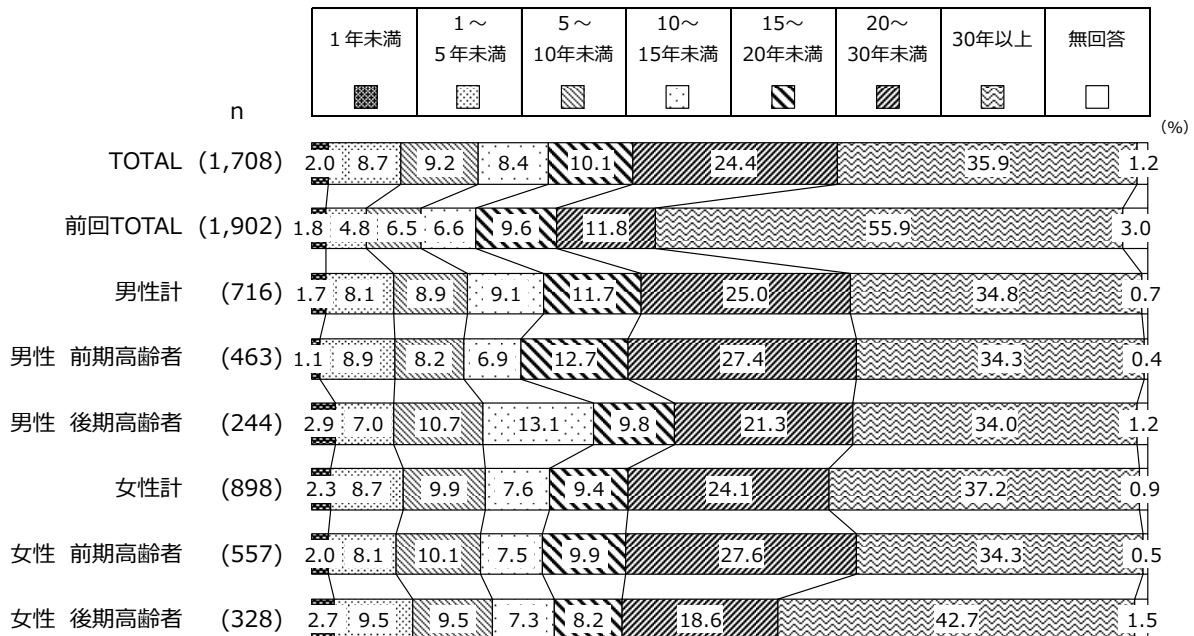
※同じ地区内で転居や増改築などをされた場合は、通算してお答えください。（○は1つのみ）

現在の地区での居住年数については、「30年以上」が35.9%と最も高く、次いで「20～30年未満」が24.4%、「15～20年未満」が10.1%の順となっている。

性別では、大きな違いがみられない。性年代別でみると、女性後期高齢者では「30年以上（42.7%）」が全体の傾向よりも高くなっている。

前回調査と比較すると、「30年以上」が55.9%から35.9%に20.0ポイント低下、「20～30年未満」が11.8%から24.4%に12.6ポイント上昇している。「30年以上」の低下は30年以上の居住者が異動したために、「20～30年未満」の上昇は前回調査の「15～20年未満」の該当者が繰り上がって「20～30年未満」に該当するようになったために、このような結果になったと考えられる。

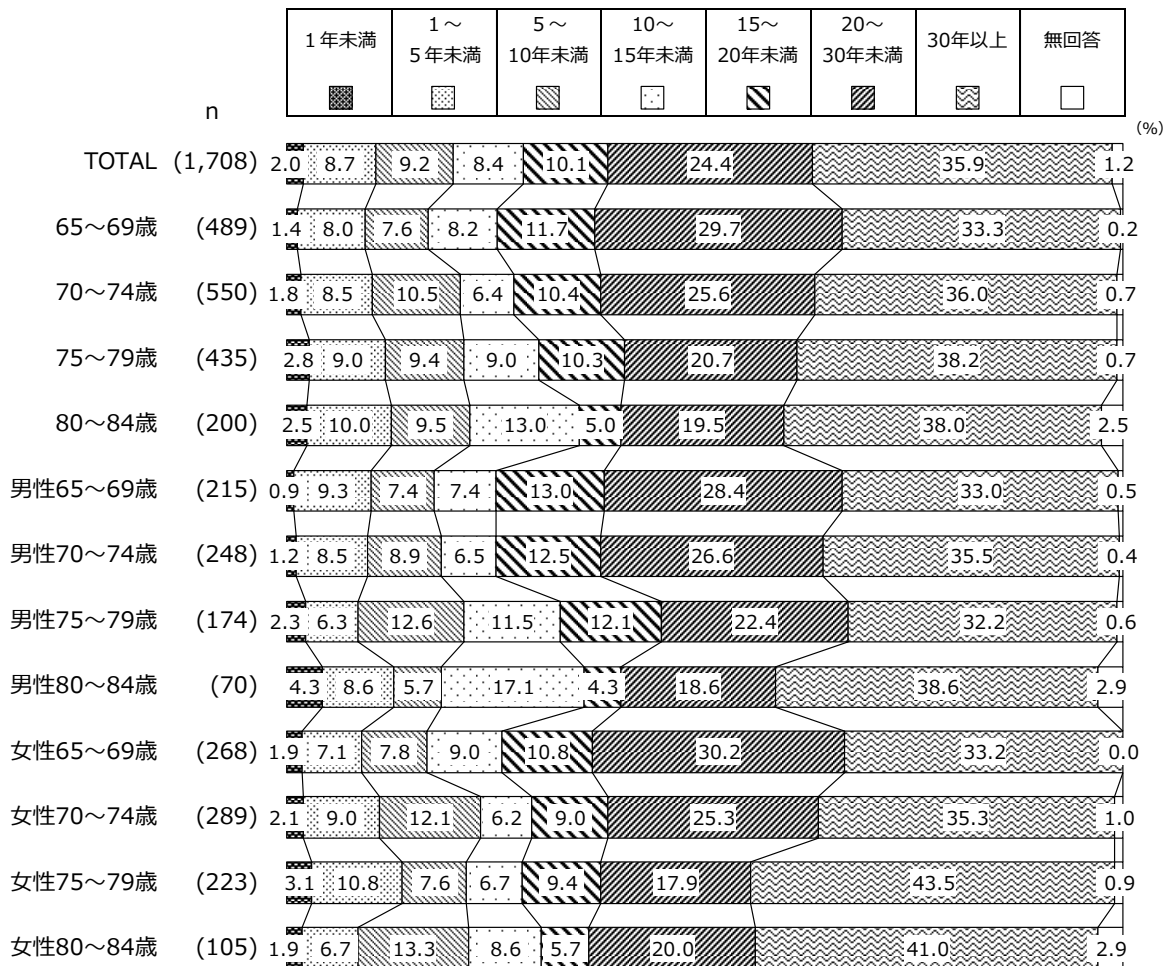
図表3-1-8 現在の地区での居住年数：性年代別



第3章 調査結果の詳細

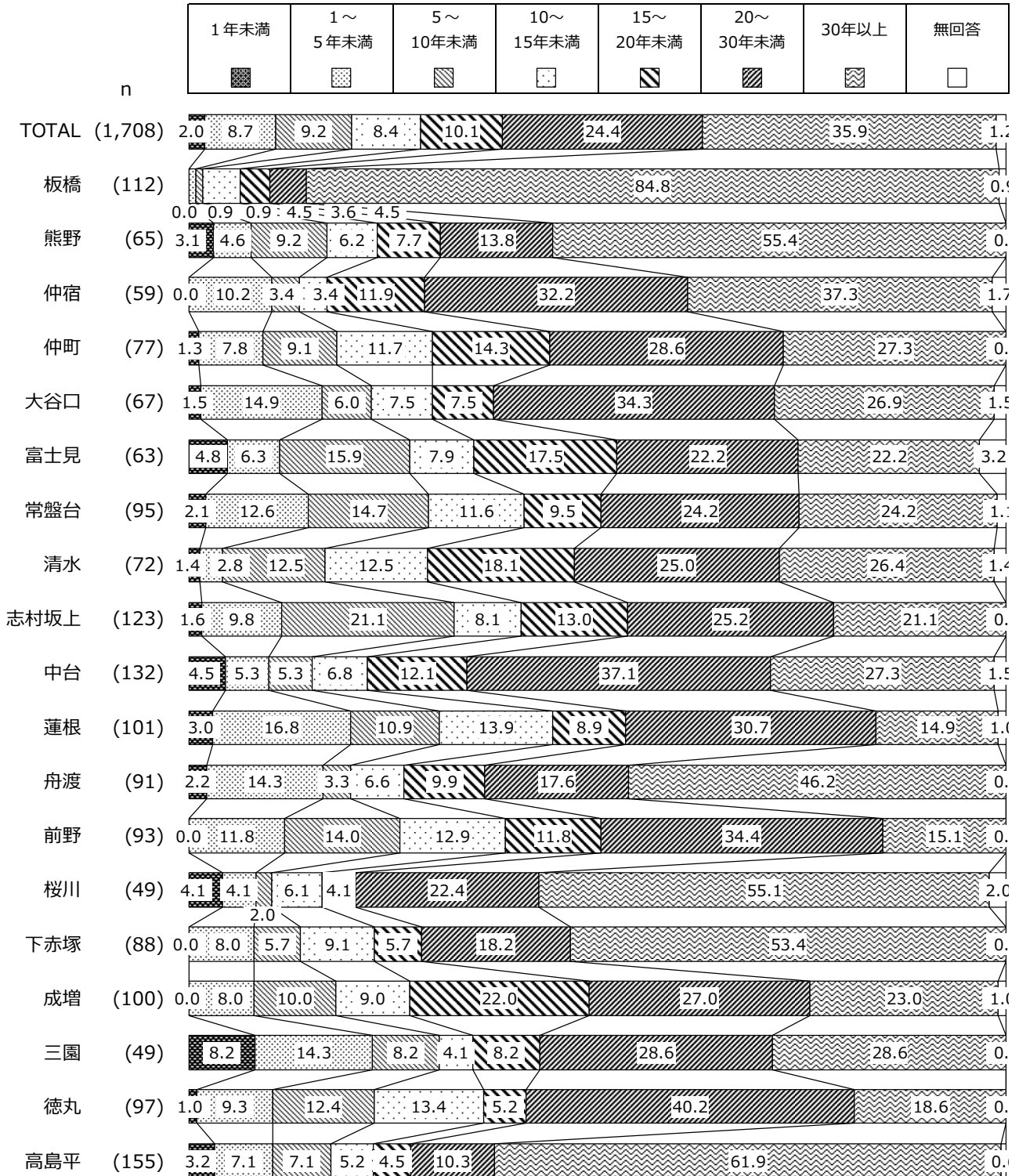
詳細な年齢区分別でみると、65～69歳では「20～30年未満（29.7%）」が、男性80～84歳では「10～15年未満（17.1%）」が、女性65～69歳では「20～30年未満（30.2%）」が、女性75～79歳では「30年以上（43.5%）」が、女性80～84歳では「30年以上（41.0%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-1-9 現在の地区での居住年数：性年代別（詳細）



地区別でみると、「5～10年未満」は志村坂上（21.1%）が、「15～20年未満」は成増（22.0%）が、「20～30年未満」は徳丸（40.2%）・中台（37.1%）・前野（34.4%）が、「30年以上」は板橋（84.8%）・高島平（61.9%）・熊野（55.4%）・桜川（55.1%）・下赤塚（53.4%）・舟渡（46.2%）が、それぞれ他の地区と比べて高くなっている。

図表3-1-10 現在の地区での居住年数：地区別



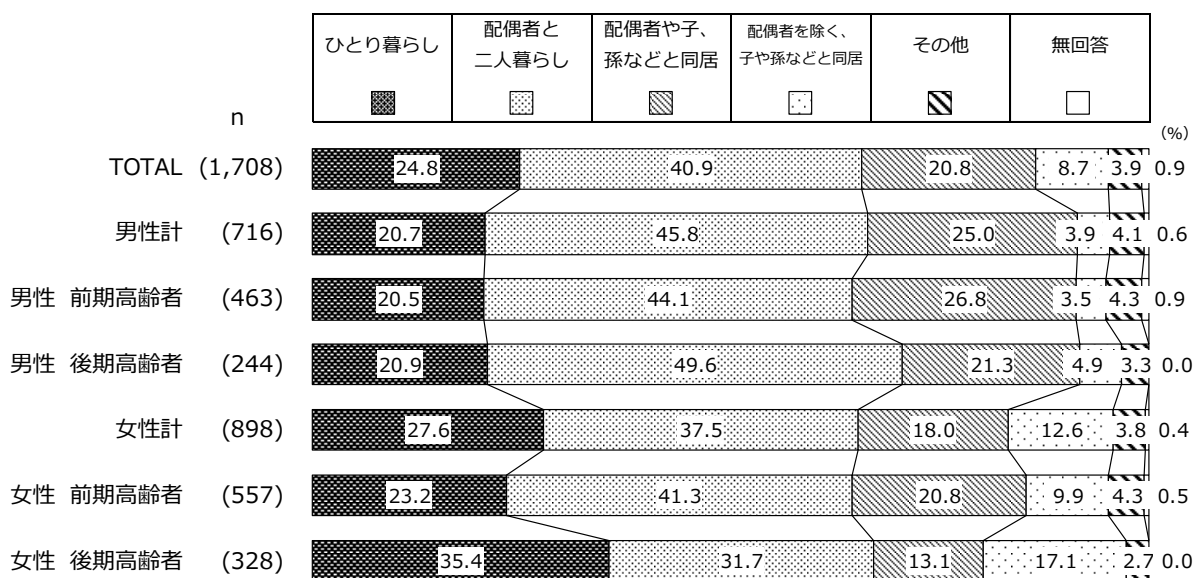
(6) 世帯構成

問6 あなた（宛名のご本人）の世帯の状況をお選びください。（○は1つのみ）

世帯構成については、「配偶者と二人暮らし」が40.9%と最も高く、次いで「ひとり暮らし」が24.8%、「配偶者や子、孫など同居」が20.8%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「配偶者と二人暮らし（45.8%）」「配偶者や子、孫など同居（25.0%）」が高く、女性では男性よりも「ひとり暮らし（27.6%）」「配偶者を除く、子や孫など同居（12.6%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性後期高齢者では「配偶者と二人暮らし（49.6%）」が、女性後期高齢者では「ひとり暮らし（35.4%）」「配偶者を除く、子や孫など同居（17.1%）」が、前期高齢者と比べてそれぞれ高くなっている。

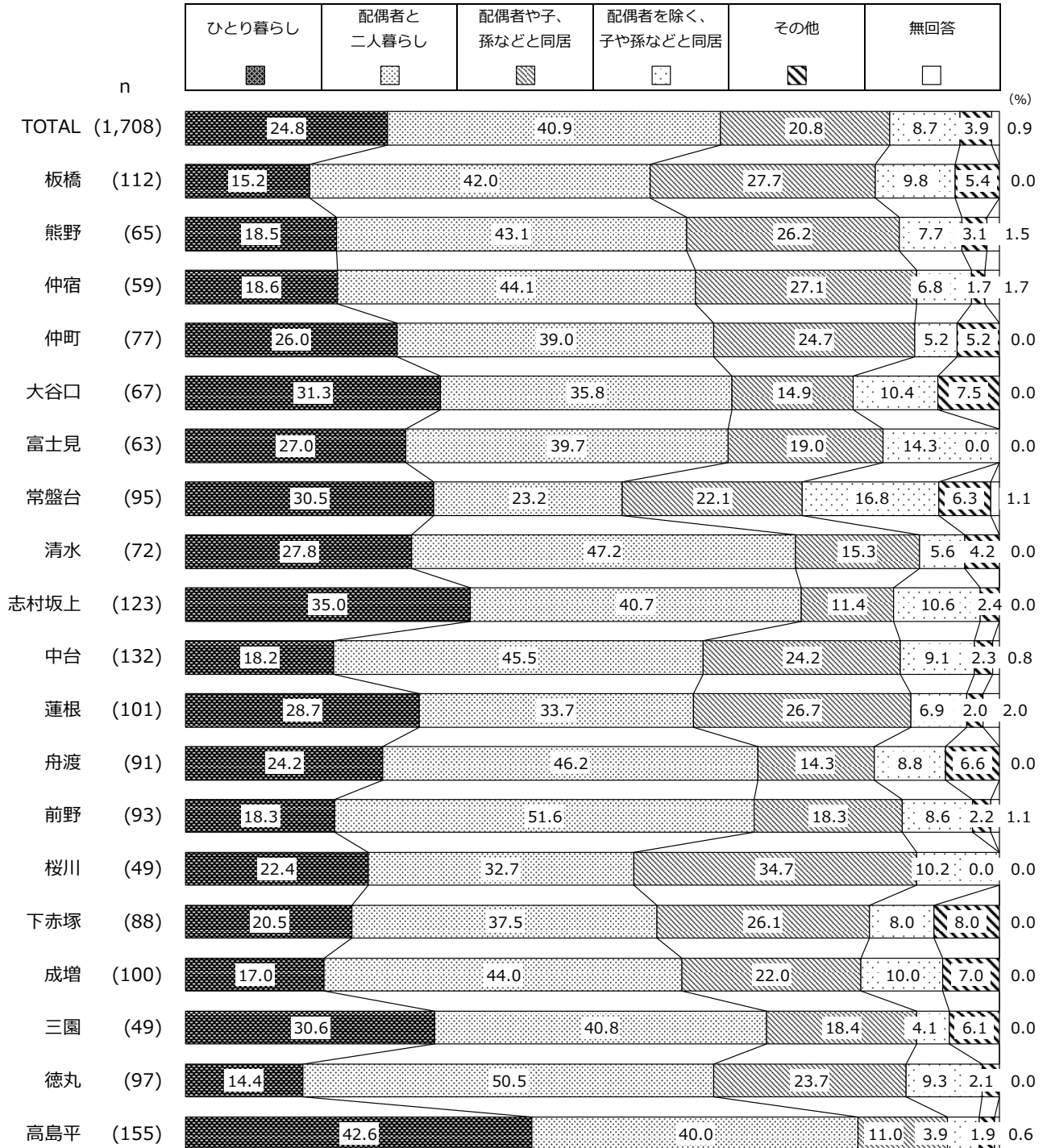
図表3-1-11 世帯構成：性年代別



※前回調査では「夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上」「夫婦二人暮らしで一人だけが65歳以上」「子や孫など同居」「前掲以外で全員が65歳以上」としていた選択肢を、今回調査では「配偶者と二人暮らし」「配偶者や子、孫など同居」「配偶者を除く、子や孫など同居」に変更しているため、経年比較は行っていない。

地区別でみると、「ひとり暮らし」は高島平（42.6%）・志村坂上（35.0%）が、「配偶者と二人暮らし」は前野（51.6%）が、「配偶者や子、孫など同居」は桜川（34.7%）が、それぞれ他の地区と比べて高くなっている。

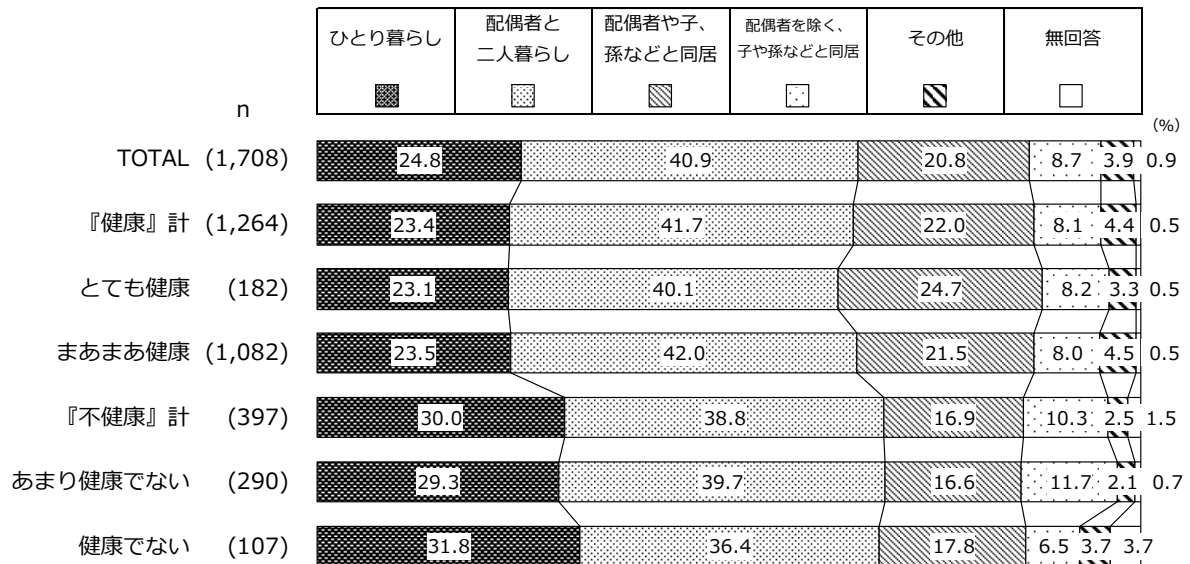
図表3-1-12 世帯構成：地区別



第3章 調査結果の詳細

健康に対する自己認識別でみると、『健康』では『不健康』よりも「配偶者や子、孫など同居(22.0%)」が高く、『不健康』では『健康』よりも「ひとり暮らし(30.0%)」が高くなっている。

図表3-1-13 世帯構成：健康に対する自己認識別



(7) 家族の介護状況

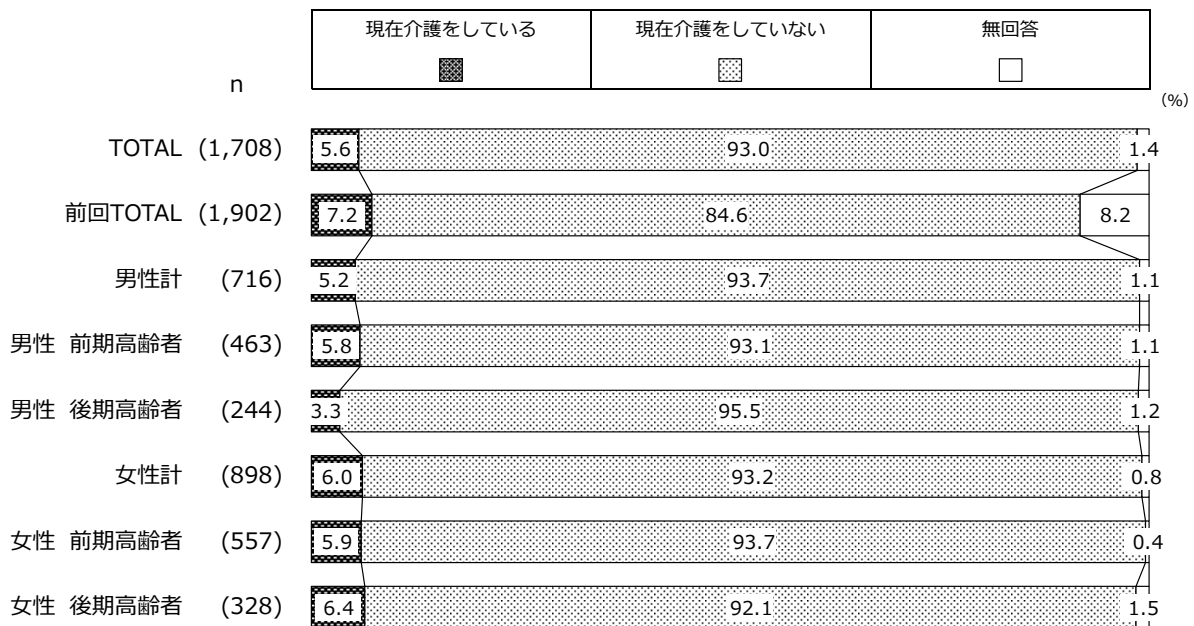
問7 あなた（宛名のご本人）は現在、ご家族などの介護をしていますか。（○は1つのみ）

家族の介護状況については、「現在介護をしている」が5.6%、「現在介護をしていない」が93.0%となっている。

性別・性年代別では、男女差・加齢に伴う大きな違いはみられない。

前回調査と比較すると、「現在介護をしていない（93.0%）」が8.4ポイント上昇している。

図表3-1-14 家族の介護状況：性年代別

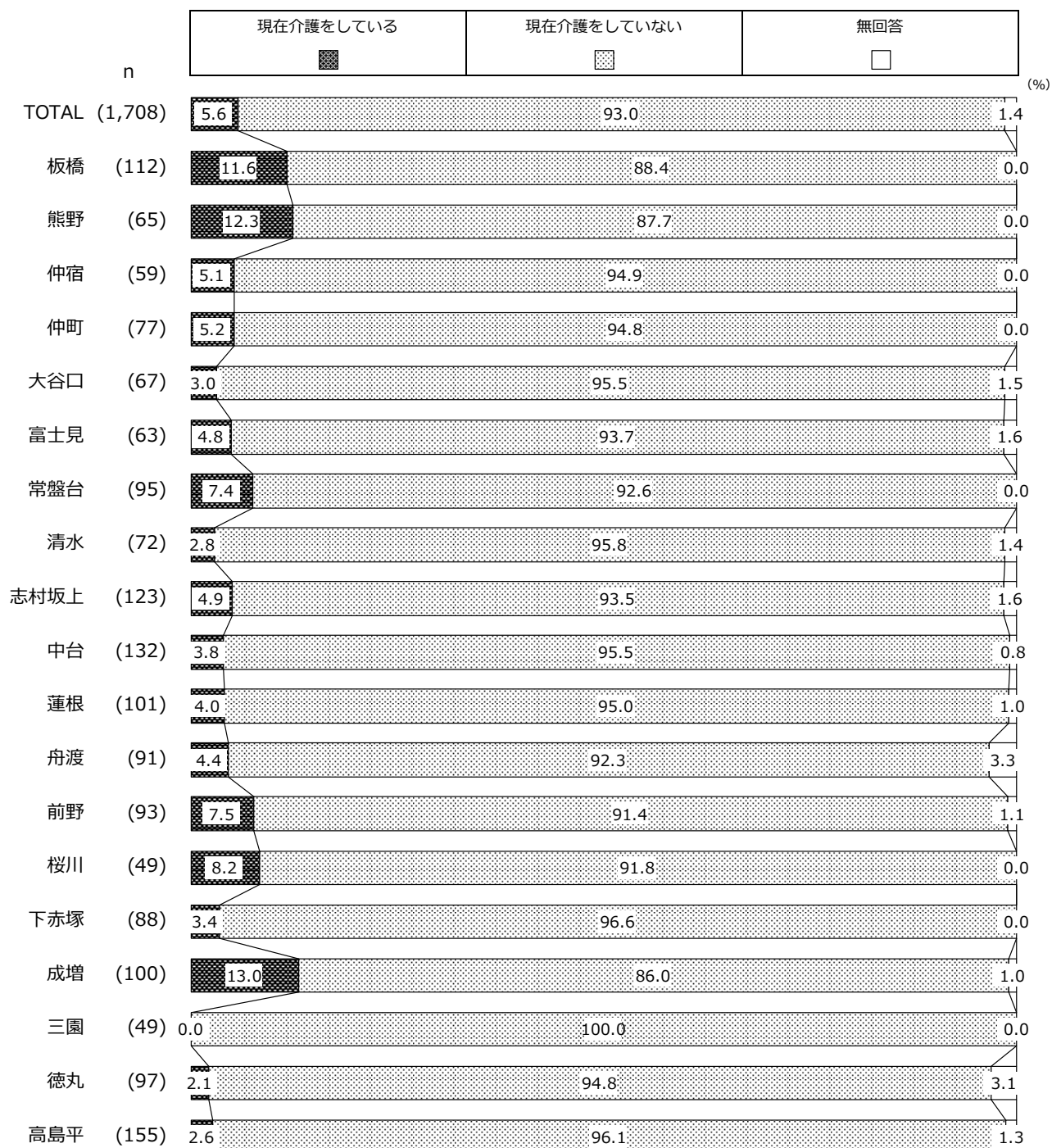


※前回調査では「現在介護をしていないが、今後介護する立場になる可能性が高い」「現在介護をしていないし、今後も介護する立場になる可能性はほとんどない」としていた選択肢を、今回調査では「現在介護をしていない」に統合している。

第3章 調査結果の詳細

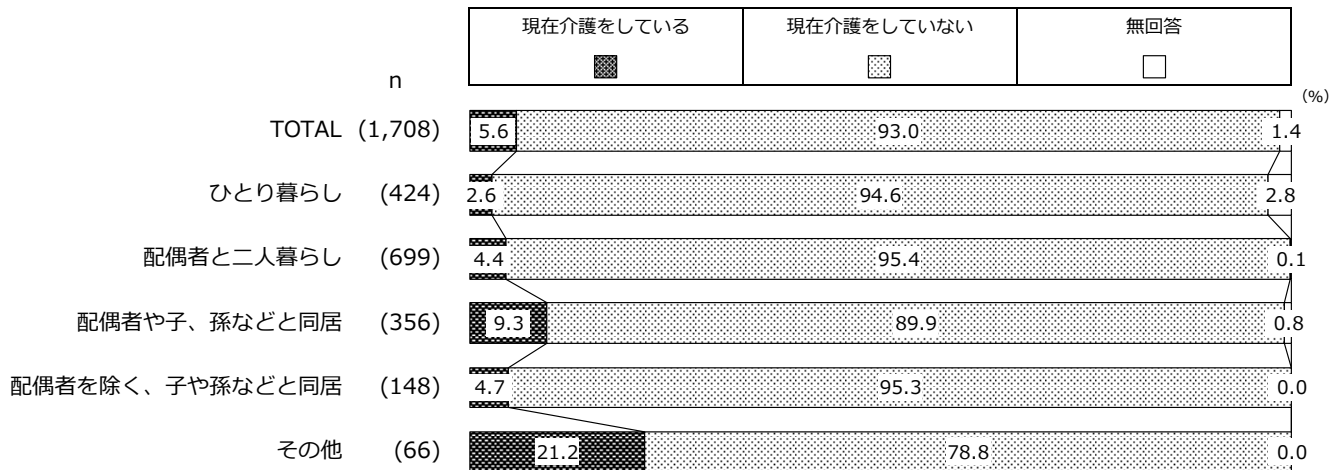
地区別でみると、「現在介護をしている」は、成増（13.0%）・熊野（12.3%）・板橋（11.6%）が他の地区と比べて高くなっている。一方、三園は0.0%となっている。

図表3-1-15 家族の介護状況：地区別



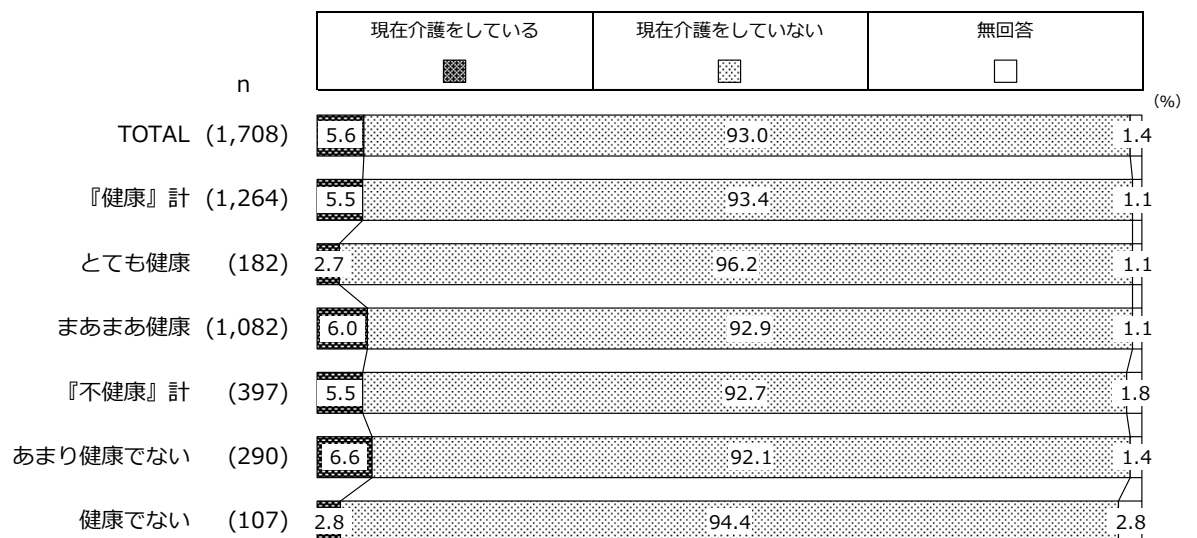
世帯構成別でみると、「現在介護をしている」は「その他（21.2%）」で顕著に高くなっている。これは、親・配偶者・家族を施設等に入居させている世帯等が世帯構成を「その他」と回答しているからだと考えられる。

図表3-1-16 家族の介護状況：世帯構成別



健康に対する自己認識別では、大きな違いがみられない。

図表3-1-17 家族の介護状況：健康に対する自己認識別



(8) 最後に卒業した学校

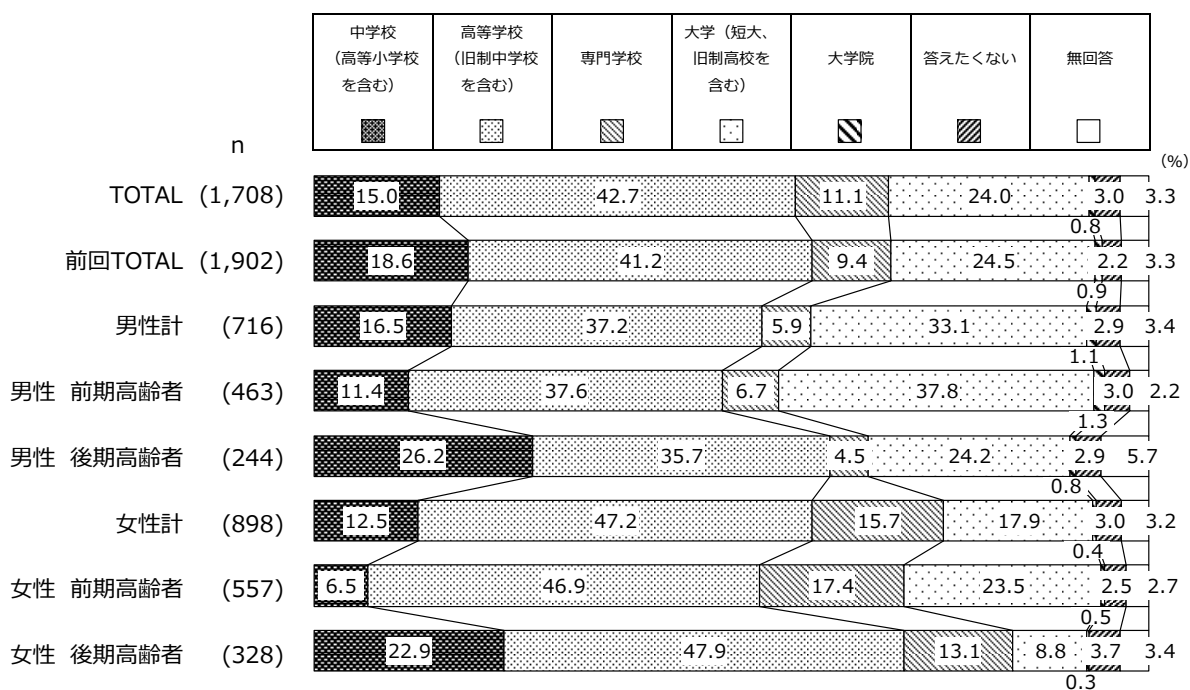
問37 あなた（宛名のご本人）が最後に卒業された学校をお答えください。（○は1つのみ）

最後に卒業した学校については、「高等学校（旧制中学校を含む）」が42.7%と最も高く、次いで「大学（短大、旧制高校を含む）」が24.0%、「中学校（高等小学校を含む）」が15.0%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「大学（短大、旧制高校を含む）（33.1%）」が高く、女性では男性よりも「高等学校（旧制中学校を含む）（47.2%）」「専門学校（15.7%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「大学（短大、旧制高校を含む）（37.8%）」が、男性後期高齢者では「中学校（高等小学校を含む）（26.2%）」が、女性前期高齢者では「専門学校（17.4%）」が、女性後期高齢者では「高等学校（旧制中学校を含む）（47.9%）」「中学校（高等小学校を含む）（22.9%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

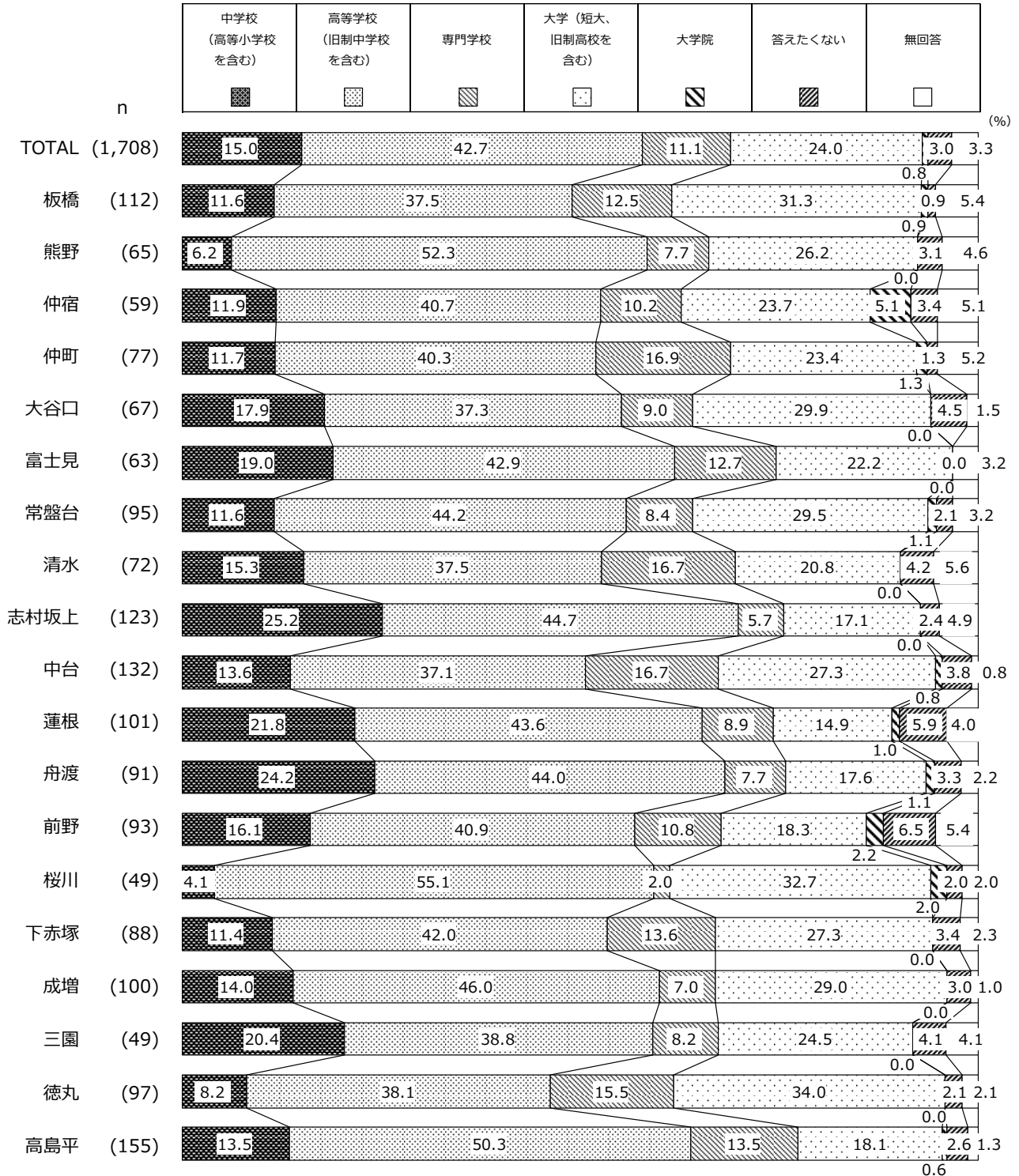
前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表3-1-18 最終学歴：性年代別



地区別でみると、「中学校（高等小学校を含む）」は志村坂上（25.2%）が、「高等学校（旧制中学校を含む）」は桜川（55.1%）が、「大学（短大、旧制高校を含む）」は徳丸（34.0%）が、それぞれ他の地区と比べて高くなっている。

図表3-1-19 最終学歴：地区別



(9) 年収

問38 あなた（宛名のご本人）の年収（年金を含む）をお答えください。（○は1つのみ）

年収については、「120～200万円未満」が22.2%と最も高く、次いで「200～300万円未満」が19.6%、「80～120万円未満」が16.5%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「200～300万円未満（28.1%）」「300～400万円未満（12.6%）」が高く、女性では男性よりも「80万円未満（16.9%）」「80～120万円未満（22.5%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「200～300万円未満（29.6%）」「300～400万円未満（14.0%）」が、男性後期高齢者では「200～300万円未満（26.2%）」が、女性前期高齢者では「80～120万円未満（22.3%）」が、女性後期高齢者では「80万円未満（22.0%）」「80～120万円未満（23.2%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表3-1-20 年収（年金を含む）：性年代別

	n	80万円未満	80～120万円未満	120～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～550万円未満	550～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000万円以上	答えたくない	無回答
TOTAL	1,708	11.8	16.5	22.2	19.6	8.4	3.9	2.2	1.5	1.1	7.6	5.2
前回TOTAL	1,902	15.4	14.8	20.2	20.5	8.4	5.0	2.5	1.5	1.7	5.4	4.6
男性計	716	5.0	8.5	21.8	28.1	12.6	6.4	3.5	2.2	2.1	6.0	3.8
男性 前期高齢者	463	4.3	6.3	20.1	29.6	14.0	7.8	4.3	2.8	2.4	5.6	2.8
男性 後期高齢者	244	6.6	12.3	25.4	26.2	9.4	3.7	2.0	1.2	1.6	6.1	5.3
女性計	898	16.9	22.5	22.8	13.4	4.7	2.0	1.3	1.1	0.3	8.8	6.1
女性 前期高齢者	557	13.6	22.3	25.0	14.9	5.2	2.3	2.0	0.9	0.5	8.4	4.8
女性 後期高齢者	328	22.0	23.2	19.5	10.7	4.0	1.5	0.3	1.5	0.0	9.1	8.2

※前回調査では「120～125万円未満」「125～200万円未満」としていた選択肢を、今回調査では「120～200万円未満」に、同様に前回では「1,000～1,500万円未満」「1,500万円以上」としていた選択肢を今回では「1,000万円以上」に、それぞれ統合している。

(10) 定期的な収入源

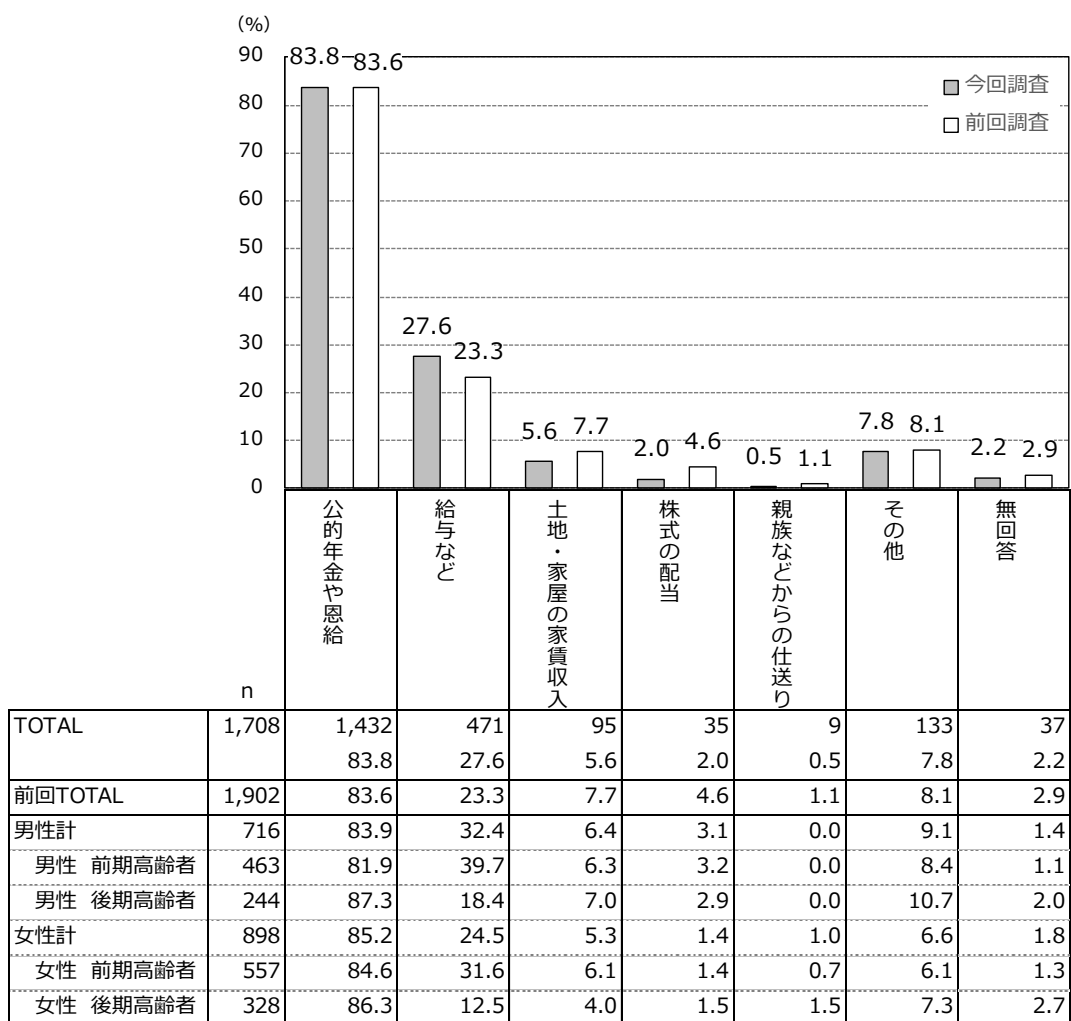
問8 あなた（宛名のご本人）は、定期的な収入をどこから得ていますか。（○はいくつでも）

定期的な収入源については、「公的年金や恩給」が83.8%と最も高く、次いで「給与など」が27.6%、「その他」が7.8%、「土地・家屋の家賃収入」が5.6%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「給与など（32.4%）」が高くなっている。性年代別で見ると、男女ともに加齢に伴って「給与など」が低く（男性21.3ポイント・女性19.1ポイント）なっている。また、男性では加齢に伴って「公的年金や恩給」が5.4ポイント上昇している。

前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表3-1-21 定期的な収入源：性年代別



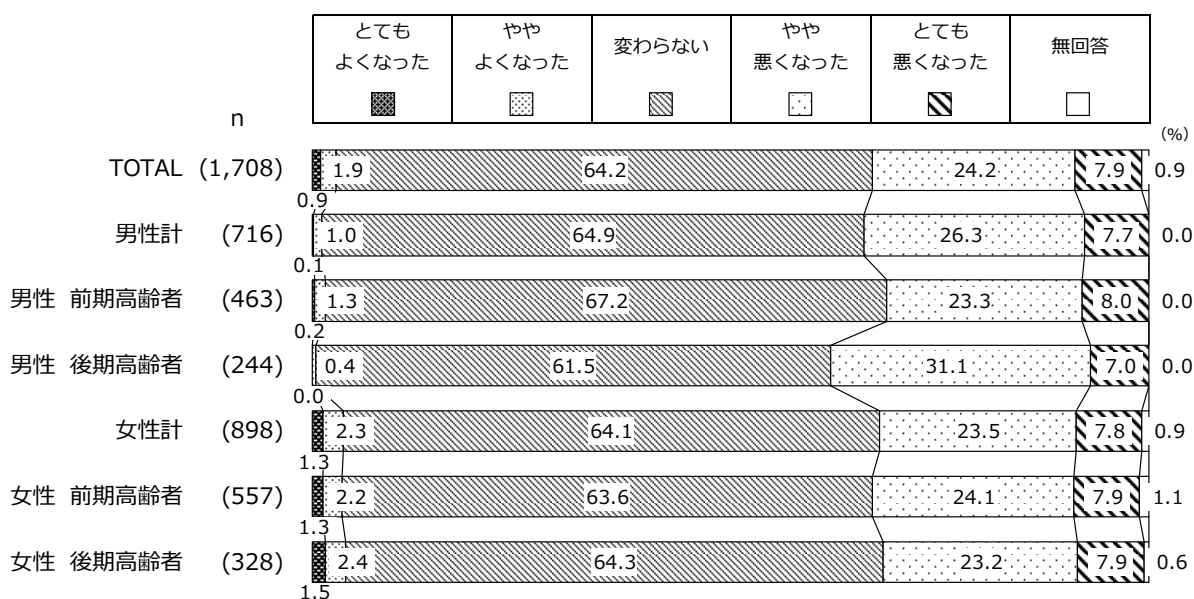
(11) 現在の暮らし向き

問9 あなた（宛名のご本人）の世帯の現在の暮らし向きは、1年前と比べていかがですか。（○は1つのみ）

現在の暮らし向きについては、「変わらない」が64.2%と最も高く、「とてもよくなった」の0.9%と「ややよくなった」の1.9%を合わせた『よくなった』が2.8%、「やや悪くなった」の24.2%と「とても悪くなった」の7.9%を合わせた『悪くなった』が32.1%となっている。

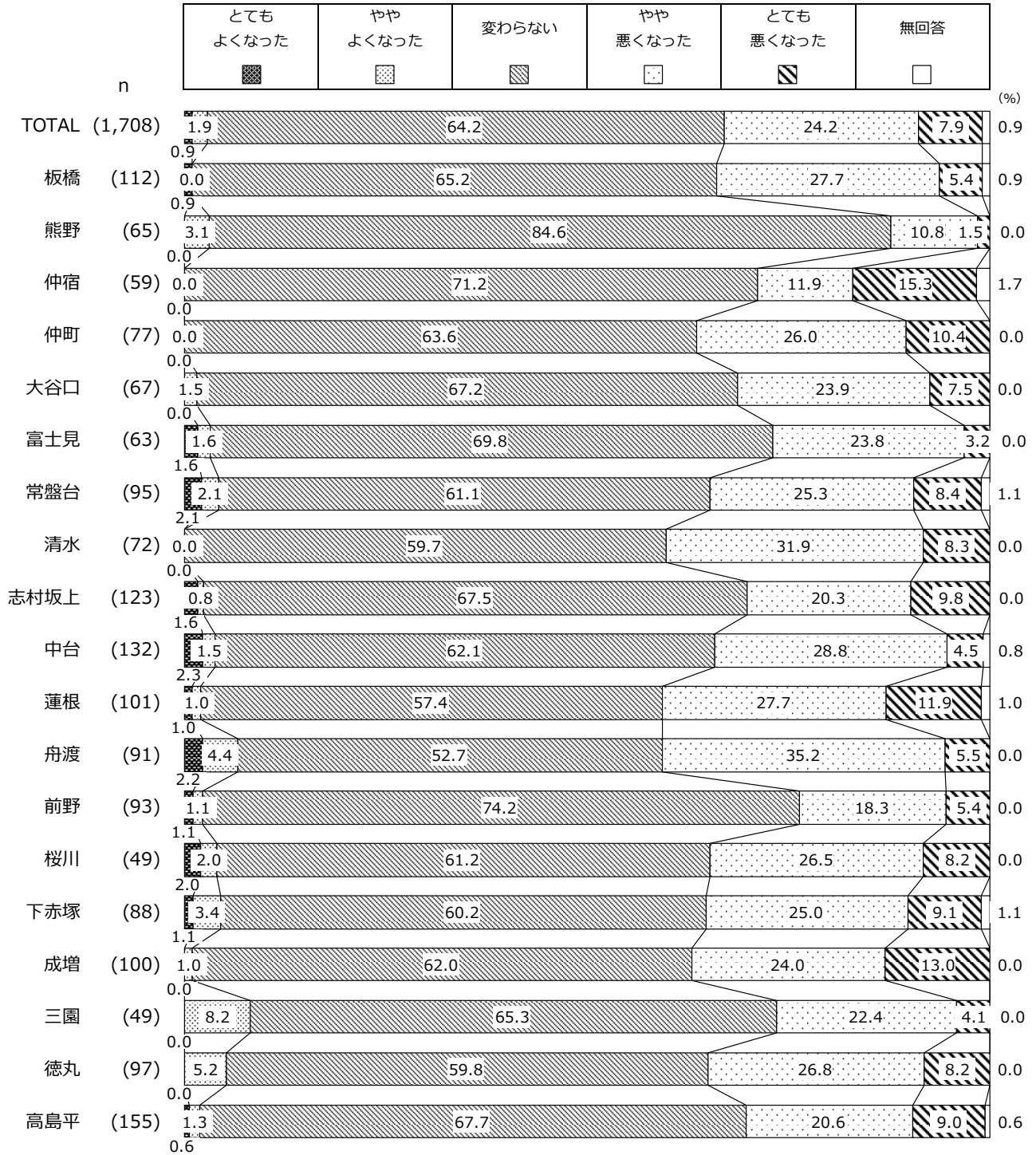
性別では、大きな違いがみられない。性年代別でみると、男性では加齢に伴って『悪くなった』が31.3%から38.1%と6.8ポイント上昇している。

図表3-1-22 現在の暮らし向き：性年代別



地区別でみると、『よくなった』は三園 (8.2%) が、「変わらない」は熊野 (84.6%)・前野 (74.2%) が、『悪くなった』は舟渡 (40.7%)・清水 (40.2%)・蓮根 (39.6%) が、それぞれ他の地区と比べて高くなっている。

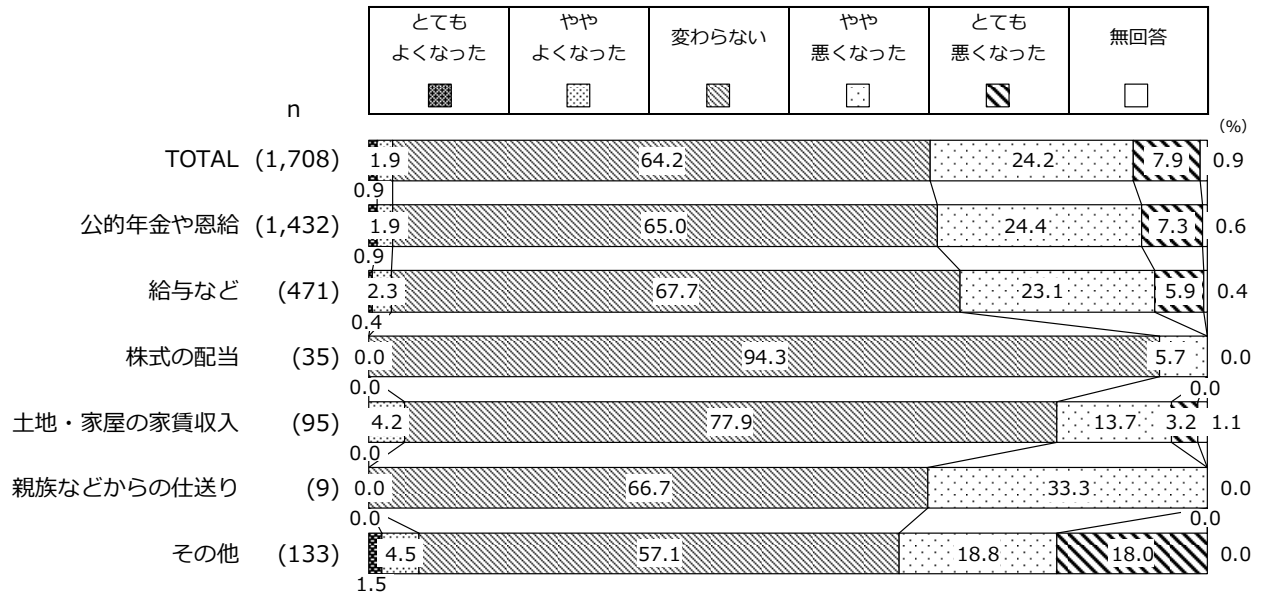
図表3-1-23 現在の暮らし向き：地区別



第3章 調査結果の詳細

定期的な収入源別でみると、『よくなった』では大きな違いがみられないものの、「株式の配当」「土地・家屋の家賃収入」では他の収入源と比べて、「変わらない（株式の配当94.3%・土地・家屋の家賃収入77.9%）」が高く、『悪くなった（5.7%・16.9%）』が低くなっている。

図表3-1-24 現在の暮らし向き：定期的な収入源別



2. 仕事、働くことについて

(1) 現在の仕事

①現在の職業

問10 あなた（宛名のご本人）の現在の職業をお答えください。副業があるなど複数の仕事をお持ちの場合は、主な職業1つだけに○をつけてください。（○は1つのみ）

現在の職業については、「無職・仕事からは引退した」が36.7%と最も高く、次いで「主婦・主夫（専業）」が21.8%、「その他」が5.3%、「清掃、配達」が4.9%、「会社・団体の役員、管理職」が4.6%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「建設、電気、土木（5.3%）」が高く、女性では男性よりも「主婦・主夫（専業）（39.6%）」が高くなっている。

図表3-2-1 現在の職業：性年代別

n		会社・団体の役員、管理職	専門技術者、教員、医療職	事務	販売、営業	調理、洗い場	管理人	警備	介護職、理・美容、その他サービス	農業
TOTAL	1,708	4.6	2.0	2.6	2.0	1.6	2.2	1.0	2.3	0.1
男性計	716	7.0	1.8	1.3	2.5	1.1	4.1	2.2	1.3	0.1
男性 前期高齢者	463	8.4	2.4	1.7	3.2	1.3	4.5	2.2	1.5	0.2
男性 後期高齢者	244	4.5	0.8	0.4	0.8	0.8	3.3	2.5	0.8	0.0
女性計	898	2.7	2.3	3.8	1.7	1.9	0.6	0.0	3.3	0.0
女性 前期高齢者	557	3.4	3.2	5.6	2.3	2.5	0.7	0.0	4.1	0.0
女性 後期高齢者	328	1.5	0.6	0.9	0.3	0.9	0.3	0.0	2.1	0.0

n		製造・加工、機械整備・修理	輸送、運転	建設、電気、土木	清掃、配達	その他	主婦・主夫（専業）	学生	無職・仕事からは引退した	無回答
TOTAL	1,708	1.6	1.8	2.5	4.9	5.3	21.8	0.1	36.7	7.1
男性計	716	2.8	3.9	5.3	3.9	7.1	1.0	0.1	49.6	4.9
男性 前期高齢者	463	2.4	4.8	6.9	4.3	7.1	0.4	0.2	45.1	3.2
男性 後期高齢者	244	3.7	1.6	2.5	3.3	7.4	2.0	0.0	58.2	7.4
女性計	898	0.9	0.0	0.0	5.8	3.9	39.6	0.1	26.2	7.2
女性 前期高齢者	557	1.1	0.0	0.0	6.5	5.0	39.7	0.2	21.4	4.3
女性 後期高齢者	328	0.6	0.0	0.0	4.6	2.1	39.6	0.0	34.5	11.9

※前回調査とは選択肢を変更しているため、経年比較は行っていない。

第3章 調査結果の詳細

詳細な年齢区分別でみると、男性65～69歳では「会社・団体の役員、管理職（12.6%）」「建設、電気、土木（8.4%）」が、全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-2-2 現在の職業：性年代別（詳細）

n	会社・団体の役員、管理職	専門技術者、教員、医療職	事務	販売、営業	調理、洗い場	管理人	警備	介護職、理・美容、その他サービス	農業
TOTAL	1,708	4.6	2.0	2.6	1.6	2.2	1.0	2.3	0.1
65～69歳	489	7.4	4.1	5.1	3.9	2.2	0.4	3.1	0.2
70～74歳	550	4.2	1.6	2.7	1.6	2.9	1.5	2.7	0.0
75～79歳	435	3.4	1.1	0.5	0.5	1.4	1.1	2.1	0.0
80～84歳	200	2.0	0.0	1.0	1.0	0.5	1.0	0.0	0.0
男性 65～69歳	215	12.6	3.7	2.3	5.6	1.4	0.9	0.9	0.5
男性 70～74歳	248	4.8	1.2	1.2	1.2	4.4	3.2	2.0	0.0
男性 75～79歳	174	5.2	1.1	0.0	0.0	0.6	2.9	1.1	0.0
男性 80～84歳	70	2.9	0.0	1.4	2.9	1.4	1.4	0.0	0.0
女性 65～69歳	268	3.4	4.5	7.1	2.6	3.0	0.0	4.9	0.0
女性 70～74歳	289	3.5	2.1	4.2	2.1	0.7	0.0	3.5	0.0
女性 75～79歳	223	1.3	0.9	0.9	0.4	1.3	0.0	3.1	0.0
女性 80～84歳	105	1.9	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

n	製造・加工、機械整備・修理	輸送、運転	建設、電気、土木	清掃、配達	その他	主婦・主夫（専業）	学生	無職・仕事からは引退した	無回答
TOTAL	1,708	1.6	1.8	2.5	4.9	5.3	21.8	0.1	36.7
65～69歳	489	1.8	2.0	3.9	4.1	5.9	21.7	0.0	29.0
70～74歳	550	1.5	2.5	2.7	6.7	6.0	21.6	0.4	34.7
75～79歳	435	1.6	1.1	0.7	4.6	5.3	22.1	0.0	45.5
80～84歳	200	2.0	0.0	1.5	2.5	3.0	23.0	0.0	43.0
男性 65～69歳	215	2.8	4.2	8.4	2.8	6.0	0.9	0.0	40.0
男性 70～74歳	248	2.0	5.2	5.6	5.6	8.1	0.0	0.4	49.6
男性 75～79歳	174	2.9	2.3	1.7	4.6	8.0	1.7	0.0	58.0
男性 80～84歳	70	5.7	0.0	4.3	0.0	5.7	2.9	0.0	58.6
女性 65～69歳	268	1.1	0.0	0.0	4.9	6.0	38.4	0.0	20.5
女性 70～74歳	289	1.0	0.0	0.0	8.0	4.2	40.8	0.3	22.1
女性 75～79歳	223	0.9	0.0	0.0	4.9	2.7	39.0	0.0	36.8
女性 80～84歳	105	0.0	0.0	0.0	3.8	1.0	41.0	0.0	29.5

②雇用形態

【問10で「1. 会社・団体の役員、管理職」～「14. その他」とお答えの方におうかがいします。】

問10-1 現在のお仕事の主な雇用形態は次のどれにあてはまりますか。(○は1つのみ)

雇用形態については、「パート・アルバイト・契約社員」が40.0%と最も高く、次いで「自営業主、自由業」が16.7%、「正社員・正規職員・正規従業員」が9.7%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「自営業主、自由業 (22.3%)」「正社員・正規職員・正規従業員 (12.6%)」「嘱託社員・嘱託職員 (8.2%)」が高く、女性では男性よりも「パート・アルバイト・契約社員 (54.8%)」「家族従業 (家業などの手伝い) (5.4%)」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「嘱託社員・嘱託職員 (11.0%)」が、男性後期高齢者では「自営業主、自由業 (30.4%)」が、女性前期高齢者では「パート・アルバイト・契約社員 (57.3%)」が、女性後期高齢者では「パート・アルバイト・契約社員 (45.7%)」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

前回調査と比較すると、「パート・アルバイト・契約社員 (40.0%)」が5.3ポイント上昇し、「自営業主、自由業 (16.7%)」が6.4ポイント低下している。

図表3-2-3 現在の仕事の主な雇用形態：性年代別

	n	自営業主、 自由業	家族従業 (家業などの 手伝い)	正社員・ 正規職員・ 正規従業員	パート・ アルバイト・ 契約社員	嘱託社員・ 嘱託職員	人材派遣企業 の派遣社員	その他の 雇用者	会社や団体 などの役員・ 管理職	家庭での 内職	その他 (左記以外)	無回答
TOTAL	587	16.7	2.4	9.7	40.0	5.5	1.9	2.0	6.8	0.3	0.7	14.0
前回TOTAL	692	23.1	3.8	8.2	34.7	5.9	2.5	3.0	6.6	0.0	1.0	11.1
男性計	318	22.3	0.3	12.6	28.6	8.2	1.9	3.1	8.5	0.0	0.3	14.2
男性 前期高齢者	236	19.9	0.4	14.0	30.9	11.0	2.1	2.1	7.6	0.0	0.0	11.9
男性 後期高齢者	79	30.4	0.0	8.9	19.0	0.0	1.3	6.3	11.4	0.0	1.3	21.5
女性計	241	8.7	5.4	5.8	54.8	2.1	1.7	0.8	3.7	0.8	1.2	14.9
女性 前期高齢者	192	8.9	5.2	6.3	57.3	1.6	1.6	0.5	3.1	0.5	1.0	14.1
女性 後期高齢者	46	8.7	4.3	4.3	45.7	4.3	2.2	2.2	6.5	2.2	2.2	17.4

③現在の働き方

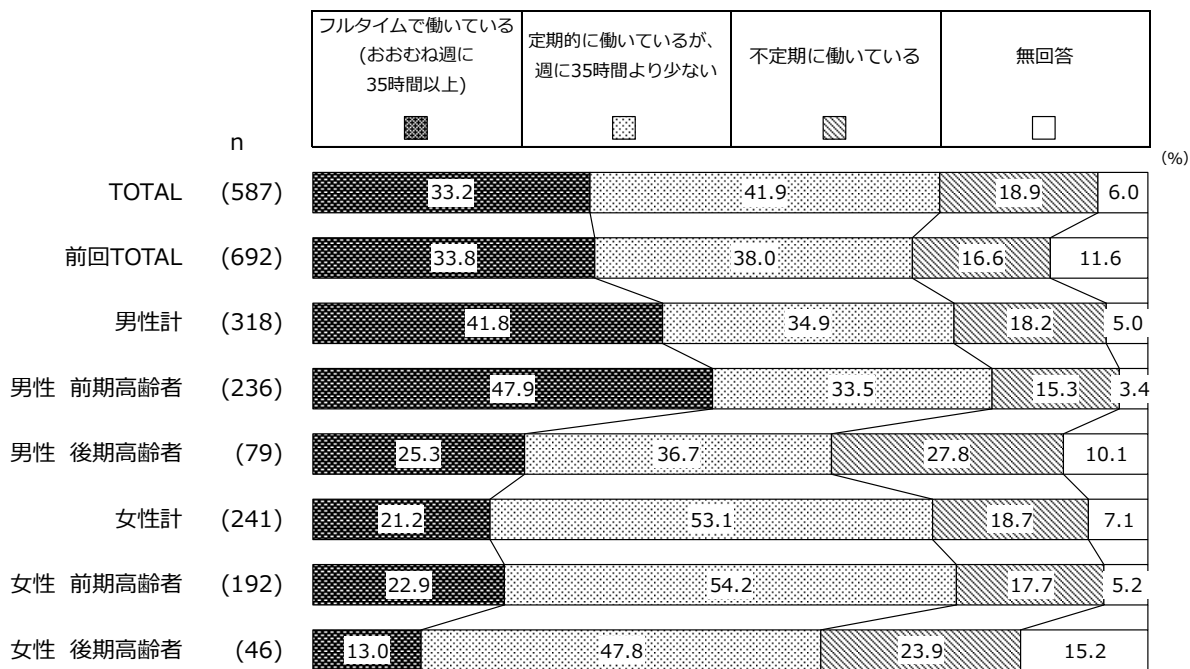
【問10で「1. 会社・団体の役員、管理職」～「14. その他」とお答えの方におうかがいします。】
 問10-2 あなた（宛名のご本人）の現在の働き方は、どれにあてはまりますか。（○は1つのみ）

現在の働き方については、「定期的に働いているが、週に35時間より少ない」が41.9%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている（おおむね週に35時間以上）」が33.2%、「不定期に働いている」が18.9%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「フルタイムで働いている（おおむね週に35時間以上）（41.8%）」が高く、女性では男性よりも「定期的に働いているが、週に35時間より少ない（53.1%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「フルタイムで働いている（おおむね週に35時間以上）（47.9%）」が、男性後期高齢者では「不定期に働いている（27.8%）」が、女性前期高齢者では「定期的に働いているが、週に35時間より少ない（54.2%）」が、女性後期高齢者では「定期的に働いているが、週に35時間より少ない（47.8%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

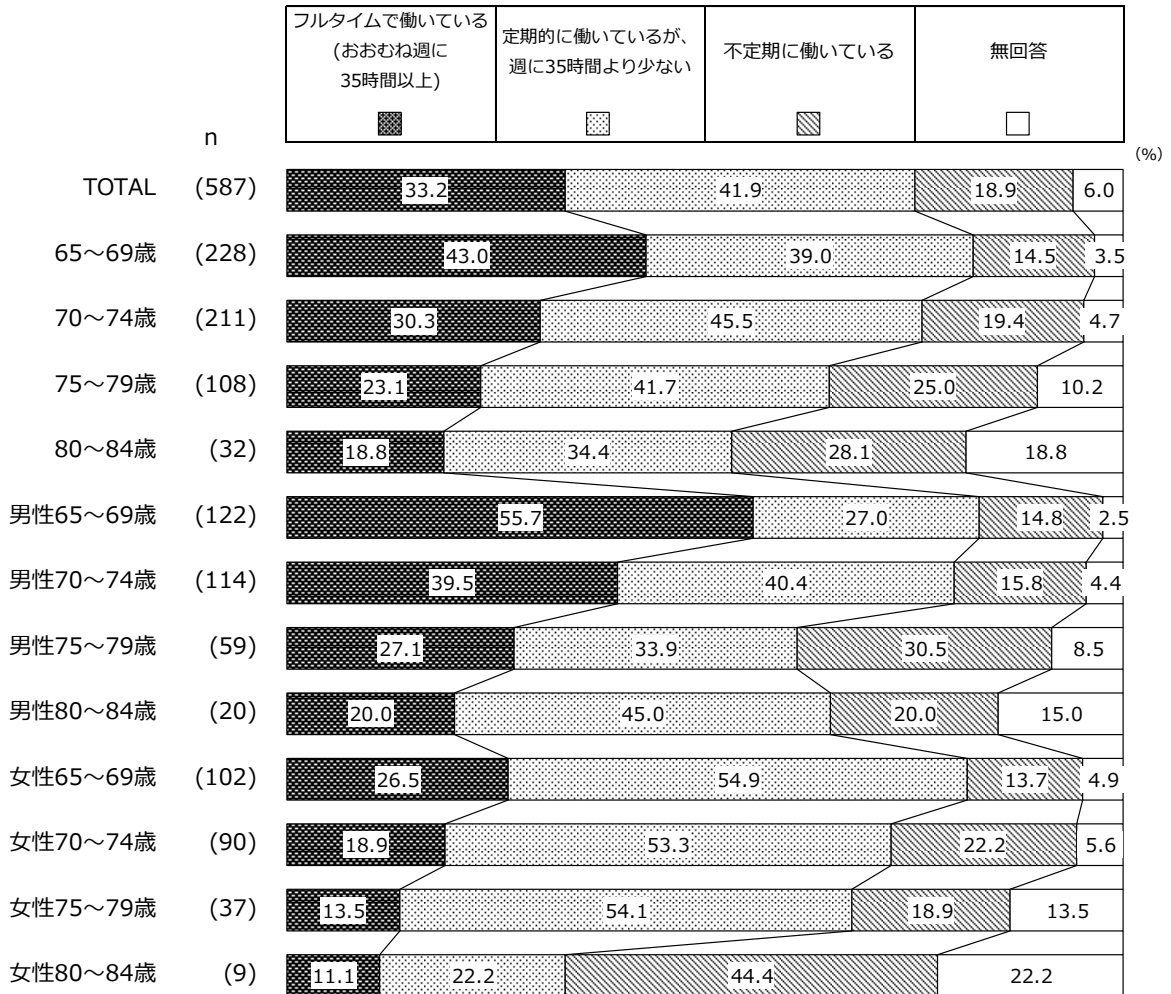
前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表3-2-4 現在の働き方：性年代別



詳細な年齢区分別でみると、男性65～69歳では「フルタイムで働いている（おおむね週に35時間以上）（55.7%）」が、男性75～79歳では「不定期に働いている（30.5%）」が、女性65～69歳では「定期的に働いているが、週に35時間より少ない（54.9%）」が、女性70～74歳では「定期的に働いているが、週に35時間より少ない（53.3%）」が、女性75～79歳では「定期的に働いているが、週に35時間より少ない（54.1%）」が、女性80～84歳では「不定期に働いている（44.4%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

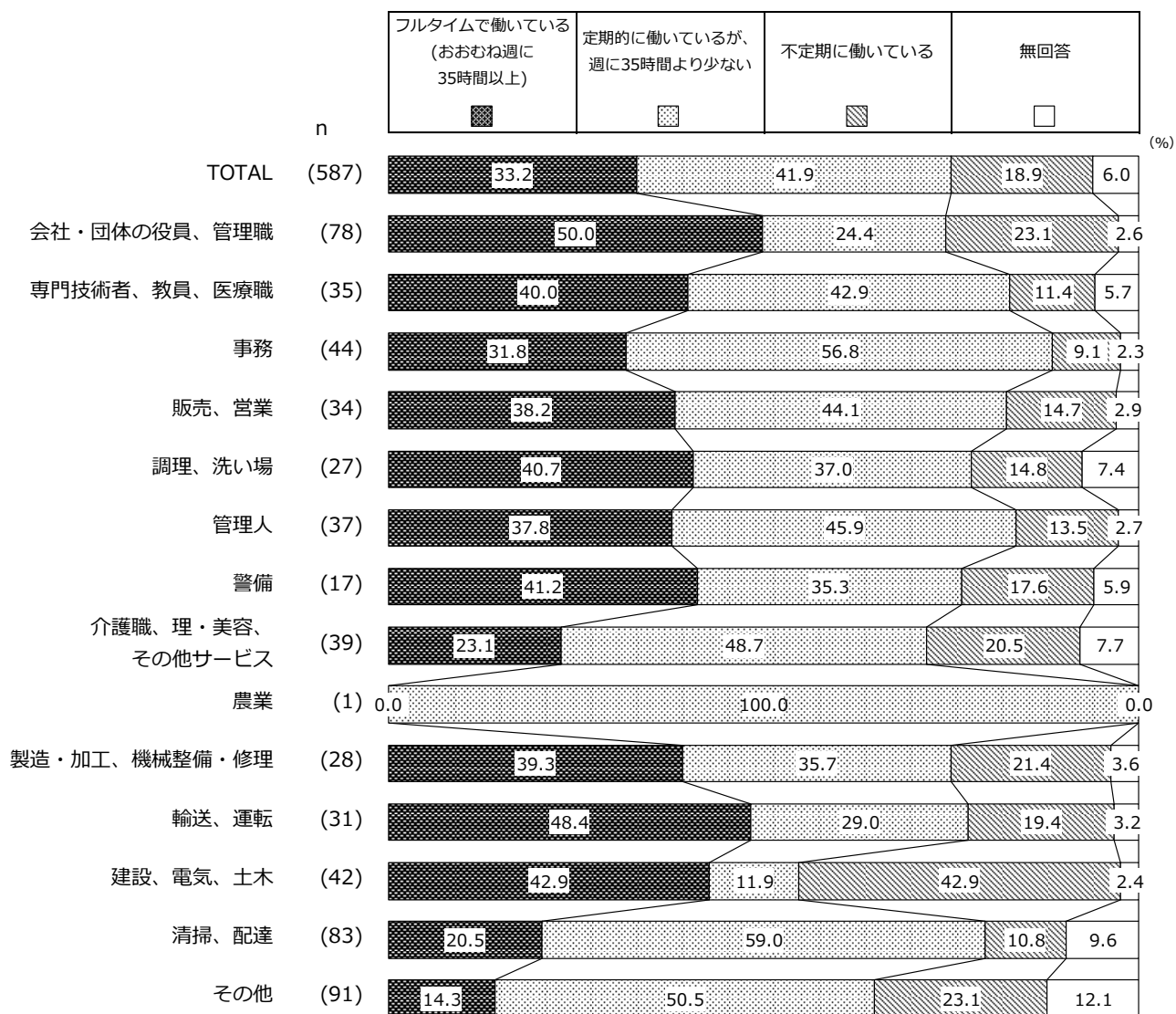
図表3-2-5 現在の働き方：性年代別（詳細）



第3章 調査結果の詳細

現在の職業別でみると、該当者1人の農業を除くと、「フルタイムで働いている（おおむね週に35時間以上）」では「会社・団体の役員、管理職（50.0%）」「輸送、運転（48.4%）」「建設、電気、土木（42.9%）」の順に、「定期的に働いているが、週に35時間より少ない」では「清掃、配達（59.0%）」「事務（56.8%）」「その他（50.5%）」の順に、「不定期に働いている」では「建設、電気、土木（42.9%）」、「会社・団体の役員、管理職」「その他」（ともに23.1%）の順に、それぞれ高くなっている。

図表3-2-6 現在の働き方：現在の職業別



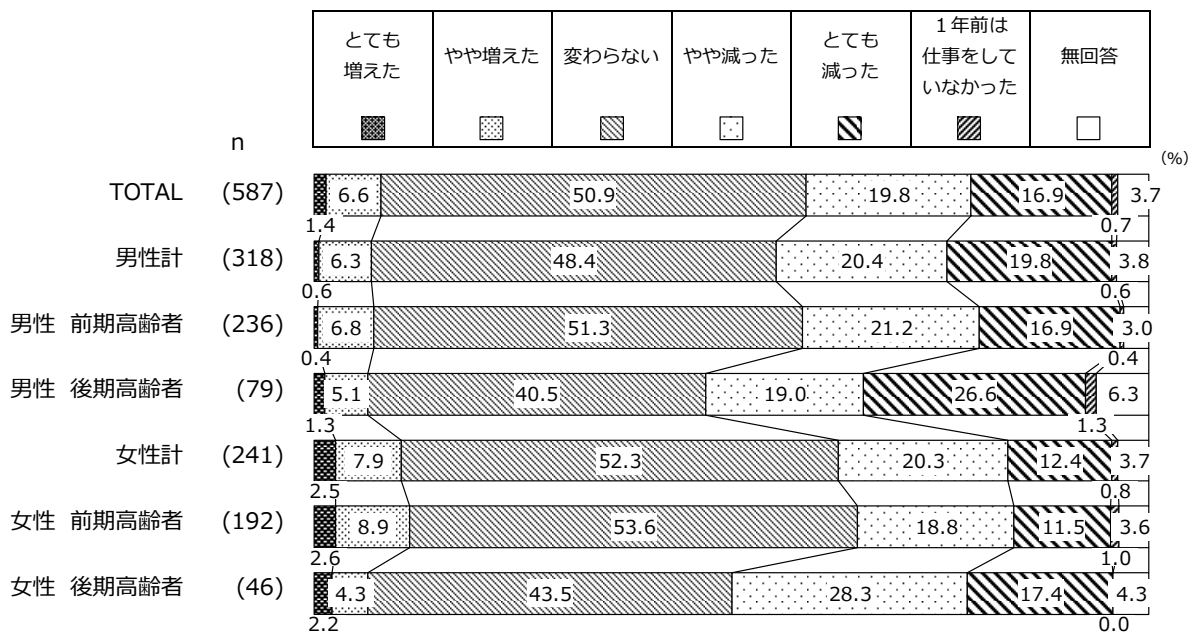
④現在の仕事の量

【問10で「1. 会社・団体の役員、管理職」～「14. その他」とお答えの方におうかがいします。】
 問10-3 あなた（宛名のご本人）の現在の仕事の量は、1年前と比べていかがですか。（○は1つのみ）

現在の仕事の量については、「変わらない」が50.9%と最も高く、「とても増えた」の1.4%と「やや増えた」の6.6%を合わせた『増えた』が8.0%、「やや減った」の19.8%と「とても減った」の16.9%を合わせた『減った』が36.7%となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも『減った（40.2%）』が高くなっている。また、性年代別で見ると、後期高齢者では男女ともに『減った』が全体の傾向よりも高く（男性45.6%・女性45.7%）なっている。

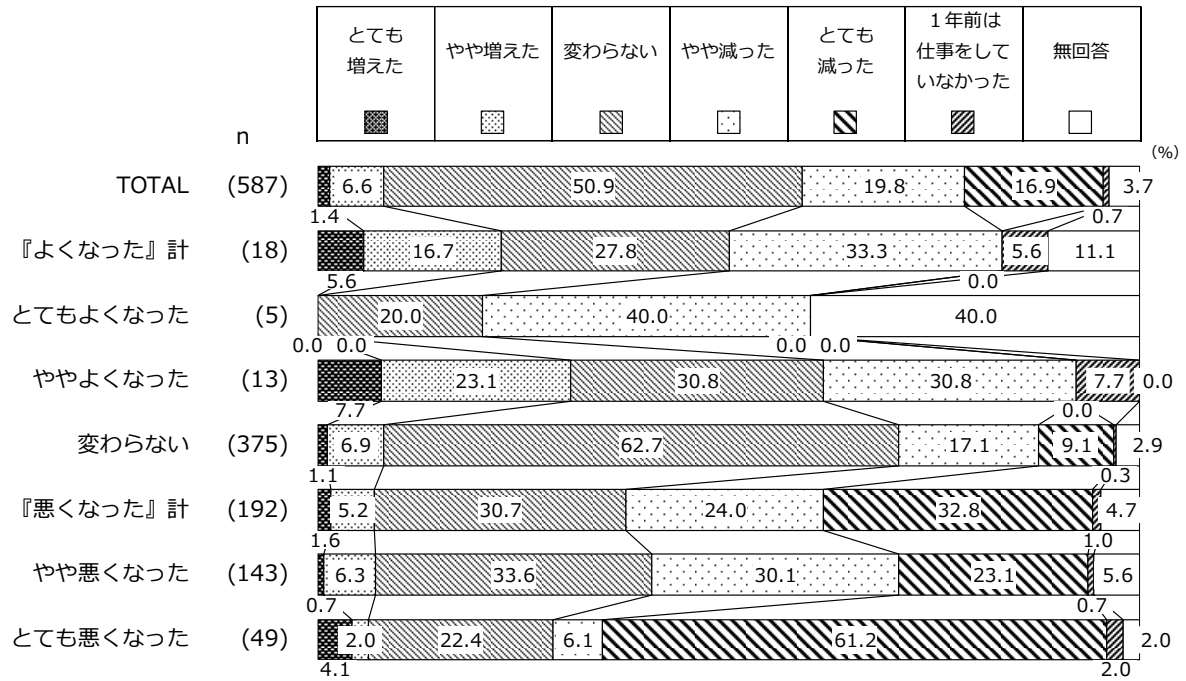
図表3-2-7 現在の仕事の量：性年代別



第3章 調査結果の詳細

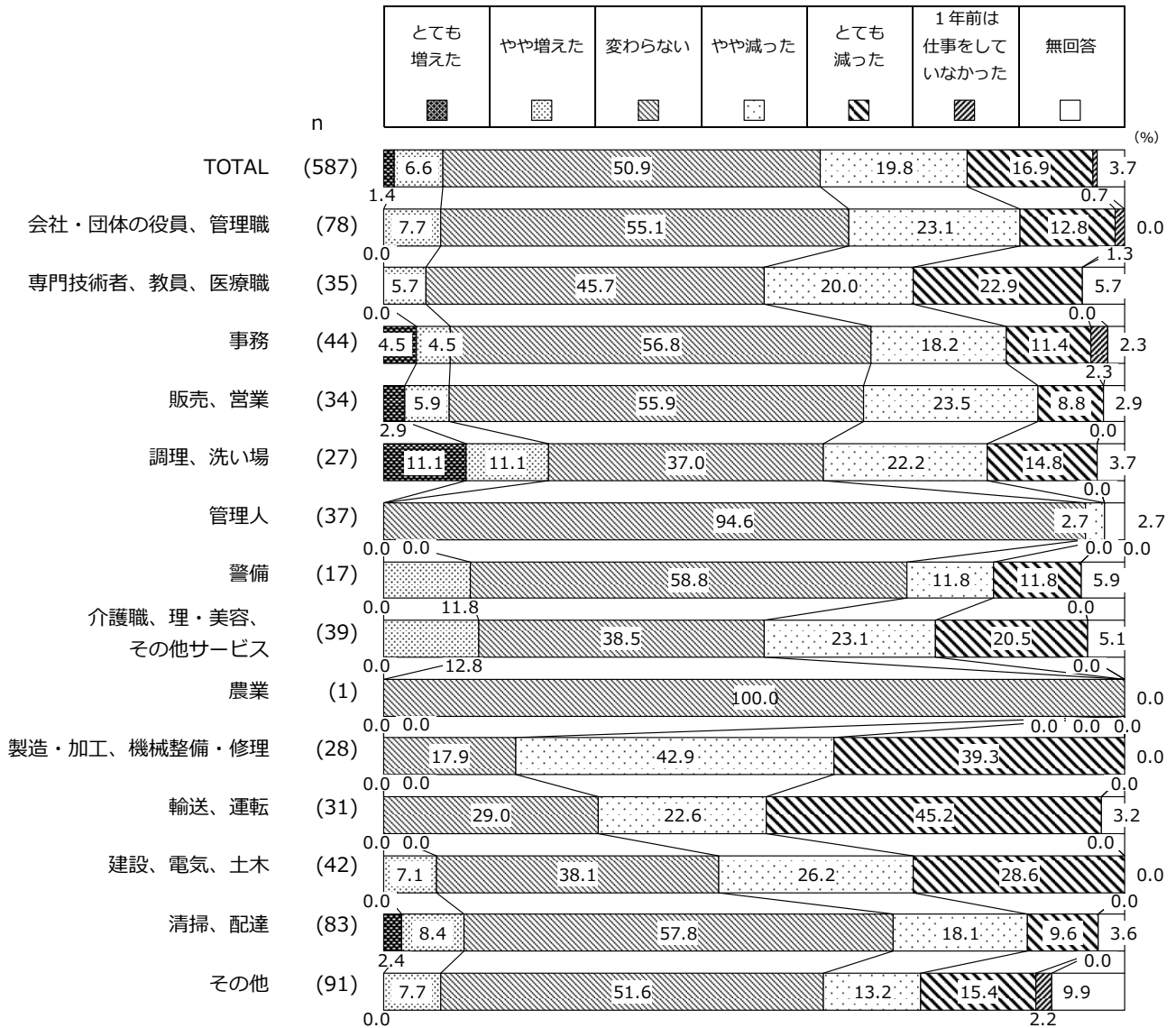
現在の暮らし向き別でみると、『よくなった』では『増えた』が22.3%、『悪くなった』では『減った』が56.8%となっており、暮らし向きの良し悪しと仕事量とに明確な相関関係があることがわかる。

図表3-2-8 現在の仕事の量：現在の暮らし向き別



現在の職業別でみると、仕事の量が『増えた』は「調理、洗い場 (22.2%)」で高く、仕事の量が『減った』は「製造・加工、機械整備・修理 (82.2%)」「輸送、運転 (67.8%)」「建設、電気、土木 (54.8%)」「介護職、理・美容、その他サービス (43.6%)」「専門技術者、教員、医療職 (42.9%)」で高くなっている。

図表3-2-9 現在の仕事の量：現在の職業別



⑤現在の仕事に「生きがい」を感じているか

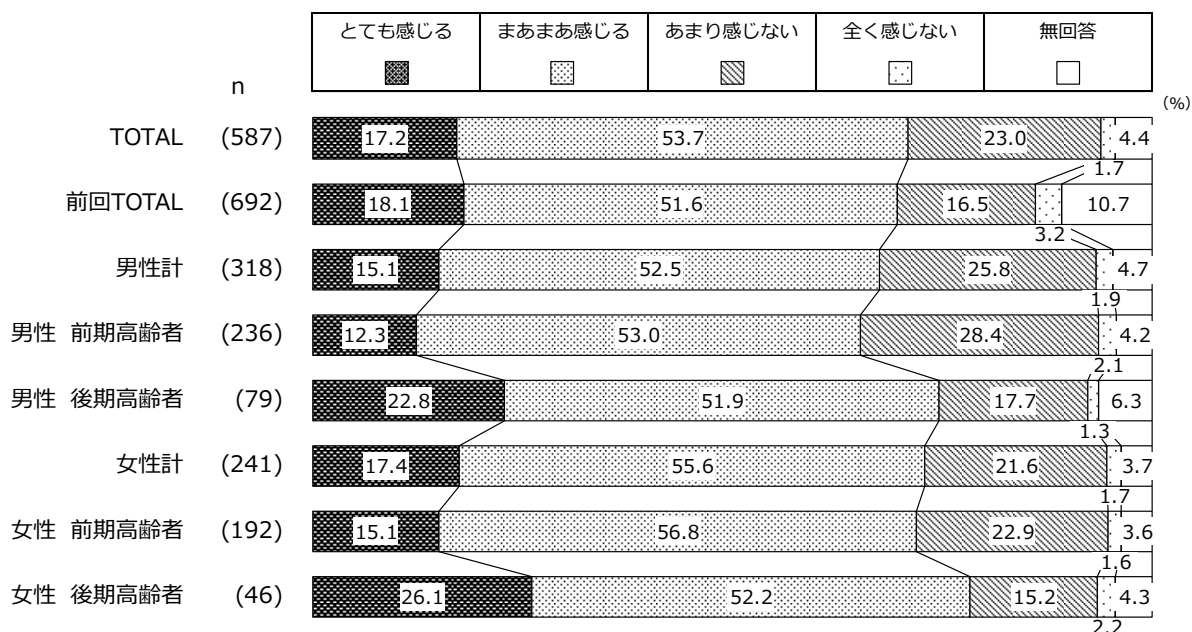
【問10で「1. 会社・団体の役員、管理職」～「14. その他」とお答えの方におうかがいします。】
問10-4 現在の仕事に「生きがい」を感じていますか。(○は1つのみ)

現在の仕事に「生きがい」を感じているかについては、「とても感じる」の17.2%と「まあまあ感じる」の53.7%を合わせた『感じる』が70.9%、「あまり感じない」の23.0%と「全く感じない」の1.7%を合わせた『感じない』が24.7%となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも『感じる (73.0%)』が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では『感じない (30.5%)』が、女性後期高齢者では『感じる (78.3%)』が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

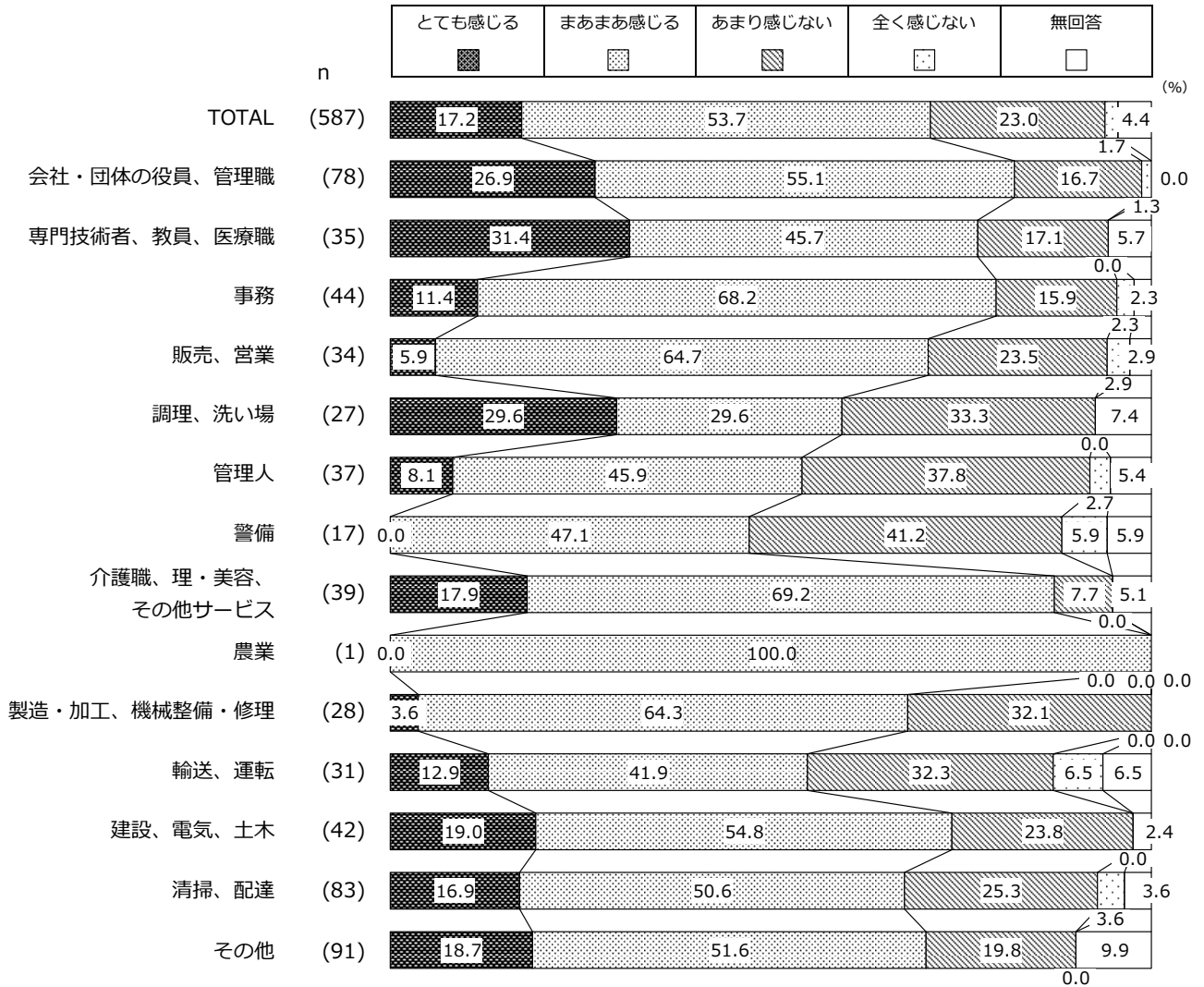
前回調査と比較すると、『感じない』が5.0ポイント上昇している。

図表3-2-10 現在の仕事に「生きがい」を感じているか：性年代別



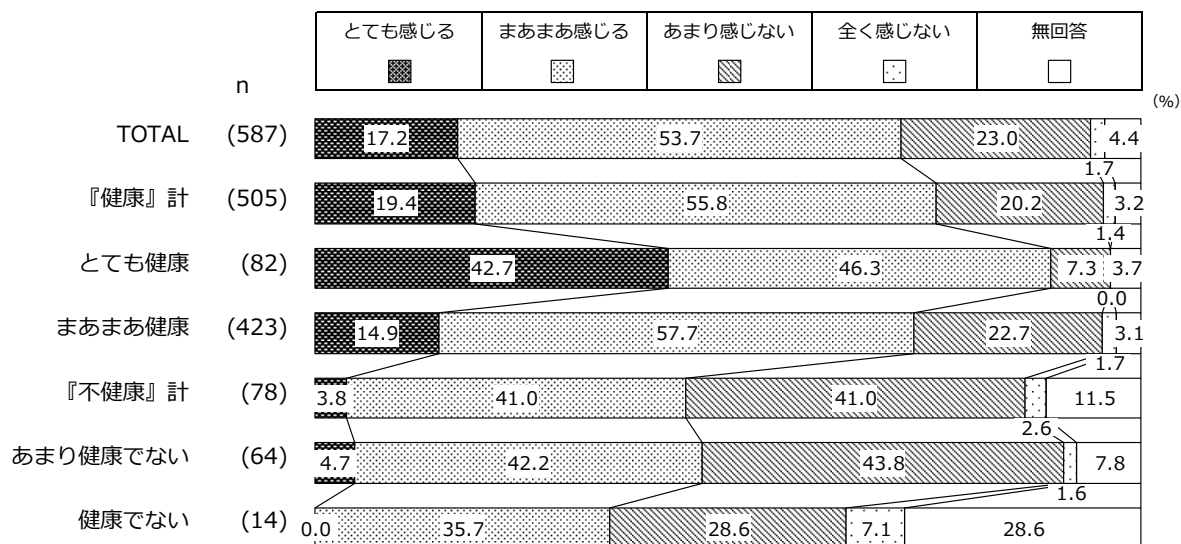
現在の職業別でみると、生きがいを『感じる』は「介護職、理・美容、その他サービス（87.1%）」「会社・団体の役員、管理職（82.0%）」で高く、生きがいを『感じない』は「警備（47.1%）」「管理人（40.5%）」「輸送、運転（38.8%）」で高くなっている。

図表3-2-11 現在の仕事に「生きがい」を感じているか：現在の職業別



健康に対する自己認識別でみると、生きがいを『感じる』は『健康(75.2%)』の方が『不健康(44.8%)』よりも30.4ポイント高くなっている。

図表3-2-12 現在の仕事に「生きがい」を感じているか：健康に対する自己認識別



⑥現在の仕事をどこで探したか

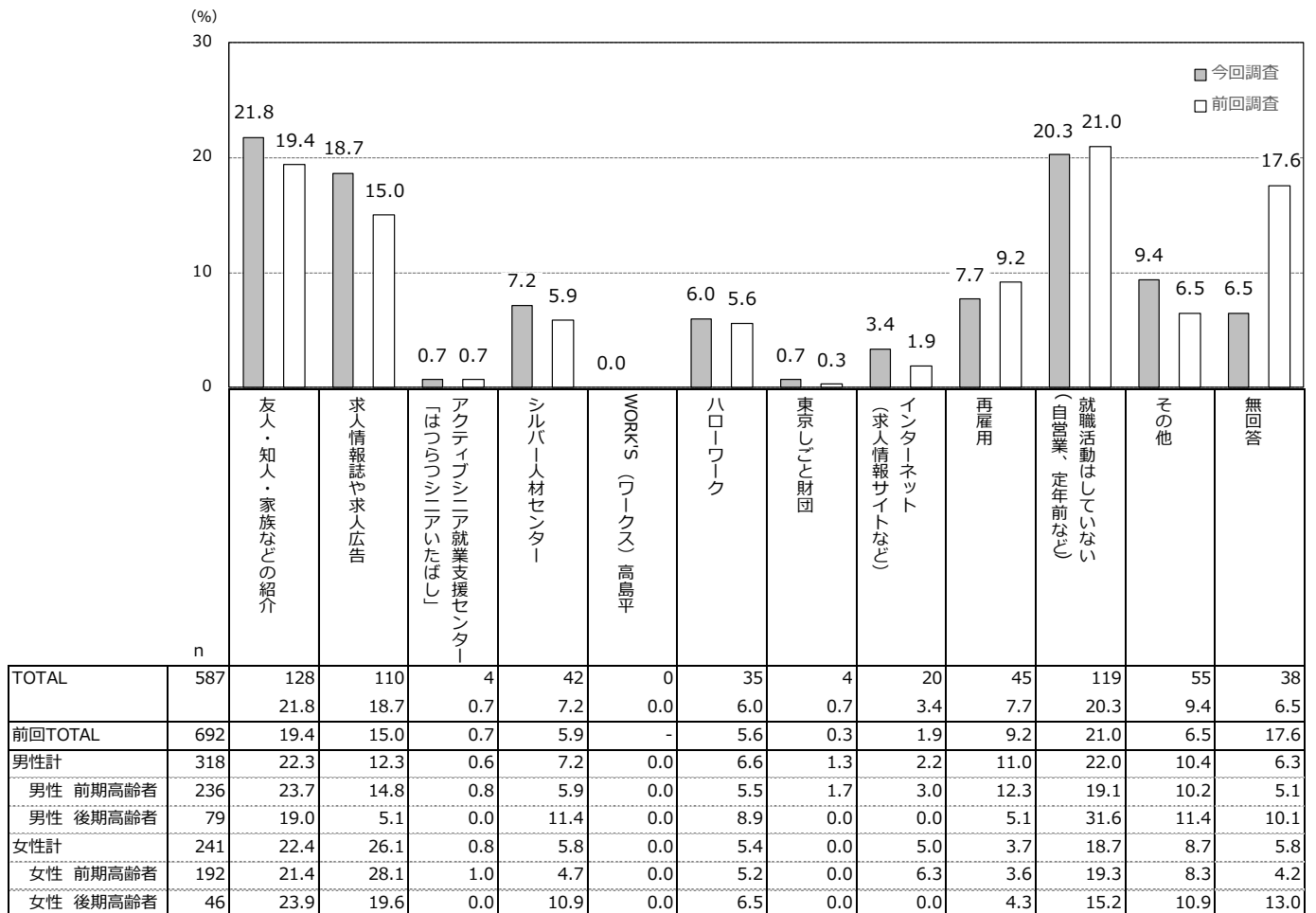
【問10で「1. 会社・団体の役員、管理職」～「14. その他」とお答えの方におうかがいします。】
問10-5 現在の仕事は、どこで探しましたか。(○はいくつでも)

現在の仕事をどこで探したかについて、就職活動をしている人の中では、「友人・知人・家族などの紹介」が21.8%と最も高く、次いで「求人情報誌や求人広告」が18.7%、「その他」が9.4%、「シルバー人材センター」が7.2%の順となっている。一方、「再雇用」は7.7%、「就職活動はしていない（自営業、定年前など）」は20.3%となっている。

性別でみると、男性では女性よりも「再雇用（11.0%）」が高く、女性では男性よりも「求人情報誌や求人広告（26.1%）」が高くなっている。また、性年代別でみると、男性後期高齢者では「就職活動はしていない（31.6%）」が、女性前期高齢者では「求人情報誌や求人広告（28.1%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表3-2-13 現在の仕事をどこで探したか：性年代別



※今回調査から「WORK'S (ワークス) 高島平」の選択肢を追加している。

(2) 今後の就業意向

① 今後の就業意向

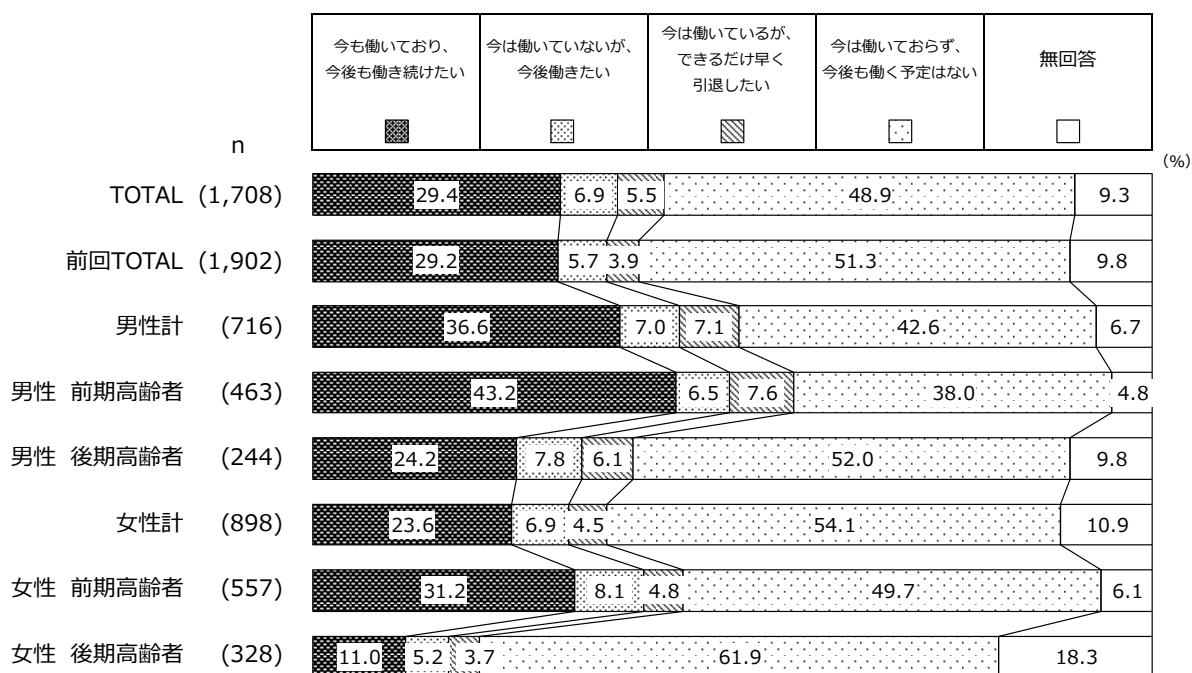
問11 あなた（宛名のご本人）は今後、働こうと思っっていますか。（○は1つのみ）

今後の就業意向については、「今は働いておらず、今後も働く予定はない」が48.9%と最も高く、次いで「今も働いており、今後も働き続けたい」が29.4%、「今は働いていないが、今後働きたい」が6.9%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「今も働いており、今後も働き続けたい（36.6%）」が高く、女性では男性よりも「今は働いておらず、今後も働く予定はない（54.1%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、すべての年代において、男性の方が女性よりも「今も働いており、今後も働き続けたい」が高くなっている。また、男女ともに加齢に伴って「今も働いており、今後も働き続けたい」が低く（男性19.0ポイント・女性20.2ポイント）なっている。

前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表3-2-14 今後の就業意向：性年代別



②何歳まで働きたいか

【問11で「1. 今も働いており、今後も働きたい」「2. 今は働いていないが、今後働きたい」とお答えの方におうかがいします。】

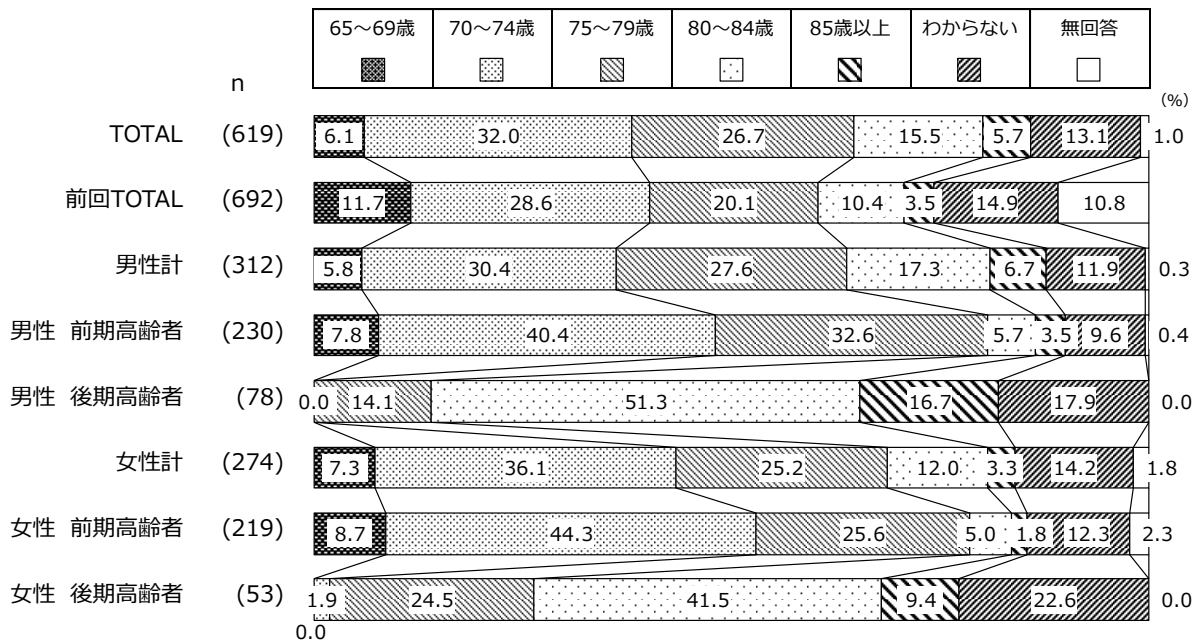
問11-1 何歳まで働きたいと思いますか。現在の仕事とは違う仕事をする場合を含みます。(○は1つのみ)

何歳まで働きたいかについては、「70～74歳」が32.0%と最も高く、次いで「75～79歳」が26.7%、「80～84歳」が15.5%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「80～84歳（17.3%）」が高く、女性では男性よりも「70～74歳（36.1%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「70～74歳（40.4%）」「75～79歳（32.6%）」が、男性後期高齢者では「80～84歳（51.3%）」「85歳以上（16.7%）」が、女性前期高齢者では「70～74歳（44.3%）」が、女性後期高齢者では「80～84歳（41.5%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっており、男性はあと10年程度、女性はあと5年程度、働きたいと考えている人が多い傾向にあるといえる。

前回調査と比較すると、「75～79歳（26.7%）」が6.6ポイント上昇、「80～84歳（15.5%）」が5.1ポイント上昇し、「65～69歳（6.1%）」が5.6ポイント低下している。

図表3-2-15 何歳まで働きたいか：性年代別



③現在仕事を探しているか

【問11で「1. 今も働いており、今後も働きたい」「2. 今は働いていないが、今後働きたい」とお答えの方におうかがいします。】

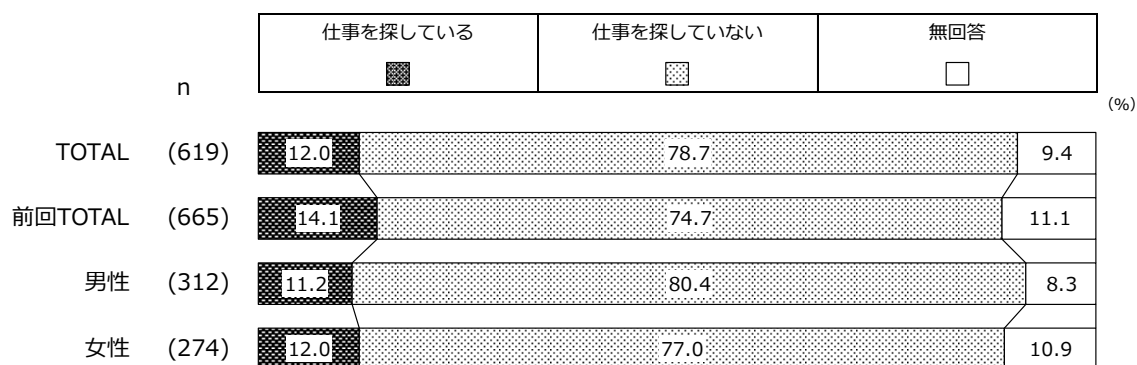
問11-2 あなた（宛名のご本人）は現在、仕事（就職・転職先）を探していますか。（○は1つのみ）

現在仕事を探しているかについては、「仕事を探している」が12.0%、「仕事を探していない」が78.7%となっている。

性別では、大きな違いがみられない。

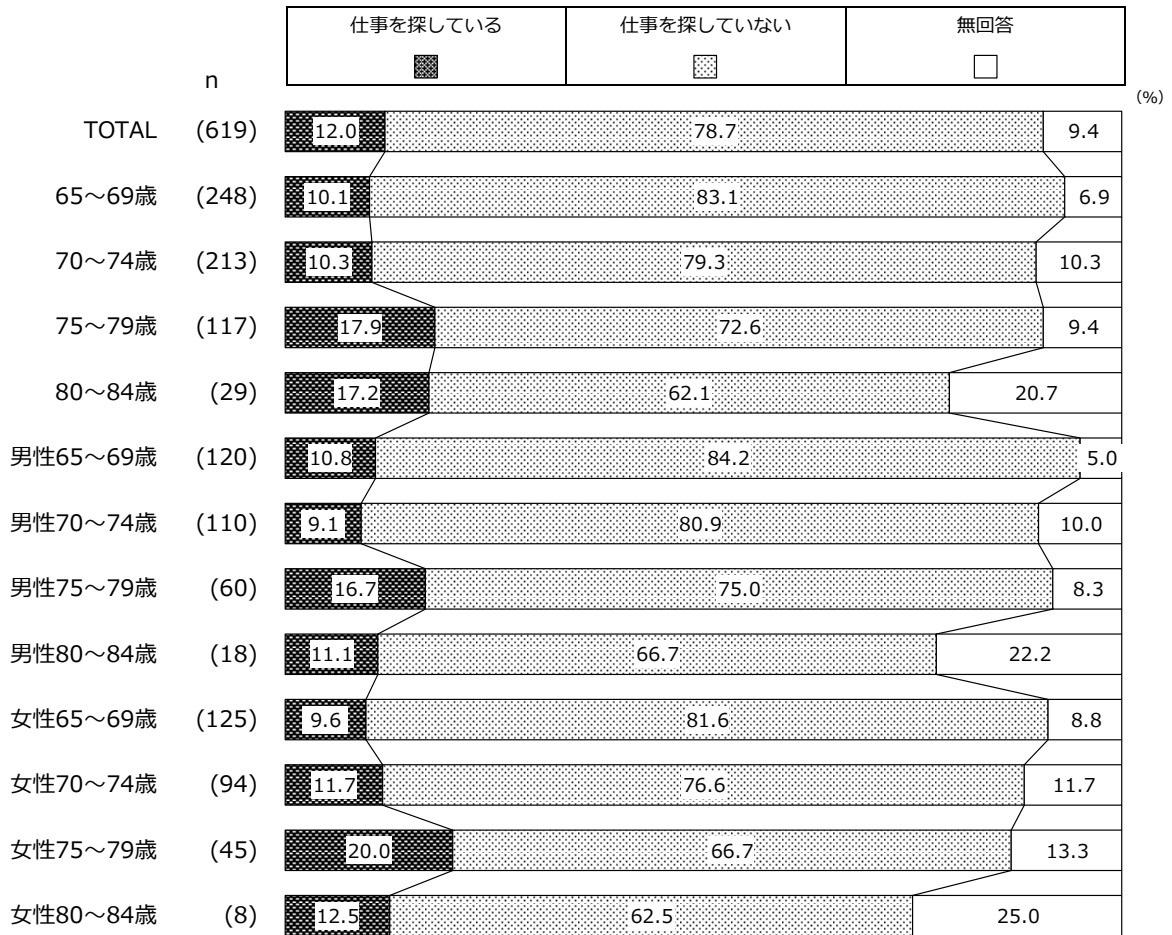
前回調査と比較すると、大きな違いがみられない。

図表3-2-16 現在仕事を探しているか：性別



詳細な年齢区分別でみると、「仕事を探している」は男女ともに「75～79歳」で高くなっている。一方、「仕事を探していない」は男女ともに加齢に伴って低くなる傾向となっている。

図表3-2-17 現在仕事を探しているか：性年代別（詳細）



④働くことを決めるときに重視すること

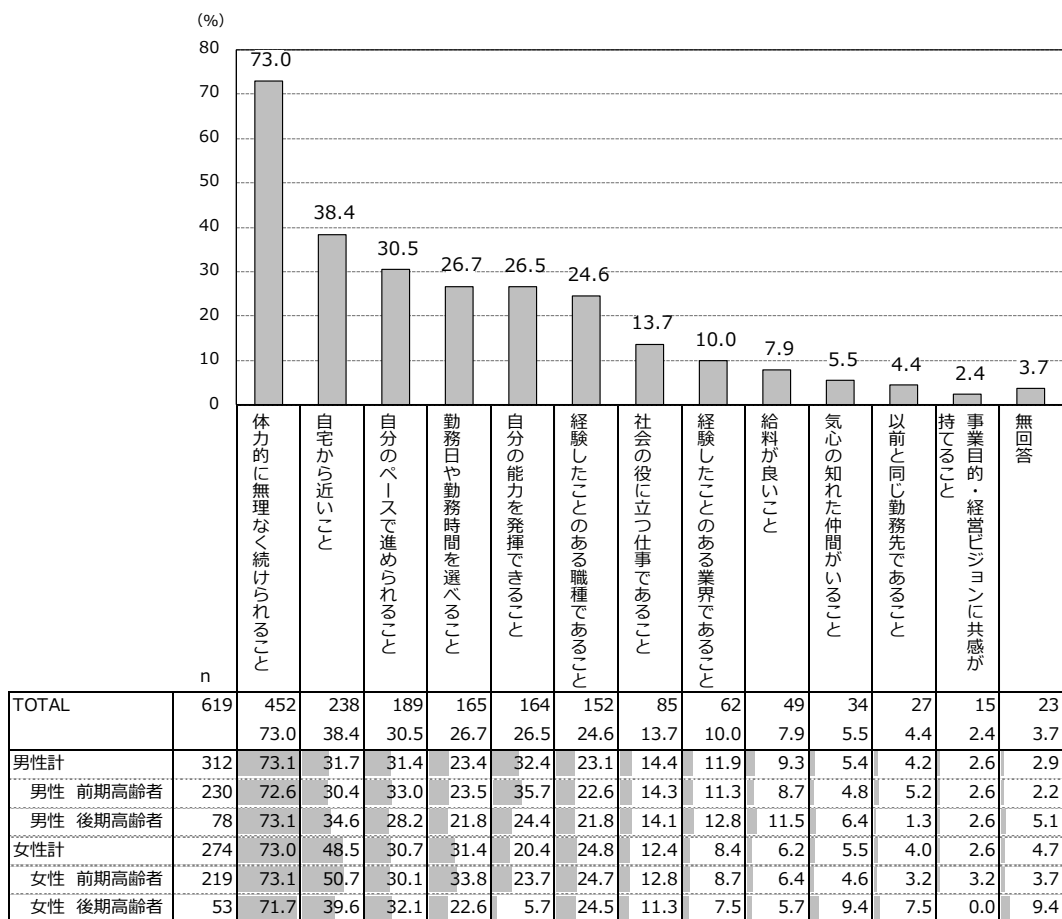
【問11で「1. 今も働いており、今後も働き続けたい」「2. 今は働いていないが、今後働きたい」とお答えの方におうかがいします。】

問11-3 あなた（宛名のご本人）は、働くことを決めるとき、どんなことを重視しますか。上位3つまで○をつけてください。（○は3つまで）

働くことを決めるときに重視することについては、「体力的に無理なく続けられること」が73.0%と最も高く、次いで「自宅から近いこと」が38.4%、「自分のペースで進められること」が30.5%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「自分の能力を発揮できること（32.4%）」が高く、女性では男性よりも「自宅から近いこと（48.5%）」「勤務日や勤務時間を選べること（31.4%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「自分の能力を発揮できること（35.7%）」が、女性前期高齢者では「自宅から近いこと（50.7%）」「勤務日や勤務時間を選べること（33.8%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-2-18 働くことを決めるときに重視すること：性年代別



詳細な年齢区分別でみると、80～84歳では「自分のペースで進められること（48.3%）」が、男性65～69歳では「自分の能力を発揮できること（44.2%）」が、男性80～84歳では「体力的に無理なく続けられること（88.9%）」「自分のペースで進められること（50.0%）」が、女性65～69歳では「自宅から近いこと（53.6%）」が、女性80～84歳では「自分のペースで進められること（62.5%）」「以前と同じ勤務先であること（25.0%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-2-19 働くことを決めるときに重視すること：性年代別（詳細）

	n	体力的に無理なく続けられること	自宅から近いこと	自分のペースで進められること	勤務日や勤務時間を選べること	自分の能力を発揮できること	経験したことがある職種であること	社会の役に立つ仕事であること	経験したことがある業界であること	給料が良いこと	気心の知れた仲間がいること	以前と同じ勤務先であること	事業目的・経営ビジョンに共感が持てること	無回答
TOTAL	619	73.0	38.4	30.5	26.7	26.5	24.6	13.7	10.0	7.9	5.5	4.4	2.4	3.7
65～69歳	248	73.8	39.5	28.2	27.8	35.1	25.0	15.7	10.1	7.7	5.2	4.4	2.4	3.2
70～74歳	213	70.9	40.4	34.7	28.2	22.5	22.5	11.3	9.9	7.0	4.2	4.2	3.3	2.3
75～79歳	117	70.9	37.6	23.1	22.2	16.2	23.1	15.4	11.1	10.3	7.7	3.4	1.7	7.7
80～84歳	29	82.8	17.2	48.3	24.1	24.1	27.6	6.9	3.4	6.9	3.4	10.3	0.0	3.4
男性65～69歳	120	72.5	25.0	31.7	20.8	44.2	26.7	17.5	14.2	10.0	4.2	6.7	2.5	1.7
男性70～74歳	110	72.7	36.4	34.5	26.4	26.4	18.2	10.9	8.2	7.3	5.5	3.6	2.7	2.7
男性75～79歳	60	68.3	41.7	21.7	20.0	23.3	20.0	16.7	15.0	11.7	6.7	1.7	3.3	6.7
男性80～84歳	18	88.9	11.1	50.0	27.8	27.8	27.8	5.6	5.6	11.1	5.6	0.0	0.0	0.0
女性65～69歳	125	75.2	53.6	25.6	35.2	26.4	22.4	13.6	6.4	5.6	6.4	2.4	2.4	4.8
女性70～74歳	94	70.2	46.8	36.2	31.9	20.2	27.7	11.7	11.7	7.4	2.1	4.3	4.3	2.1
女性75～79歳	45	73.3	40.0	26.7	22.2	4.4	24.4	13.3	8.9	6.7	11.1	4.4	0.0	8.9
女性80～84歳	8	62.5	37.5	62.5	25.0	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5

⑤働きたい場所

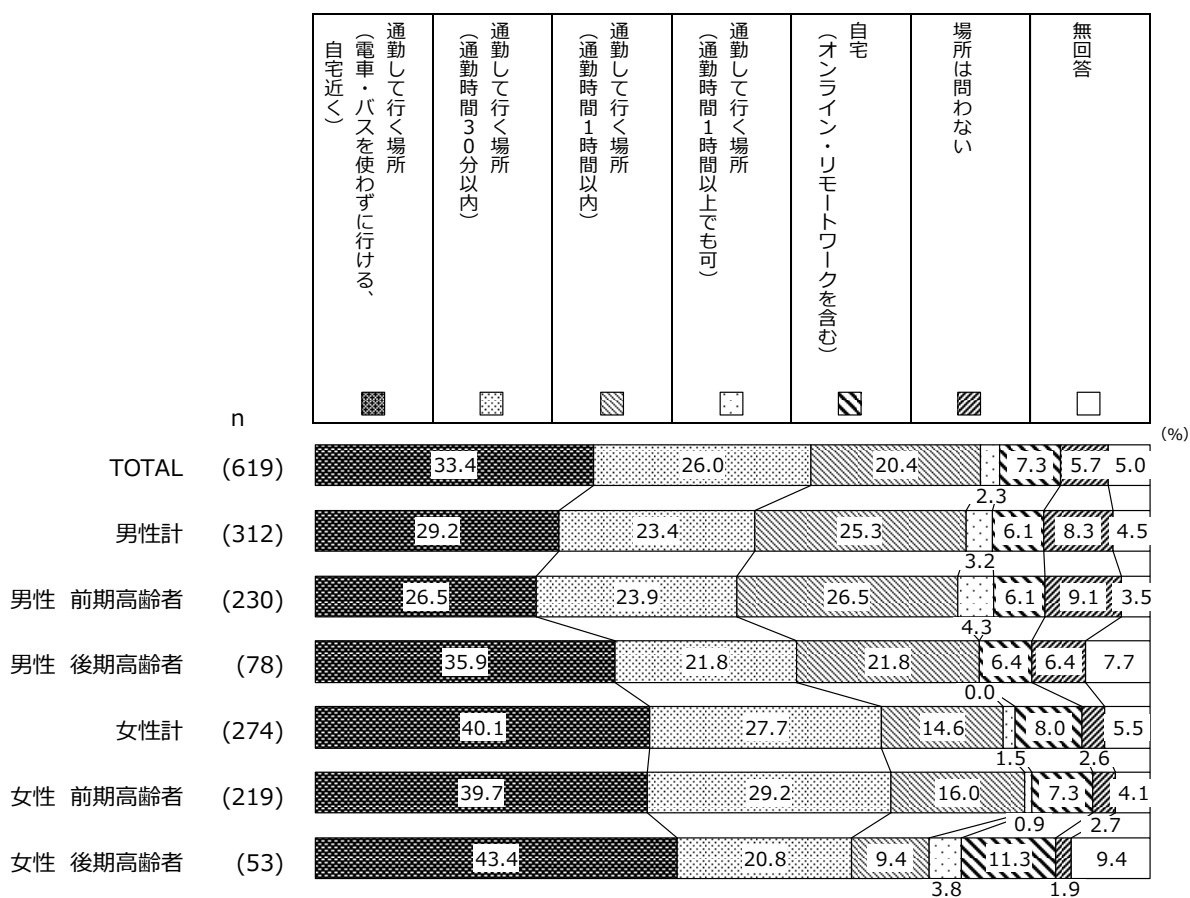
【問11で「1. 今も働いており、今後も働き続けたい」「2. 今は働いていないが、今後働きたい」とお答えの方におうかがいします。】

問11-4 あなた（宛名のご本人）は、働く場所として、次のどれを希望しますか。（○は1つのみ）

働きたい場所については、「通勤して行く場所（電車・バスを使わずに行ける、自宅近く）」が33.4%と最も高く、次いで「通勤して行く場所（通勤時間30分以内）」が26.0%、「通勤して行く場所（通勤時間1時間以内）」が20.4%の順となっている。一方、「自宅（オンライン・リモートワークを含む）」は7.3%となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「通勤して行く場所（通勤時間1時間以内）（25.3%）」「場所は問わない（8.3%）」が高く、女性では男性よりも「通勤して行く場所（電車・バスを使わずに行ける、自宅近く）（40.1%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「通勤して行く場所（通勤時間1時間以内）（26.5%）」が、女性前期高齢者では「通勤して行く場所（電車・バスを使わずに行ける、自宅近く）（前期39.7%・後期43.4%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-2-20 働きたい場所：性年代別



※前回調査とは選択肢を変更しているため、経年比較は行っていない。

⑥希望する職種

【問11で「1. 今も働いており、今後も働きたい」「2. 今は働いていないが、今後働きたい」とお答えの方におうかがいします。】

問11-5 あなた（宛名のご本人）は、働く場合、どの職種を希望しますか。（○は1つのみ）

希望する職種については、「清掃・配達」が12.8%と最も高く、次いで「事務」が12.0%、「その他」が9.5%、「専門技術者、教育、医療職」が7.9%の順となっている。

性別でみると、男性では女性よりも「建設、電気、土木（10.3%）」「管理人（9.6%）」「輸送、運転（8.7%）」「会社・団体の役員、管理職（8.3%）」が高く、女性では男性よりも「事務（18.6%）」「清掃・配達（18.2%）」「介護職、理・美容、その他サービス（8.8%）」が高くなっている。また、性年代別でみると、男性前期高齢者では「建設、電気、土木（11.3%）」「会社・団体の役員、管理職（10.4%）」が、男性後期高齢者では「管理人（15.4%）」が、女性前期高齢者では「事務（21.0%）」が、女性後期高齢者では「清掃・配達（28.3%）」「介護職、理・美容、その他サービス（11.3%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-2-21 希望する職種：性年代別

	n	管理職 会社・団体の役員、 医療職	専門技術者、教育、 医療職	事務	販売、 営業	調理、 洗い場	管理人	警備	その他サービス 介護職、理・美容、 その他サービス	農業	機械整備・ 修理	製造・ 加工	輸送、 運転	建設、 電気、 土木	清掃・ 配達	その他	無回答
TOTAL	619	5.2	7.9	12.0	6.5	5.8	6.8	1.9	5.5	0.8	4.4	4.8	6.1	12.8	9.5	10.0	
男性計	312	8.3	7.7	6.7	5.8	3.5	9.6	3.5	2.6	1.3	6.4	8.7	10.3	9.0	8.3	8.3	
男性 前期高齢者	230	10.4	8.7	7.0	5.2	3.0	7.8	3.0	1.7	1.3	6.1	8.3	11.3	8.3	10.0	7.8	
男性 後期高齢者	78	2.6	5.1	6.4	6.4	3.8	15.4	5.1	5.1	1.3	7.7	7.7	7.7	11.5	3.8	10.3	
女性計	274	1.5	8.8	18.6	8.0	8.0	2.2	0.0	8.8	0.4	1.8	0.0	0.4	18.2	11.3	12.0	
女性 前期高齢者	219	1.8	9.1	21.0	8.7	7.8	2.3	0.0	8.2	0.5	1.8	0.0	0.0	16.0	11.9	11.0	
女性 後期高齢者	53	0.0	5.7	9.4	5.7	9.4	1.9	0.0	11.3	0.0	1.9	0.0	1.9	28.3	9.4	15.1	

第3章 調査結果の詳細

詳細な年齢区分別でみると、男性80～84歳では「製造・加工、機械整備・修理（22.2%）」が、その他の性別・年齢区分に比べて高くなっている。また女性では加齢に伴って、「清掃・配達」が高く、「事務」が低くなっている。

図表3-2-22 希望する職種：性年代別（詳細）

n	管理職	会社・団体の役員、医療職	専門技術者、教育	事務	販売、営業	調理、洗い場	管理人	警備	介護職、理・美容、その他サービス	農業	機械整備・修理	製造・加工	輸送、運転	建設、電気、土木	清掃・配達	その他	無回答
TOTAL	619	5.2	7.9	12.0	6.5	5.8	6.8	1.9	5.5	0.8	4.4	4.8	6.1	12.8	9.5	10.0	
65～69歳	248	6.9	9.3	16.9	8.9	5.2	4.0	0.4	4.0	0.8	4.0	3.6	6.9	9.3	11.7	8.1	
70～74歳	213	5.6	8.0	9.9	4.2	5.2	7.5	2.8	6.1	0.9	3.8	5.6	5.2	15.0	9.9	10.3	
75～79歳	117	2.6	5.1	7.7	5.1	6.8	10.3	2.6	8.5	0.9	3.4	5.1	5.1	15.4	6.8	14.5	
80～84歳	29	0.0	6.9	6.9	6.9	6.9	13.8	6.9	0.0	0.0	17.2	0.0	6.9	20.7	3.4	3.4	
男性 65～69歳	120	11.7	8.3	11.7	8.3	2.5	6.7	0.8	0.0	0.8	5.8	6.7	13.3	6.7	10.8	5.8	
男性 70～74歳	110	9.1	9.1	1.8	1.8	3.6	9.1	5.5	3.6	1.8	6.4	10.0	9.1	10.0	9.1	10.0	
男性 75～79歳	60	3.3	5.0	5.0	5.0	1.7	15.0	5.0	6.7	1.7	3.3	10.0	6.7	13.3	5.0	13.3	
男性 80～84歳	18	0.0	5.6	11.1	11.1	11.1	16.7	5.6	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	5.6	0.0	0.0	
女性 65～69歳	125	2.4	10.4	21.6	9.6	8.0	1.6	0.0	8.0	0.8	2.4	0.0	0.0	12.0	12.8	10.4	
女性 70～74歳	94	1.1	7.4	20.2	7.4	7.4	3.2	0.0	8.5	0.0	1.1	0.0	0.0	21.3	10.6	11.7	
女性 75～79歳	45	0.0	4.4	11.1	6.7	11.1	0.0	0.0	13.3	0.0	2.2	0.0	2.2	22.2	11.1	15.6	
女性 80～84歳	8	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	0.0	12.5	

現在の職業別でみると、「会社・団体の役員、管理職」「その他」以外の職業で、現在の職業をそのまま継続して続けたいという回答が6割以上となっている、という明確な傾向がみられる。また、現在は「主婦・主夫（専業）」であると回答している人では「事務」「販売、営業」「清掃・配達」（すべて18.8%）が、「無職・仕事からは引退した」と回答している人では「清掃・配達（18.3%）」「事務（13.4%）」が、それぞれ他の職業に比べて高くなっている。

図表3-2-23 希望する職種：現在の職業別

	n	会社・団体の役員、 管理職	医療職 専門技術者、教育、	事務	販売、 営業	調理、 洗い場	管理人	警備	介護職、理・美容、 その他サービス	農業	機械整備・ 修理	製造・ 加工	輸送、 運転	建設、 電気、 土木	清掃・ 配達	その他	無回答
TOTAL	619	5.2	7.9	12.0	6.5	5.8	6.8	1.9	5.5	0.8	4.4	4.8	6.1	12.8	9.5	10.0	
会社・団体の役員、 管理職	53	45.3	7.5	15.1	1.9	0.0	1.9	0.0	3.8	0.0	1.9	0.0	9.4	3.8	3.8	5.7	
専門技術者、教員、 医療職	30	0.0	90.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.3	
事務	34	0.0	0.0	91.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9	2.9	
販売、営業	29	3.4	3.4	0.0	75.9	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	
調理、洗い場	23	0.0	0.0	4.3	0.0	87.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	4.3	
管理人	32	0.0	3.1	12.5	0.0	6.3	65.6	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	3.1	0.0	3.1	
警備	14	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	
介護職、理・美容、 その他サービス	29	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0	3.4	0.0	62.1	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	20.7	
農業	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
製造・加工、 機械整備・修理	25	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	4.0	60.0	4.0	0.0	4.0	0.0	20.0	
輸送、運転	26	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	3.8	0.0	0.0	76.9	0.0	3.8	3.8	7.7	
建設、電気、土木	38	2.6	7.9	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	68.4	0.0	2.6	13.2	
清掃、配達	70	1.4	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	1.4	0.0	4.3	0.0	0.0	67.1	4.3	12.9	
その他	73	1.4	4.1	9.6	2.7	2.7	6.8	0.0	2.7	0.0	2.7	0.0	2.7	6.8	45.2	12.3	
主婦・主夫（専業）	32	0.0	12.5	18.8	18.8	3.1	0.0	0.0	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8	12.5	6.3	
学生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無職・仕事からは 引退した	82	3.7	4.9	13.4	4.9	7.3	8.5	1.2	4.9	2.4	3.7	4.9	3.7	18.3	12.2	6.1	

⑦希望する雇用形態

【問11で「1. 今も働いており、今後も働きたい」「2. 今は働いていないが、今後働きたい」とお答えの方におうかがいします。】

問11-6 あなた（宛名のご本人）は、働く場合、どの雇用形態を希望しますか。（○は1つのみ）

希望する雇用形態については、「パート・アルバイト・契約社員」が51.7%と最も高く、次いで「自営業主、自由業」が15.5%、「正社員・正規職員・正規従業員」が8.1%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「自営業主、自由業（22.8%）」「正社員・正規職員・正規従業員（11.5%）」「嘱託社員・嘱託職員（7.7%）」が高く、女性では男性よりも「パート・アルバイト・契約社員（66.8%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「嘱託社員・嘱託職員（10.0%）」が、男性後期高齢者では「自営業主、自由業（32.1%）」が、女性前期高齢者では「パート・アルバイト・契約社員（69.9%）」が、女性後期高齢者では「その他（9.4%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-2-24 希望する雇用形態：性年代別

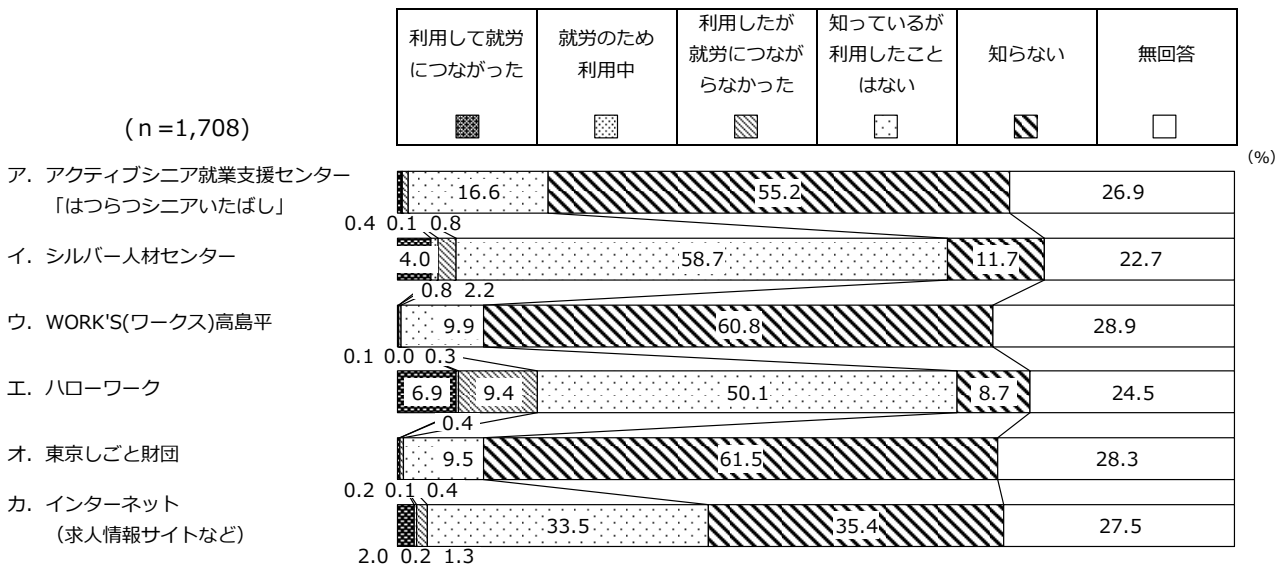
	n	自営業主、 自由業	家族従業 (家業などの 手伝い)	正社員・ 正規職員・ 正規従業員	パート・ アルバイト・ 契約社員	嘱託社員・ 嘱託職員	人材派遣企業 の派遣社員	その他の 雇用者	会社や団体 などの役員・ 管理職	家庭での 内職	その他 (左記以外)	無回答
TOTAL	619	15.5	2.9	8.1	51.7	4.5	1.9	2.3	2.7	0.6	1.5	8.2
男性計	312	22.8	1.0	11.5	39.1	7.7	2.6	2.2	4.8	0.0	0.6	7.7
男性 前期高齢者	230	20.0	0.4	13.0	38.7	10.0	2.2	3.0	5.2	0.0	0.9	6.5
男性 後期高齢者	78	32.1	2.6	7.7	37.2	1.3	3.8	0.0	3.8	0.0	0.0	11.5
女性計	274	6.9	5.1	4.0	66.8	1.1	1.1	2.2	0.0	1.5	2.6	8.8
女性 前期高齢者	219	6.8	4.6	4.6	69.9	0.9	1.4	2.3	0.0	1.4	0.9	7.3
女性 後期高齢者	53	7.5	7.5	1.9	54.7	1.9	0.0	1.9	0.0	1.9	9.4	13.2

(3) 仕事に関する情報を提供している施設などの認知度・利用状況

問12 仕事に関する情報を提供している施設などについてうかがいます。それぞれあてはまる番号をお選びください。(それぞれ○は1つ)

仕事に関する情報を提供している施設などの認知度・利用状況について、「利用して就労につながった」「就労のため利用中」「利用したが就労につながらなかった」を合わせて『利用状況』、さらに「知っているが利用したことはない」を合わせて『認知度』とすると、『認知度』『利用状況』『利用して就労につながった』のすべてにおいて「ハローワーク（認知度66.8%・利用状況16.7%・利用して就労につながった6.9%）」が最も高く、次いで「シルバー人材センター（65.7%・7.0%・4.0%）」、「インターネット（求人情報サイトなど）（37.0%・3.5%・2.0%）」の順となっている。

図表3-2-25 仕事に関する情報を提供している施設などの認知度・利用状況

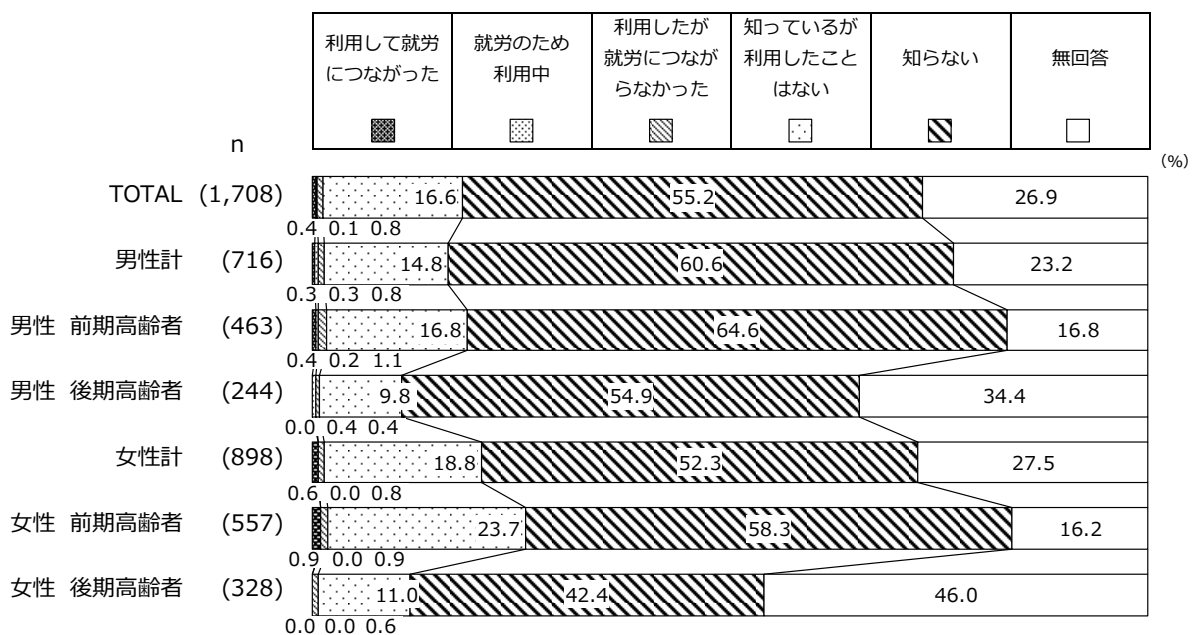


①アクティブシニア就業支援センター「はつらつシニアいたばし」

アクティブシニア就業支援センター「はつらつシニアいたばし」については、『認知度』が17.9%、『利用状況』が1.3%、「利用して就労につながった」が0.4%となっている。

性別では、『認知度』『利用状況』『利用して就労につながった』のすべてにおいて大きな違いがみられない。性年代別でみると、『認知度』では女性前期(25.5%)、男性前期(18.5%)、男性後期(10.6%)、女性後期(11.6%)の順に、『利用状況』では女性前期(1.8%)、男性前期(1.7%)、男性後期(0.8%)、女性後期(0.6%)の順に、それぞれ高くなっている。一方、「利用して就労につながった」は前期で女性が0.9%、男性が0.4%であるのに対して、後期では男女ともに0.0%となっている。

図表3-2-26 アクティブシニア就業支援センター「はつらつシニアいたばし」の認知度・利用状況：性年代別

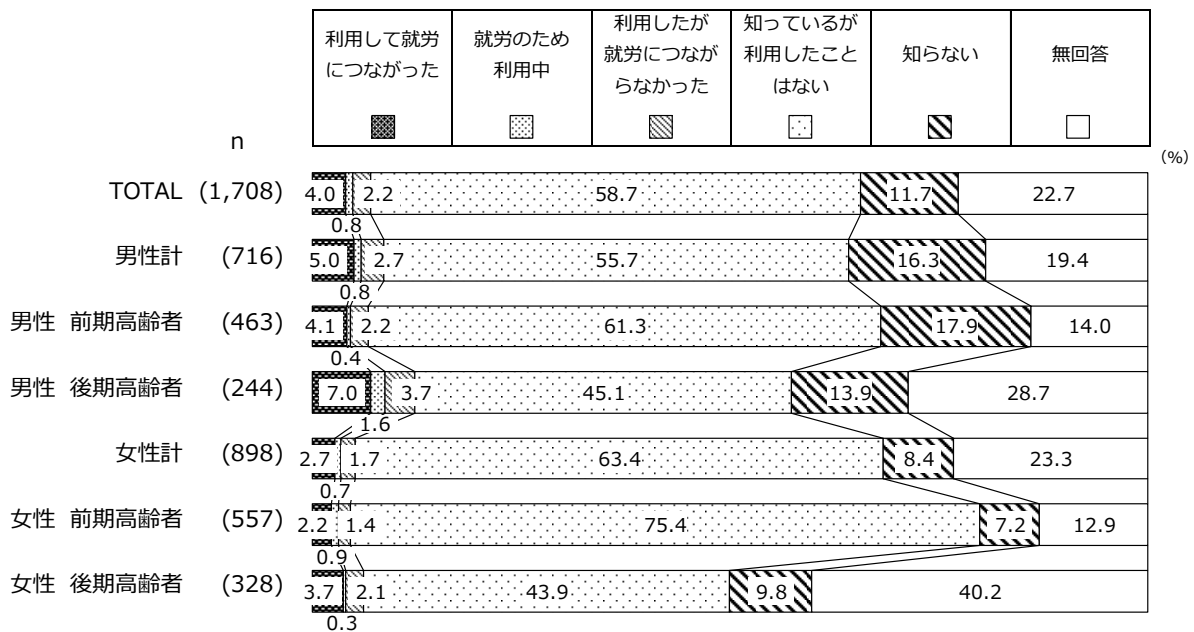


②シルバー人材センター

シルバー人材センターについては、『認知度』が65.7%、『利用状況』が7.0%、「利用して就労につながった」が4.0%となっている。

性別では、『認知度』『利用状況』『利用して就労につながった』のすべてにおいて大きな違いがみられない。性年代別でみると、『認知度』は女性前期(79.9%)、男性前期(68.0%)、男性後期(57.4%)、女性後期(50.0%)の順に、『利用状況』『利用して就労につながった』は男性後期(利用状況12.3%・利用して就労につながった7.0%)、男性前期(6.7%・4.1%)、女性後期(6.1%・3.7%)、女性前期(4.5%・2.2%)の順に、それぞれ高くなっている。

図表3-2-27 シルバー人材センターの認知度・利用状況：性年代別

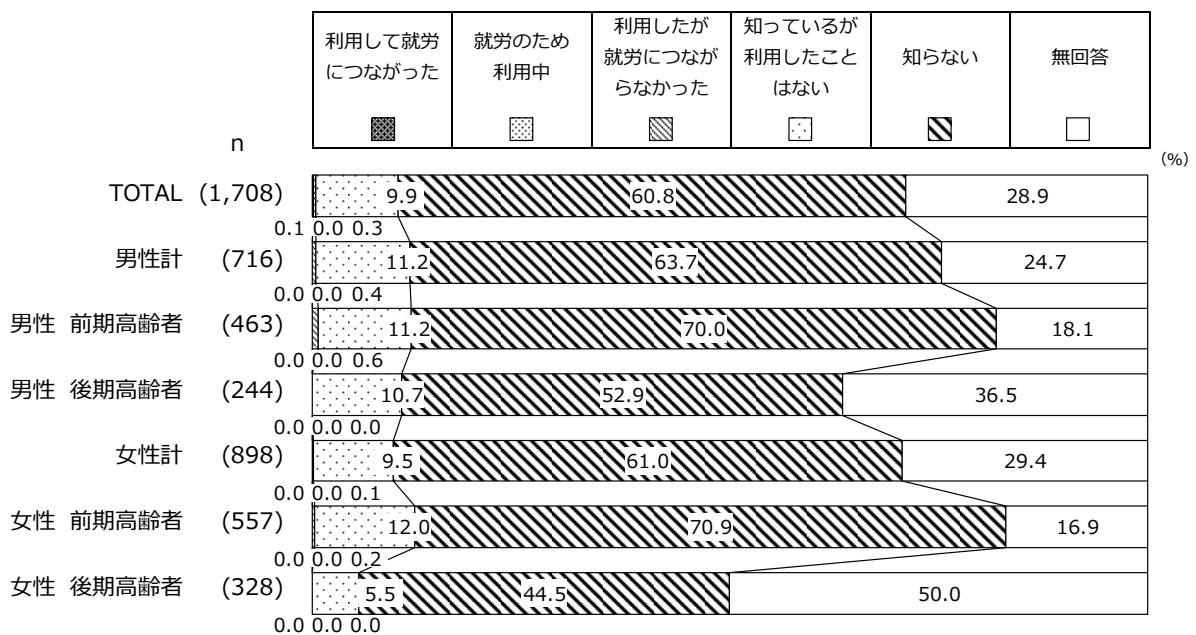


③WORK'S (ワークス) 高島平

WORK'S (ワークス) 高島平については、『認知度』が10.3%、『利用状況』が0.4%、「利用して就労につながった」が0.1%となっている。

性別では、『認知度』『利用状況』『利用して就労につながった』のすべてにおいて大きな違いがみられない。性年代別でみると、『認知度』は女性前期(12.2%)、男性前期(11.8%)、男性後期(10.7%)、女性後期(5.5%)の順に高くなっている。一方、『利用状況』は前期で男性が0.6%、女性が0.2%であるのに対して、後期では男女ともに0.0%となっている。

図表3-2-28 WORK'S (ワークス) 高島平の認知度・利用状況：性年代別

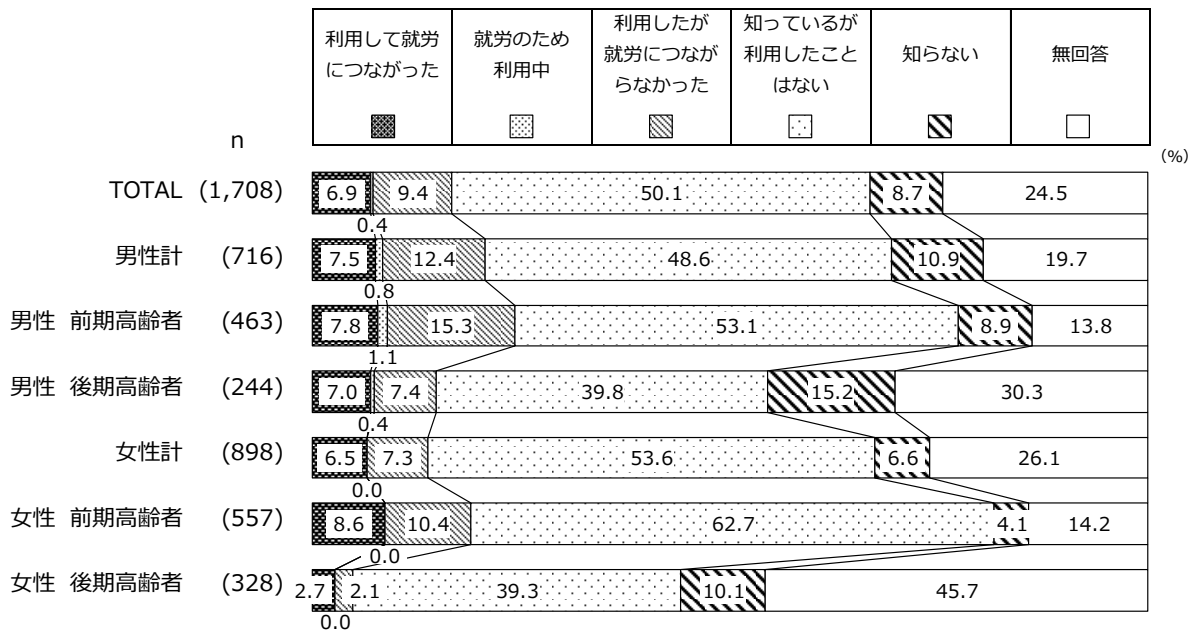


④ハローワーク

ハローワークについては、『認知度』が66.8%、『利用状況』が16.7%、「利用して就労につながった」が6.9%となっている。

性別で見ると、『認知度』「利用して就労につながった」では男女で大きな違いがみられないものの、『利用状況』では男性（20.7%）の方が女性（13.8%）よりも6.9ポイント高くなっている。性年代別で見ると、『認知度』「利用して就労につながった」では女性前期（認知度81.7%・利用して就労につながった8.6%）、男性前期（77.3%・7.8%）、男性後期（54.6%・7.0%）、女性後期（44.1%・2.7%）の順に、『利用状況』は男性前期（24.2%）、女性前期（19.0%）、男性後期（14.8%）、女性後期（4.8%）の順に、それぞれ高くなっている。

図表3-2-29 ハローワークの認知度・利用状況：性年代別

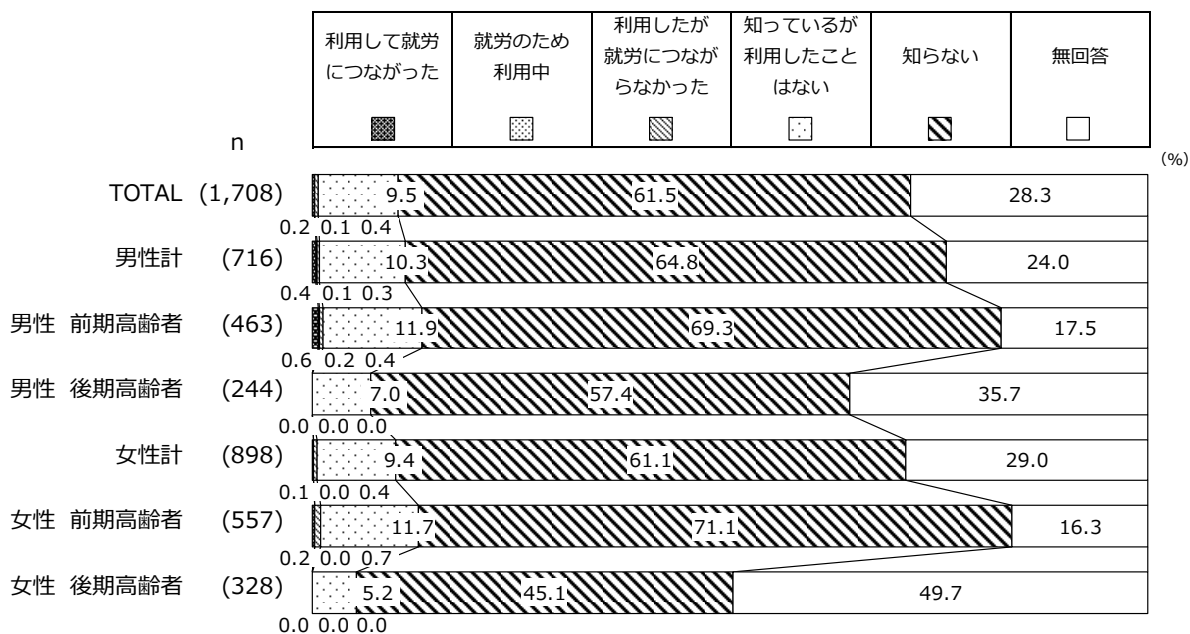


⑤東京しごと財団

東京しごと財団については、『認知度』が10.2%、『利用状況』が0.7%、「利用して就労につながった」が0.2%となっている。

性別では、『認知度』『利用状況』『利用して就労につながった』のすべてにおいて大きな違いがみられない。性年代別でみると、『認知度』は男性前期（13.1%）、女性前期（12.6%）、男性後期（7.0%）、女性後期（5.2%）の順に、『利用状況』『利用して就労につながった』は「前期男性（利用状況1.2%・利用して就労につながった0.6%）」「前期女性（0.9%・0.2%）」の順に、それぞれ高くなっている。なお、『利用状況』『利用して就労につながった』については、男女ともに後期で0.0%となっている。

図表3-2-30 東京しごと財団の認知度・利用状況：性年代別

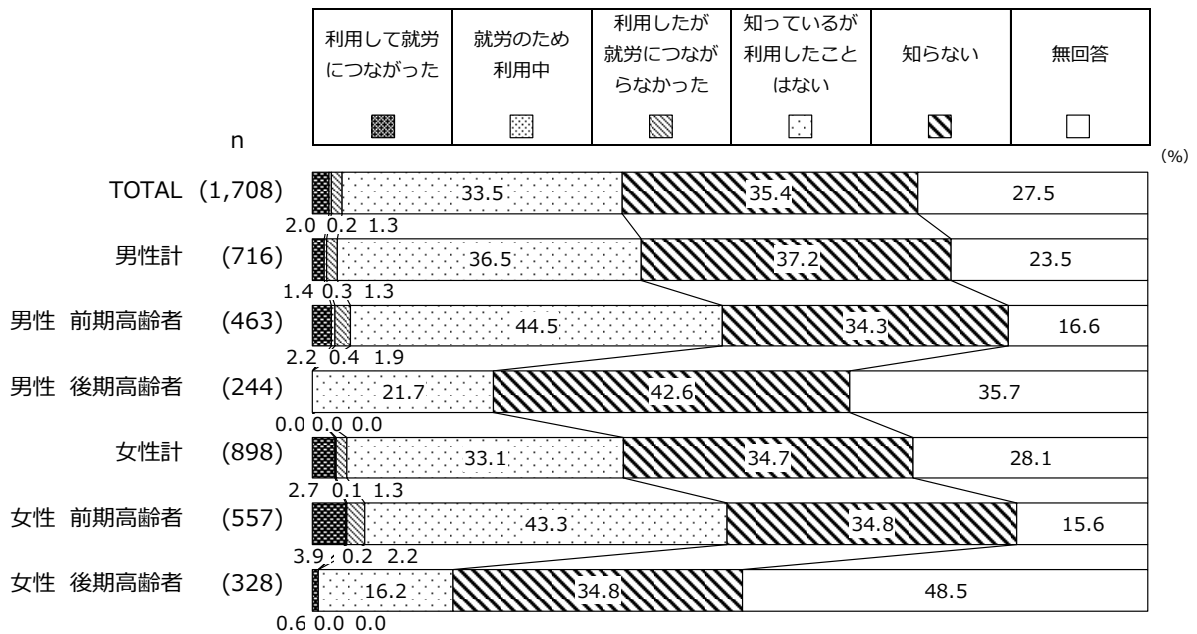


⑥インターネット（求人情報サイトなど）

インターネット（求人情報サイトなど）については、『認知度』が37.0%、『利用状況』が3.5%、「利用して就労につながった」が2.0%となっている。

性別では、『認知度』『利用状況』『利用して就労につながった』のすべてにおいて大きな違いがみられない。性年代別でみると、『認知度』は女性前期（49.6%）、男性前期（49.0%）、男性後期（21.7%）、女性後期（16.8%）の順に、『利用状況』『利用して就労につながった』は女性前期（利用状況6.3%・利用して就労につながった3.9%）、男性前期（4.5%・2.2%）、女性後期（0.6%・0.6%）の順に、それぞれ高くなっている。なお、『利用状況』『利用して就労につながった』については、男性後期でともに0.0%となっている。

図表3-2-31 インターネット（求人情報サイトなど）の認知度・利用状況：性年代別



3. 健康について

(1) 健康に対する自己認識

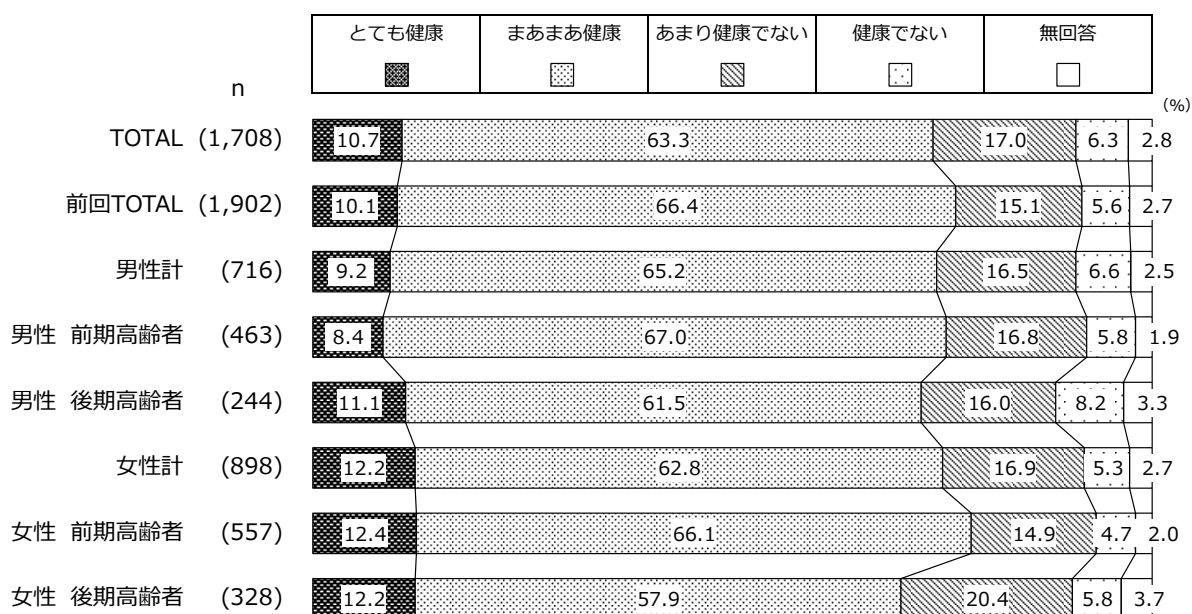
問13 あなた（宛名のご本人）は、ふだん、ご自分で健康だと思いますか。（○は1つのみ）

健康に対する自己認識については、「とても健康」の10.7%と「まあまあ健康」の63.3%を合わせた『健康』が74.0%、「あまり健康でない」の17.0%と「健康でない」の6.3%を合わせた『不健康』が23.3%となっている。

性年代別で見ると、男女ともに加齢に伴って『健康』の割合が低下しており、特に女性では『健康』が78.5%から70.1%と8.4ポイント低下している。

前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表3-3-1 健康に対する自己認識：性年代別



(2) 心配ごとや悩みごとの状況

①現在の心配ごとや悩みごと

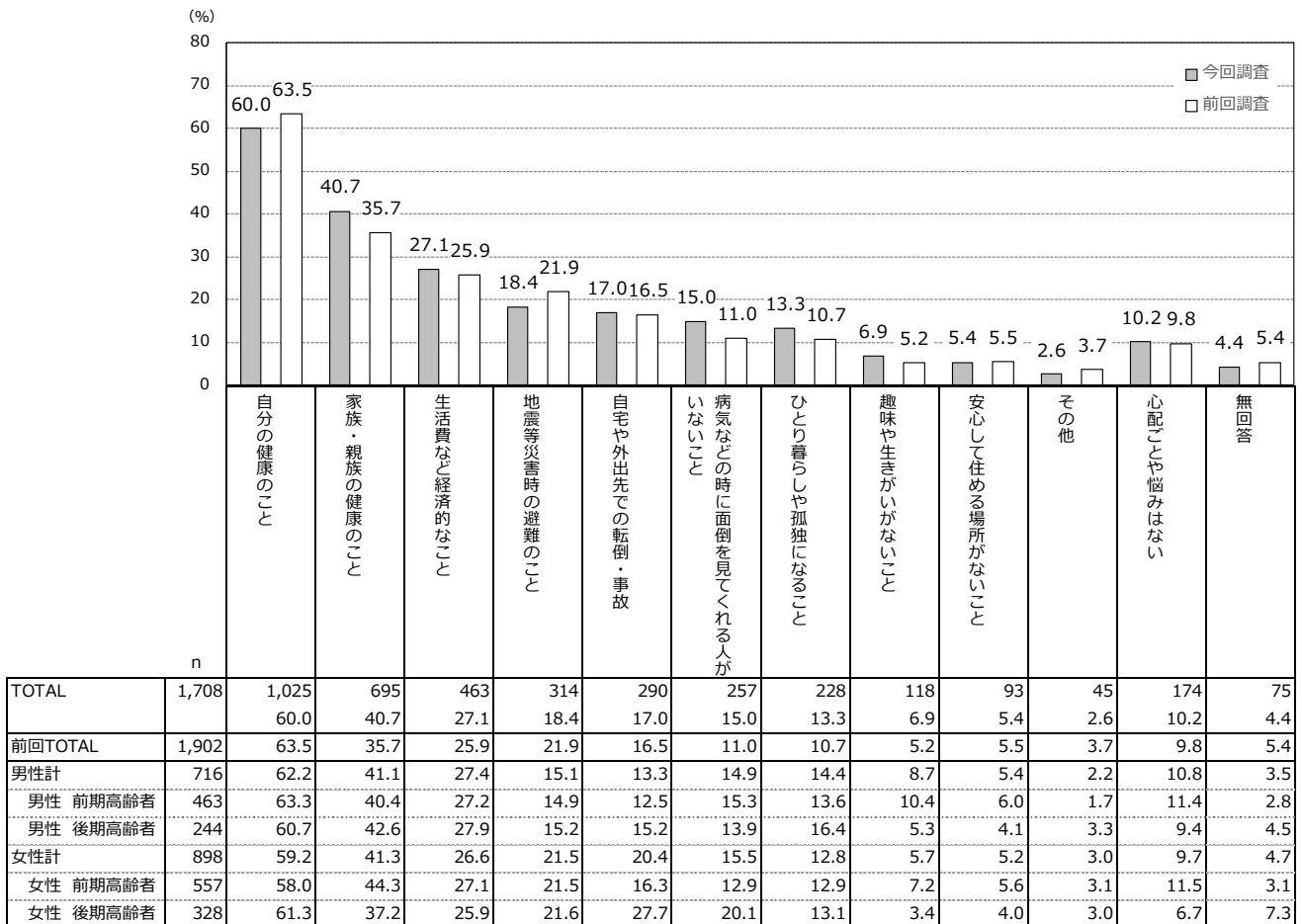
問14 あなた（宛名のご本人）には、現在次のような心配ごとや悩みがありますか。（○はいくつでも）

現在の心配ごとや悩みごとについては、「自分の健康のこと」が60.0%と最も高く、次いで「家族・親族の健康のこと」が40.7%、「生活費など経済的なこと」が27.1%の順となっている。

性別でみると、女性では男性よりも「自宅や外出先での転倒・事故（20.4%）」「地震等災害時の避難のこと（21.5%）」が高くなっている。また、性年代別でみると、男性前期高齢者では「趣味や生きがいがないこと」が10.4%と男性後期高齢者や女性と比較して高くなっている。女性では加齢に伴って「自宅や外出先での転倒・事故」が16.3%から27.7%と11.4ポイント上昇している。

前回調査と比較すると、「家族・親族の健康のこと」が5.0ポイント上昇している。

図表3-3-2 現在の心配ごとや悩みごと（複数回答）：性年代別



②心配ごとや悩みごとの相談先

【問14で「1. 自分の健康のこと」～「10. その他」とお答えの方におうかがいします。】

問14-1 あなた（宛名のご本人）は、心配ごとや悩みごとができた場合、誰に話を聞いてもらったり、相談したりしますか。（○はいくつでも）

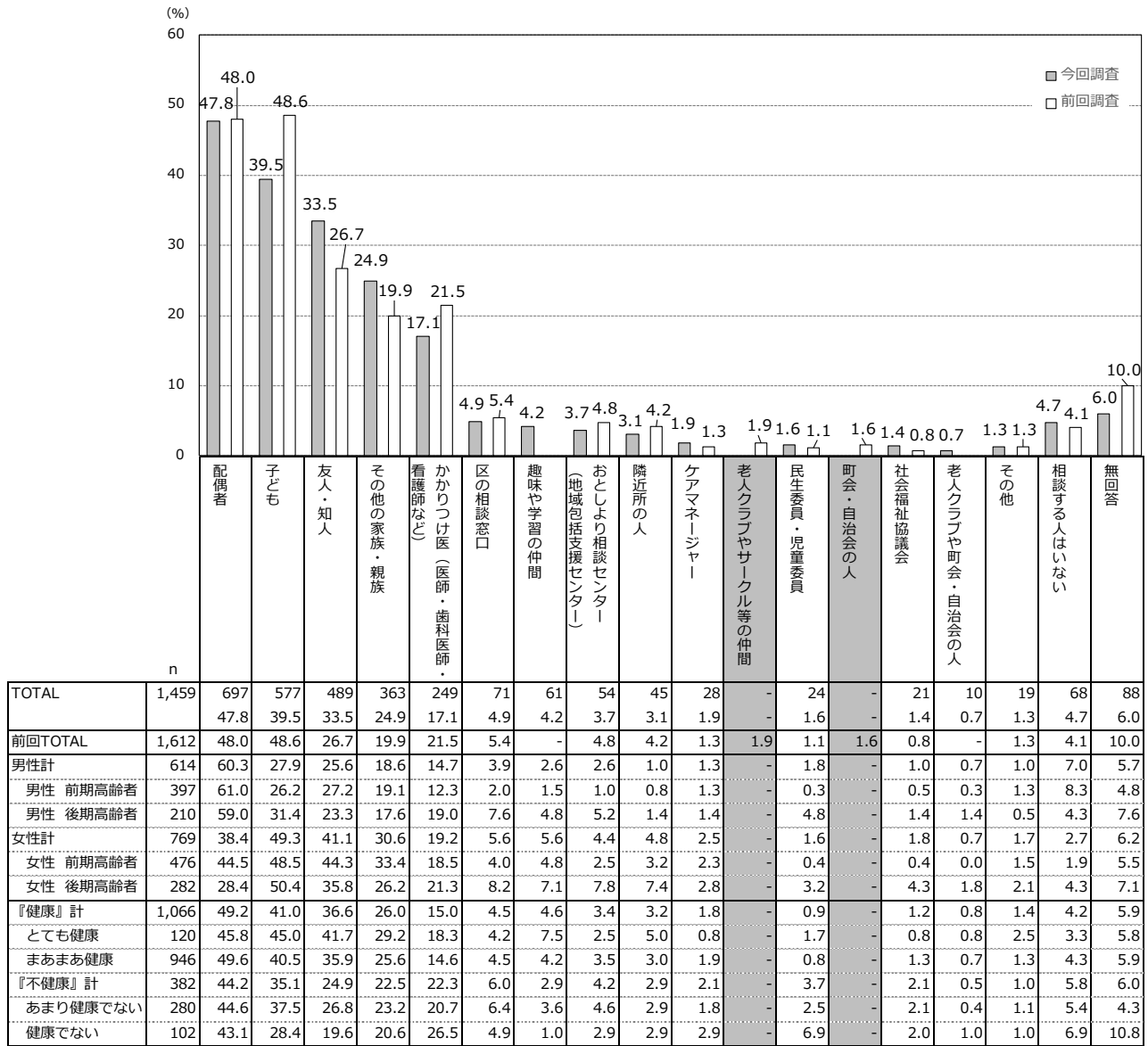
心配ごとや悩みごとの相談先については、「配偶者」が47.8%と最も高く、次いで「子ども」が39.5%、「友人・知人」が33.5%、「その他の家族・親族」が24.9%、「かかりつけ医（医師・歯科医師・看護師など）」が17.1%の順となっている。

性別でみると、男性では女性よりも「配偶者（60.3%）」が高く、女性では男性よりも「子ども（49.3%）」「友人・知人（41.1%）」「その他の家族・親族（30.6%）」が高くなっている。また、性年代別でみると、男性後期高齢者では「かかりつけ医（19.0%）」「区の相談窓口（7.6%）」が、女性後期高齢者では「おとしより相談センター（7.8%）」が、前期高齢者と比べてそれぞれ高くなっている。

健康に対する自己認識別でみると、『不健康』では『健康』よりも「かかりつけ医」が7.3ポイント上昇し、「友人・知人」が11.7ポイント低下している。

前回調査と比較すると、「友人・知人」が6.8ポイント、「その他の家族・親族」が5.0ポイント上昇し、「子ども」が9.1ポイント低下している。

図表3-3-3 心配ごとや悩みごとの相談先：性年代別・健康に対する自己認識別



※前回調査では「老人クラブやサークル等の仲間」「町会・自治会の人」としていた選択肢を、今回調査では「趣味や学習の仲間」「老人クラブや町会・自治会の人」に変更している。

(3) 日常の活動状況・ふだんの生活

(基本チェックリストの点数化に基づく「介護予防・生活支援サービス事業対象者」の該当率)

問15 あなた(宛名のご本人)の日常の活動状況についておうかがいします。質問ごとに、「している」「できるだけしていない」「できないのでしていない」でお答えください。(それぞれ○は1つ)

問16 あなた(宛名のご本人)のふだんの生活について、「はい(できる)」「いいえ(できない)」のどちらかをお選びください。(それぞれ○は1つ)

※身長・体重の欄には、小数点第1位までの数字をご記入ください。

問15・問16の各設問回答結果より、「介護予防・生活支援サービス事業対象者」(以下、「事業対象者」)の該当率を算出するため、図表3-3-4に厚生労働省作成の基本チェックリストと比較可能な関連設問を整理している。

基本チェックリストの点数化に基づく事業対象者とは、「運動」「栄養」「口腔」「閉じこもり」「認知症」「うつ」「総合」の7つのリスクのうち1つ以上に該当している者のことを指し、本調査における事業対象者の該当率は60.8%(前回調査では30.5%)となっている。

※前回調査では、7つのリスクのうち「運動」「栄養」「口腔」「生活全般」の4つのリスクのうち1つ以上に該当している者を事業対象者としていた。

図表3-3-4 基本チェックリストの点数化に基づく事業対象者の算出根拠・該当率

設問内容	基本チェックリスト項目番号	本調査該当設問番号	上段：基本チェックリストでの設問文 下段：本調査での設問文	該当選択肢	事業対象者各リスク該当率	
生活全般	1	問15ア	バスや電車を使って1人で外出していますか	3.できないのでしていない	【総合】 1～20のうち 10項目該当 ：3.5%	
	2	問15イ	日用品の買い物をしていますか	3.できないのでしていない		
	3	問15ウ	預貯金の出し入れをしていますか	3.できないのでしていない		
	4	問16夕	友人の家を訪ねていますか	2.いいえ		
	5	問16チ	家族や友人の相談にのっていますか	2.いいえ		
運動	6	問16ア	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	2.いいえ		【運動】 3項目該当 ：12.8%
	7	問16イ	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか いすに座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	2.いいえ		
	8	問16ウ	15分位続けて歩いていますか 15分くらい続けて歩いていますか	2.いいえ		
	9	問16カ	この1年間に転んだことがありますか	1.はい		
	10	問16キ	転倒に対する不安は大きいですか	1.はい		
栄養	11	問16ク	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1.はい	【栄養】 両方に該当 ：1.9%	
	12	問16ケ	※BMI = 体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)	18.5未満(やせ)		
口腔	13	問16コ	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1.はい	【口腔】 2項目該当 ：22.8%	
	14	問16サ	お茶や汁物等でむせることがありますか お茶や汁物などでむせることがありますか	1.はい		
	15	問16シ	口の渇きが気になりますか	1.はい		
閉じこもり	16	問16工	週に1回以上は外出していますか	2.いいえ	【閉じこもり】 16に該当 ：4.4%	
	17	問16オ	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1.はい		
認知症	18	問16ス	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	1.はい	【認知症】 1項目該当 ：33.1%	
	19	問16セ	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2.いいえ		
	20	問16ソ	今日が何月何日かわからない時がありますか	1.はい		
うつ	21	問16ニ	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1.はい	【うつ】 2項目該当 ：34.1%	
	22	問16ヌ	(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1.はい		
	23	問16ネ	(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今はおっくうに感じられる	1.はい		
	24	問16ノ	(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	1.はい		
	25	問16ハ	(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1.はい		

※1段の場合は基本チェックリストと同一の設問文

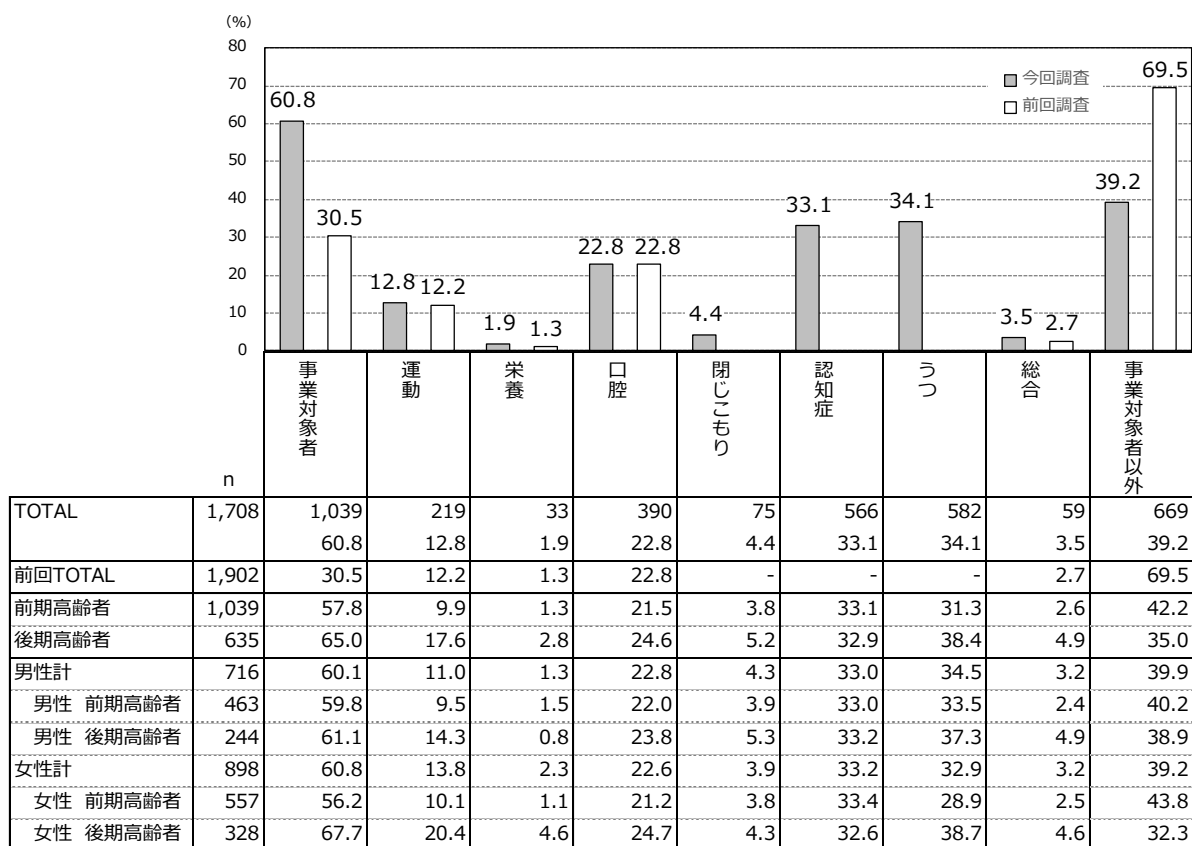
第3章 調査結果の詳細

「運動」「栄養」「口腔」「閉じこもり」「認知症」「うつ」「総合」の7つのリスクのうち1つ以上のリスクに該当している事業対象者は60.8%となっている。そのうち、「運動」該当者は12.8%、「栄養」は1.9%、「口腔」は22.8%、「閉じこもり」は4.4%、「認知症」は33.1%、「うつ」は34.1%、「総合」は3.5%となっている。

性年代別でみると、女性後期高齢者では事業対象者が67.7%と高く、特に「運動（20.4%）」が前期女性高齢者から10.3ポイント上昇している。

「運動」「栄養」「口腔」「総合」の4つのリスクの該当率について、前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

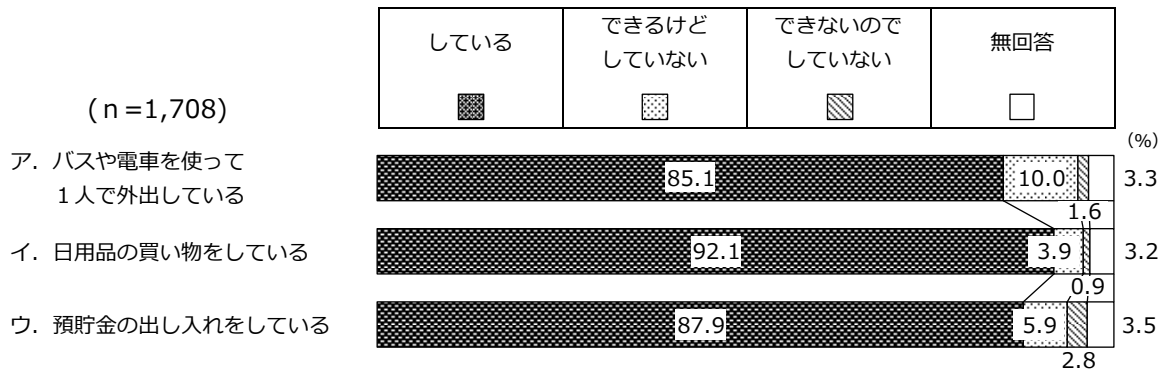
図表3-3-5 事業対象者の各リスク該当状況：性年代別



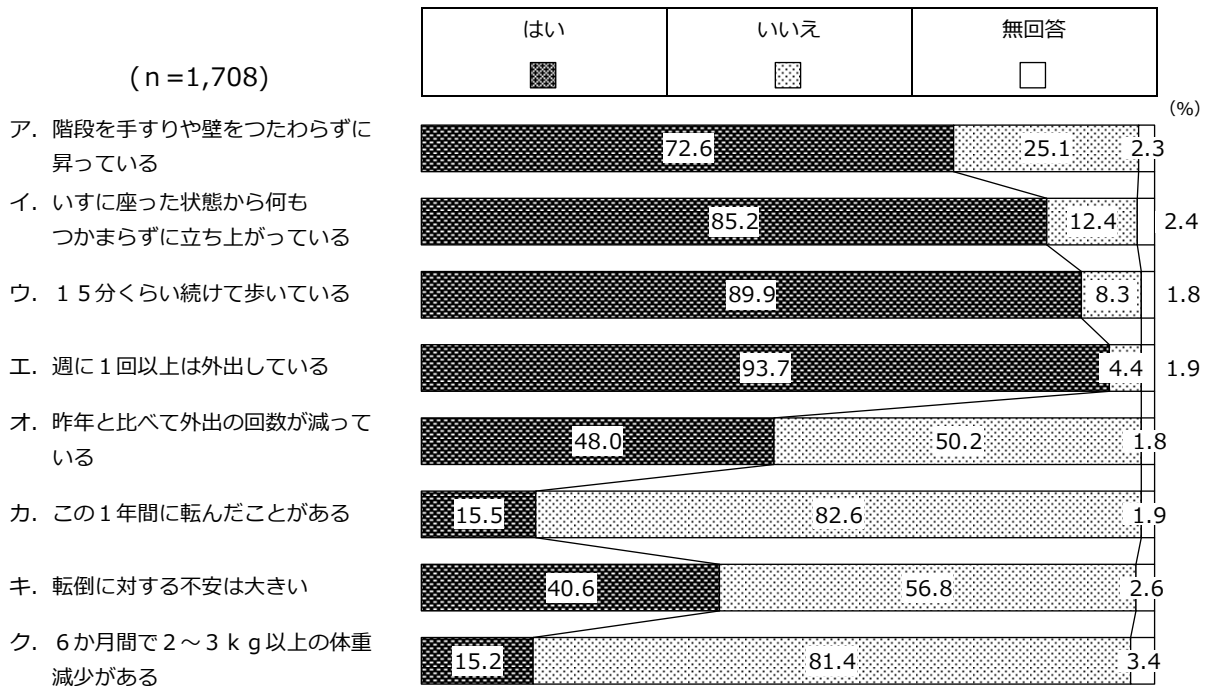
※今回調査では「閉じこもり」「認知症」「うつ」リスクの該当状況も掲載している。

事業対象者の該当率算出に使用した各設問の結果は以下のとおりである。

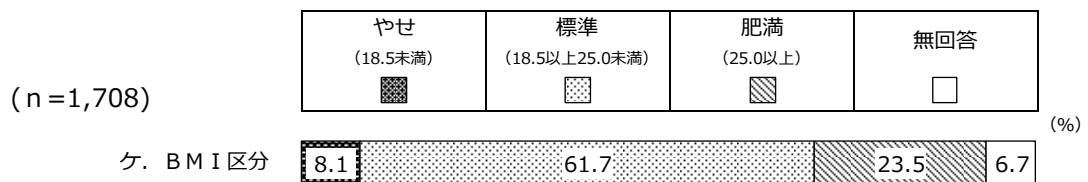
図表3-3-6 日常の活動状況



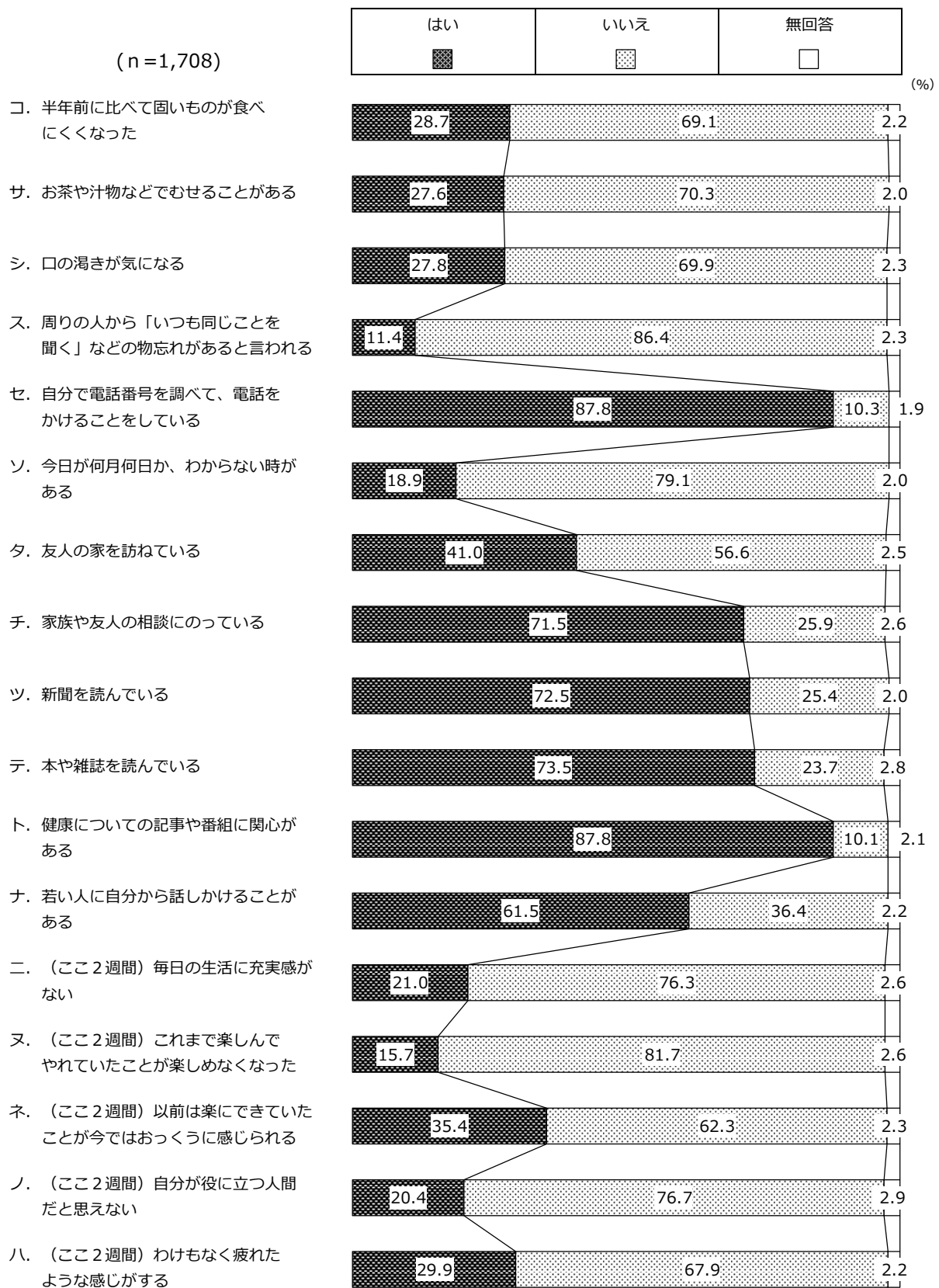
図表3-3-7 ふだんの生活(1)



図表3-3-8 ふだんの生活(2)



図表3-3-9 ふだんの生活(3)



4. 外出・人とのつきあいについて

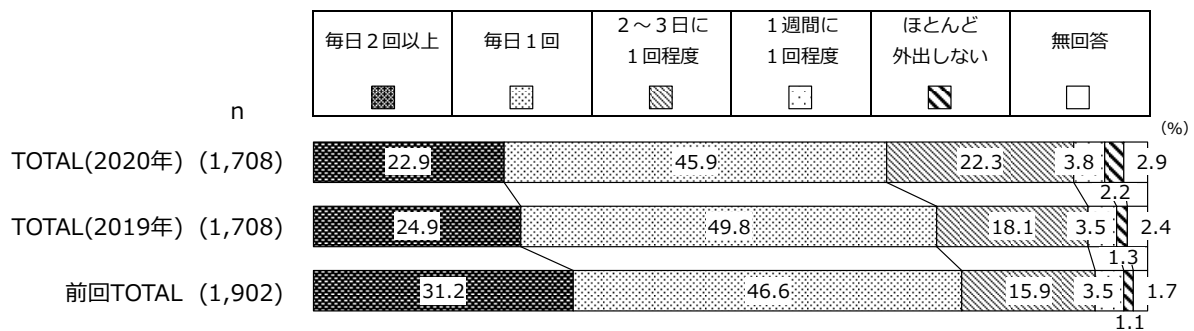
(1) 外出頻度・外出の主な目的

問17 あなた（宛名のご本人）が、ふだん、仕事・買い物・散歩・通院などで外出する頻度はどれくらいですか。また、外出の主な目的は何ですか。去年と今年についてお答えください。（それぞれ○は1つ）

①外出頻度

外出頻度について、去年（2019年）・今年（2020年）と前回調査とを比較すると、「2～3日に1回程度」が一貫して上昇し、「毎日2回以上」が一貫して低下している。今年（2020年）は新型コロナウイルスの影響があるが、外出そのものを控えているのではなく、出かける機会を絞って外出しているという傾向がうかがえる。

図表3-4-1 外出頻度：経年比較

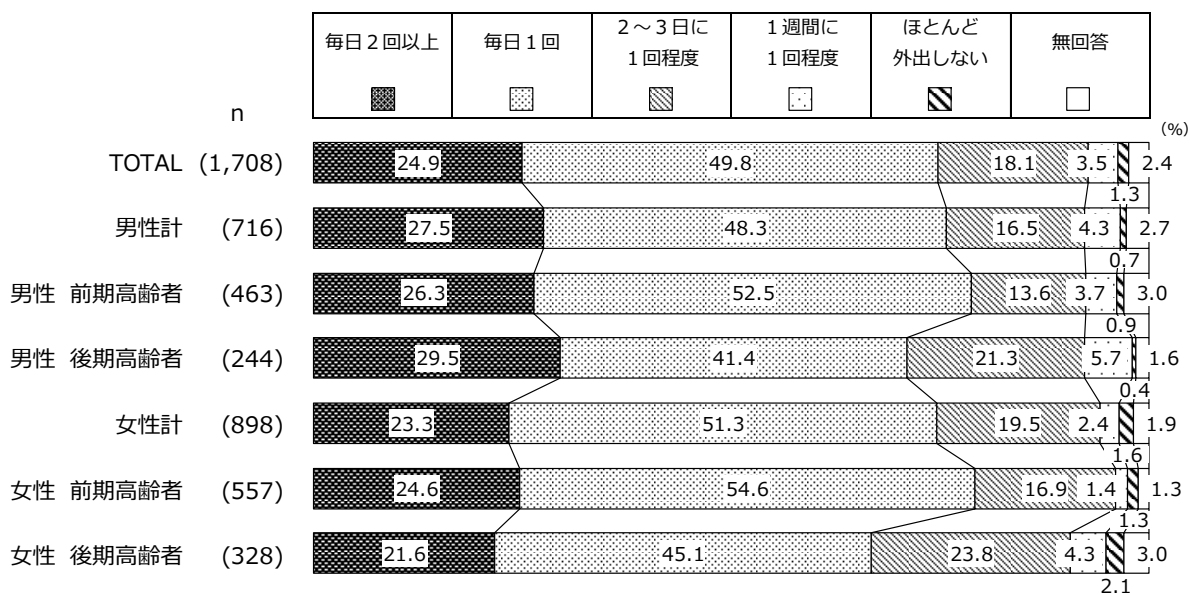


①-1 去年（2019年）の外出頻度

去年（2019年）の外出頻度については、「毎日1回」が49.8%と最も高く、次いで「毎日2回以上」が24.9%、「2～3日に1回程度」が18.1%の順となっている。一方、「ほとんど外出しない」は1.3%となっている。

性別では、大きな違いがみられない。性年代別でみると、男女ともに加齢に伴って「2～3日に1回程度」が高く（男性7.7ポイント・女性6.9ポイント）、「毎日1回」が低く（男性11.1ポイント・女性9.5ポイント）になっている。

図表3-4-2 去年（2019年）の外出頻度：性年代別

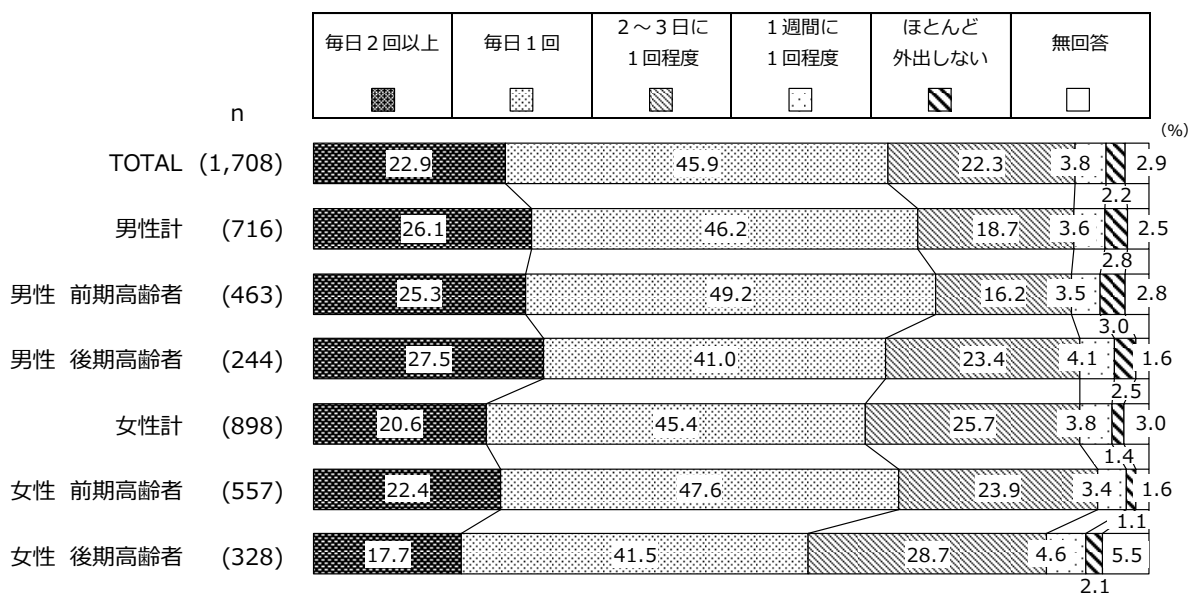


①-2 今年（2020年）の外出頻度

今年（2020年）の外出頻度については、「毎日1回」が45.9%と最も高く、次いで「毎日2回以上」が22.9%、「2～3日に1回程度」が22.3%の順となっている。一方、「ほとんど外出しない」は2.2%となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「毎日2回以上（26.1%）」が高く、女性では男性よりも「2～3日に1回程度（25.7%）」が高くなっている。性年代別で見ると、男女ともに加齢に伴って「毎日1回」が低く（男性8.2ポイント・女性6.1ポイント）なっている。また、男性では加齢に伴って「2～3日に1回程度」が16.2%から23.4%と7.2ポイント上昇している。

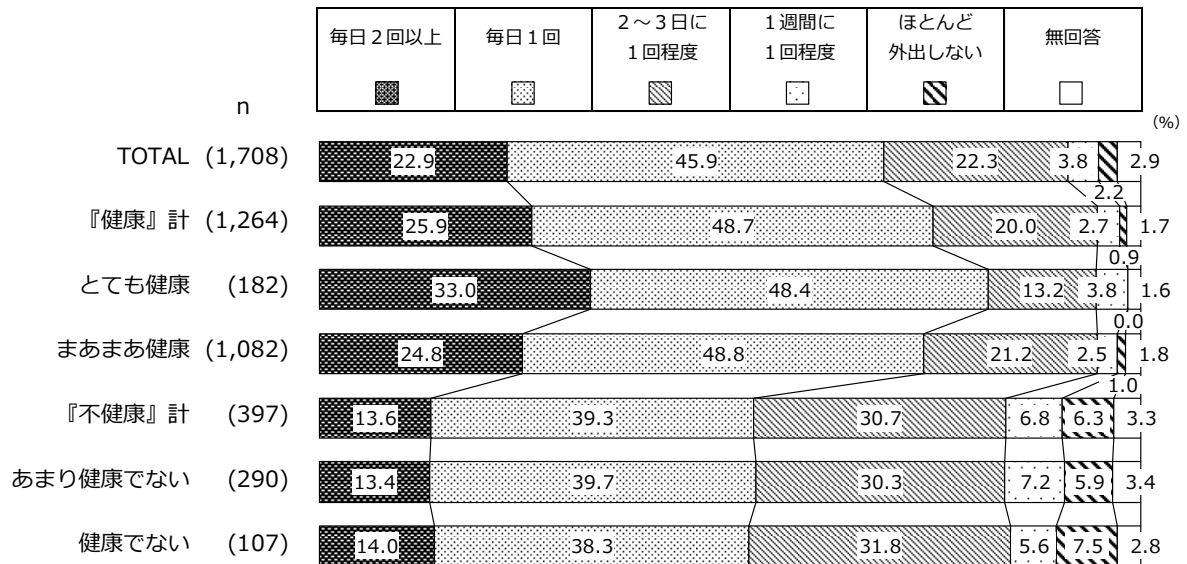
図表3-4-3 今年（2020年）の外出頻度：性年代別



第3章 調査結果の詳細

健康に対する自己認識別でみると、健康だと認識しているほど「毎日2回以上」が高くなっている。一方、「ほとんど外出しない」は『不健康（6.3%）』の方が『健康（0.9%）』よりも5.4ポイント高くなっている。

図表3-4-4 今年（2020年）の外出頻度：健康に対する自己認識別



②外出の主な目的

外出の主な目的について、去年（2019年）・今年（2020年）と前回調査とを比較すると、「仕事」「その他」以外の項目で一貫して低下している。一方、去年（2019年）から今年（2020年）にかけては、大きな違いはみられない。

図表3-4-5 外出の主な目的：経年比較

	n	買い物	運動、散歩	仕事	通院やリハビリ	友人・知人と会う	趣味や学習の活動	家族・親族と会う	地域の活動 (町会・自治会や 老人クラブなど)	ボランティア活動	その他	無回答
TOTAL (2020年)	1,621	66.3	36.4	28.9	16.7	11.8	11.7	6.1	3.1	2.3	1.9	0.6
TOTAL (2019年)	1,645	66.9	36.6	31.6	17.1	16.4	13.9	6.7	3.8	3.4	1.9	0.5
前回TOTAL	1,850	79.7	45.9	28.6	31.0	33.2	35.4	13.9	-	5.8	3.6	4.6

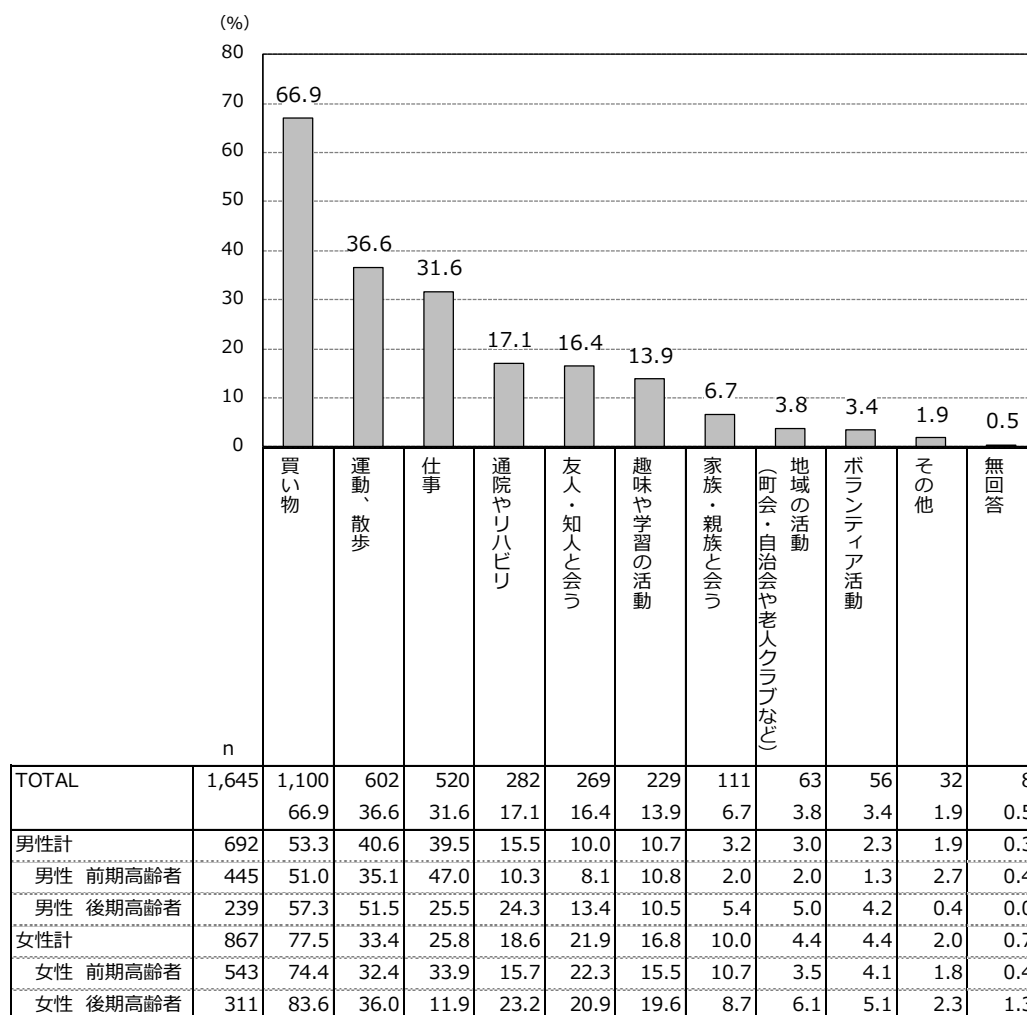
※今回調査から「地域の活動（町会・自治会や老人クラブなど）」の選択肢を追加している。

②-1 去年（2019年）の外出の主な目的

去年（2019年）の外出の主な目的については、「買い物」が66.9%と最も高く、次いで「運動、散歩」が36.6%、「仕事」が31.6%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「運動、散歩（40.6%）」「仕事（39.5%）」が高く、女性では男性よりも「買い物（77.5%）」「友人・知人と会う（21.9%）」「趣味や学習の活動（16.8%）」「家族・親族と会う（10.0%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「仕事（47.0%）」が、男性後期高齢者では「運動、散歩（51.5%）」「通院やリハビリ（24.3%）」が、女性前期高齢者では「買い物（74.4%）」「友人・知人と会う（22.3%）」が、女性後期高齢者では「買い物（83.6%）」「通院やリハビリ（23.2%）」「趣味や学習の活動（19.6%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-4-6 去年（2019年）の外出の主な目的：性年代別

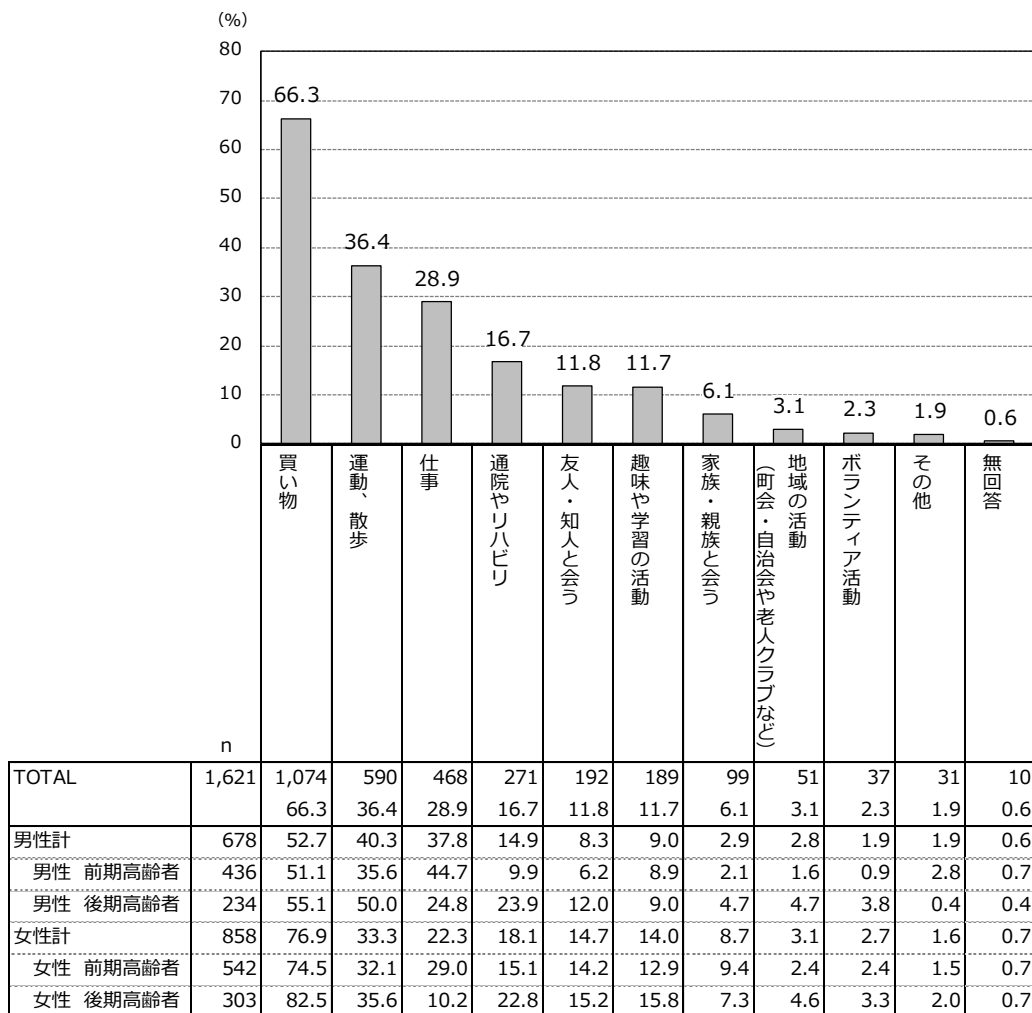


②-2 今年（2020年）の外出の主な目的

今年（2020年）の外出の主な目的については、「買い物」が66.3%と最も高く、次いで「運動、散歩」が36.4%、「仕事」が28.9%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「運動、散歩（40.3%）」「仕事（37.8%）」が高く、女性では男性よりも「買い物（76.9%）」「友人・知人と会う（14.7%）」「趣味や学習の活動（14.0%）」「家族・親族と会う（8.7%）」が高くなっている。性年代別で見ると、男性前期高齢者では「仕事（44.7%）」が、男性後期高齢者では「運動、散歩（50.0%）」「通院やリハビリ（23.9%）」が、女性前期高齢者では「買い物（74.5%）」が、女性後期高齢者では「買い物（82.5%）」「通院やリハビリ（22.8%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。また、女性前期高齢者では「友人・知人と会う」が去年（2019年）の22.3%から14.2%へと8.1ポイント低下している。

図表3-4-7 今年（2020年）の外出の主な目的：性年代別



(2) 近所づきあいの程度

①近所づきあいの程度

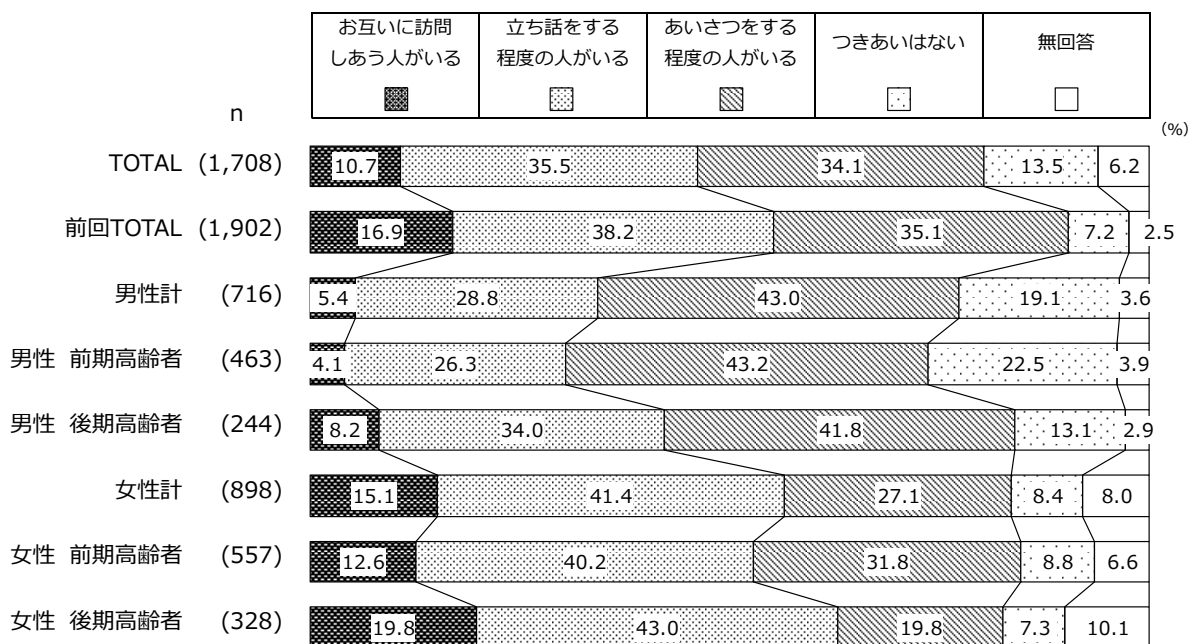
問18 あなた（宛名のご本人）は、近所の人とどの程度おつきあいをされていますか。（○は1つのみ）

近所づきあいの程度について、つきあいがあると回答している人の中では、「立ち話をする程度の人がいる」が35.5%と最も高く、次いで「あいさつをする程度の人がいる」が34.1%、「お互いに訪問しあう人がある」が10.7%の順となっている。一方、「つきあいはない」は13.5%となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「あいさつをする程度の人がいる（43.0%）」「つきあいはない（19.1%）」が高く、女性では男性よりも「立ち話をする程度の人がいる（41.4%）」「お互いに訪問しあう人がある（15.1%）」が高くなっている。性年代別で見ると、男性前期高齢者では「つきあいはない」が22.5%と男性後期高齢者や女性と比較して高くなっている。また、男女ともに加齢に伴って「お互いに訪問しあう人がある」「立ち話をする程度の人がいる」が高く、「あいさつをする程度の人がいる」「つきあいはない」が低くなっている。

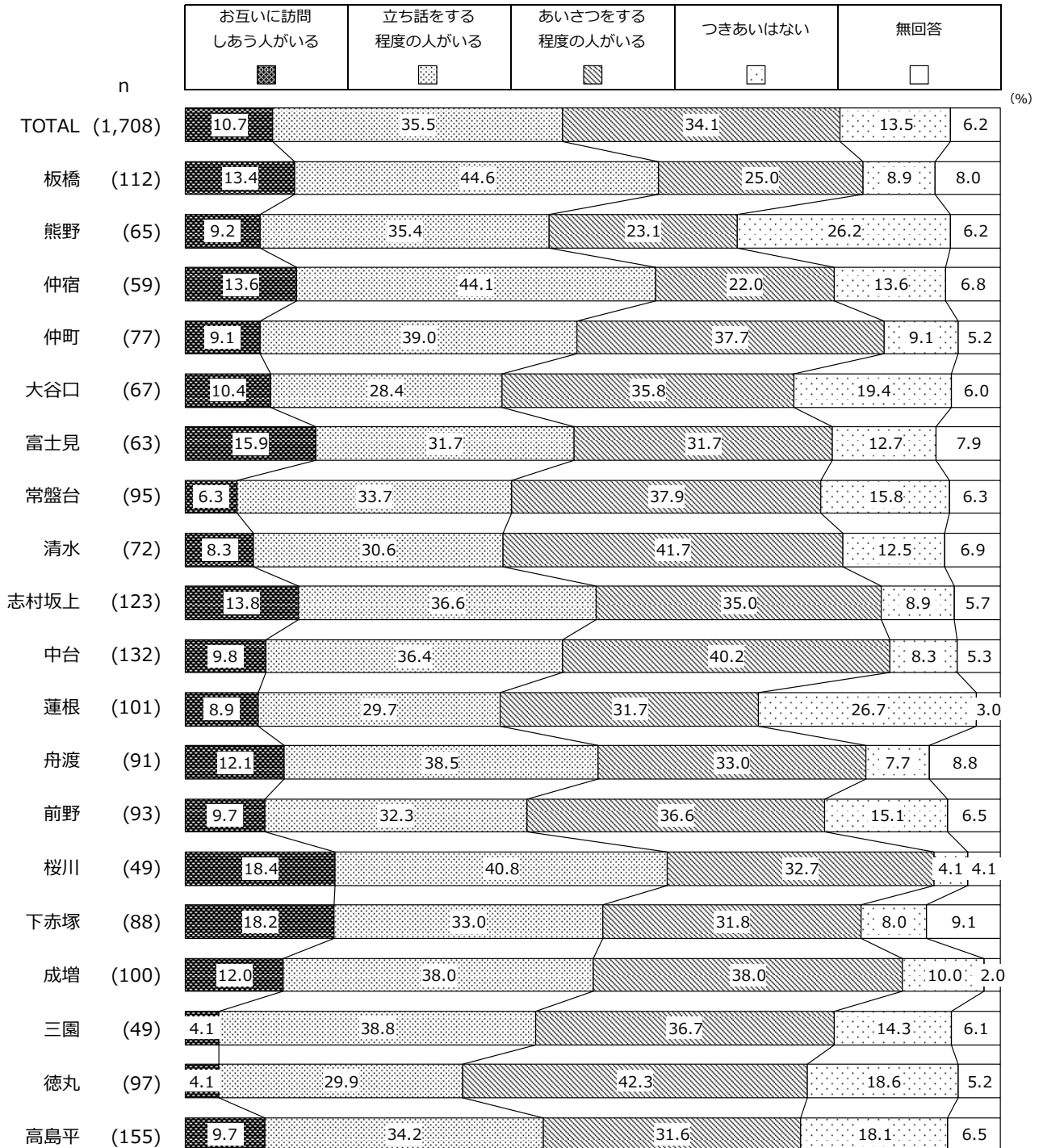
前回調査と比較すると、「つきあいはない（13.5%）」が6.3ポイント上昇し、「お互いに訪問しあう人がある（10.7%）」が6.2ポイント低下している。

図表3-4-8 近所づきあいの程度：性年代別



地区別でみると、桜川は「お互いに訪問しあう人がいる（18.4%）」「立ち話をする程度の人がいる（40.8%）」が他の地区と比べて高く、「つきあいはない（4.1%）」が低くなっており、近所づきあいが多い傾向がうかがえる。一方、徳丸は「あいさつをする程度の人がいる（42.3%）」「つきあいはない（18.6%）」が他の地区と比べて高く、「お互いに訪問しあう人がいる（4.1%）」「立ち話をする程度の人がいる（29.9%）」が低くなっている。また、「つきあいはない」は、蓮根（26.7%）・熊野（26.2%）が他の地区と比べて高くなっている。

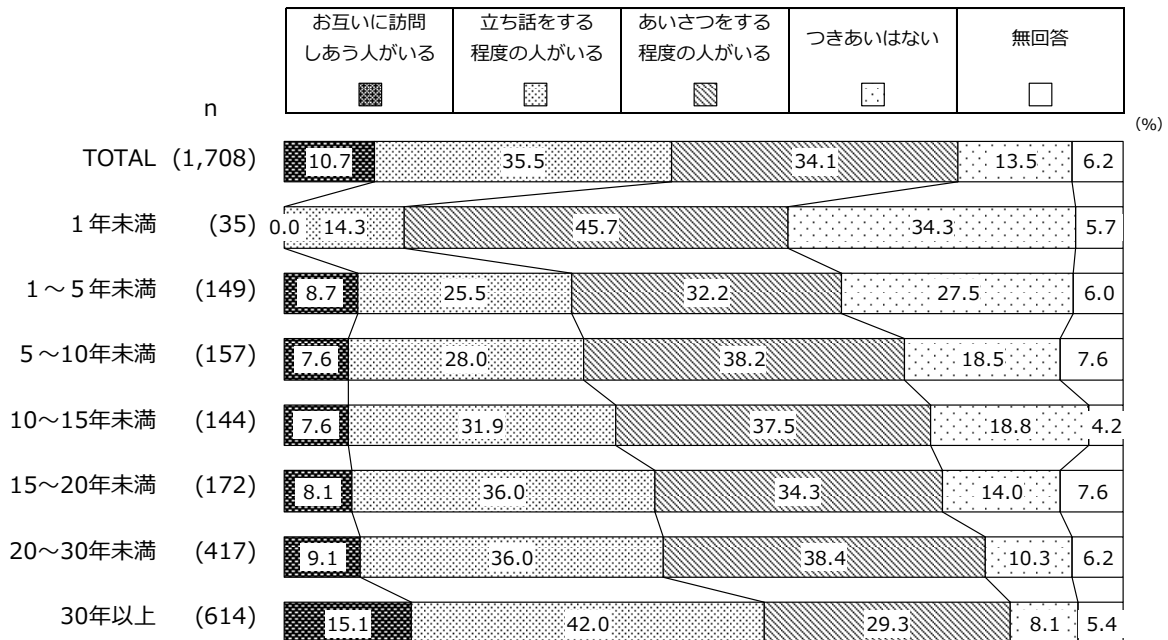
図表3-4-9 近所づきあいの程度：地区別



第3章 調査結果の詳細

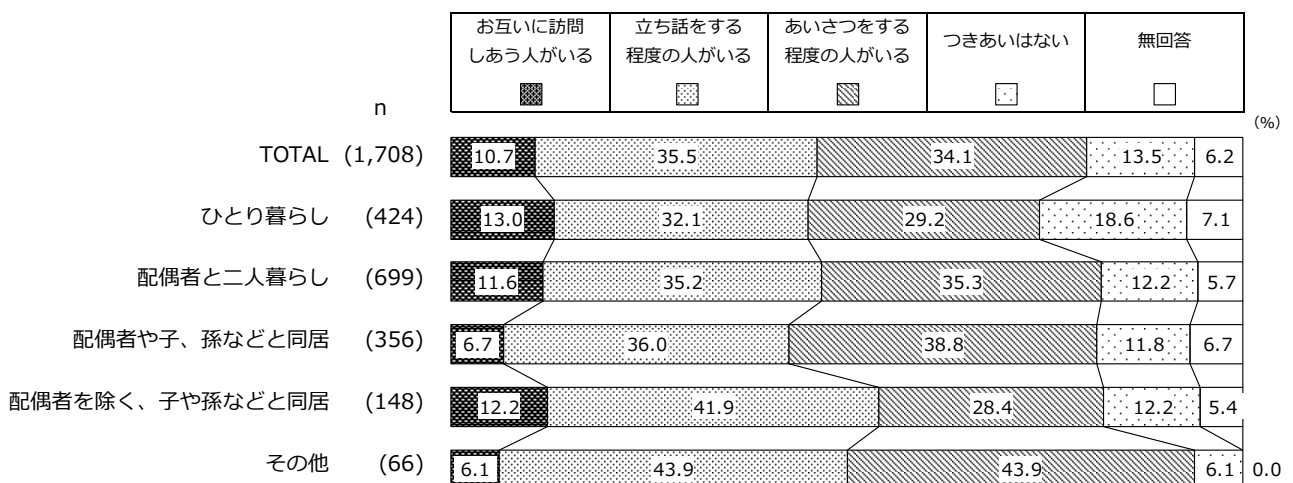
現在の地区での居住年数別でみると、居住年数が長くなるのにしたがって、「お互いに訪問しあう人がいる」「立ち話をする程度の人がある」が高く、「あいさつをする程度の人がある」「つきあいはない」が低くなる傾向となっている。

図表3-4-10 近所づきあいの程度：現在の地区での居住年数別



世帯構成別でみると、「ひとり暮らし」では「つきあいはない（18.6%）」が全体の傾向よりも高くなっている。また、「配偶者を除く、子や孫など同居」では「立ち話をする程度の人がある（41.9%）」が高く、「あいさつをする程度の人がある（28.4%）」が低くなっており、「その他」では「立ち話をする程度の人がある」「あいさつをする程度の人がある」（ともに43.9%）が高く、「つきあいはない（6.1%）」が低くなっている。

図表3-4-11 近所づきあいの程度：世帯構成別



②近所づきあいがない理由

【問18で「4. つきあいはない」とお答えの方におうかがいします。】

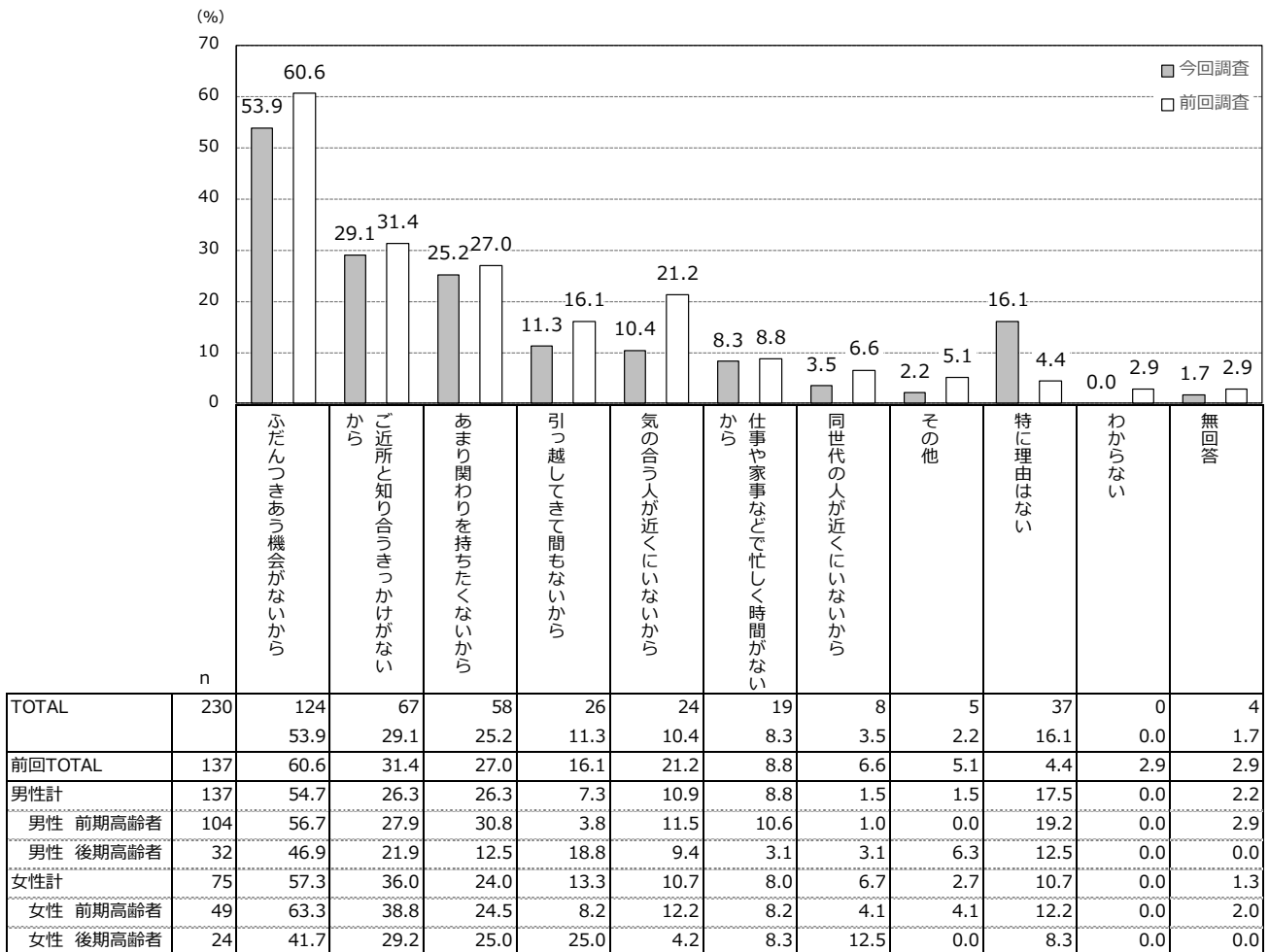
問18-1 おつきあいのない理由は何ですか。(○はいくつでも)

近所づきあいがない理由については、「ふだんつきあう機会がないから」が53.9%と最も高く、次いで「ご近所と知り合うきっかけがないから」が29.1%、「あまり関わりを持ちたくないから」が25.2%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「特に理由はない(17.5%)」が高く、女性では男性よりも「ご近所と知り合うきっかけがないから(36.0%)」「引っ越してきて間もないから(13.3%)」「同世代の人が近くにいないから(6.7%)」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「あまり関わりを持ちたくないから(30.8%)」が、男性後期高齢者では「引っ越してきて間もないから(18.8%)」が、女性前期高齢者では「ふだんつきあう機会がないから(63.3%)」「ご近所と知り合うきっかけがないから(38.8%)」が、女性後期高齢者では「引っ越してきて間もないから(25.0%)」「同世代の人が近くにいないから(12.5%)」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

前回調査と比較すると、「特に理由はない(16.1%)」が11.7ポイント上昇し、「気の合う人が近くにいないから(10.4%)」が10.8ポイント低下、「ふだんつきあう機会がないから(53.9%)」が6.7ポイント低下している。

図表3-4-12 近所づきあいがない理由：性年代別

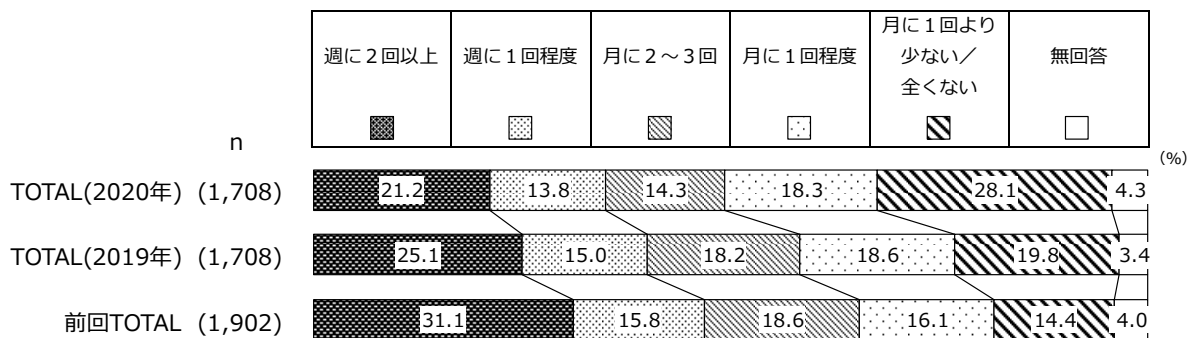


(3) 友人・知人・別居の家族・親戚と会う頻度

問19 友人・知人・別居の家族・親戚と会う頻度はどれくらいですか。去年と今年についてお答えください。(それぞれ○は1つ)

友人・知人・別居の家族・親戚と会う頻度について、去年（2019年）・今年（2020年）と前回調査とを比較すると、「週に2回以上」「週に1回程度」「月に2～3回」が一貫して低下している。一方、「月に1回より少ない／全くない」は一貫して上昇しており、特に去年（2019年）（19.8%）から今年（2020年）（28.1%）にかけては8.3ポイント上昇している。

図表3-4-13 友人・知人・別居の家族・親戚と会う頻度：経年比較

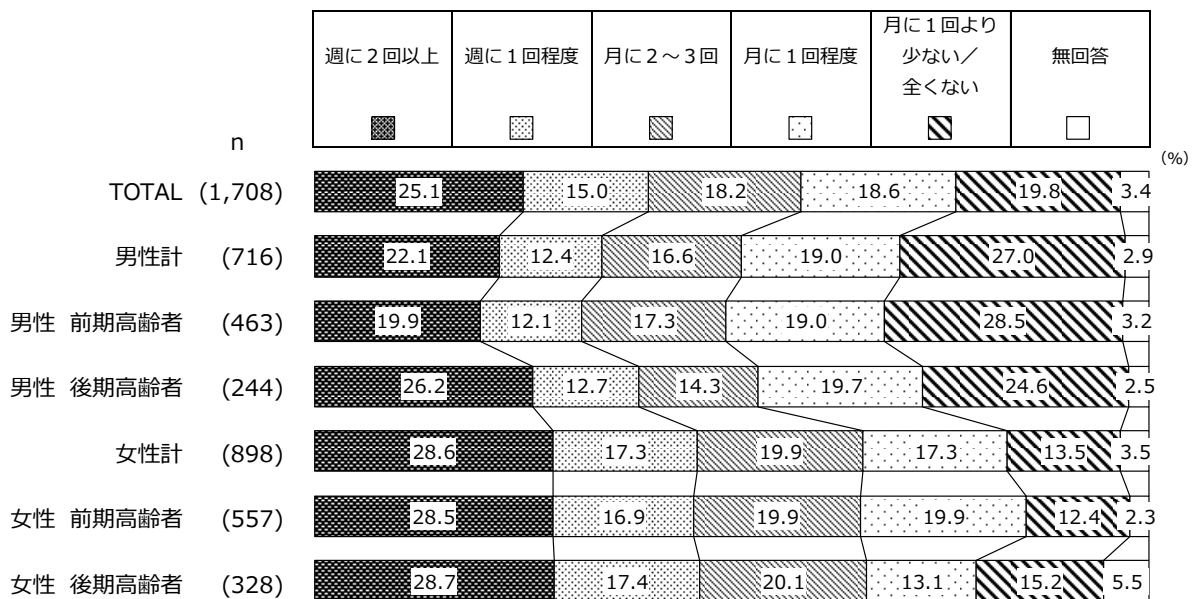


①去年（2019年）の会う頻度

去年（2019年）の会う頻度については、「週に2回以上」が25.1%と最も高く、次いで「月に1回より少ない／全くない」が19.8%、「月に1回程度」が18.6%の順となっている。

男性では女性よりも「月に1回より少ない／全くない（27.0%）」が高く、女性では男性よりも「週に2回以上（28.6%）」が高くなっている。性年代別でみると、男性では加齢に伴って「週に2回以上」が19.9%から26.2%と6.3ポイント上昇しており、また、女性では加齢に伴って「月に1回程度」が19.9%から13.1%と6.8ポイント低下している。

図表3-4-14 去年（2019年）の友人・知人・別居の家族・親戚と会う頻度：性年代別

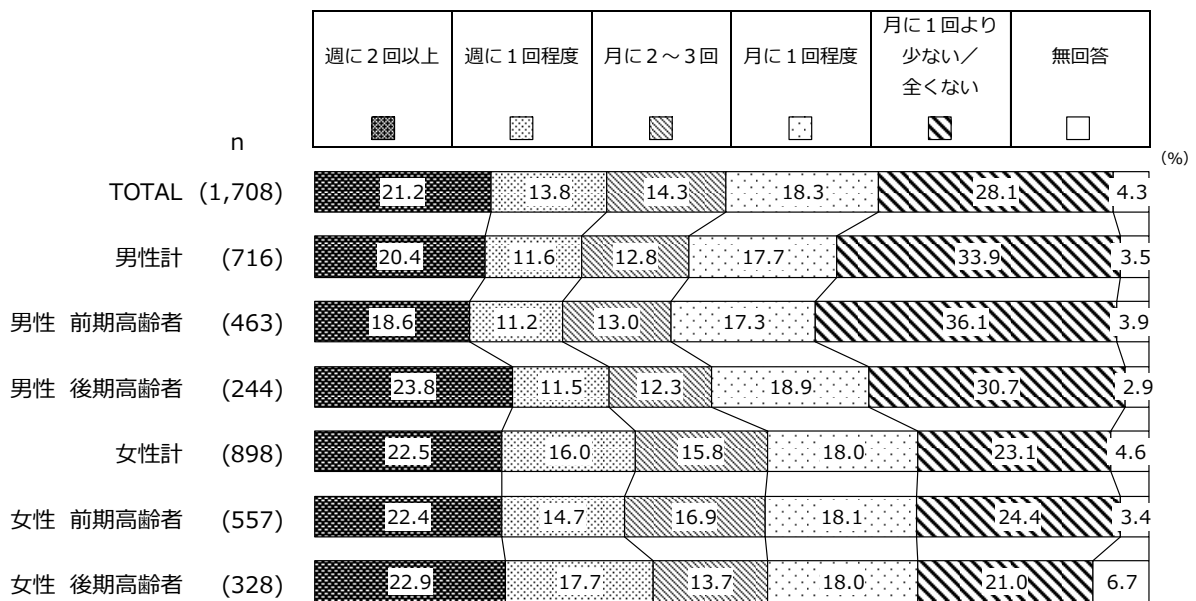


②今年（2020年）の会う頻度

今年（2020年）の会う頻度については、「月に1回より少ない／全くない」が28.1%と最も高く、次いで「週に2回以上」が21.2%、「月に1回程度」が18.3%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「月に1回より少ない／全くない（33.9%）」が高くなっている。また、また、性年代別で見ると、男性では加齢に伴って「週に2回以上」が5.2ポイント上昇、「月に1回より少ない／全くない」が5.4ポイント低下している。

図表3-4-15 今年（2020年）の友人・知人・別居の家族・親戚と会う頻度：性年代別

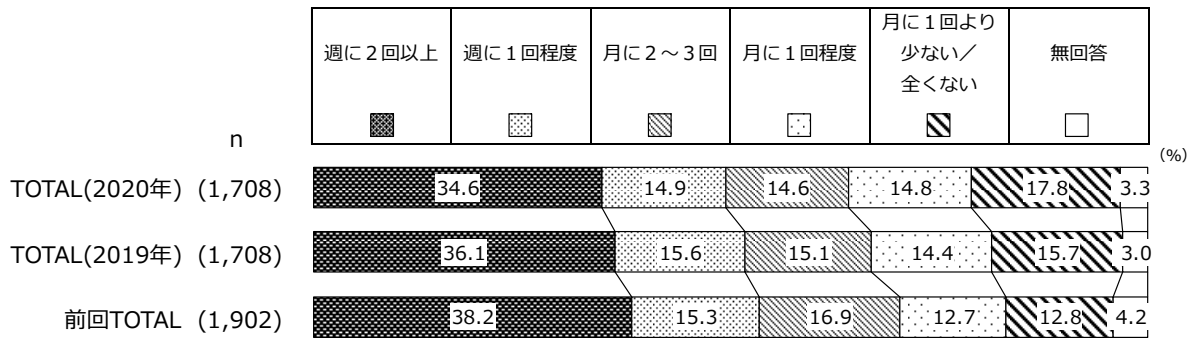


(4) 友人・知人・別居の家族・親戚と連絡をとる頻度

問20 友人・知人・別居の家族・親戚と電話やメール、手紙をやりとりする頻度はどれくらいですか。去年と今年についてお答えください。(それぞれ○は1つ)

友人・知人・別居の家族・親戚と連絡をとる頻度について、去年(2019年)・今年(2020年)と前回調査とを比較すると、「週に2回以上」「月に2～3回」が一貫して低下し、「月に1回程度」「月に1回より少ない/全くない」は一貫して上昇している。

図表3-4-16 友人・知人・別居の家族・親戚と連絡をとる頻度：経年比較

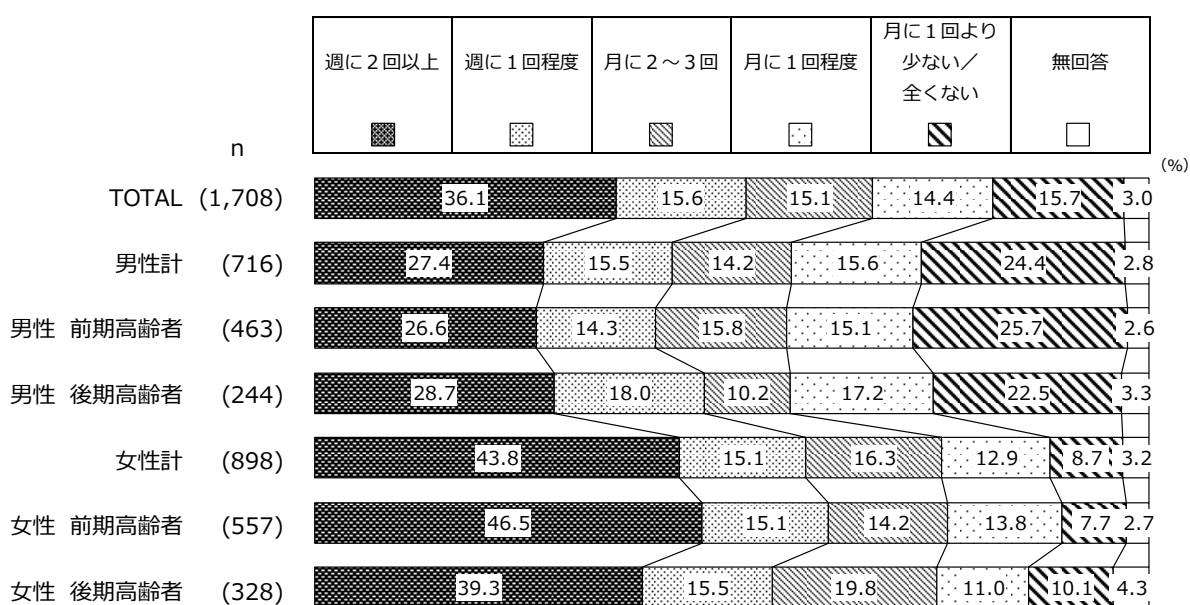


①去年（2019年）の連絡をとる頻度

去年（2019年）の連絡をとる頻度については、「週に2回以上」が36.1%と最も高く、次いで「月に1回より少ない／全くない」が15.7%、「週に1回程度」が15.6%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「月に1回より少ない／全くない（24.4%）」が高く、女性では男性よりも「週に2回以上（43.8%）」が高くなっている。性年代別で見ると、男性では加齢に伴って「月に2～3回」が15.8%から10.2%と5.6ポイント低下しており、また、女性では加齢に伴って「月に2～3回」が14.2%から19.8%と5.6ポイント上昇、「週に2回以上」が46.5%から39.3%と7.2ポイント低下している。

図表3-4-17 去年（2019年）の友人・知人・別居の家族・親戚と連絡をとる頻度：性年代別

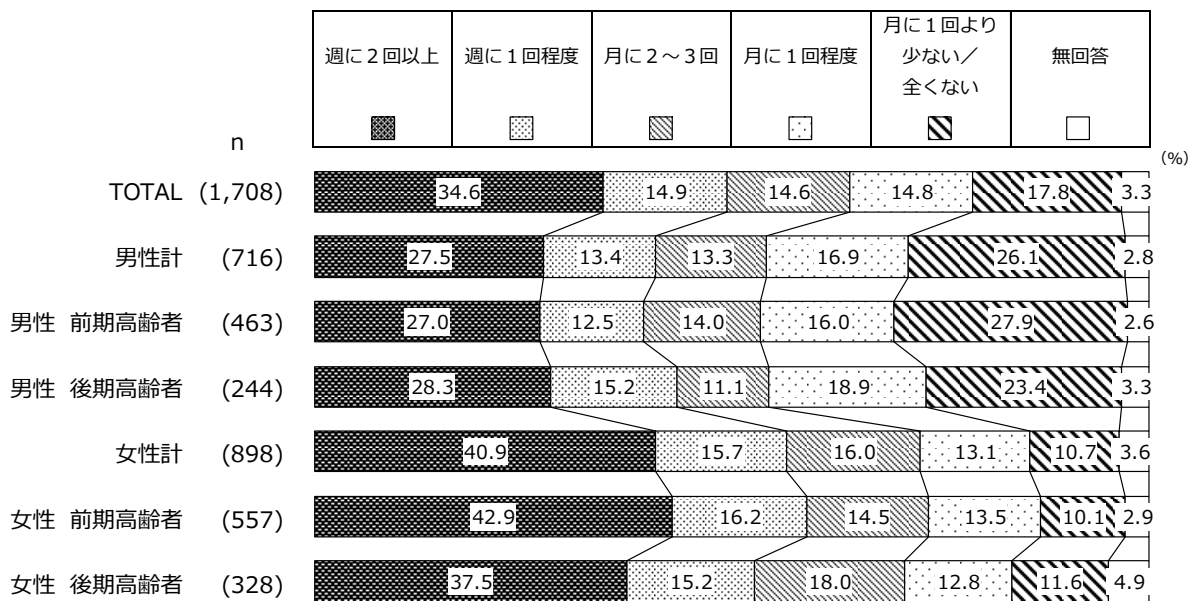


②今年（2020年）の連絡をとる頻度

今年（2020年）の連絡をとる頻度については、「週に2回以上」が34.6%と最も高く、次いで「月に1回より少ない／全くない」が17.8%、「週に1回程度」が14.9%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「月に1回より少ない／全くない（26.1%）」が高く、女性では男性よりも「週に2回以上（40.9%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、女性では加齢に伴って「週に2回以上」が42.9%から37.5%と5.4ポイント低下している。

図表3-4-18 今年（2020年）の友人・知人・別居の家族・親戚と連絡をとる頻度：性年代別



(5) 予定がなくても気軽に行ける場所

① 予定がなくても気軽に行ける場所の有無

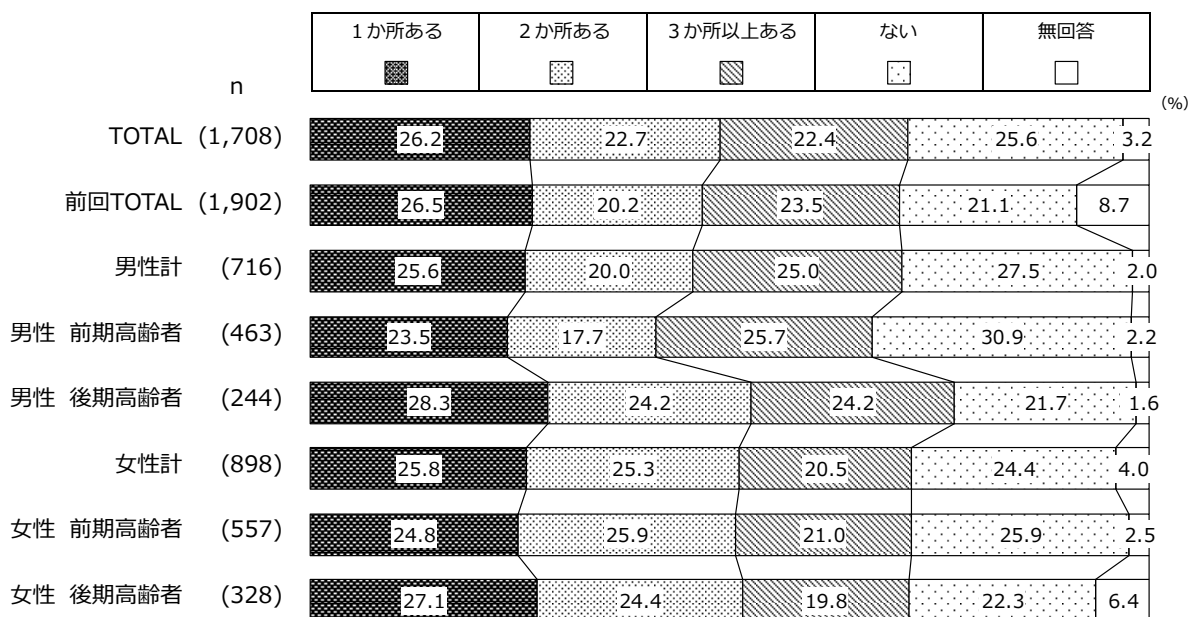
問21 あなた（宛名のご本人）は、特に予定がなくても気軽に行ける場所がありますか。どのくらいあるかを教えてください。（○は1つのみ）

予定がなくても気軽に行ける場所の有無については、気軽に行ける場所があると回答している人の中では、「1か所ある」が26.2%と最も高く、次いで「2か所ある」が22.7%、「3か所以上ある」が22.4%の順となっており、「1か所ある」「2か所ある」「3か所以上ある」を合わせた『気軽に行ける場所がある』は71.3%となっている。一方、「ない」は25.6%となっている。

性別でみると、女性では男性よりも「2か所ある（25.3%）」が高くなっているものの、『気軽に行ける場所がある』では男性が70.6%で女性が71.6%と大きな違いはみられない。また、性年代別でみると、男性では加齢に伴って『気軽に行ける場所がある』が9.8ポイント、「2か所ある」が6.5ポイント、それぞれ上昇している。

前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表3-4-19 予定がなくても気軽に行ける場所の有無：性年代別



②予定がなくても気軽に行ける具体的な場所

【問21で「1. 1か所ある」「2. 2か所ある」「3. 3か所以上ある」とお答えの方に、その場所についておうかがいします。】

問21-1 それはどのような場所ですか。1か所だけ具体的にご記入ください。

記入例：○○喫茶、△△図書館、□□公園など

予定がなくても気軽に行ける具体的な場所については、「公園」が289件と最も高く、次いで「図書館」が269件、「喫茶店」が133件、「デパート、大型商業施設」が108件、「店舗・買い物施設」が91件の順となっている。

前回調査と比較すると、上位3位は変わらないものの、4位・5位が「友人、知人の家」「家族、親類の家」から「デパート、大型商業施設」「店舗・買い物施設」に入れ替わりをみせている。

図表3-4-20 予定がなくても気軽に行ける具体的な場所（自由回答）

（今回調査）			（前回調査）		
順位	記入内容	件数	順位	記入内容	件数
1	公園	289	1	公園	324
2	図書館	269	2	図書館	194
3	喫茶店	133	3	喫茶店	110
4	デパート、大型商業施設	108	4	友人、知人の家	101
5	店舗・買い物施設	91	5	家族、親類の家	82
6	友人、知人の家	84	6	デパート、大型商業施設	71
7	家族、親類の家	79	7	スーパーマーケット	64
8	飲食店、レストラン	63	8	店舗・買い物施設	59
9	スーパーマーケット	60	9	スポーツクラブ、スポーツジム	50
10	スポーツクラブ、スポーツジム	56	10	飲食店、レストラン	43
11	趣味の活動場所	48	11	趣味の活動場所	34
12	カラオケ、カラオケ喫茶・スナック	41	12	勤務先、職場	22
13	美術館・博物館・動植物園	36	12	遊技場（パチンコ等）	22
14	体育館・プール	30	14	居酒屋	21
15	遊技場（パチンコ等）	28	15	ゴルフ練習場、ゴルフ場	16
16	ふれあい館	27	15	体育館・プール	16
17	ゴルフ練習場、ゴルフ場	21	17	川、土手	15
17	健康ランド、スーパー銭湯、温泉	21	18	健康ランド、スーパー銭湯、温泉	13
19	その他	19	18	美術館・博物館・動植物園	13
20	居酒屋	17	21	農園	12
21	川、土手	15	22	ふれあい館	11
22	お寺	13	23	カラオケ、カラオケ喫茶・スナック	10
23	ホームセンター	10	23	ホームセンター	10
23	商店街	10			

③予定がなくても気軽に行ける場所への交通手段

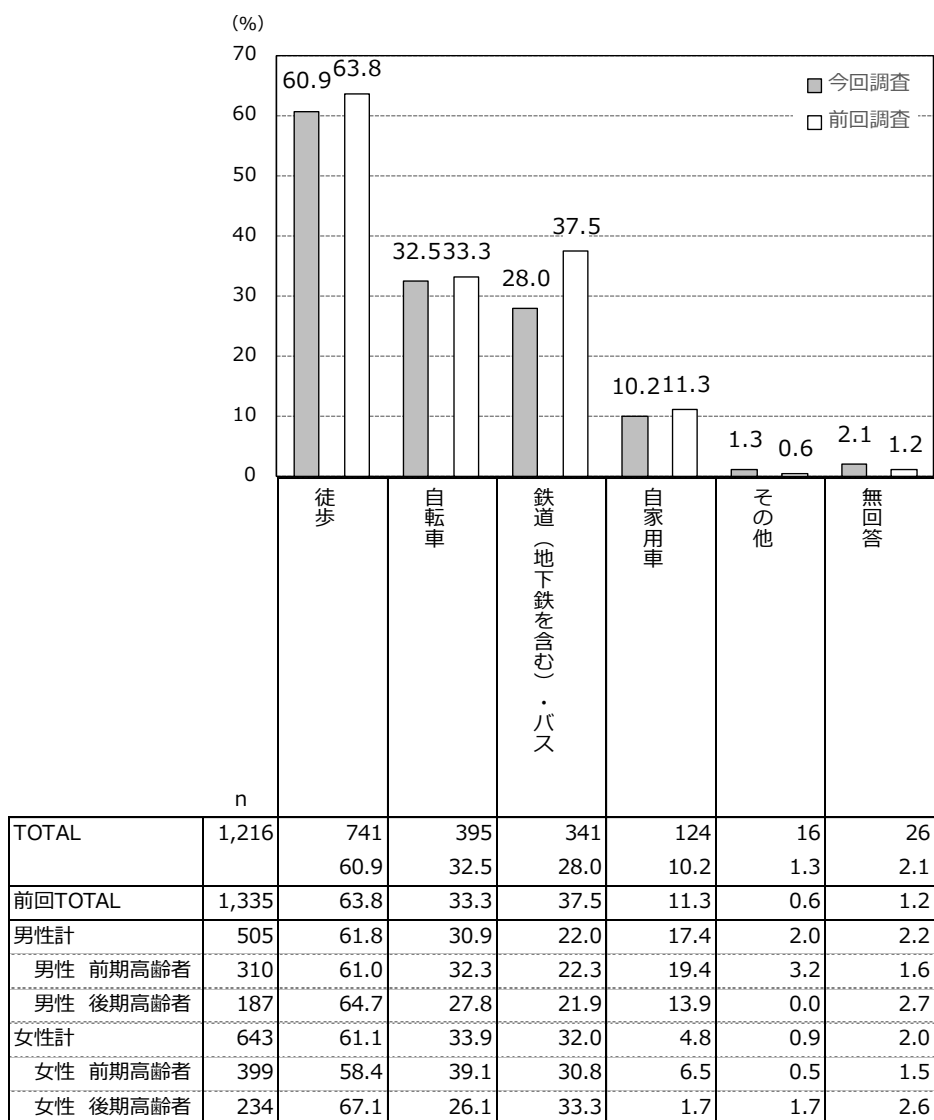
問21-2 問21-1でお答えになった場所に行くのに、ふだん使われている交通手段はどれですか。
(○はいくつでも)

予定がなくても気軽に行ける場所への交通手段については、「徒歩」が60.9%と最も高く、次いで「自転車」が32.5%、「鉄道（地下鉄を含む）・バス」が28.0%の順となっている。

性別でみると、男性では女性よりも「自家用車（17.4%）」が高く、女性では男性よりも「鉄道（地下鉄を含む）・バス（32.0%）」が高くなっている。また、性年代別でみると、男性前期高齢者では「自家用車（19.4%）」が、女性前期高齢者では「自転車（39.1%）」が、女性後期高齢者では「徒歩（67.1%）」「鉄道（地下鉄を含む）・バス（33.3%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

前回調査と比較すると、「鉄道（地下鉄を含む）・バス（28.0%）」が9.5ポイント低下している。それ以外の交通手段では大きな違いがみられないため、新型コロナウイルス感染症対策として、他人と同じ空間にいることになる鉄道・バスの利用を控えた、ということが考えられる。

図表3-4-21 予定がなくても気軽に行ける場所への交通手段：性年代別



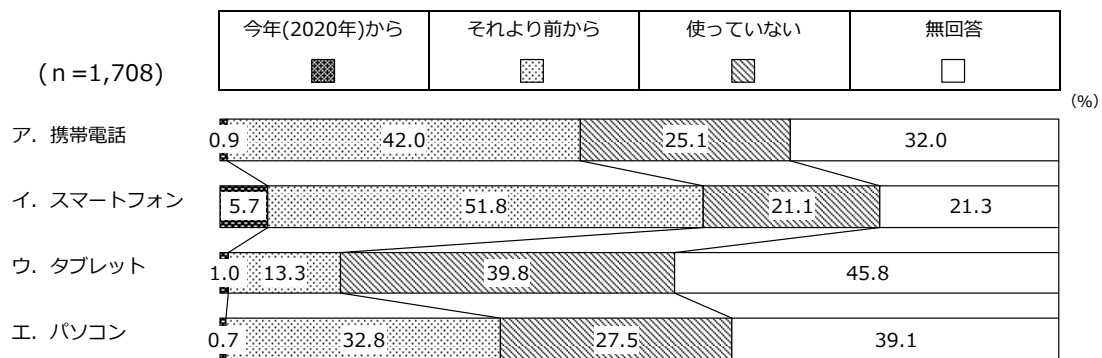
5. インターネットなどの利用について

(1) 携帯電話・スマートフォン・パソコンなどの利用状況

問22 あなた（宛名のご本人）は、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどを使っていますか。また、いつから使っているかをお答えください。（それぞれ○は1つ）

携帯電話・スマートフォン・パソコンなどの利用状況について、「今年（2020年）から」「それより前から」を合わせた『使っている』は、「スマートフォン」が57.5%と最も高く、次いで「携帯電話」が42.9%、「パソコン」が33.5%の順となっている。特にスマートフォンは「今年（2020年）から」が5.7%と他の利用端末と比較して高くなっている。一方、「使っていない」は、「タブレット」が39.8%と最も高く、次いで「パソコン」が27.5%、「携帯電話」が25.1%の順となっている。

図表3-5-1 携帯電話・スマートフォン・パソコンなどの利用状況

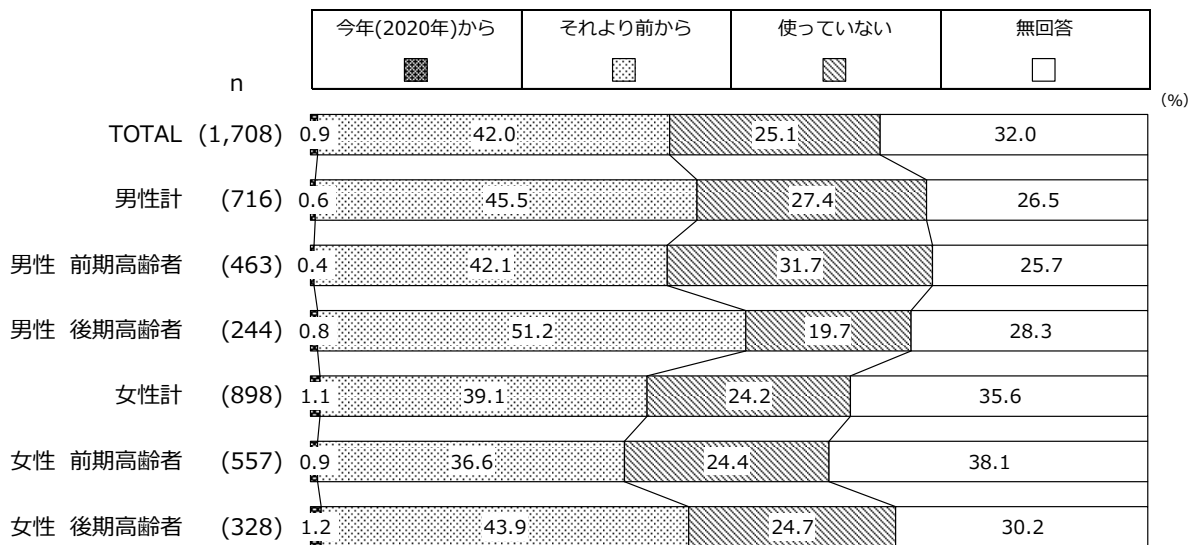


①携帯電話（二つ折りで数字ボタンを押すもの）

携帯電話については、「今年(2020年)から」の0.9%と「それより前から」の42.0%を合わせた『使っている』が42.9%、「使っていない」が25.1%となっている。

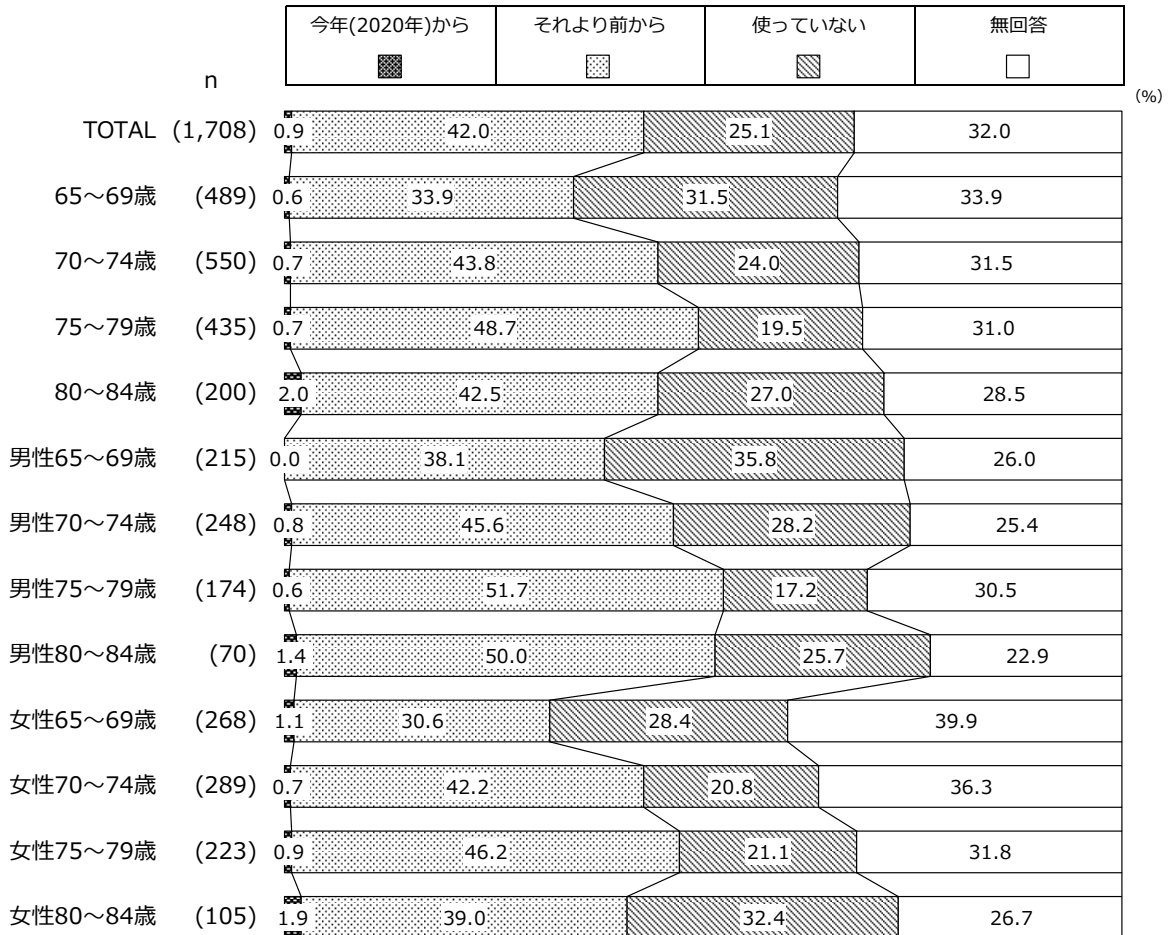
性別で見ると、『使っている』は男性（46.1%）の方が女性（40.2%）よりも5.9ポイント高くなっている。また、性年代別で見ると、すべての年代において、男性の方が女性よりも『使っている』が高くなっている。一方、「使っていない」は女性では年代による差がみられないのに対して、男性では加齢に伴って31.7%から19.7%と12.0ポイント低下している。

図表3-5-2 携帯電話の利用状況：性年代別



詳細な年齢区分別でみると、男女ともに75～79歳までは加齢に伴って『使っている』が上昇し、80～84歳では低下している。また、すべての年齢区分において、男性の方が女性よりも『使っている』が高くなっている。

図表3-5-3 携帯電話の利用状況：性年代別（詳細）

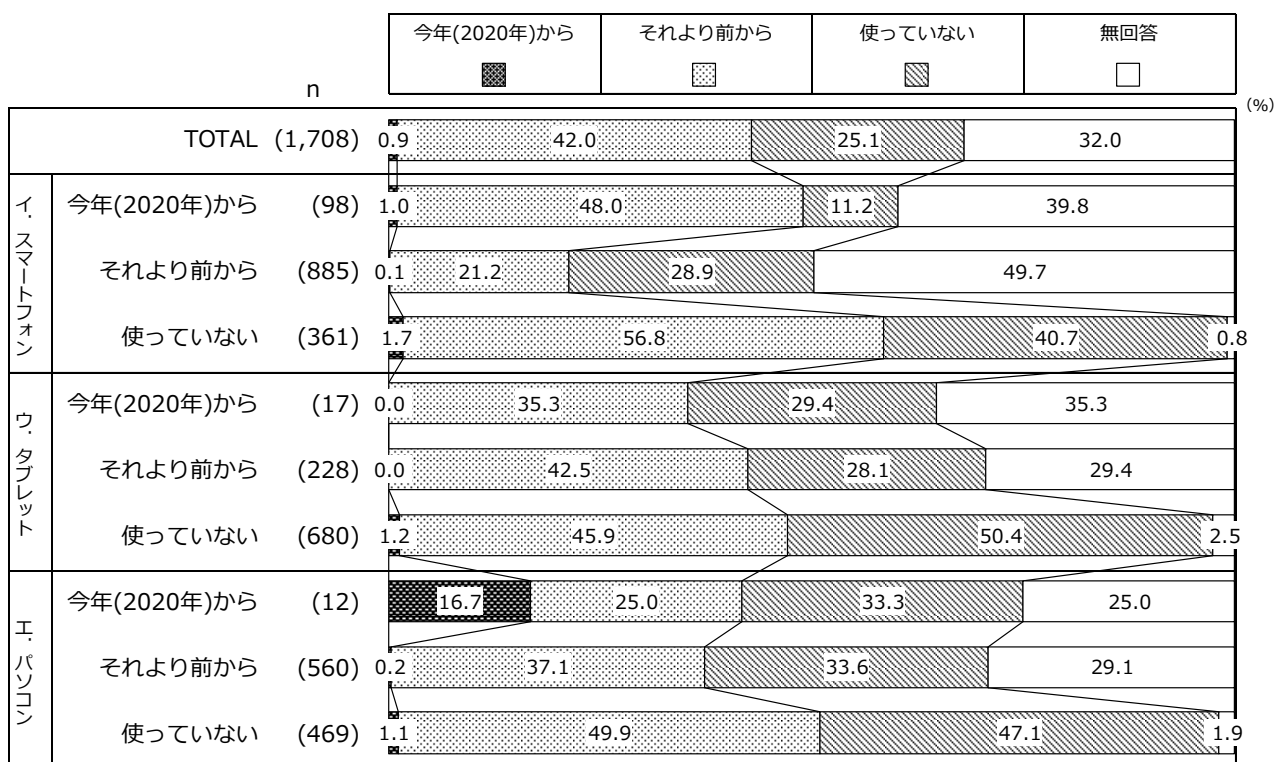


第3章 調査結果の詳細

利用端末別にみると、スマートフォンを『使っている』人で携帯電話を『使っている』のは24.1%、スマートフォンを『使っていない』人で携帯電話を『使っている』人は58.5%と、34.4ポイントの差がみられる。また、パソコンを『使っている』人で携帯電話を『使っている』のは37.4%、パソコンを『使っていない』人で携帯電話を『使っている』人は51.0%と、13.6ポイントの差がみられる。一方、タブレットを『使っている』人で携帯電話を『使っている』のは42.0%、タブレットを『使っていない』人で携帯電話を『使っていない』のは47.1%と、5.1ポイントの差に留まっている。

このことから、スマートフォンを利用する人は携帯電話を利用せず、タブレットを利用する人は携帯電話と併用する人とそうでない人とに分かれる、という傾向がうかがえる。

図表3-5-4 携帯電話の利用状況：利用端末別

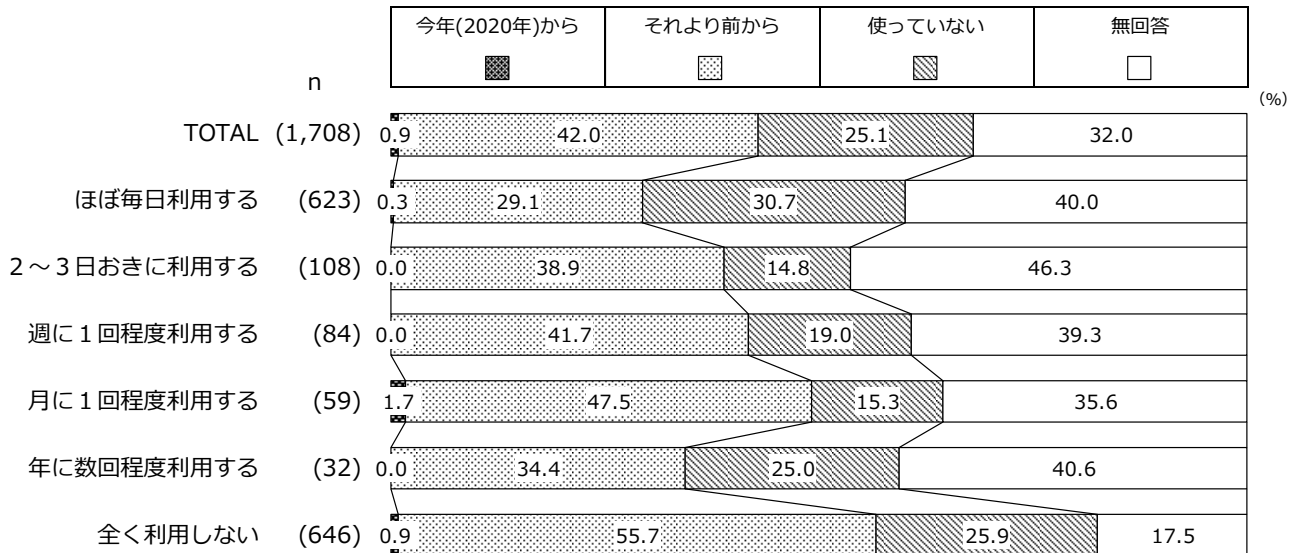


		n	『使っている』	使っていない	無回答
TOTAL		1,708	42.9	25.1	32.0
イ. スマートフォン	『使っている』	983	24.1	27.2	48.7
	使っていない	361	58.5	40.7	0.8
ウ. タブレット	『使っている』	245	42.0	28.2	29.8
	使っていない	680	47.1	50.4	2.5
エ. パソコン	『使っている』	572	37.4	33.6	29.0
	使っていない	469	51.0	47.1	1.9

今年（2020年）のインターネット利用状況別でみると、「年に数回程度利用する」を除いて、利用頻度の増加に伴って携帯電話を『使っている』割合が低下している。また、「ほぼ毎日利用する」以外の項目では携帯電話を『使っている』が「使っていない」よりも高くなっている。

このことから、携帯電話を使う人ほどインターネットは使わない傾向があることがうかがえる。

図表3-5-5 携帯電話の利用状況：今年（2020年）のインターネット利用状況別

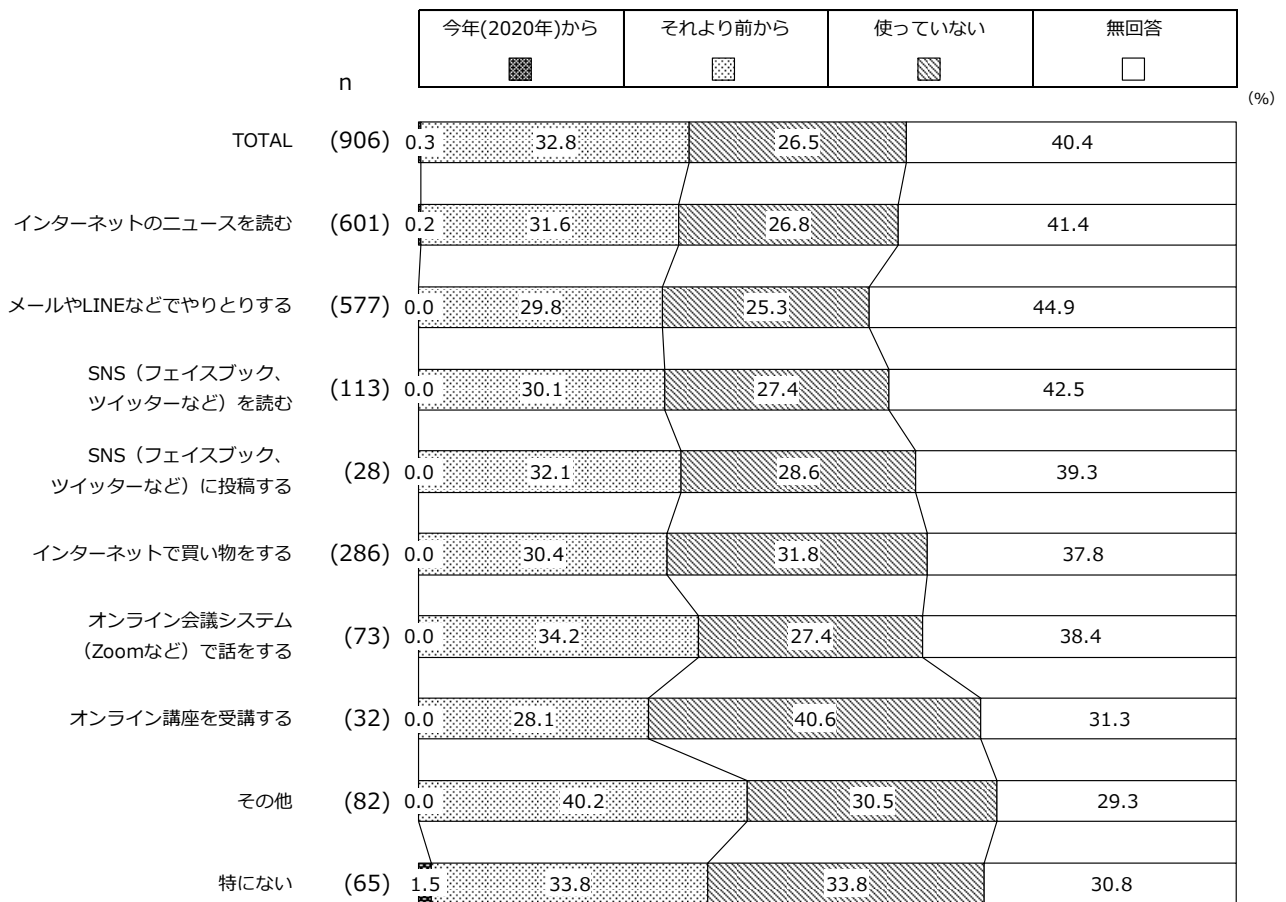


第3章 調査結果の詳細

今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと別でみると、携帯電話を『使っている』人では「特にない」(35.3%)を除くと「その他」が40.2%と最も高く、次いで「オンライン会議システム (Zoomなど) で話をする」が34.2%、「SNS (フェイスブック、ツイッターなど) に投稿すること」が32.1%、「インターネットのニュースを読むこと」が31.8%の順となっている。

一方、携帯電話を「使っていない」人では「特にない」(33.8%)を除くと「オンライン講座を受講すること」が40.6%と最も高く、次いで「インターネットで買い物をする」が31.8%、「その他」が30.5%、「SNSに投稿すること」が28.6%の順となっている。

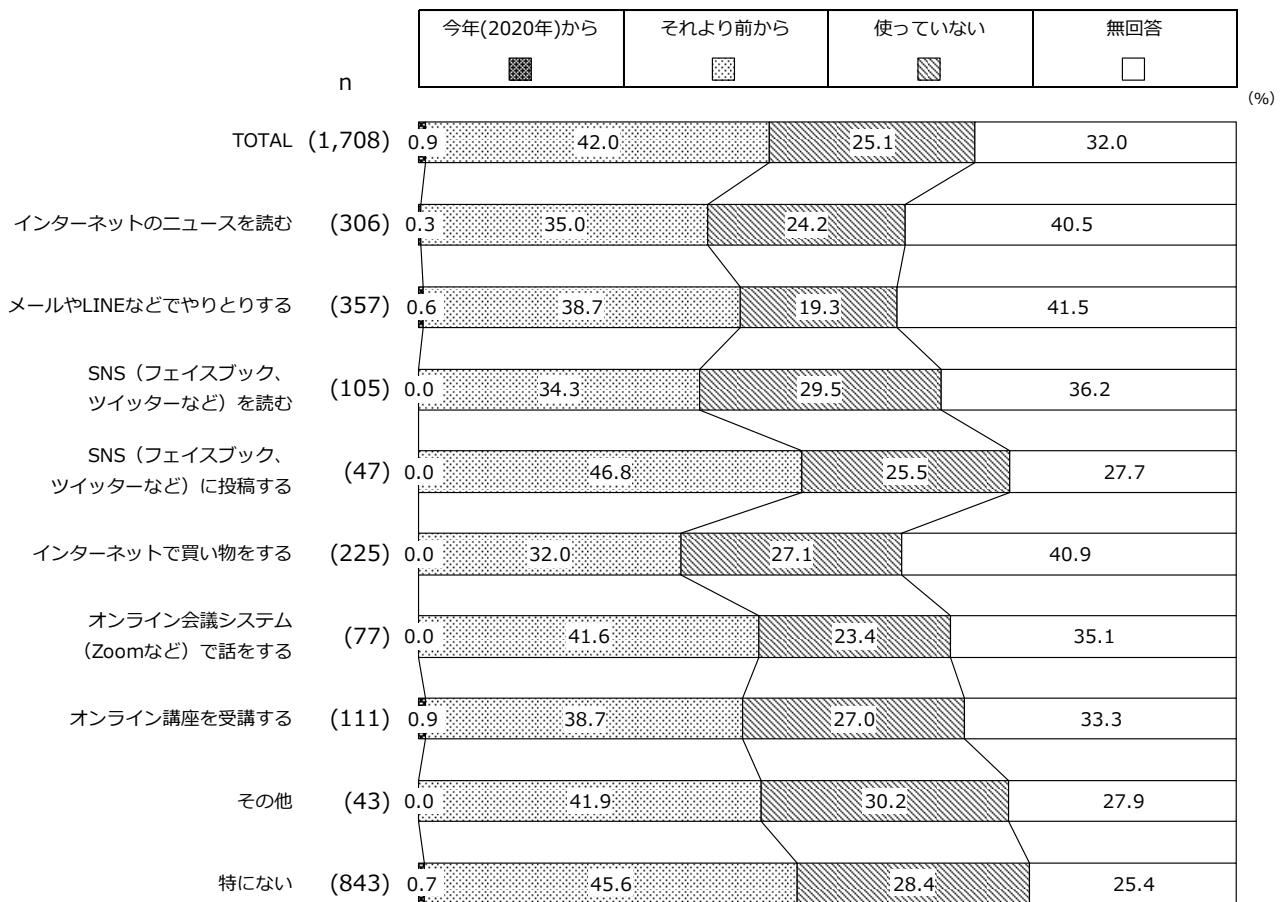
**図表3-5-6 携帯電話の利用状況：
今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと別**



今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと別でみると、携帯電話を『使っている』人では「特にない」(46.3%)を除くと「SNS(フェイスブック、ツイッターなど)に投稿すること」が46.8%と最も高く、次いで「その他」が41.9%、「オンライン会議システム(Zoomなど)で話をする」が41.6%、「オンライン講座を受講すること」が39.6%の順となっている。

一方、携帯電話を「使っていない」人では「特にない」(28.4%)を除くと「その他」が30.2%と最も高く、次いで「SNSを読むこと」が29.5%、「インターネットで買い物をする」が27.1%、「オンライン講座を受講すること」が27.0%の順となっている。

図表3-5-7 携帯電話の利用状況：
今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと別

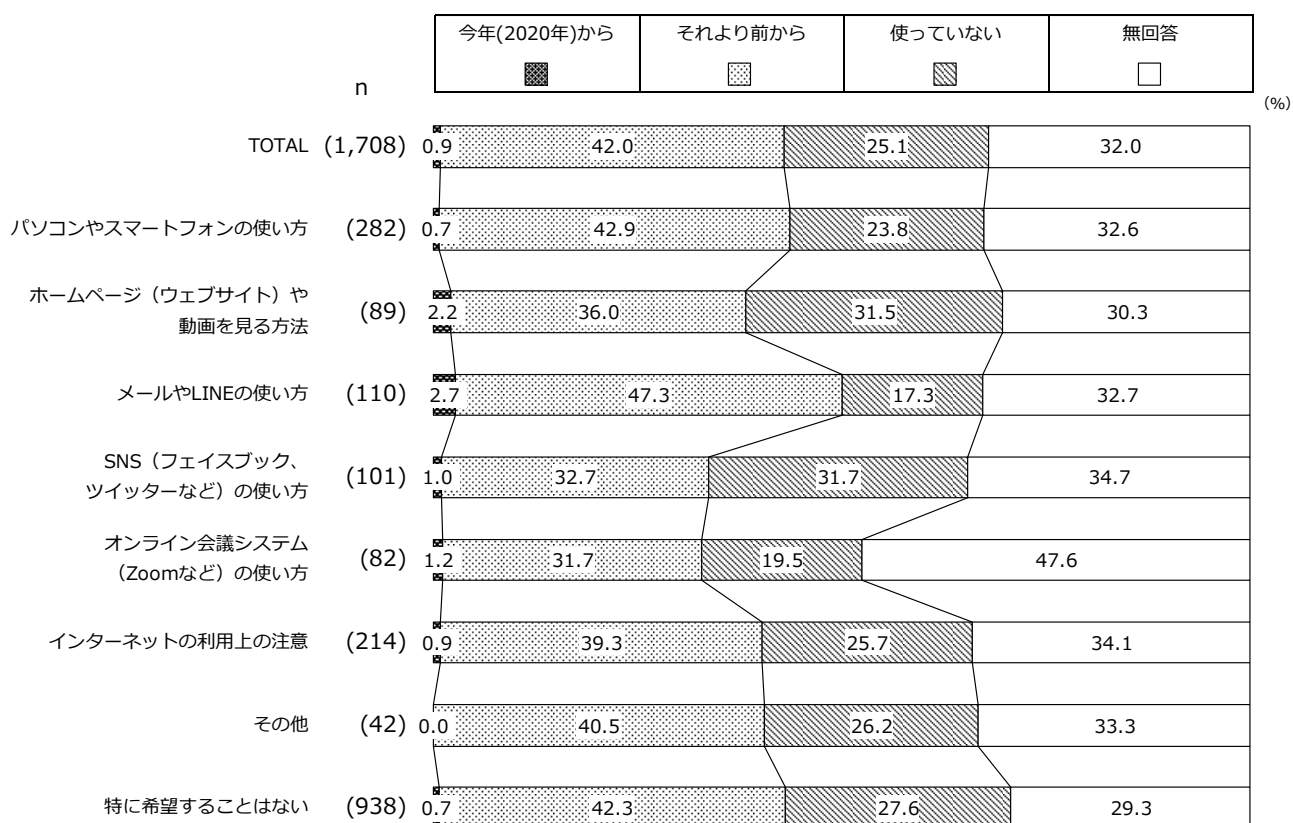


第3章 調査結果の詳細

インターネットの利用に関する希望別でみると、携帯電話を『使っている』人では「特に希望することはない」(43.0%)を除くと「メールやLINEの使い方を教えてほしい」が50.0%と最も高く、次いで「パソコンやスマートフォンの使い方を教えてほしい」が43.6%、「その他」が40.5%、「インターネットの利用上の注意を教えてほしい」が40.2%の順となっている。

一方、携帯電話を「使っていない」人では「特に希望することはない」(27.6%)を除くと「SNS(フェイスブック、ツイッターなど)の使い方を教えてほしい」が31.7%と最も高く、次いで「ホームページ(ウェブサイト)や動画を見る方法を教えてほしい」が31.5%、「その他」が26.2%、「インターネットの利用上の注意を教えてほしい」が25.7%の順となっている。

図表3-5-8 携帯電話の利用状況：インターネットの利用に関する希望別

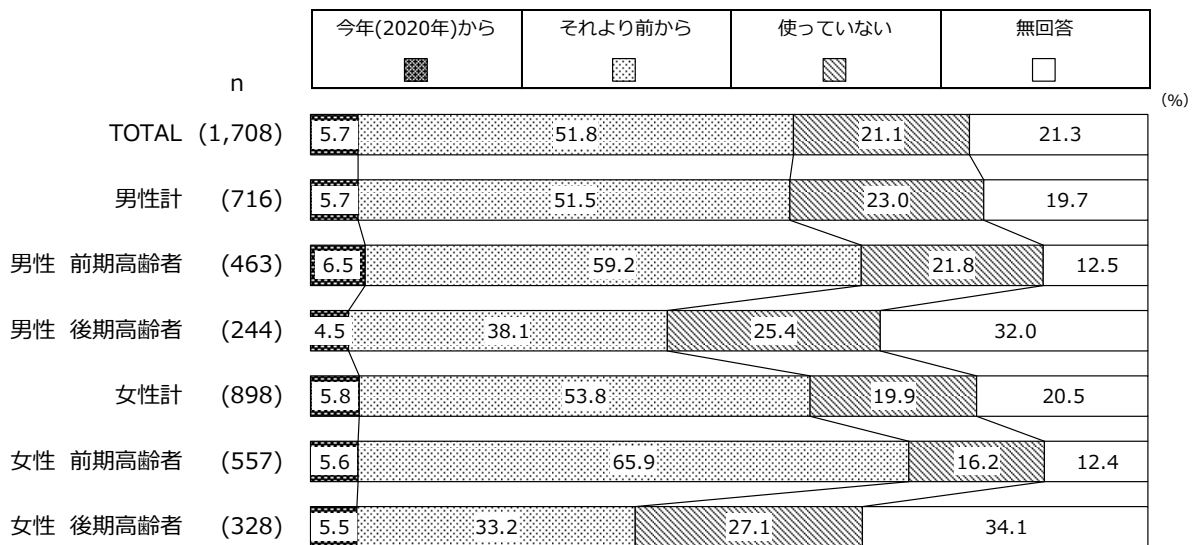


②スマートフォン

スマートフォンについては、「今年(2020年)から」の5.7%と「それより前から」の51.8%を合わせた『使っている』が57.5%、「使っていない」が21.1%となっている。

性別で見ると、『使っている』は男性が57.2%で女性が59.6%と大きな違いはみられない。一方、性年代別で見ると、『使っている』が前期高齢者では女性（71.5%）の方が男性（65.7%）よりも高く、後期高齢者では男性（42.6%）の方が女性（38.7%）よりも高くなっている。また、男女ともに加齢に伴って『使っている』が低下（男性23.1ポイント・女性32.8ポイント）している。

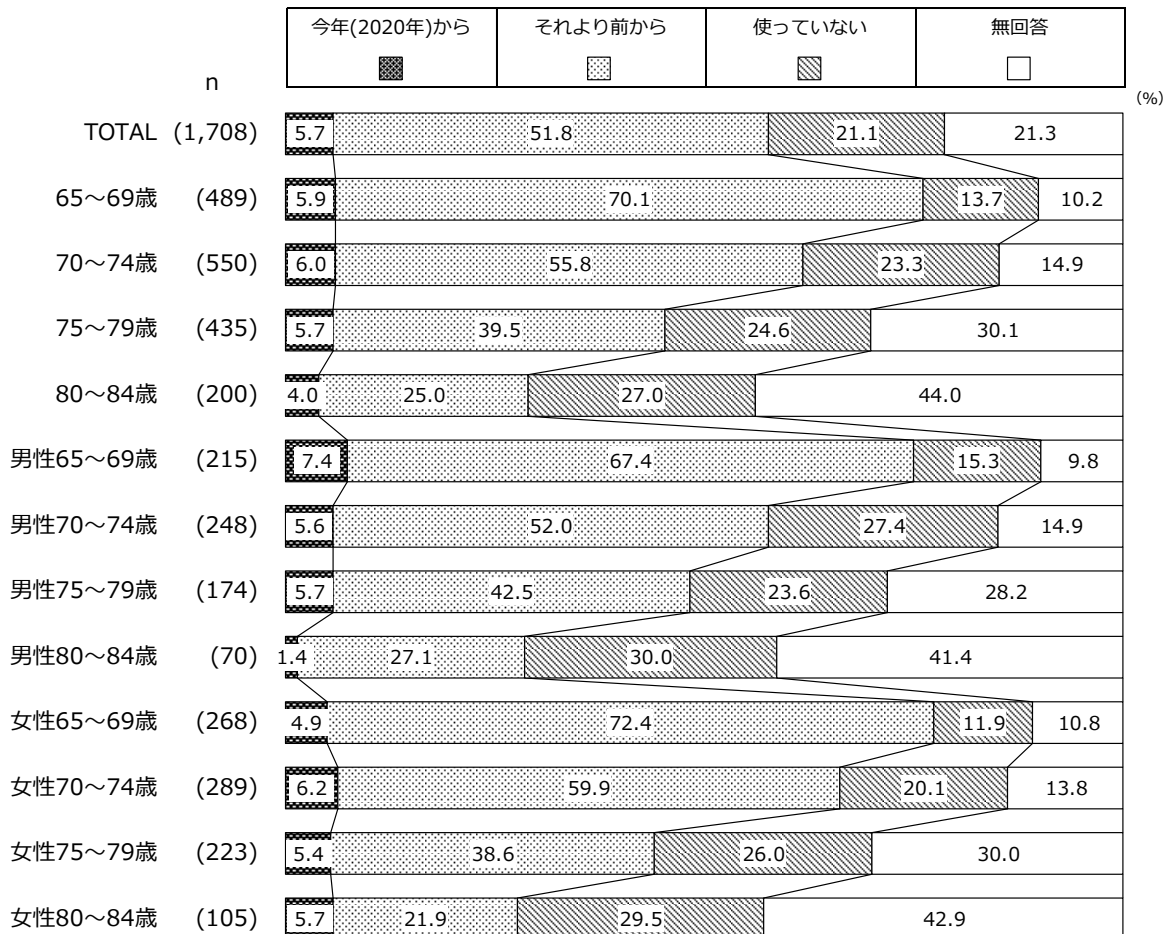
図表3-5-9 スマートフォンの利用状況：性年代別



第3章 調査結果の詳細

詳細な年齢区分別でみると、男女ともに加齢に伴って『使っている』が低下している。また、70～74歳において、女性（66.1%）の方が男性（57.6%）よりも『使っている』が8.5ポイント高くなっている。

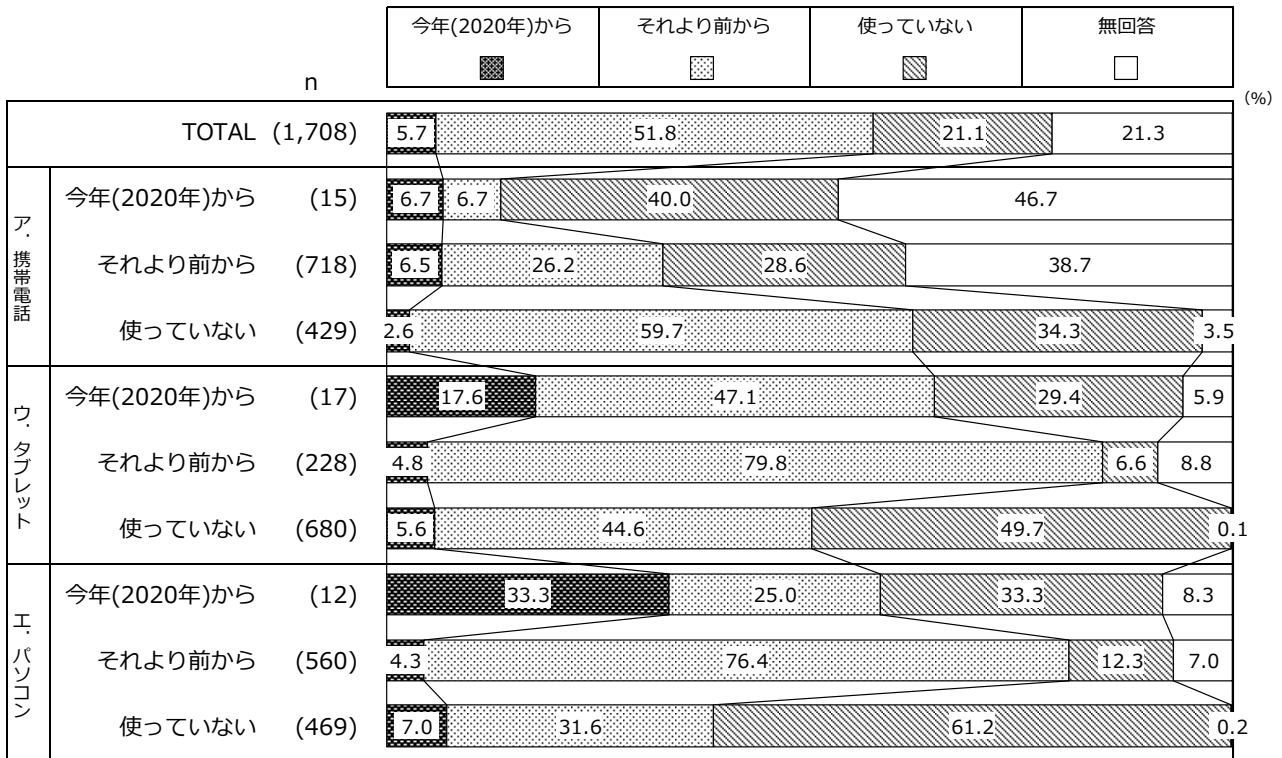
図表3-5-10 スマートフォンの利用状況：性年代別（詳細）



利用端末別にみると、タブレットを『使っている』人でスマートフォンを『使っている』と回答したのは83.3%、パソコンを『使っている』人でスマートフォンを『使っている』のは80.2%と、顕著に高くなっている。一方で、携帯電話を『使っている』人でスマートフォンを『使っている』のは32.3%と他の利用端末に比べて低くなっている。

このことから、タブレットやパソコンの利用者はスマートフォンも併用している傾向があるのに対して、携帯電話の利用者はスマートフォンとの併用をせずどちらか一方だけを使う傾向があることがうかがえる。

図表3-5-11 スマートフォンの利用状況：利用端末別



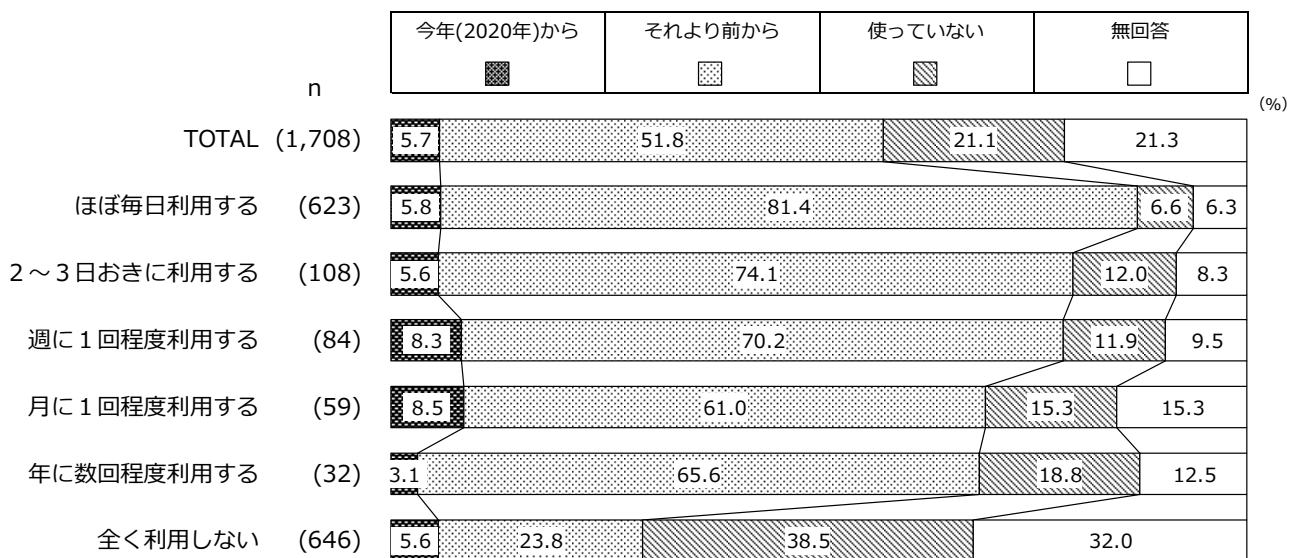
		n	『使っている』	使っていない	無回答
TOTAL		1,708	57.5	21.1	21.3
ア. 携帯電話	『使っている』	733	32.3	28.8	38.9
	使っていない	429	62.3	34.3	3.5
ウ. タブレット	『使っている』	245	83.3	8.2	8.6
	使っていない	680	50.2	49.7	0.1
エ. パソコン	『使っている』	572	80.2	12.8	7.0
	使っていない	469	38.6	61.2	0.2

第3章 調査結果の詳細

今年（2020年）のインターネット利用状況別でみると、利用頻度の増加に伴ってスマートフォンを『使っている』割合が上昇している。また、「全く利用しない」以外の項目ではスマートフォンを『使っている』が「使っていない」よりも高くなっている。

このことから、スマートフォンを使う人ほどインターネットも使っている、またはスマートフォンを用いてインターネットを利用している傾向があることがうかがえる。

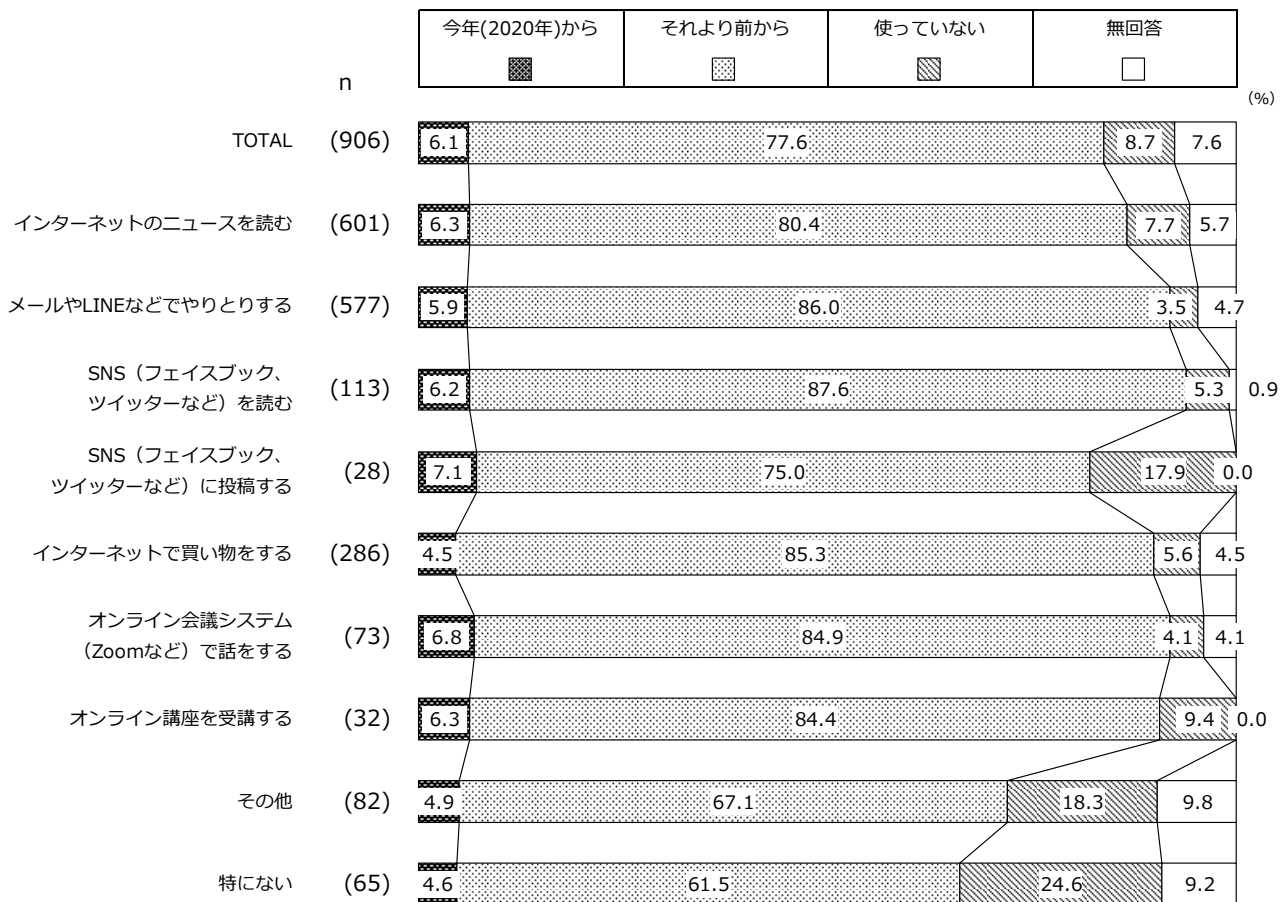
図表3-5-12 スマートフォンの利用状況：今年（2020年）のインターネット利用状況別



今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと別でみると、スマートフォンを『使っている』人では「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）を読むこと」が93.8%と最も高く、次いで「メールやLINEなどでやりとりすること」が91.9%、「オンライン会議システム（Zoomなど）で話をする」が91.7%の順となっている。

一方、スマートフォンを「使っていない」人では「特になし」（24.6%）を除くと「その他」が18.3%と最も高く、次いで「SNSに投稿すること」が17.9%、「オンライン講座を受講すること」が9.4%、「インターネットのニュースを読むこと」が7.7%の順となっている。

図表3-5-13 スマートフォンの利用状況：
今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと別

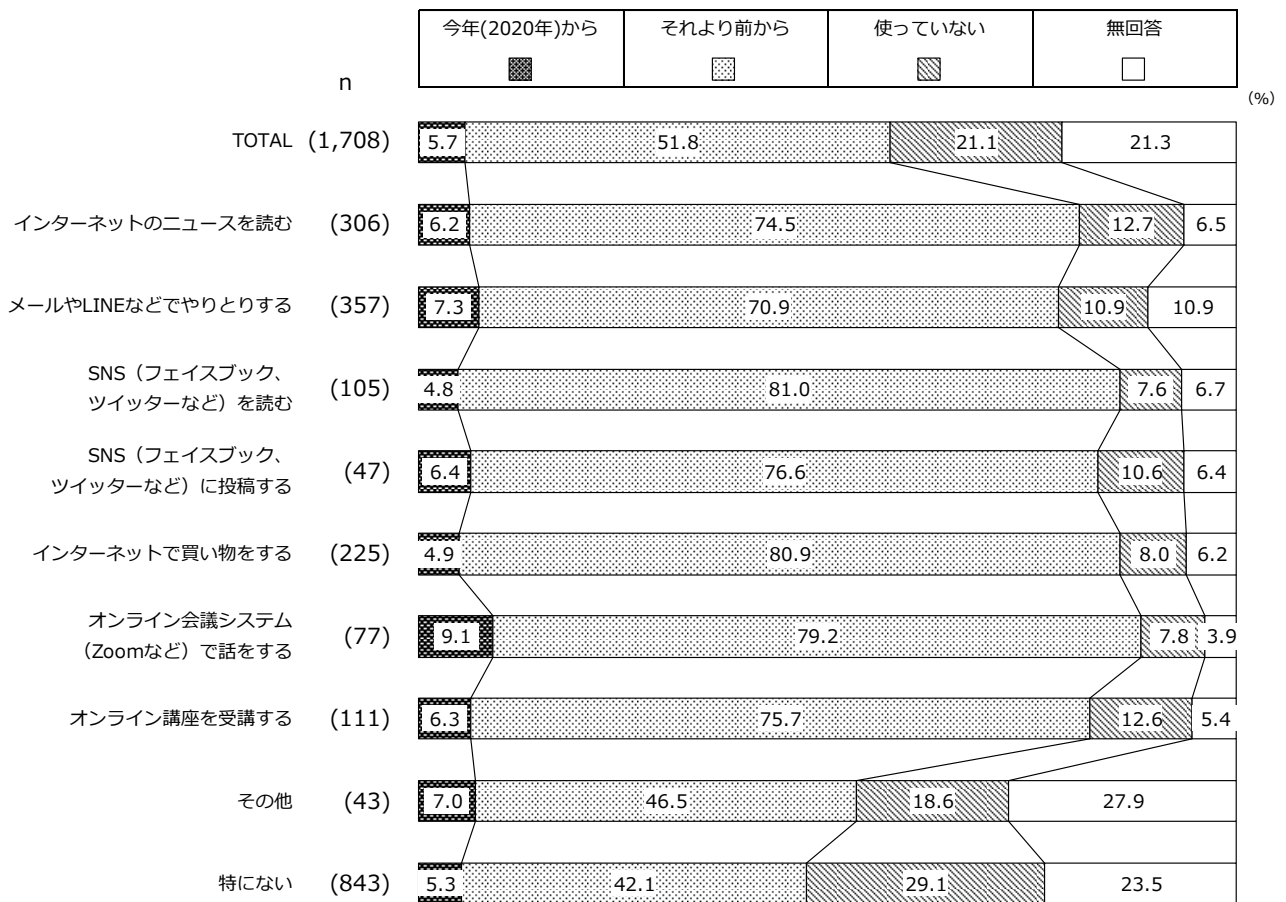


第3章 調査結果の詳細

今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと別でみると、スマートフォンを『使っている』人では「オンライン会議システム（Zoomなど）で話をする事」が88.3%と最も高く、次いで「インターネットで買い物をする事」が85.8%、「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）を読むこと」が85.8%の順となっている。

一方、スマートフォンを「使っていない」人では「特にない」（29.1%）を除くと「その他」が18.6%と最も高く、次いで「インターネットのニュースを読むこと」が12.7%、「オンライン講座を受講すること」が12.6%、「メールやLINEなどでやりとりすること」が10.9%の順となっている。

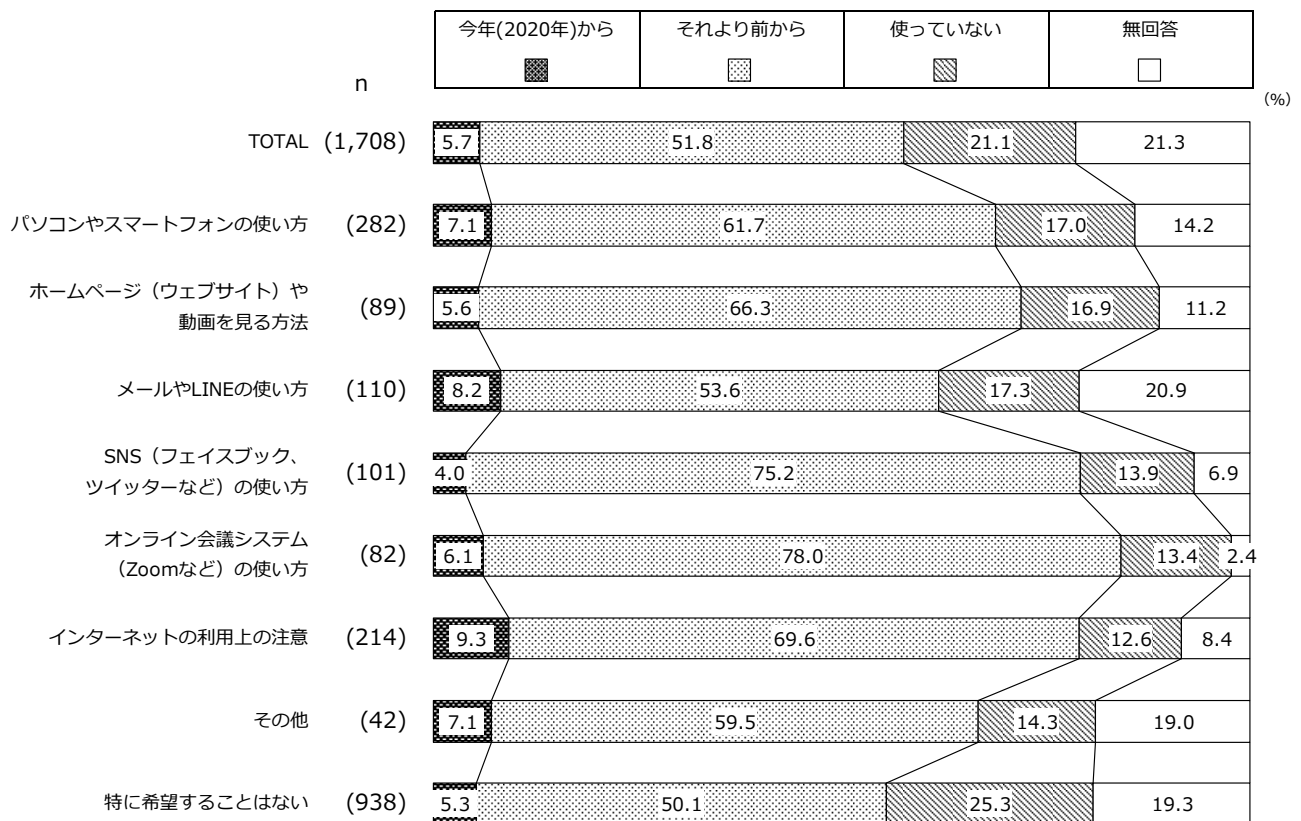
**図表3-5-14 スマートフォンの利用状況：
今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと別**



インターネットの利用に関する希望別でみると、スマートフォンを『使っている』人では「オンライン会議システム（Zoomなど）の使い方を教えてほしい」が84.1%と最も高く、次いで「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）の使い方を教えてほしい」が79.2%、「インターネットの利用上の注意を教えてほしい」が78.9%の順となっている。

一方、スマートフォンを「使っていない」人では「特に希望することはない」（25.3%）を除くと「メールやLINEの使い方を教えてほしい」が17.3%と最も高く、次いで「パソコンやスマートフォンの使い方を教えてほしい」が17.0%、「ホームページ（ウェブサイト）や動画を見る方法を教えてほしい」が16.9%の順となっている。

図表3-5-15 スマートフォンの利用状況：インターネットの利用に関する希望別

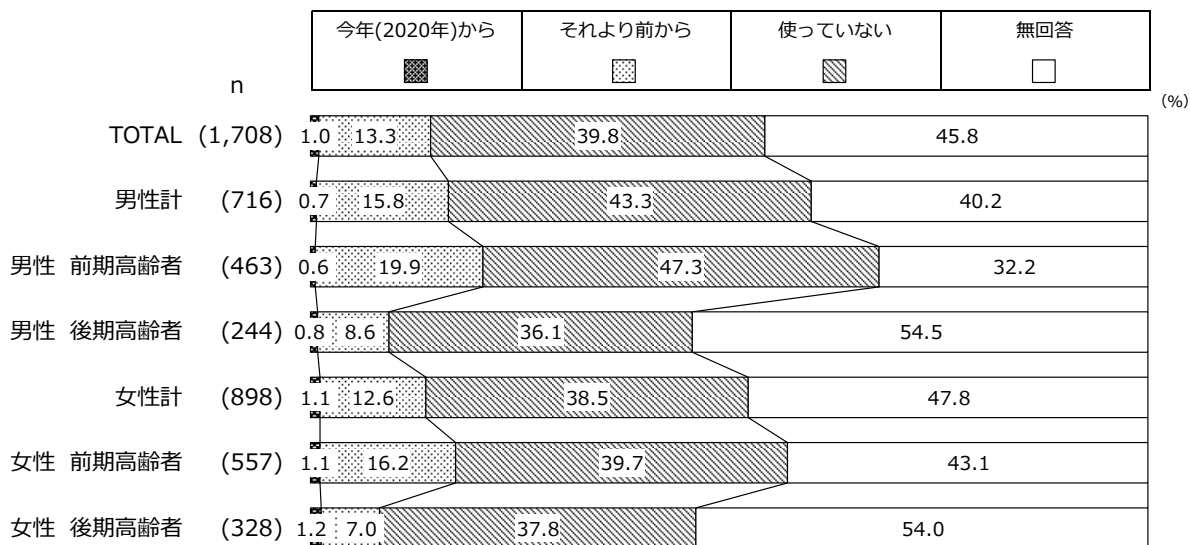


③タブレット

タブレットについては、「今年(2020年)から」の1.0%と「それより前から」の13.3%を合わせた『使っている』が14.3%、「使っていない」が39.8%となっている。

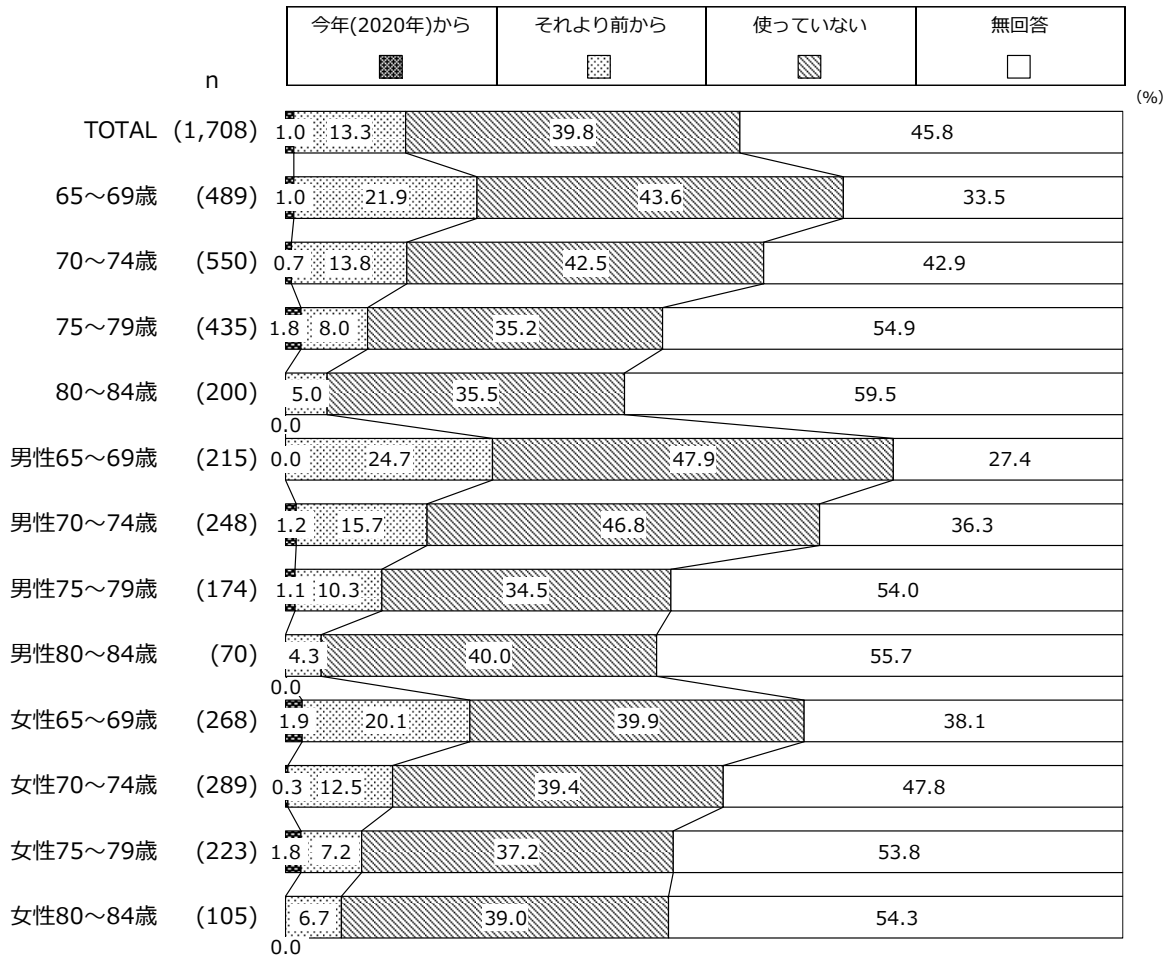
性別で見ると、『使っている』は男性が16.5%で女性が13.7%と大きな違いはみられない。また、性年代別で見ると、男女ともに加齢に伴って『使っている』が低下（男性11.1ポイント・女性9.1ポイント）している。

図表3-5-16 タブレットの利用状況：性年代別



詳細な年齢区分別でみると、男女ともに加齢に伴って『使っている』が低下している。また、80～84歳以外の年齢区分において、男性の方が女性よりも『使っている』が高くなっている。

図表3-5-17 タブレットの利用状況：性年代別（詳細）

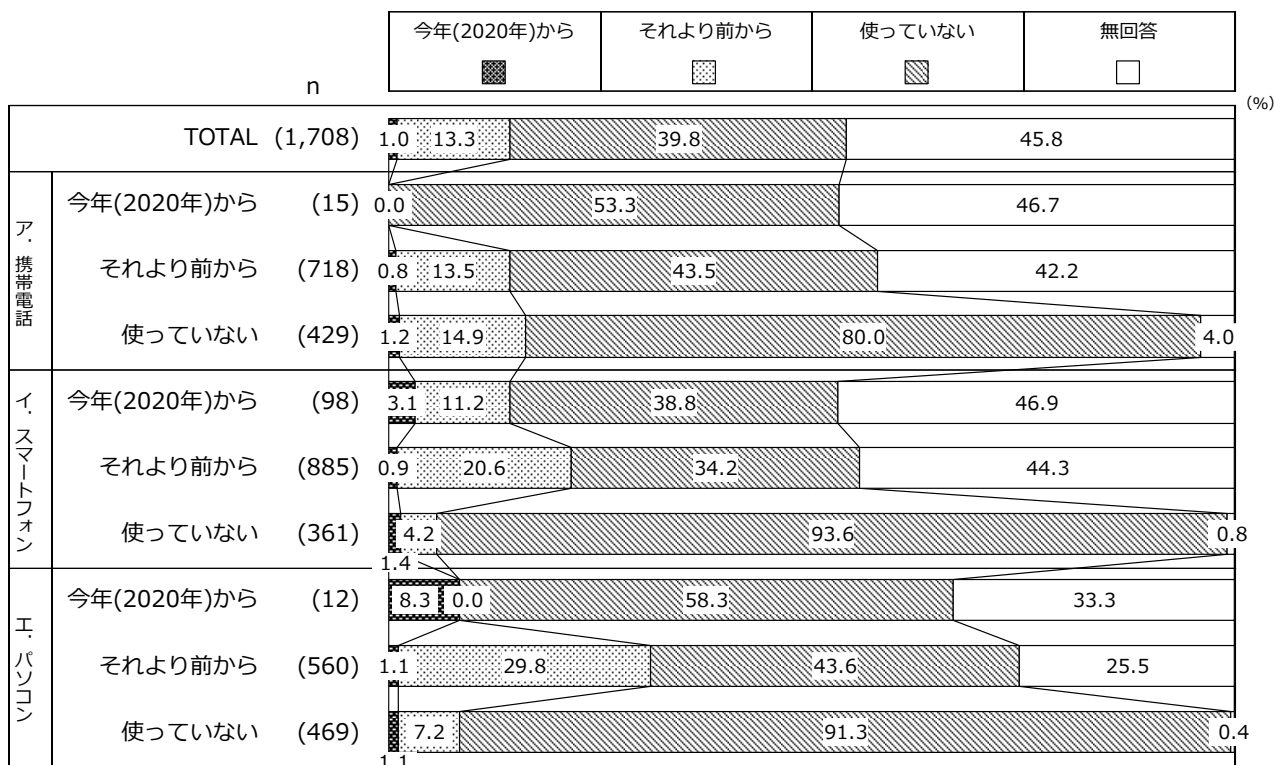


第3章 調査結果の詳細

利用端末別にみると、携帯電話・スマートフォン・パソコンを「使っていない」と回答した人の中でタブレットを「使っていない」のはそれぞれ80.0%・93.6%・91.3%と顕著に高くなっている。一方、スマートフォン・パソコンを『使っている』人ではタブレットを『使っている』のがそれぞれ20.8%・30.4%となっている。

このことから、どの端末も利用していない人がいることと、スマートフォンやパソコンの利用者はタブレットも併用している傾向があることがうかがえる。

図表3-5-18 タブレットの利用状況：利用端末別

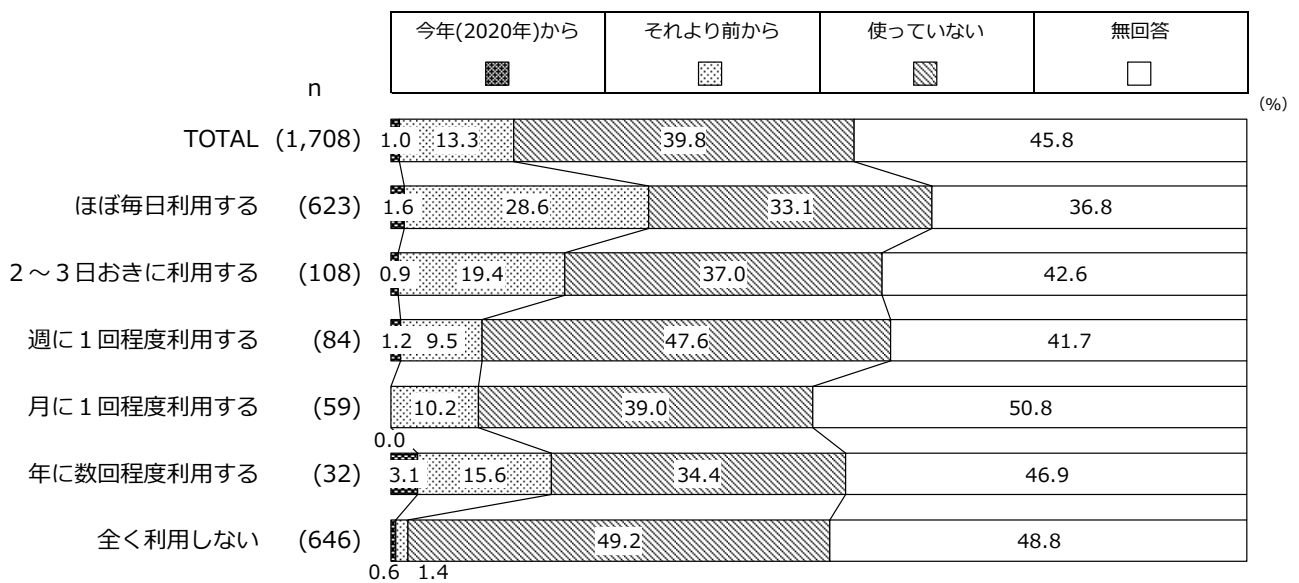


		n	『使っている』	使っていない	無回答
TOTAL		1,708	14.3	39.8	45.8
ア. 携帯電話	『使っている』	733	14.1	43.7	42.3
	使っていない	429	16.1	80.0	4.0
イ. スマートフォン	『使っている』	983	20.8	34.7	44.6
	使っていない	361	5.6	93.6	0.8
エ. パソコン	『使っている』	572	30.4	43.9	25.7
	使っていない	469	8.3	91.3	0.4

今年（2020年）のインターネット利用状況別でみると、「年に数回程度利用する」を除いて、利用頻度の増加に伴ってタブレットを『使っている』割合が低下している。また、すべての項目においてタブレットを「使っていない」が『使っている』よりも高くなっている。

このことから、タブレットを使う人ほどインターネットを使う傾向があることがうかがえるものの、スマートフォンを使ってインターネットを利用する傾向よりは弱い関連にとどまっているといえる。

図表3-5-19 タブレットの利用状況：今年（2020年）のインターネット利用状況別

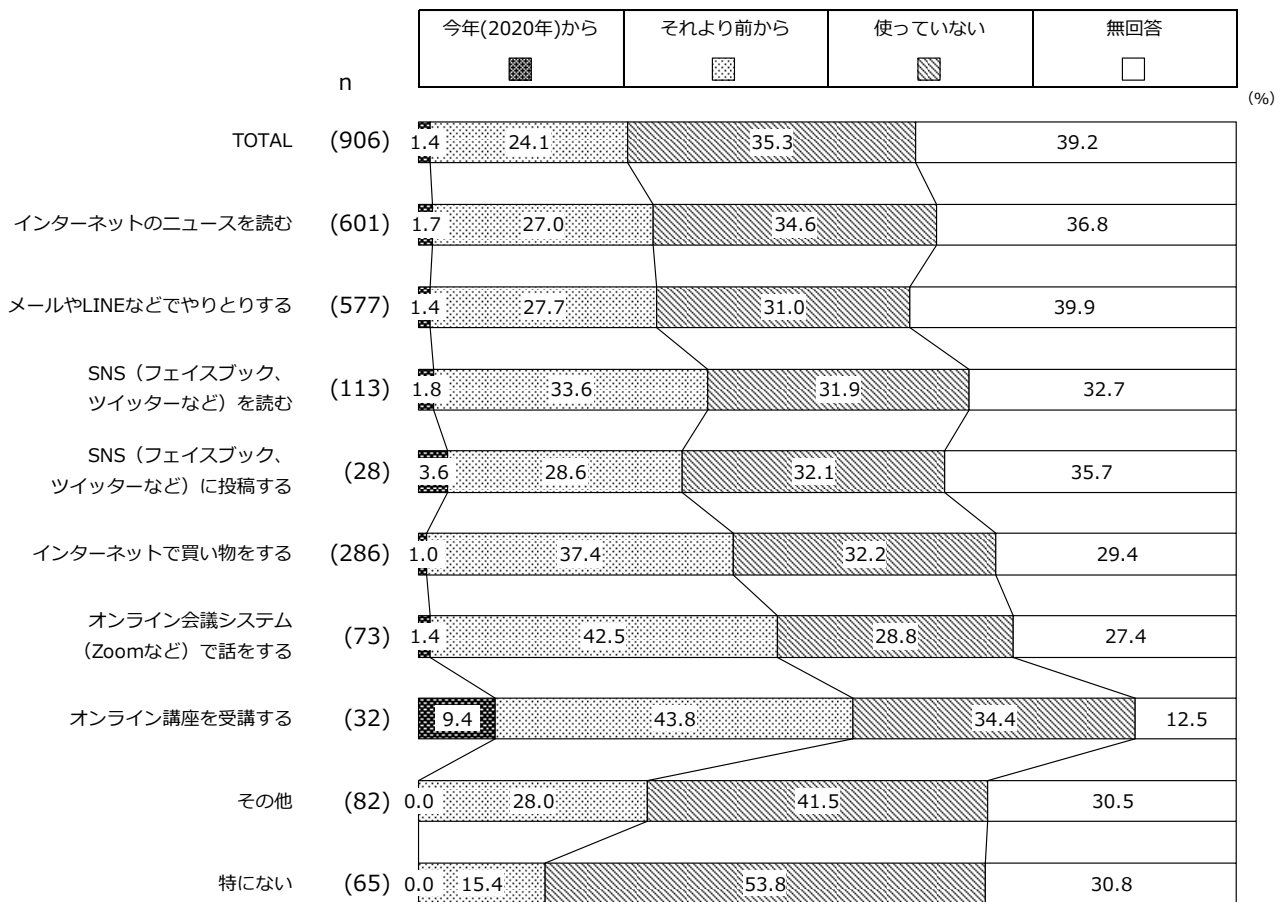


第3章 調査結果の詳細

今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと別でみると、タブレットを『使っている』人では「オンライン講座を受講すること」が53.2%と最も高く、次いで「オンライン会議システム（Zoomなど）で話をする」が43.9%、「インターネットで買い物をする」が38.4%の順となっている。

一方、タブレットを「使っていない」人では「特にない」（53.8%）を除くと「その他」が41.5%と最も高く、次いで「インターネットのニュースを読む」が34.6%、「オンライン講座を受講すること」が34.4%、「インターネットで買い物をする」が32.2%の順となっている。

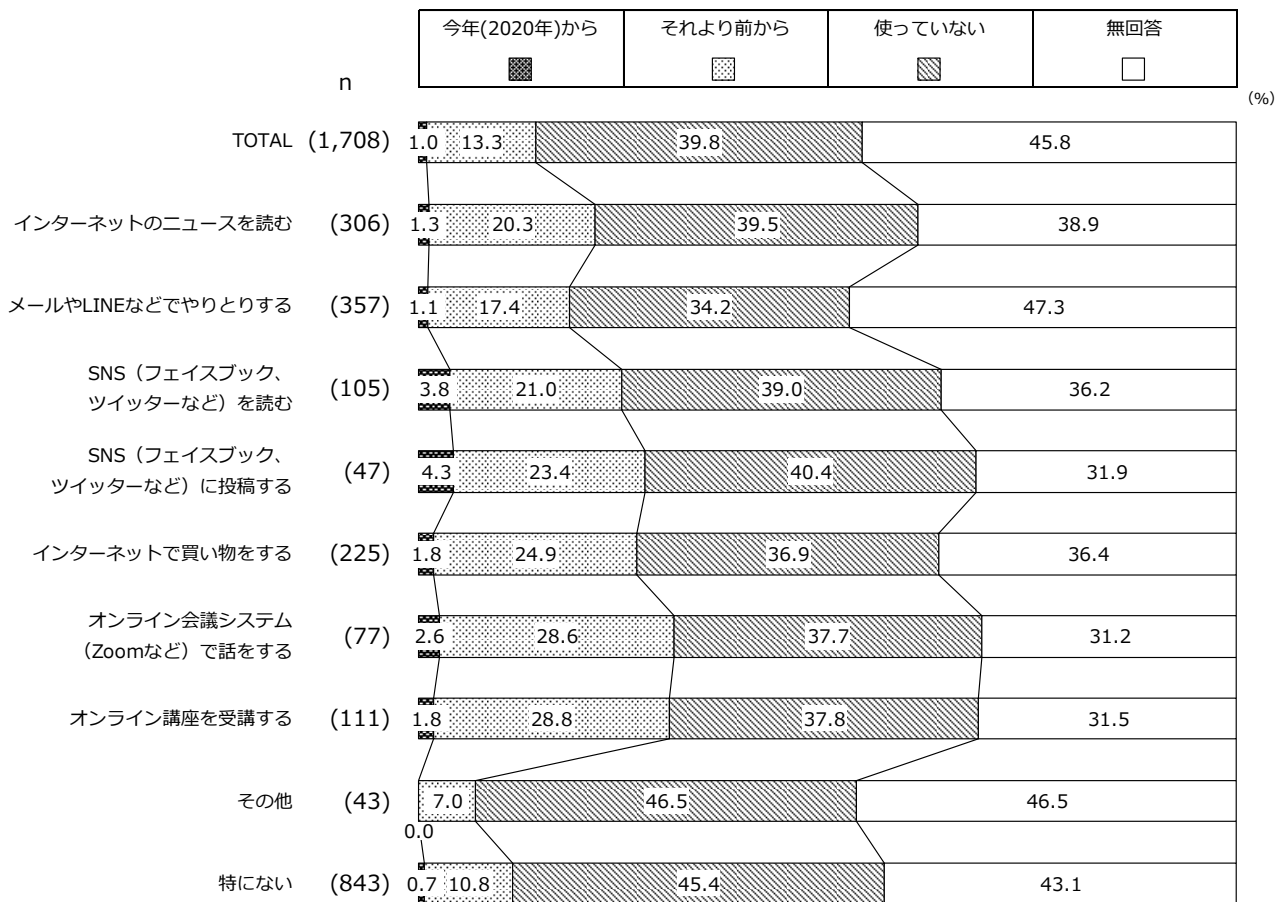
**図表3-5-20 タブレットの利用状況：
今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと別**



今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと別でみると、タブレットを『使っている』人では「オンライン会議システム（Zoomなど）で話をする事」が31.2%と最も高く、次いで「オンライン講座を受講すること」が30.6%、「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）に投稿すること」が27.7%の順となっている。

一方、タブレットを「使っていない」人では「特にない」（45.4%）を除くと「その他」が46.5%と最も高く、次いで「SNSに投稿すること」が40.4%、「インターネットのニュースを読むこと」が39.5%、「SNSを読むこと」が39.0%の順となっている。

図表3-5-21 タブレットの利用状況：
今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと別

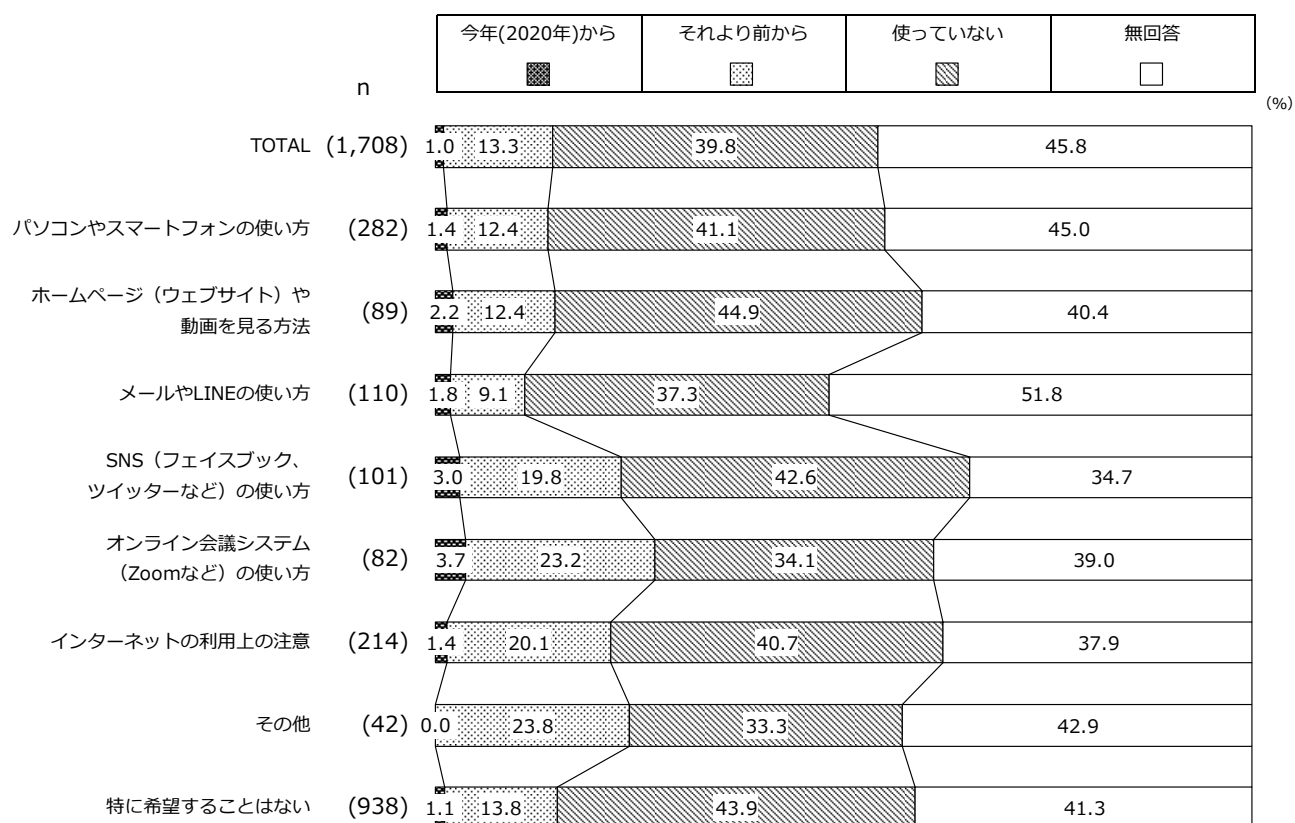


第3章 調査結果の詳細

インターネットの利用に関する希望別でみると、タブレットを『使っている』人では「オンライン会議システム（Zoomなど）の使い方を教えてほしい」が26.9%と最も高く、次いで「その他」が23.8%、「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）の使い方を教えてほしい」が22.8%、「インターネットの利用上の注意を教えてほしい」が21.5%の順となっている。

一方、タブレットを「使っていない」人では「特に希望することはない」（43.9%）を除くと「ホームページ（ウェブサイト）や動画を見る方法を教えてほしい」が44.9%と最も高く、次いで「SNSの使い方を教えてほしい」が42.6%、「パソコンやスマートフォンの使い方を教えてほしい」が41.1%の順となっている。

図表3-5-22 タブレットの利用状況：インターネットの利用に関する希望別

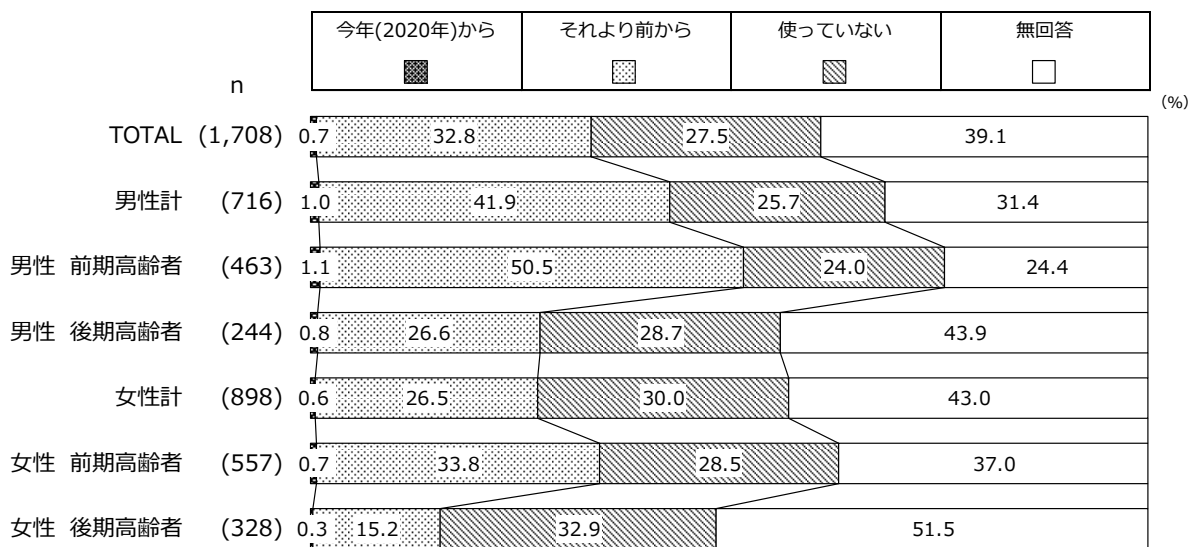


④パソコン

パソコンについては、「今年(2020年)から」の0.7%と「それより前から」の32.8%を合わせた『使っている』が33.5%、「使っていない」が27.5%となっている。

性別で見ると、『使っている』は男性(42.9%)の方が女性(27.1%)よりも15.8ポイント高くなっている。性年代別で見ると、すべての年代において、男性の方が女性よりも『使っている』が高くなっている。また、男女ともに加齢に伴って『使っている』が低下(男性24.2ポイント・女性19.0ポイント)している。

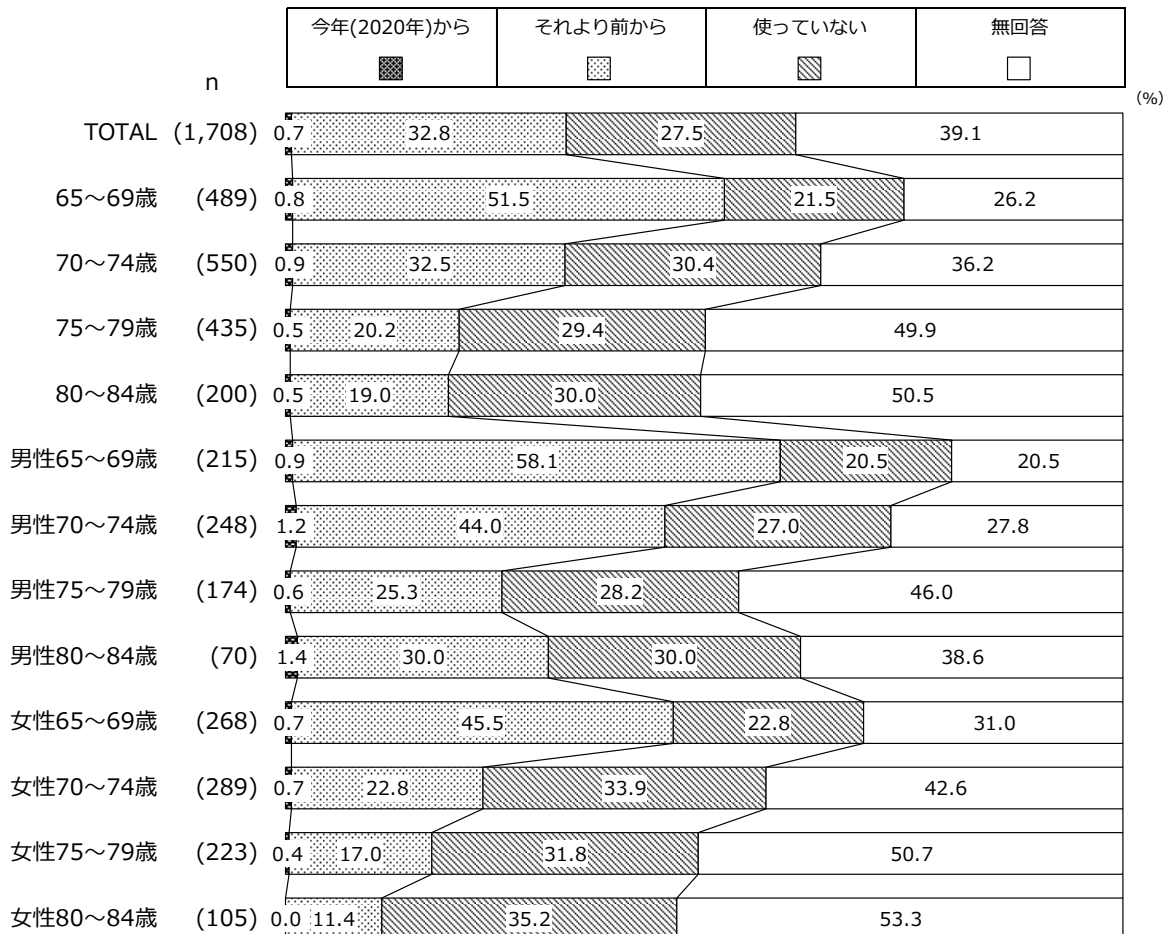
図表3-5-23 パソコンの利用状況：性年代別



第3章 調査結果の詳細

詳細な年齢区分別でみると、男性では75～79歳までは加齢に伴って『使っている』が低下して80～84歳では上昇しているのに対して、女性では一貫して低下している。また、すべての年齢区分において、男性の方が女性よりも『使っている』が顕著に高くなっている。

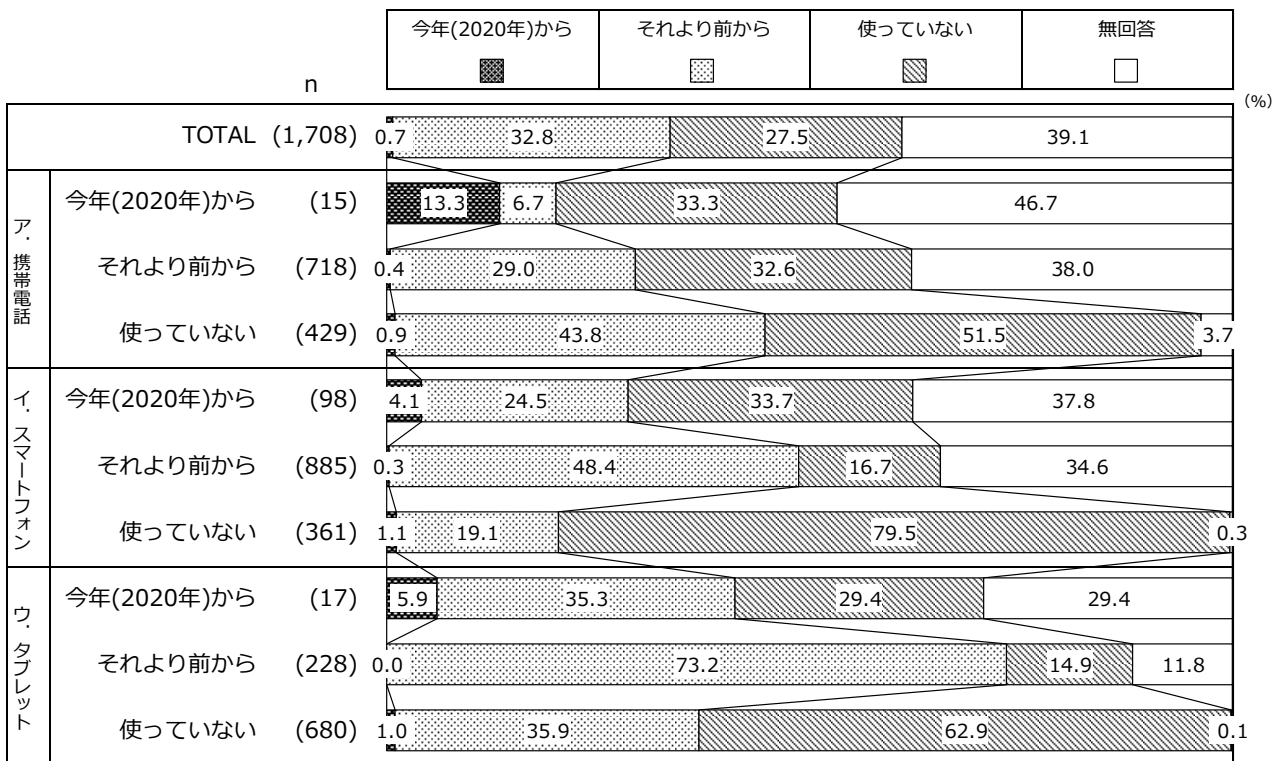
図表3-5-24 パソコンの利用状況：性年代別（詳細）



利用端末別にみると、スマートフォン・タブレットを『使っている』人ではパソコンを『使っている』との回答が「使っていない」よりも高くなっているのに対して、携帯電話を『使っている』人ではパソコンを『使っている』のが29.2%と他の端末利用状況よりも低くなっている。また、スマートフォンを「使っていない」人でパソコンを「使っていない」のは79.5%、タブレットを『使っている』人でパソコンを『使っている』のは71.0%と、顕著に高くなっている。

このことから、スマートフォンやタブレットの利用者はパソコンも併用している傾向があるのに対して、携帯電話の利用者はパソコンと併用する人と携帯電話だけ利用する人とに二分されていることがうかがえる。

図表3-5-25 パソコンの利用状況：利用端末別



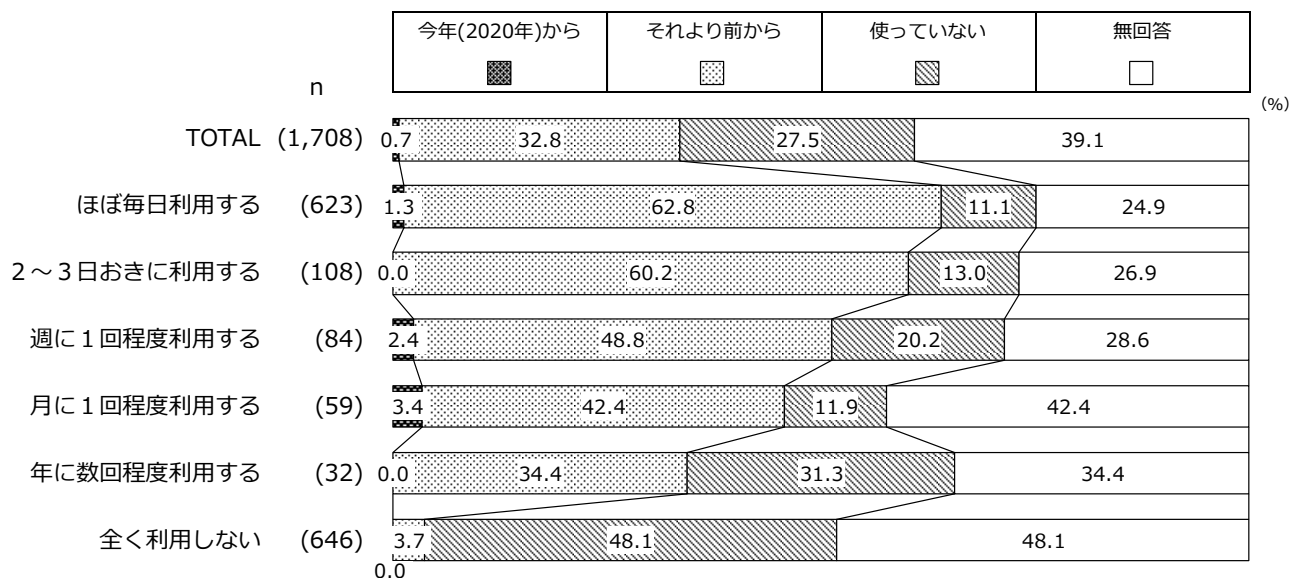
		n	『使っている』	使っていない	無回答
TOTAL		1,708	33.5	27.5	39.1
ア. 携帯電話	『使っている』	733	29.2	32.6	38.2
	使っていない	429	44.7	51.5	3.7
イ. スマートフォン	『使っている』	983	46.7	18.4	34.9
	使っていない	361	20.2	79.5	0.3
ウ. タブレット	『使っている』	245	71.0	15.9	13.1
	使っていない	680	36.9	62.9	0.1

第3章 調査結果の詳細

今年（2020年）のインターネット利用状況別でみると、利用頻度の増加に伴ってパソコンを『使っている』割合が顕著に上昇している。また、「全く利用しない」以外の項目ではパソコンを『使っている』が「使っていない」よりも高くなっており、「年に数回程度利用する」においても『使っている』（34.4%）が「使っていない」（31.3%）よりも高くなっている。

このことから、インターネットを普段利用しない層においてもパソコンの利用が進んでいることと、パソコンを用いてのインターネット利用をまったく行わない層がいるという二分化の傾向がうかがえる。

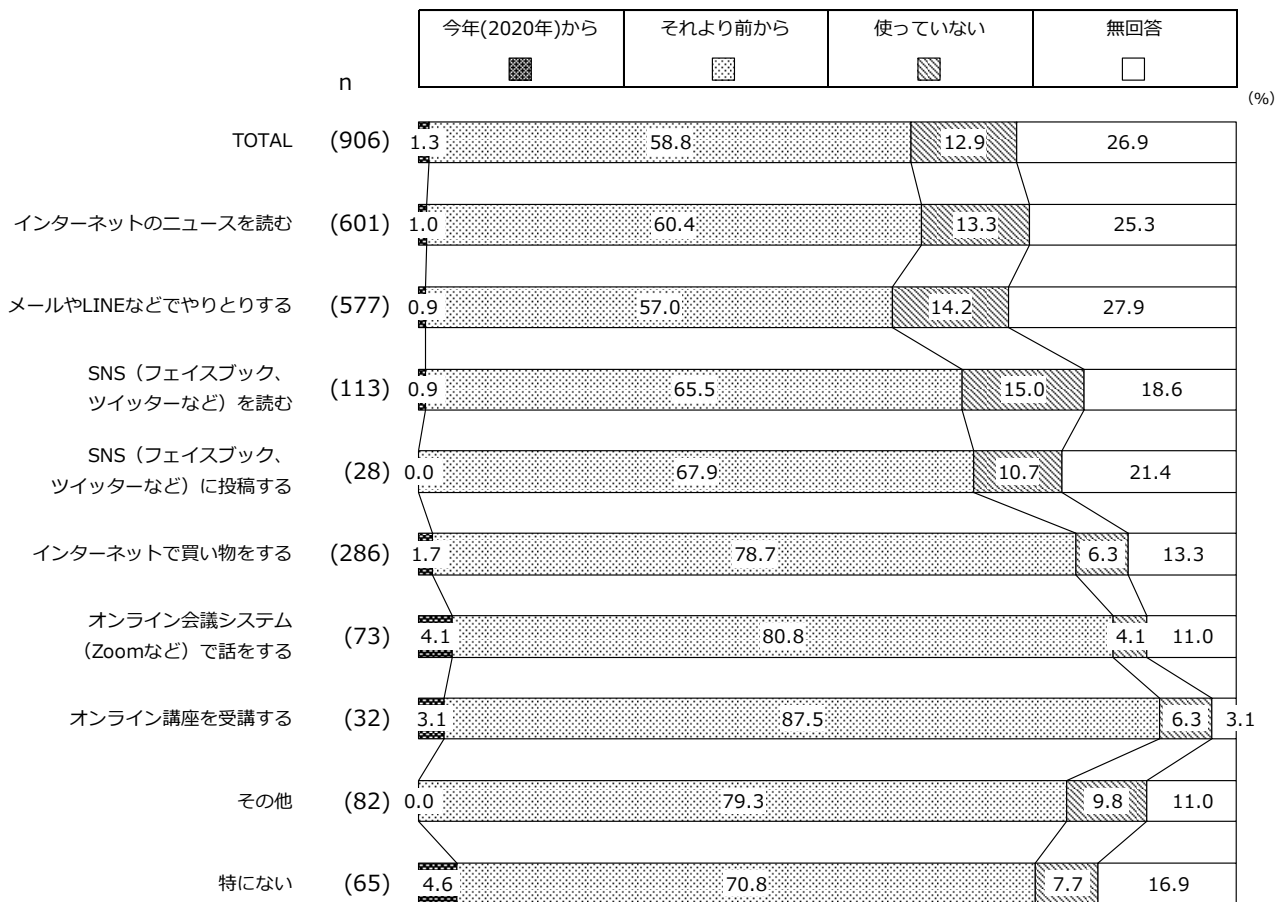
図表3-5-26 パソコンの利用状況：今年（2020年）のインターネット利用状況別



今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと別でみると、パソコンを『使っている』人では「オンライン講座を受講すること」が90.6%と最も高く、次いで「オンライン会議システム（Zoomなど）で話をする」が84.9%、「インターネットで買い物をする」が80.4%の順となっている。

一方、パソコンを「使っていない」人では「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）を読むこと」が15.0%と最も高く、次いで「メールやLINEなどでやりとりすること」が14.2%、「インターネットのニュースを読むこと」が13.3%の順となっている。

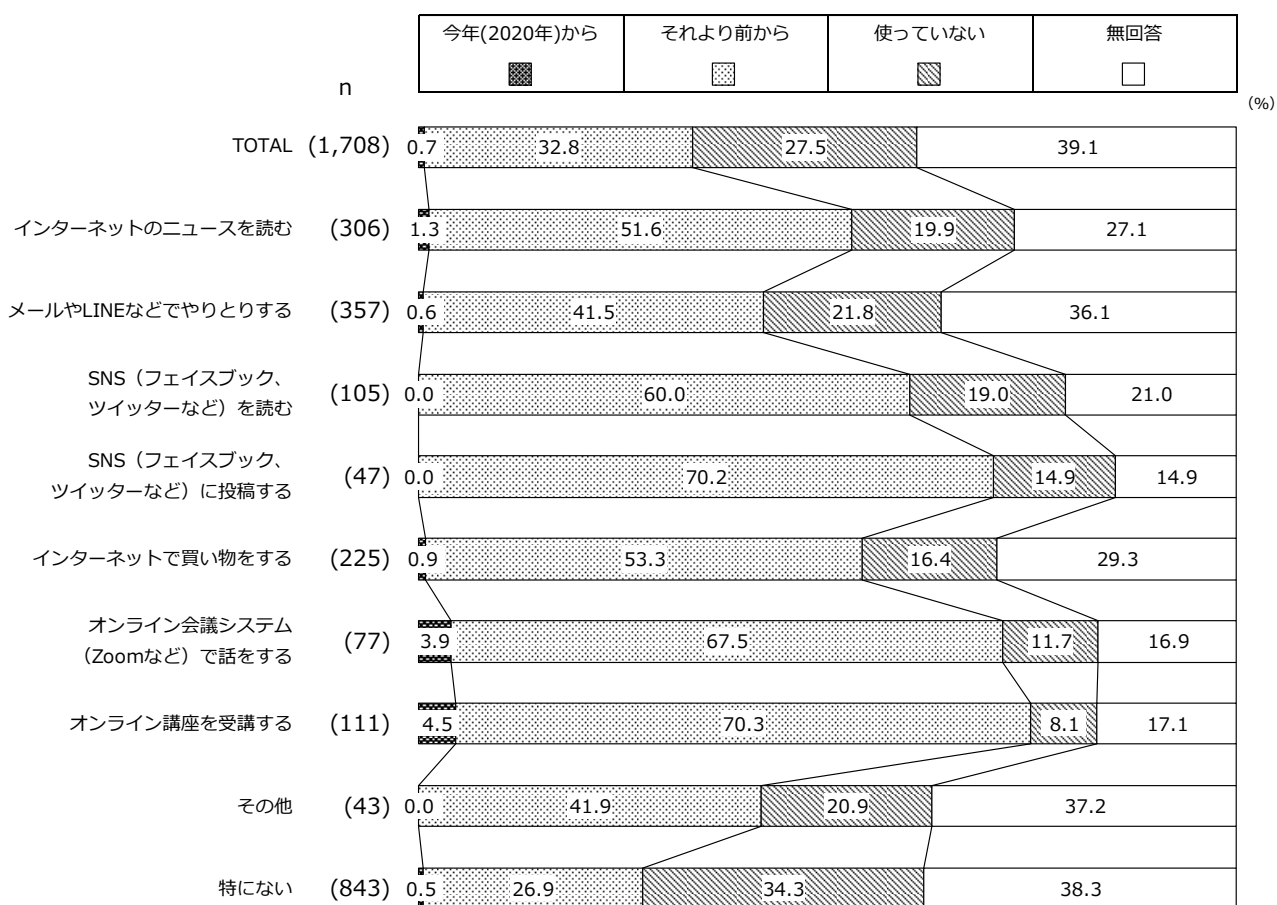
図表3-5-27 パソコンの利用状況：
今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと別



今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと別でみると、パソコンを『使っている』人では「オンライン講座を受講すること」が74.8%と最も高く、次いで「オンライン会議システム（Zoomなど）で話をする」が71.4%、「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）に投稿すること」が70.2%の順となっている。

一方、パソコンを「使っていない」人では「特にない」（34.3%）を除くと「メールやLINEなどでやりとりすること」が21.8%と最も高く、次いで「その他」が20.9%、「インターネットのニュースを読むこと」が19.9%、「SNSを読むこと」が19.0%の順となっている。

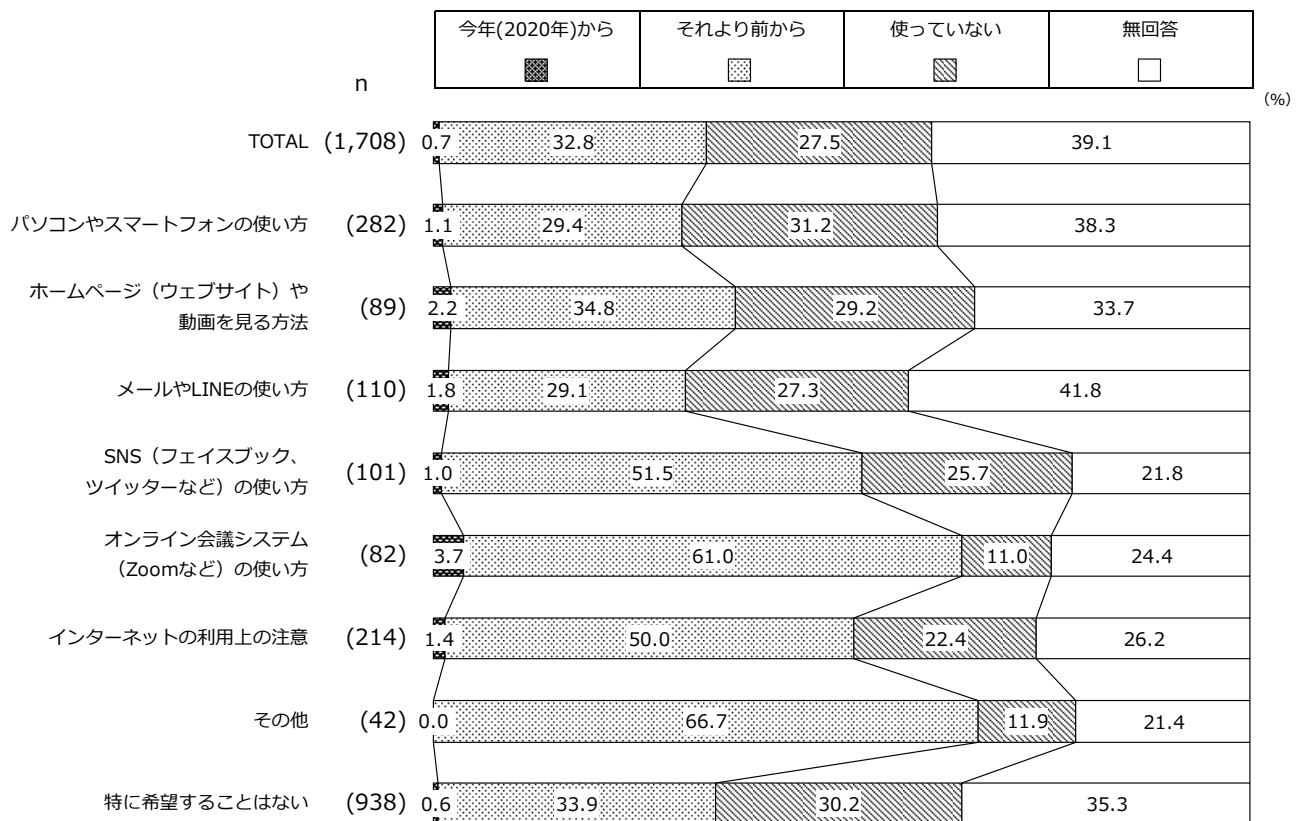
図表3-5-28 パソコンの利用状況：
今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと別



インターネットの利用に関する希望別でみると、パソコンを『使っている』人では「その他」が66.7%と最も高く、次いで「オンライン会議システム（Zoomなど）の使い方を教えてほしい」が64.7%、「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）の使い方を教えてほしい」が52.5%、「インターネットの利用上の注意を教えてほしい」が51.4%の順となっている。

一方、パソコンを「使っていない」人では「特に希望することはない」（30.2%）を除くと「パソコンやスマートフォンの使い方を教えてほしい」が31.2%と最も高く、次いで「ホームページ（ウェブサイト）や動画を見る方法を教えてほしい」が29.2%、「メールやLINEの使い方を教えてほしい」が27.3%の順となっている。

図表3-5-29 パソコンの利用状況：インターネットの利用に関する希望別

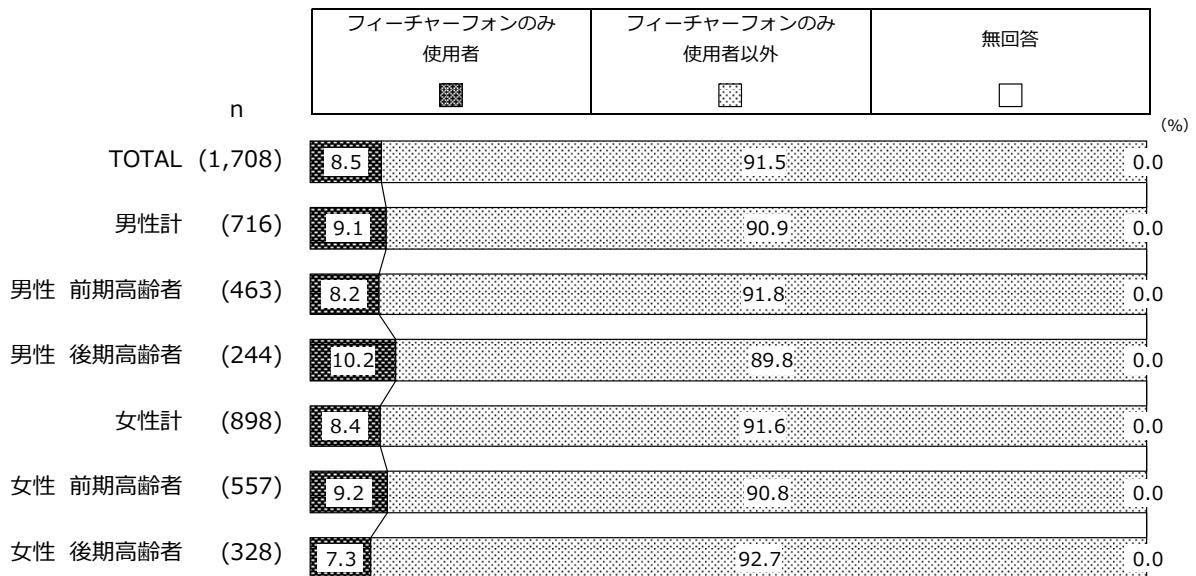


⑤フィーチャーフォンのみの利用者

携帯電話については「今年（2020年）から」または「それより前から」使っていると回答し、スマートフォン・タブレット・パソコンについては「使っていない」と回答した対象者を「フィーチャーフォンのみ使用者」とした。フィーチャーフォンのみの使用者は8.5%となっている。

性別で見ると、大きな違いはみられない。一方、性年代別で見ると、後期高齢者において男性（10.2%）では女性（7.3%）よりも2.9ポイント高くなっている。

図表3-5-30 フィーチャーフォンのみの利用者：性年代別

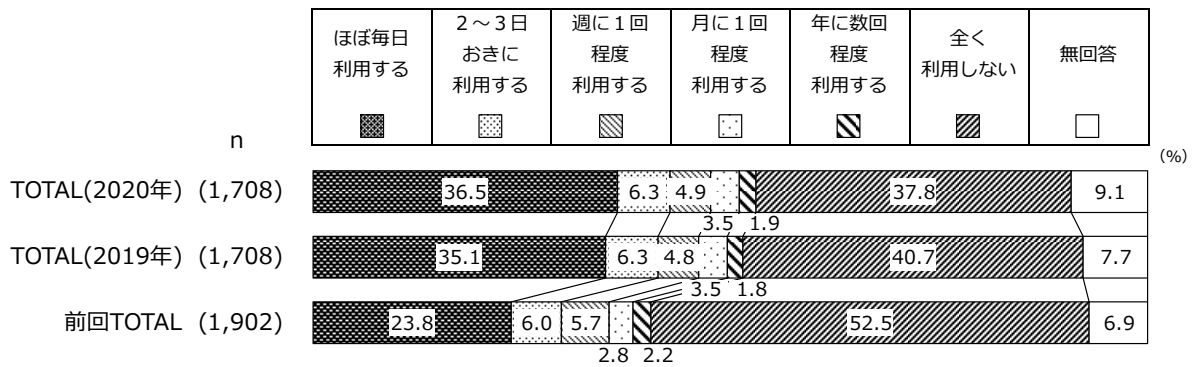


(2) インターネットの利用状況

問23 あなた（宛名のご本人）は、インターネットをどのくらい利用していますか。去年と今年についてお答えください。（それぞれ○は1つ）

インターネットの利用状況について、去年（2019年）・今年（2020年）と前回調査とを比較すると、「ほぼ毎日利用する」が一貫して上昇しており、特に前回調査（23.8%）から去年（2019年）（35.1%）にかけては11.3ポイント上昇している。一方、去年（2019年）から今年（2020年）にかけては、大きな違いはみられない。

図表3-5-31 インターネットの利用状況：経年比較

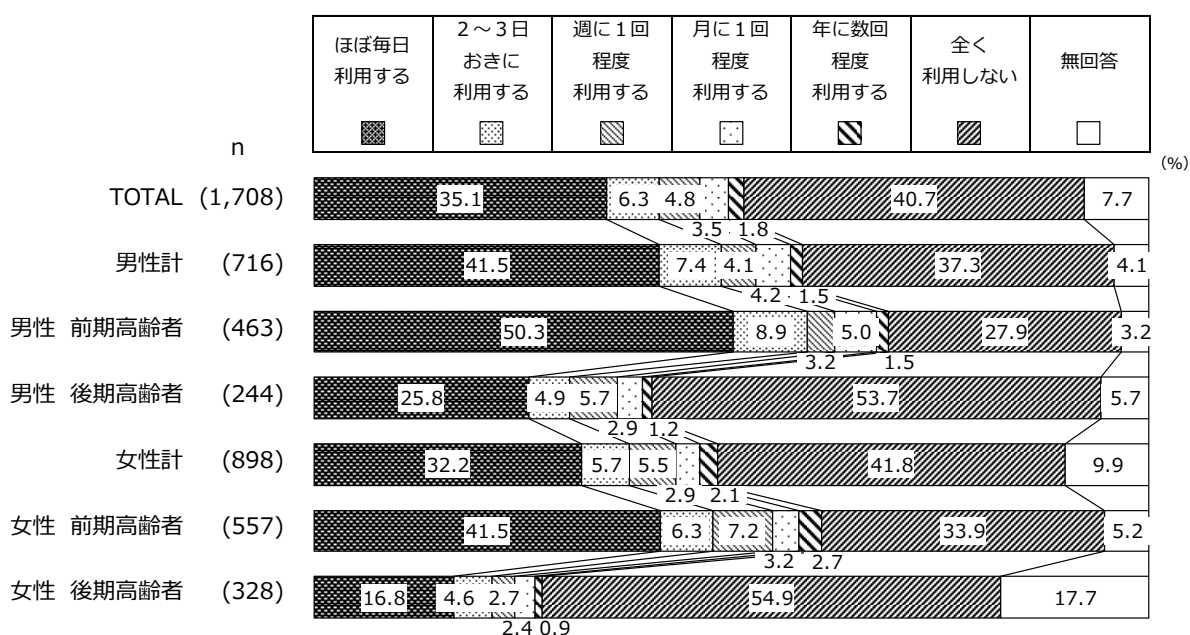


①去年（2019年）のインターネット利用状況

去年（2019年）のインターネット利用状況について、利用していると回答している人の中では「ほぼ毎日利用する」が35.1%と最も高く、次いで「2～3日おきに利用する」が6.3%、「週に1回程度利用する」が4.8%の順となっている。一方、「全く利用しない」は40.7%となっている。

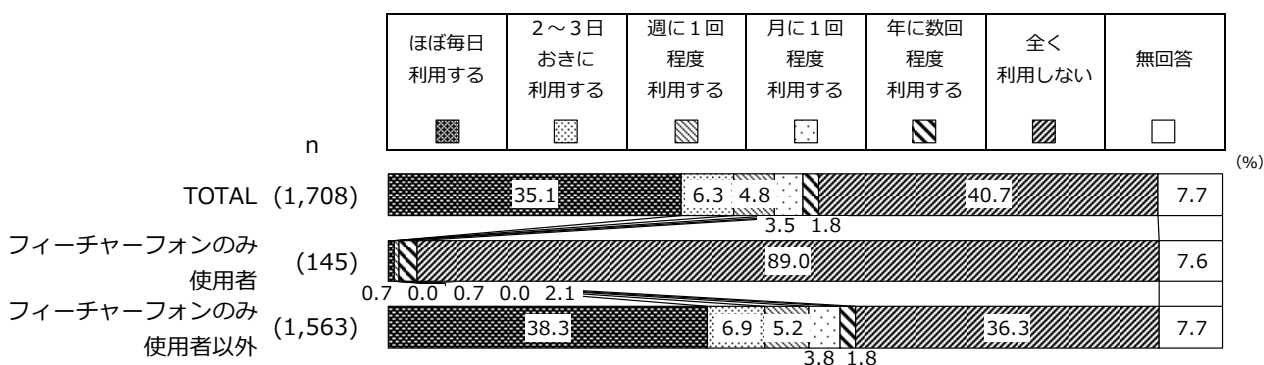
性別でみると、「ほぼ毎日利用する」は男性（41.5%）の方が女性（32.2%）よりも9.3ポイント高くなっているものの、その他の利用頻度においては大きな違いはみられない。性年代別でみると、すべての年代において、男性の方が女性よりも「ほぼ毎日利用する」が高くなっている。また、男女ともに加齢に伴って「ほぼ毎日利用する」が低下（男性24.5ポイント・女性24.7ポイント）している。

図表3-5-32 去年（2019年）のインターネット利用状況：性年代別



フィーチャーフォンの利用状況別にみると、フィーチャーフォンのみ使用者ではインターネットを「全く利用しない」が89.0%と顕著に高くなっている。

図表3-5-33 去年（2019年）のインターネット利用状況：フィーチャーフォン利用状況別

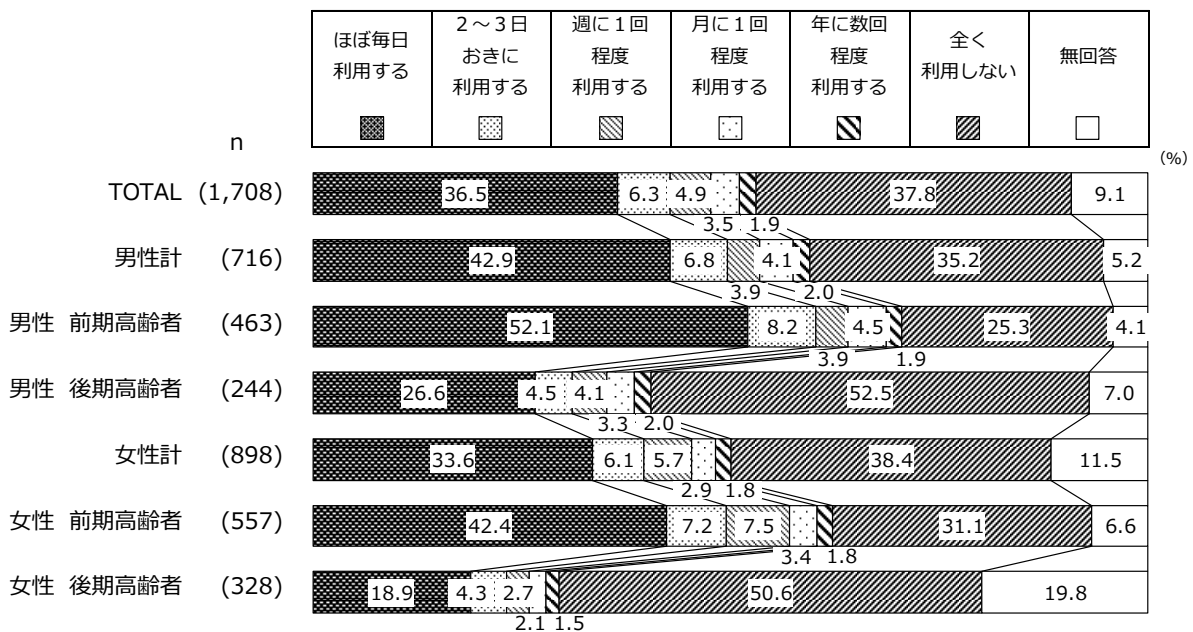


②今年（2020年）のインターネット利用状況

今年（2020年）のインターネット利用状況について、利用していると回答している人の中では「ほぼ毎日利用する」が36.5%と最も高く、次いで「2～3日おきに利用する」が6.3%、「週に1回程度利用する」が4.9%の順となっている。一方、「全く利用しない」は37.8%となっている。

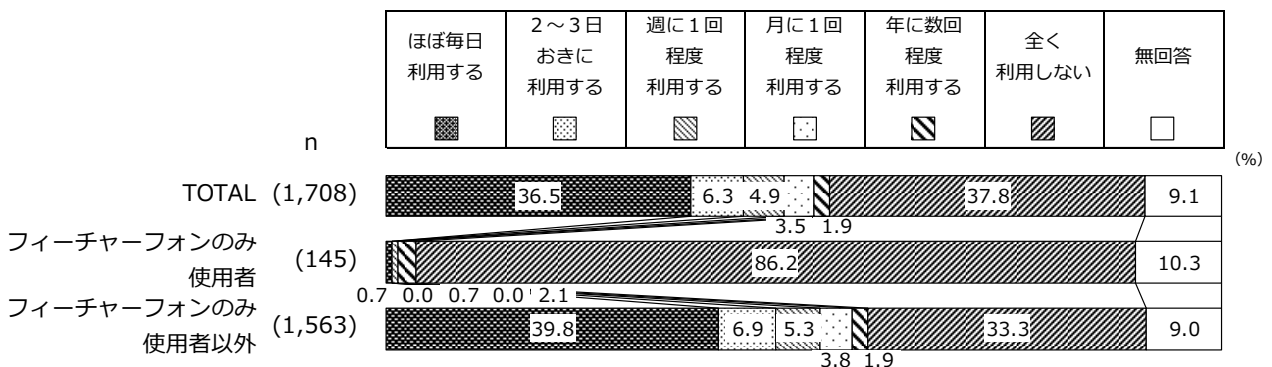
性別で見ると、「ほぼ毎日利用する」は男性（42.9%）の方が女性（33.6%）よりも9.3ポイント高くなっているものの、その他の利用頻度においては大きな違いはみられない。性年代別で見ると、すべての年代において、男性の方が女性よりも「ほぼ毎日利用する」が高くなっている。また、男女ともに加齢に伴って「ほぼ毎日利用する」が低下（男性25.5ポイント・女性23.5ポイント）している。

図表3-5-34 今年（2020年）のインターネット利用状況：性年代別



フィーチャーフォンの利用状況別にみると、フィーチャーフォンのみ使用者ではインターネットを「全く利用しない」が86.2%と顕著に高くなっているものの、去年（2019年）の「全く利用しない」（89.0%）からは2.8ポイント低下しており、インターネットの利用率が微増していることがうかがえる。

図表3-5-35 今年（2020年）のインターネット利用状況：フィーチャーフォン使用状況別



(3) 今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと

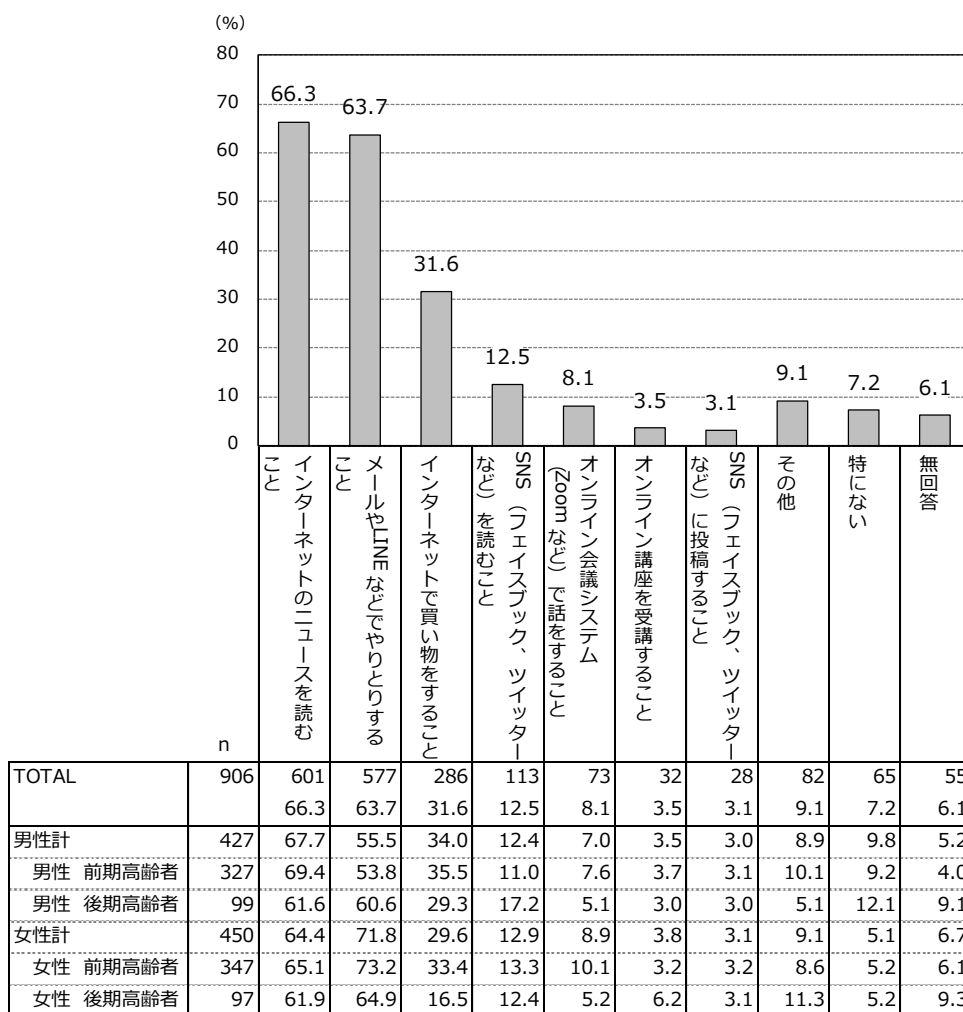
【問23で今年「1. ほぼ毎日利用する」～「5. 年に数回程度利用する」とお答えの方におうかがいします。】

問24 今年、インターネットの利用が増えたこと、またはインターネットで新しく始めたことは、どんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたことについては、「インターネットのニュースを読むこと」が66.3%と最も高く、次いで「メールやLINEなどでやりとりすること」が63.7%、「インターネットで買い物をすること」が31.6%の順となっている。一方、「特にない」は7.2%となっている。

性別で見ると、「メールやLINEなどでやりとりすること」は女性(71.8%)の方が男性(55.5%)よりも16.3ポイント高くなっている。それ以外の項目においては大きな違いはみられない。また、性年代別で見ると、「インターネットで買い物をすること」は男女ともに加齢に伴って低下(男性6.2ポイント・女性16.9ポイント)している。

図表3-5-36 今年、インターネットの利用が増えたこと・新しく始めたこと：性年代別



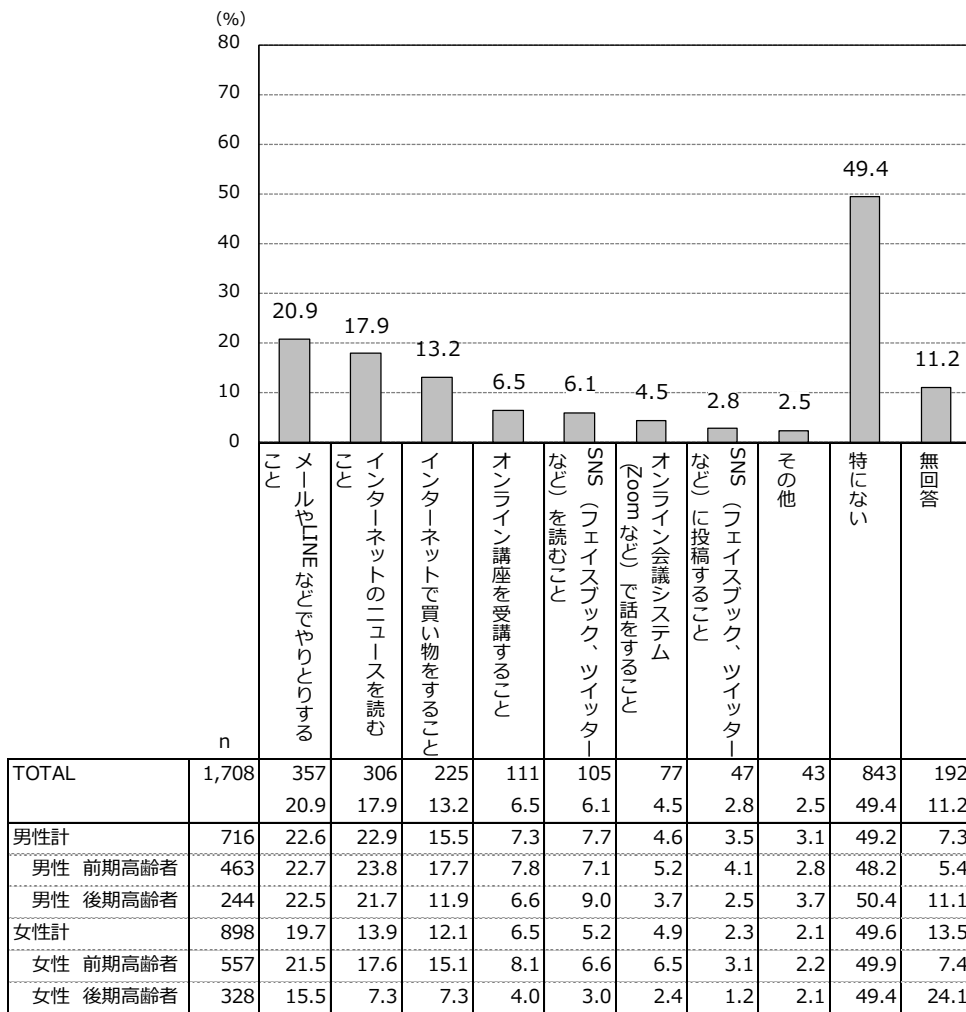
(4) 今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと

問25 あなた(宛名のご本人)は今後、インターネットの利用を増やしたいこと、またはインターネットで新しく始めたいと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいことについては、「特にない」の49.4%を除くと、「メールやLINEなどでやりとりすること」が20.9%と最も高く、次いで「インターネットのニュースを読むこと」が17.9%、「インターネットで買い物をする事」が13.2%の順となっている。

性別で見ると、「インターネットのニュースを読むこと」は男性(22.9%)の方が女性(13.9%)よりも9.0ポイント高くなっている。それ以外の項目においては大きな違いはみられない。性年代別で見ると、「インターネットで買い物をする事」は男女ともに加齢に伴って低下(男性5.8ポイント・女性7.8ポイント)している。

図表3-5-37 今後、インターネットの利用を増やしたいこと・新しく始めたいこと：性年代別



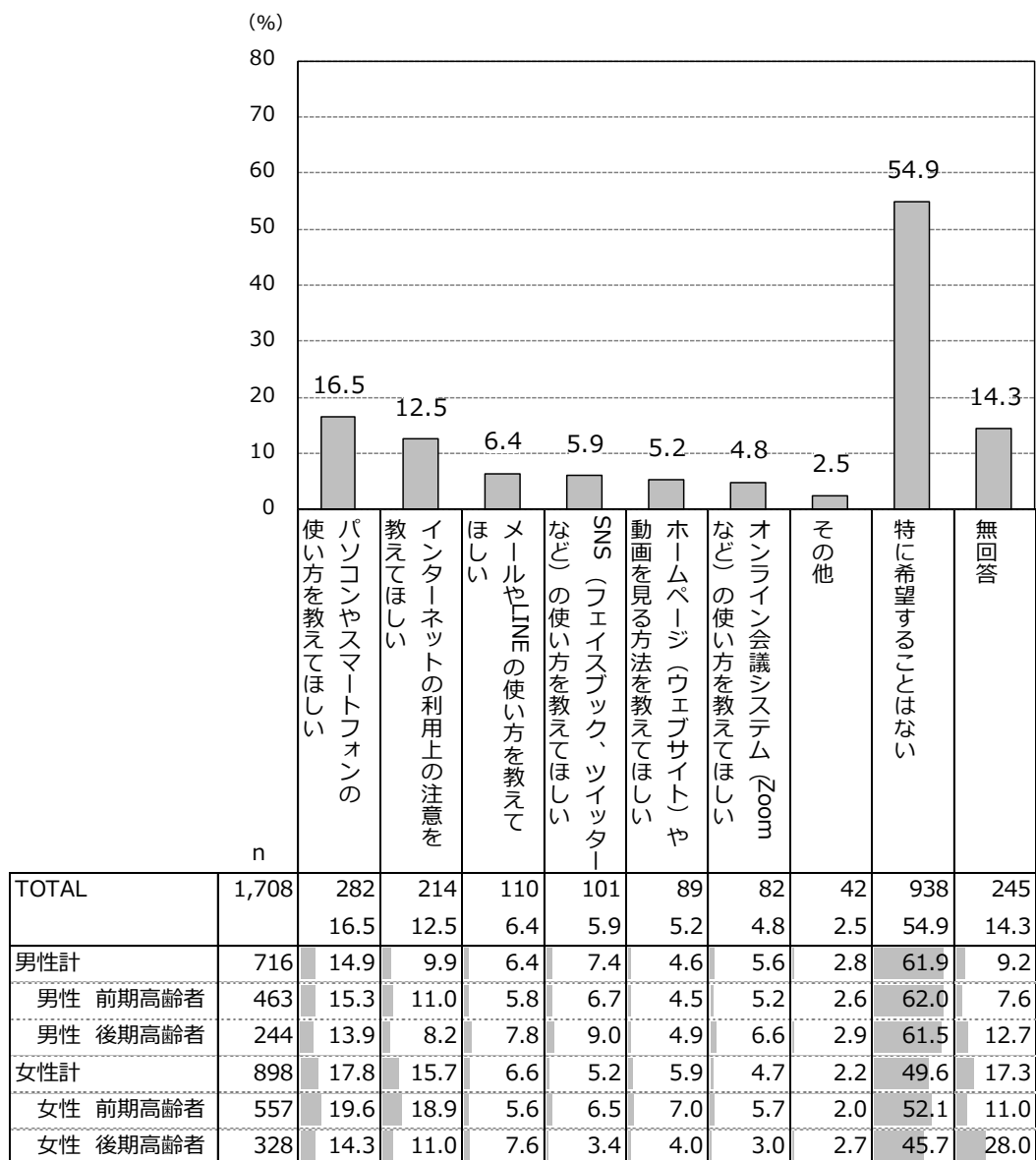
(5) インターネットの利用に関する希望

問26 インターネットの利用に関して、どんなことを希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

インターネットの利用に関する希望については、「特に希望することはない」の54.9%を除くと、「パソコンやスマートフォンの使い方を教えてほしい」が16.5%と最も高く、次いで「インターネットの利用上の注意を教えてほしい」が12.5%、「メールやLINEの使い方を教えてほしい」が6.4%の順となっている。

性別でみると、「インターネットの利用上の注意を教えてほしい」は女性(15.7%)の方が男性(9.9%)よりも5.8ポイント高くなっている。それ以外の項目においては大きな違いはみられない。性年代別でみると、「パソコンやスマートフォンの使い方を教えてほしい」「インターネットの利用上の注意を教えてほしい」はすべての年代において、女性の方が男性よりも高く、男女ともに加齢に伴って低下している。また、「SNS(フェイスブック、ツイッターなど)の使い方を教えてほしい」は、後期高齢者において、男性(9.0%)の方が女性(3.4%)よりも5.6ポイント高くなっている。

図表3-5-38 インターネットの利用に関する希望：性年代別



今年（2020年）のインターネット利用状況別でみると、「パソコンやスマートフォンの使い方を教えてほしい」は利用頻度の増加に伴って低下している。また、「2～3日おきに利用する」では「インターネットの利用上の注意を教えてほしい」が28.7%、「月に1回程度利用する」では「オンライン会議システム（Zoomなど）の使い方を教えてほしい」が10.2%、「年に数回程度利用する」では「メールやLINEの使い方を教えてほしい」が15.6%と、その他の利用頻度と比べて高くなっている。

このことから、インターネットの利用頻度によって希望する項目が明確に異なっていることがうかがえる。

図表3-5-39 インターネットの利用に関する希望：今年（2020年）のインターネット利用状況別

	n	パソコンやスマートフォンの 使い方を教えてほしい	インターネットの利用上の注意を 教えてほしい	メールやLINEの使い方を教えて ほしい	SNS (フェイスブック、ツイッター など)の使い方を教えてほしい	動画を見る方法を教えてほしい	ホームページ(ウェブサイト)や ホームページ	オンライン会議システム(Zoom など)の使い方を教えてほしい	その他	特に希望することはない	無回答
TOTAL	1,708	16.5	12.5	6.4	5.9	5.2	4.8	2.5	54.9	14.3	
ほぼ毎日利用する	623	16.4	18.6	5.1	9.0	6.4	8.0	4.3	57.5	3.5	
2～3日おきに利用する	108	20.4	28.7	8.3	13.0	6.5	8.3	2.8	41.7	8.3	
週に1回程度利用する	84	29.8	19.0	7.1	6.0	10.7	2.4	0.0	50.0	6.0	
月に1回程度利用する	59	28.8	18.6	6.8	5.1	11.9	10.2	1.7	44.1	8.5	
年に数回程度利用する	32	31.3	0.0	15.6	6.3	3.1	3.1	3.1	50.0	0.0	
全く利用しない	646	15.2	5.4	7.3	2.9	3.4	2.0	1.4	62.7	16.9	

6. 地域活動などへの参加状況について

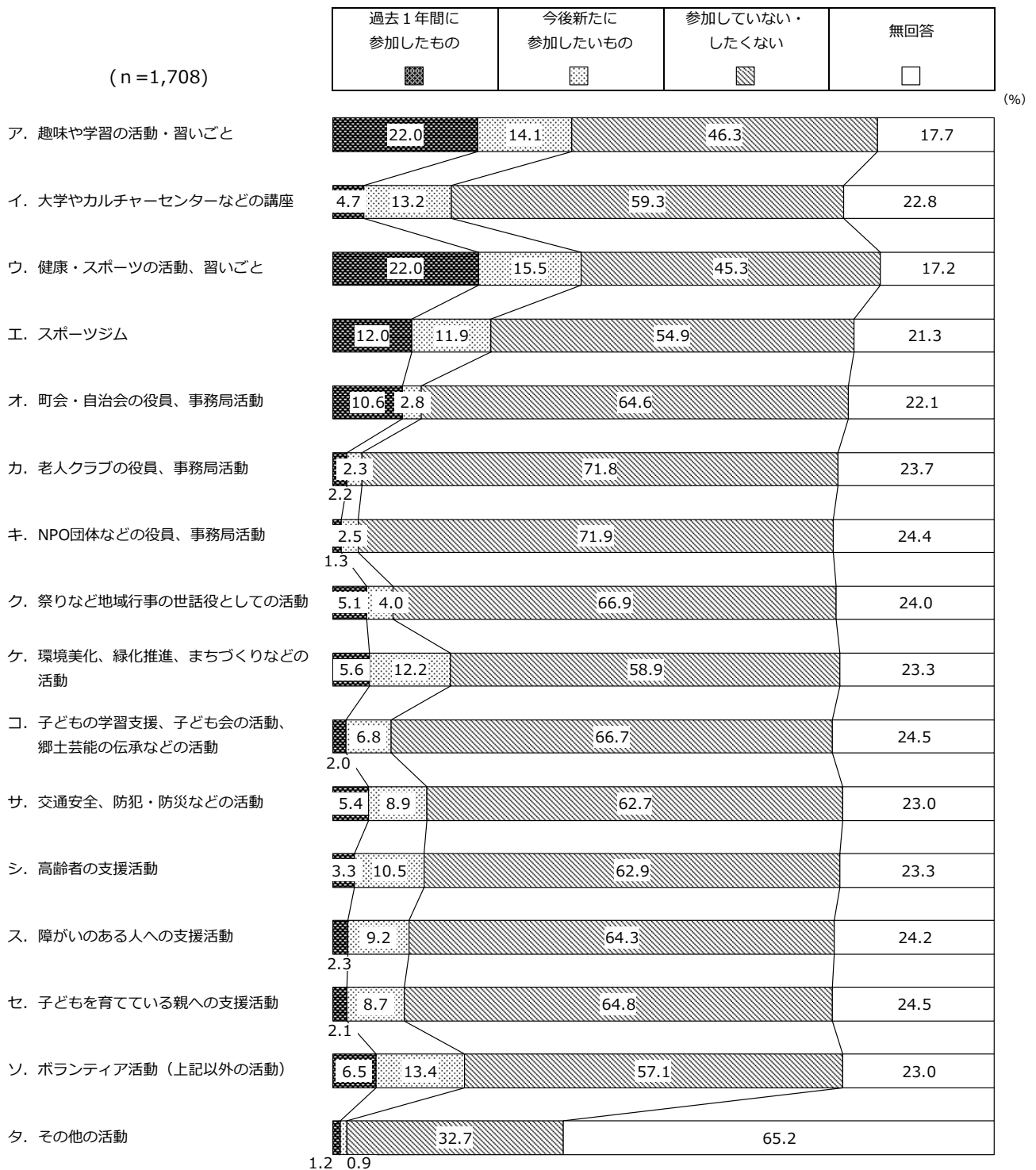
(1) 過去1年間に参加した活動・今後新たに参加したい活動

問27 あなた（宛名のご本人）は過去1年間に、個人・団体で次のような活動に参加したことがありますか（手伝いも含む）。また、「今後新たに参加したいもの」はありますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

過去1年間に参加した活動及び今後新たに参加したい活動について、「過去1年間に参加したもの」では、「趣味や学習の活動・習いごと（語学・音楽・囲碁・俳句など）」「健康・スポーツの活動、習いごと」がともに22.0%と最も高く、次いで「スポーツジム」が12.0%、「町会・自治会の役員、事務局活動」が10.6%の順となっている。また、「今後新たに参加したいもの」では、「健康・スポーツの活動、習いごと」が15.5%と最も高く、次いで「趣味や学習の活動・習いごと」が14.1%、「ボランティア活動（上記以外の活動）」が13.4%の順となっている。

なお、いずれかの選択肢に「過去1年間に参加したもの」と回答した人は794人（46.5%）、すべての選択肢に「参加していない・したくない」と回答した人は321人（18.8%）、それ以外の人（593人（34.7%））であった。

図表3-6-1 過去1年間に参加した活動・今後新たに参加したい活動

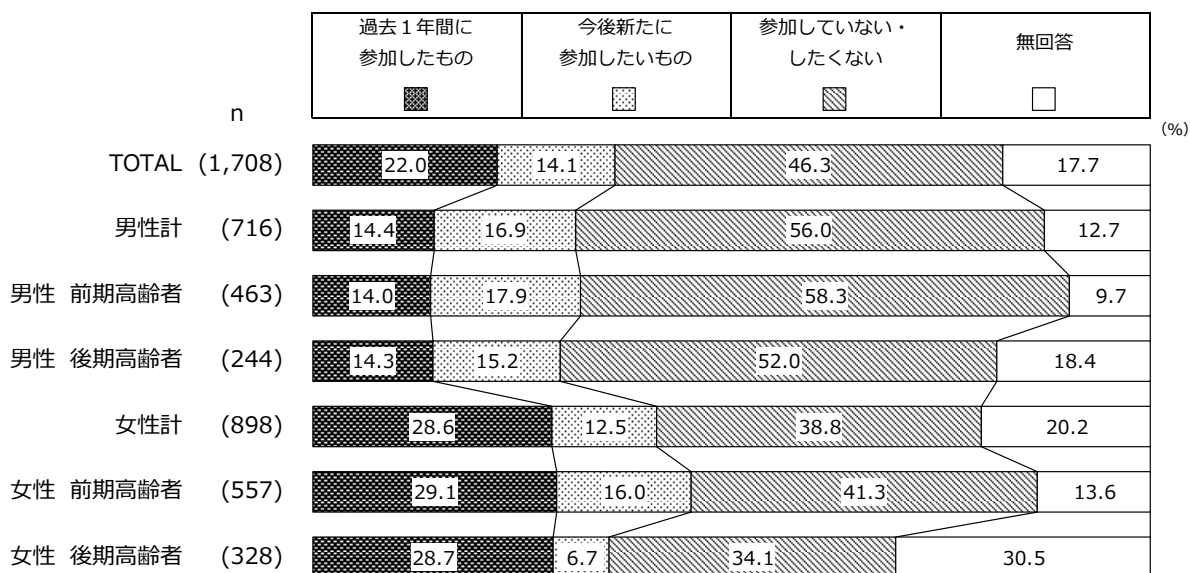


①趣味や学習の活動・習いごと（語学・音楽・囲碁・俳句など）

趣味や学習の活動・習いごとについては、「過去1年間に参加したもの」が22.0%、「今後新たに参加したいもの」が14.1%となっている。

性別でみると、「過去1年間に参加したもの」では女性（28.6%）の方が男性（14.4%）よりも14.2ポイント高くなっている。一方、「今後新たに参加したいもの」では男性が16.9%で女性が12.5%と大きな違いはみられない。性年代別でみると、「過去1年間に参加したもの」ではどの年代においても女性の方が男性よりも高く、「今後新たに参加したいもの」ではどの年代においても男性の方が女性よりも高くなっている。また、「過去1年間に参加したもの」では男女ともに加齢に伴う大きな違いがみられない。一方、「今後新たに参加したいもの」で、男性では加齢に伴う大きな違いがみられないのに対して、女性では加齢に伴い9.3ポイント低下している。

図表3-6-2 趣味や学習の活動・習いごとへの参加状況・参加意向：性年代別

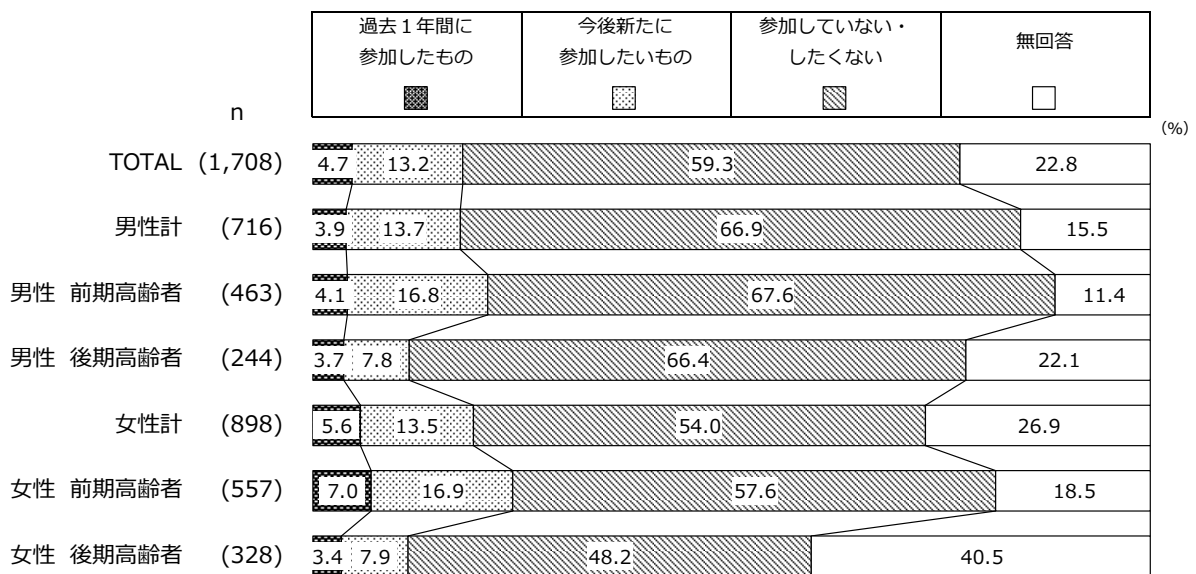


②大学やカルチャーセンターなどの講座

大学やカルチャーセンターなどの講座については、「過去1年間に参加したもの」が4.7%、「今後新たに参加したいもの」が13.2%となっている。

性別で見ると、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で男女に大きな違いはみられない。また、性年代別で見ると、「過去1年間に参加したもの」では男女ともに加齢に伴う大きな違いがみられない。一方、「今後新たに参加したいもの」では男女ともに加齢に伴い低下（男女ともに9.0ポイント）している。

図表3-6-3 大学やカルチャーセンターなどの講座への参加状況・参加意向：性年代別

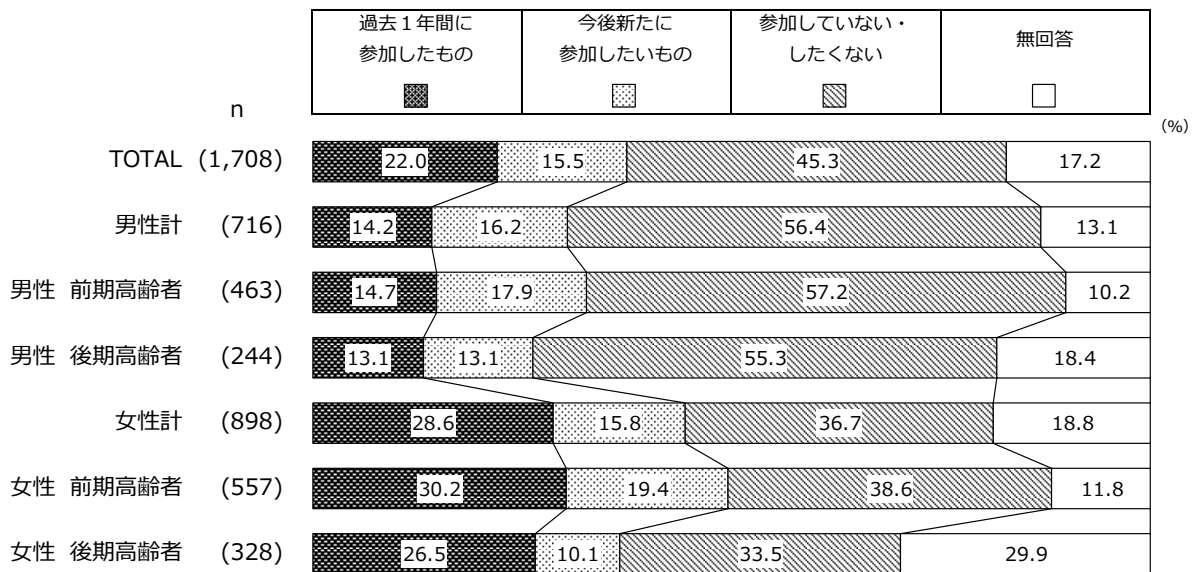


③健康・スポーツの活動、習いごと（体操・ゲートボール・ダンスなど）

健康・スポーツの活動、習いごとについては、「過去1年間に参加したもの」が22.0%、「今後新たに参加したいもの」が15.5%となっている。

性別で見ると、「過去1年間に参加したもの」では女性（28.6%）の方が男性（14.2%）よりも14.4ポイント高くなっている。一方、「今後新たに参加したいもの」では男性が16.2%で女性が15.8%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、「過去1年間に参加したもの」ではどの年代においても女性の方が男性よりも高く、「今後新たに参加したいもの」では大きな違いがみられない。また、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で、男女ともに加齢に伴い低下している。

図表3-6-4 健康・スポーツの活動、習いごとへの参加状況・参加意向：性年代別

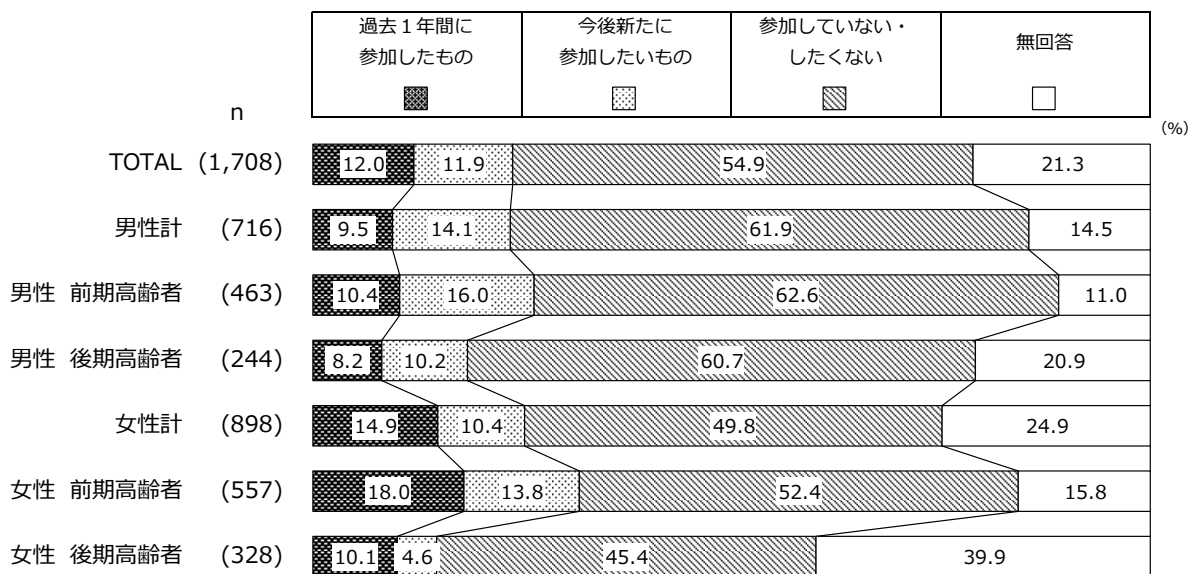


④スポーツジム

スポーツジムについては、「過去1年間に参加したもの」が12.0%、「今後新たに参加したいもの」が11.9%となっている。

性別で見ると、「過去1年間に参加したもの」では女性（14.9%）の方が男性（9.5%）よりも5.4ポイント高くなっている。一方、「今後新たに参加したいもの」では男性が14.1%で女性が10.4%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、「過去1年間に参加したもの」ではどの年代においても女性の方が男性よりも高く、「今後新たに参加したいもの」ではどの年代においても男性の方が女性よりも高くなっている。また、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で、男女ともに加齢に伴い低下している。

図表3-6-5 スポーツジムへの参加状況・参加意向：性年代別

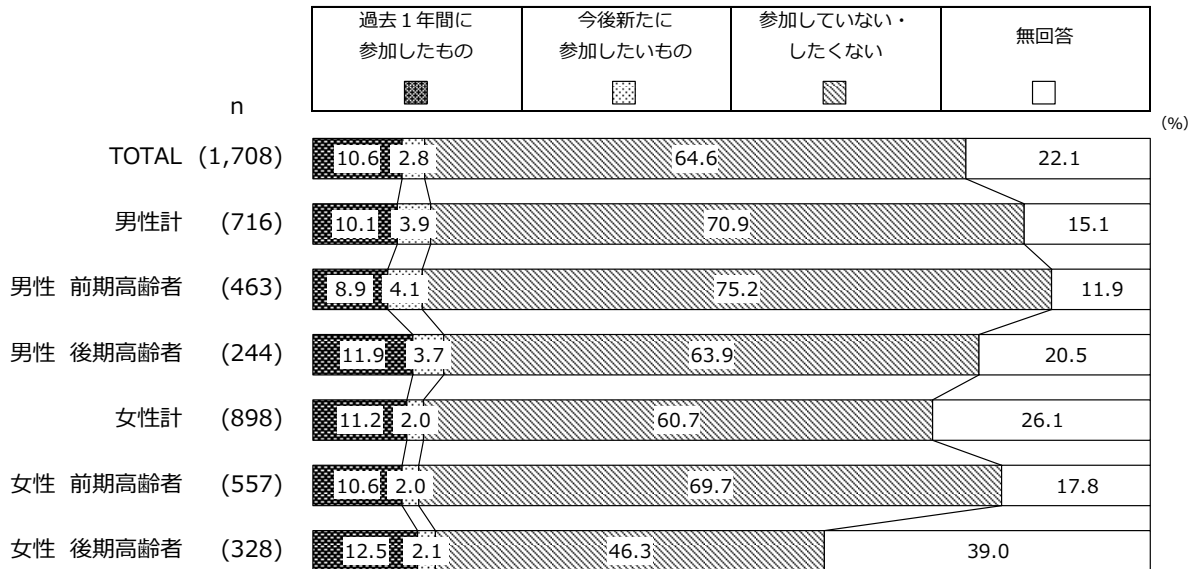


⑤町会・自治会の役員、事務局活動

町会・自治会の役員、事務局活動については、「過去1年間に参加したもの」が10.6%、「今後新たに参加したいもの」が2.8%となっている。

性別・性年代別では、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で、男女差・加齢に伴う大きな違いはみられない。

図表3-6-6 町会・自治会の役員、事務局活動への参加状況・参加意向：性年代別

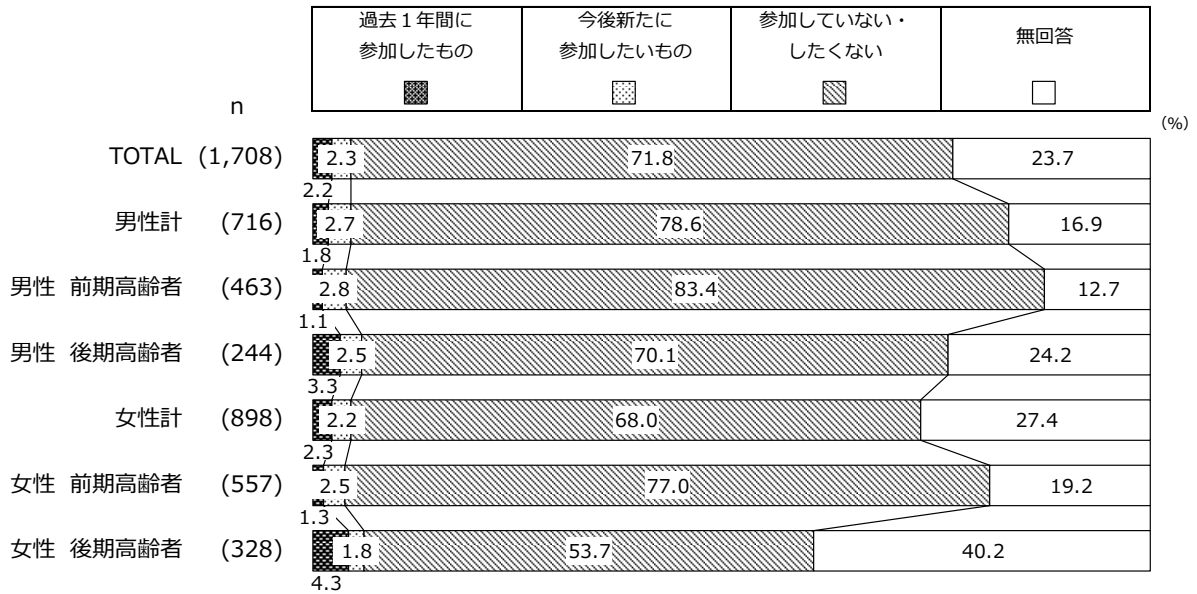


⑥老人クラブの役員、事務局活動

老人クラブの役員、事務局活動については、「過去1年間に参加したもの」が2.2%、「今後新たに参
加したいもの」が2.3%となっている。

性別・性年代別では、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で、男女差・
加齢に伴う大きな違いはみられない。

図表3-6-7 老人クラブの役員、事務局活動への参加状況・参加意向：性年代別

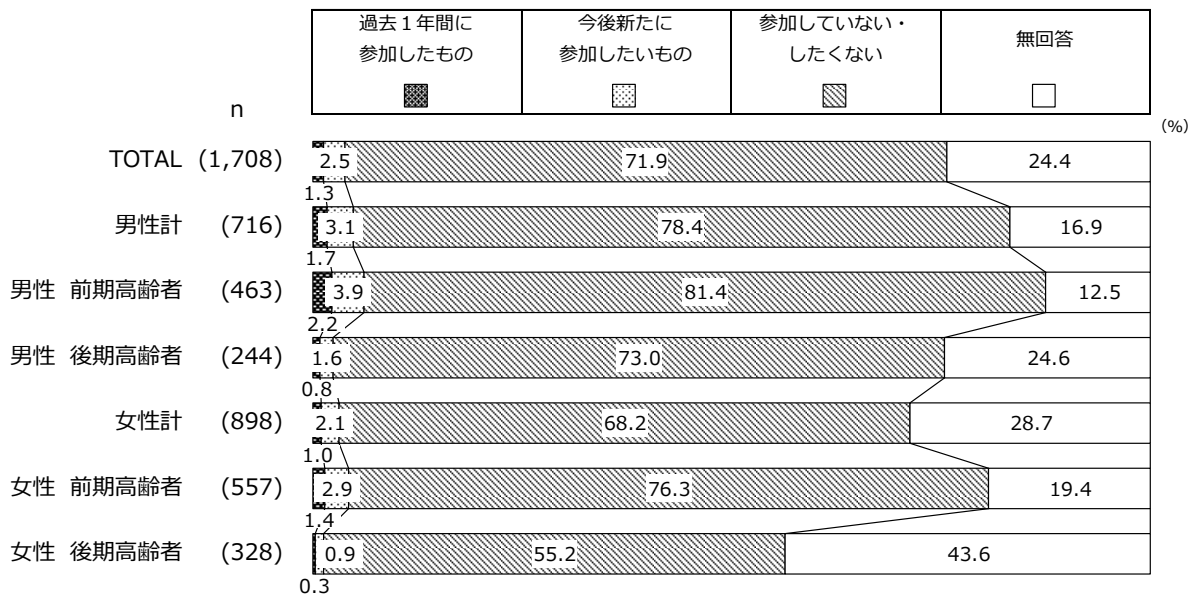


⑦ NPO団体などの役員、事務局活動

NPO団体などの役員、事務局活動については、「過去1年間に参加したもの」が1.3%、「今後新たに参加したいもの」が2.5%となっている。

性別・性年代別では、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で、男女差・加齢に伴う大きな違いはみられない。

図表3-6-8 NPO団体などの役員、事務局活動への参加状況・参加意向：性年代別

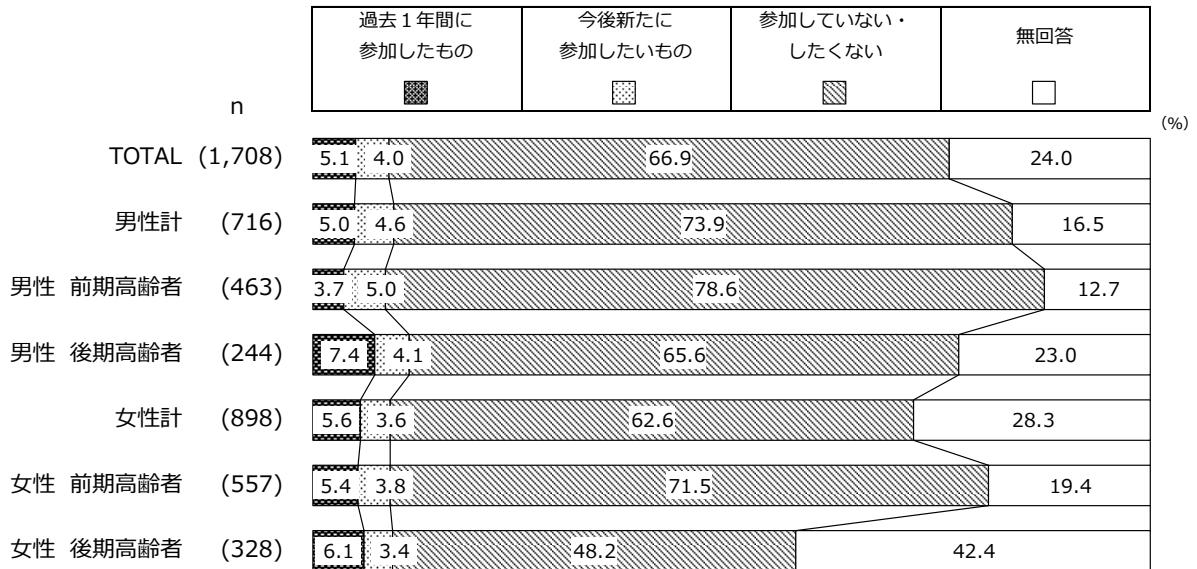


⑧祭りなど地域行事の世話役としての活動

祭りなど地域行事の世話役としての活動については、「過去1年間に参加したもの」が5.1%、「今後新たに参加したいもの」が4.0%となっている。

性別・性年代別では、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で、男女差・加齢に伴う大きな違いはみられない。

図表3-6-9 祭りなど地域行事の世話役としての活動への参加状況・参加意向：性年代別

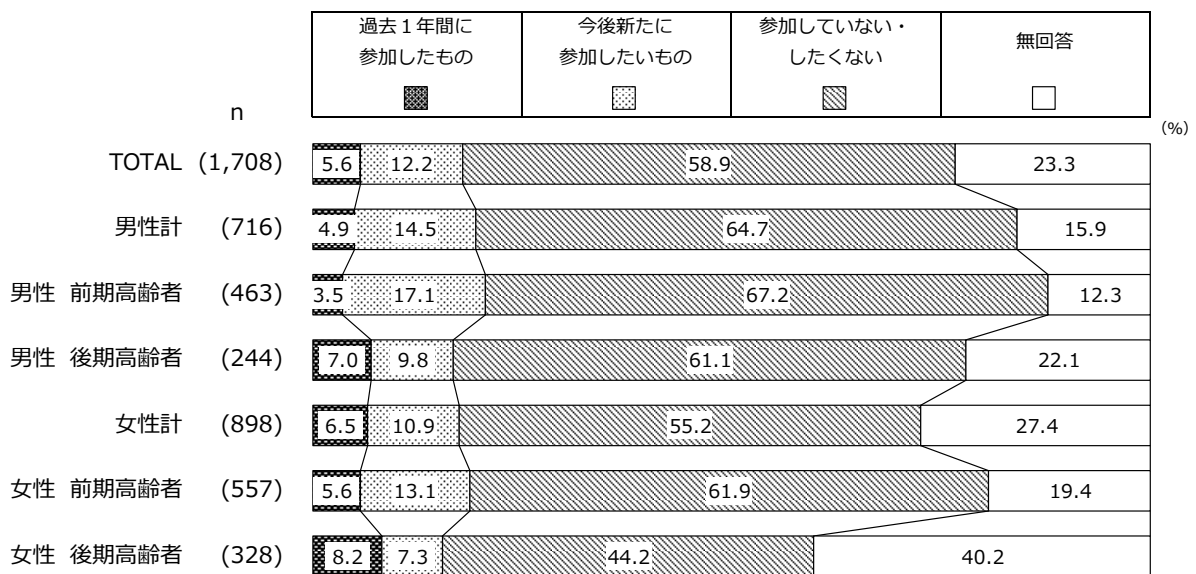


⑨環境美化、緑化推進、まちづくりなどの活動

環境美化、緑化推進、まちづくりなどの活動については、「過去1年間に参加したもの」が5.6%、「今後新たに参加したいもの」が12.2%となっている。

性別で見ると、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で男女に大きな違いはみられない。また、性年代別で見ると、「過去1年間に参加したもの」では男女ともに加齢に伴う大きな違いがみられないのに対して、「今後新たに参加したいもの」では男女ともに加齢に伴い低下している。

図表3-6-10 環境美化、緑化推進、まちづくりなどの活動への参加状況・参加意向：性年代別

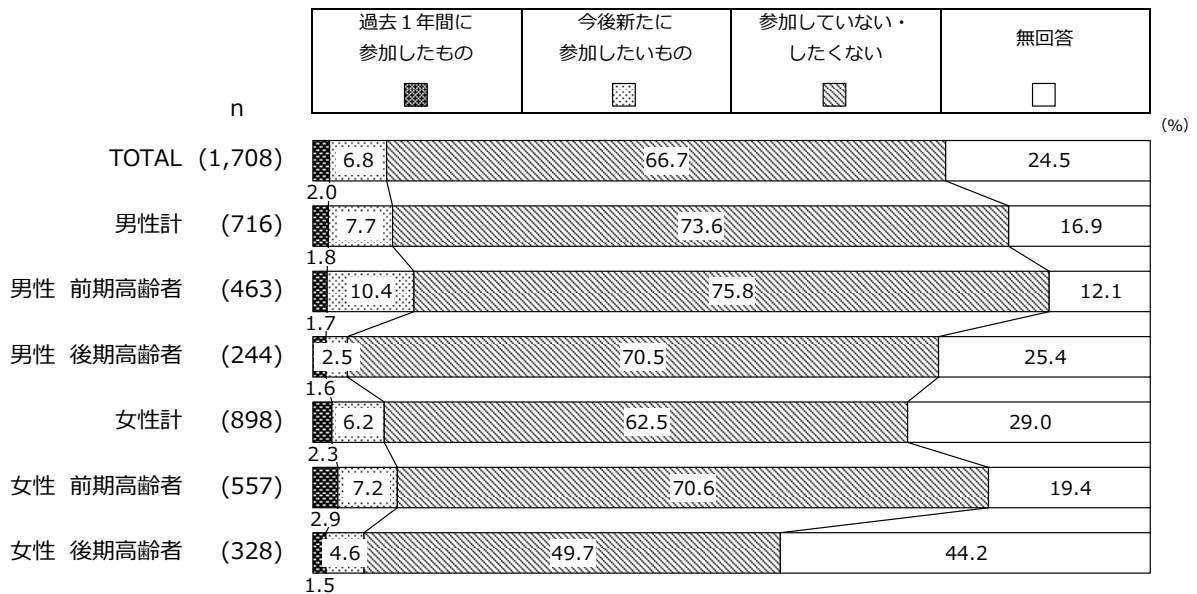


⑩子どもの学習支援、子ども会の活動、郷土芸能の伝承などの活動

子どもの学習支援、子ども会の活動、郷土芸能の伝承などの活動については、「過去1年間に参加したもの」が2.0%、「今後新たに参加したいもの」が6.8%となっている。

性別で見ると、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で男女に大きな違いはみられない。また、性年代別で見ると、「過去1年間に参加したもの」では男女ともに加齢に伴う大きな違いがみられない。一方、「今後新たに参加したいもの」で、男性では加齢に伴い低下しているのに対して、女性では加齢に伴う大きな違いがみられない。

図表3-6-11 子どもの学習支援、子ども会の活動、郷土芸能の伝承などの活動への参加状況・参加意向：性年代別

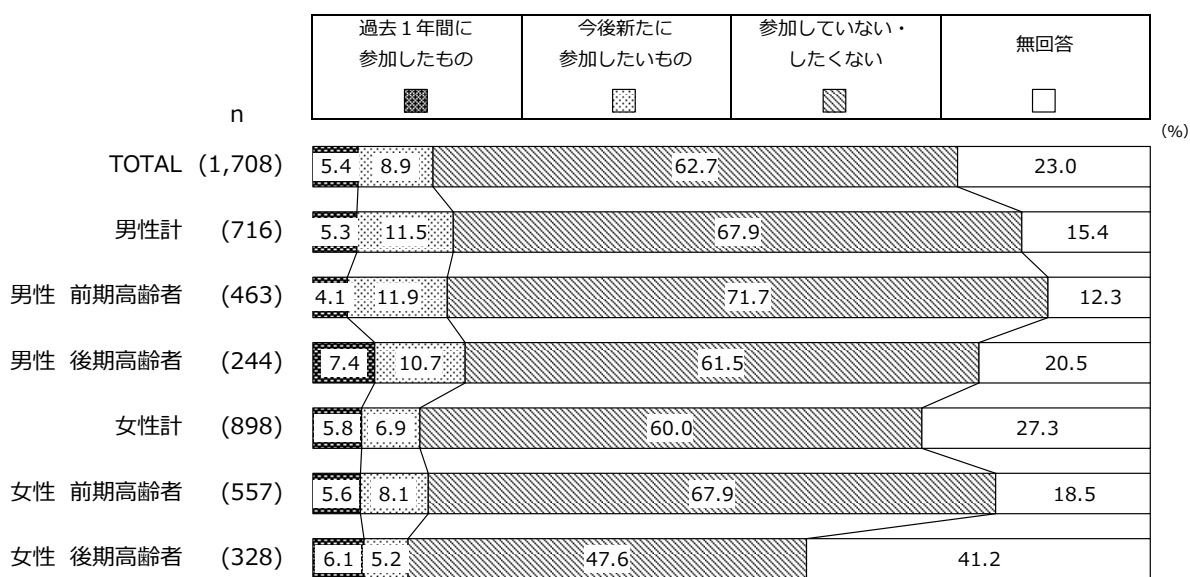


⑪交通安全、防犯・防災などの活動

交通安全、防犯・防災などの活動については、「過去1年間に参加したもの」が5.4%、「今後新たに参加したいもの」が8.9%となっている。

性別で見ると、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で男女に大きな違いはみられない。性年代別で見ると、「過去1年間に参加したもの」ではどの年代においても男女で大きな違いがみられない。一方、「今後新たに参加したいもの」では前期で大きな違いがみられないのに対して、後期では男性の方が女性よりも高くなっている。また、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で、男女ともに加齢に伴う大きな違いがみられない。

図表3-6-12 交通安全、防犯・防災などの活動への参加状況・参加意向：性年代別

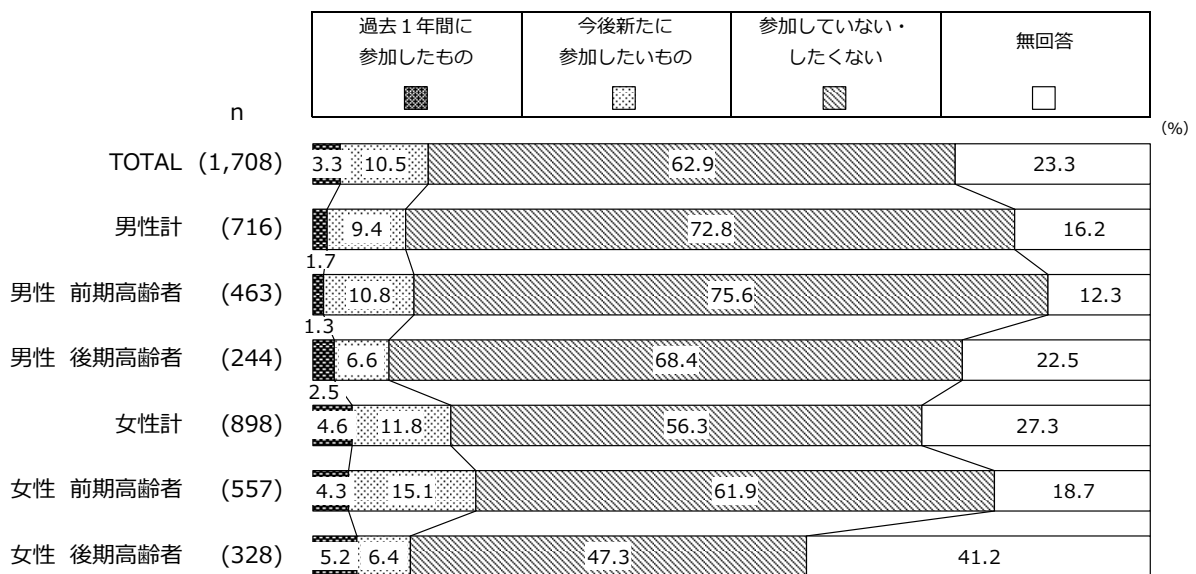


⑫高齢者の支援活動（話し相手、見守り、家事援助、移動支援など）

高齢者の支援活動については、「過去1年間に参加したもの」が3.3%、「今後新たに参加したいもの」が10.5%となっている。

性別で見ると、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で男女に大きな違いはみられない。また、性年代別で見ると、「過去1年間に参加したもの」では男女ともに加齢に伴う大きな違いがみられない。一方、「今後新たに参加したいもの」で、男性では加齢に伴う大きな違いがみられないのに対して、女性では加齢に加齢に伴い低下している。

図表3-6-13 高齢者の支援活動への参加状況・参加意向：性年代別

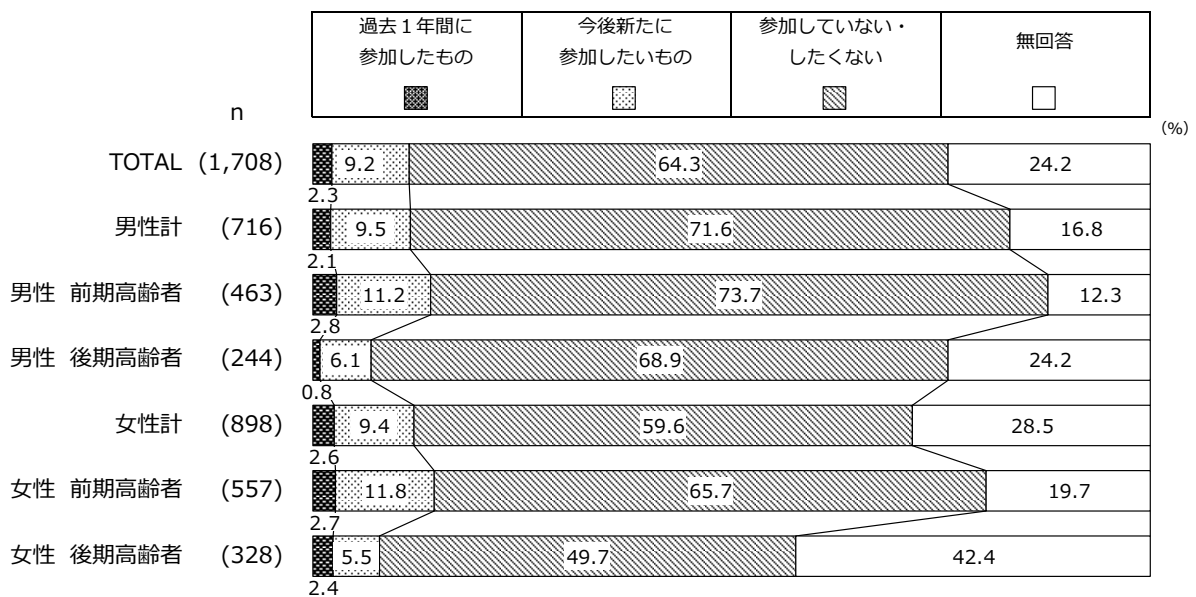


⑬障がいのある人への支援活動

障がいのある人への支援活動については、「過去1年間に参加したもの」が2.3%、「今後新たに参加したいもの」が9.2%となっている。

性別で見ると、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で男女に大きな違いはみられない。また、性年代別で見ると、「過去1年間に参加したもの」では男女ともに加齢に伴う大きな違いがみられないのに対して、「今後新たに参加したいもの」では男女ともに加齢に伴い低下している。

図表3-6-14 障がいのある人への支援活動への参加状況・参加意向：性年代別

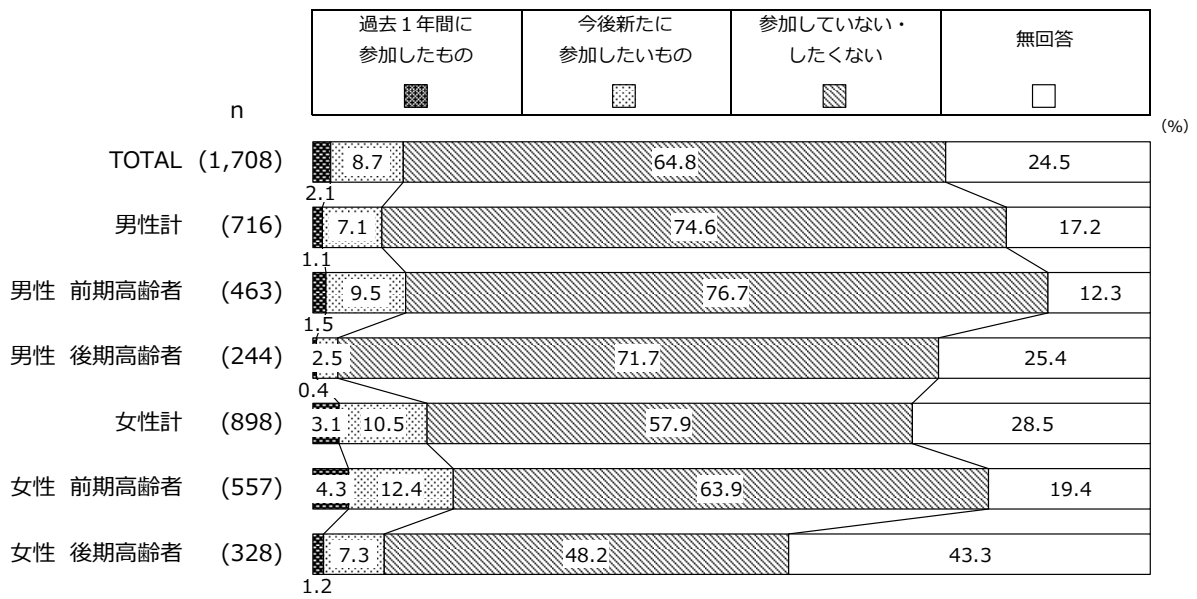


⑭子どもを育てている親への支援活動（保育の手伝いなど）

子どもを育てている親への支援活動については、「過去1年間に参加したもの」が2.1%、「今後新たに参加したいもの」が8.7%となっている。

性別で見ると、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で男女に大きな違いはみられない。また、性年代別で見ると、「過去1年間に参加したもの」では男女ともに加齢に伴う大きな違いがみられないのに対して、「今後新たに参加したいもの」では男女ともに加齢に伴い低下している。

図表3-6-15 子どもを育てている親への支援活動への参加状況・参加意向：性年代別

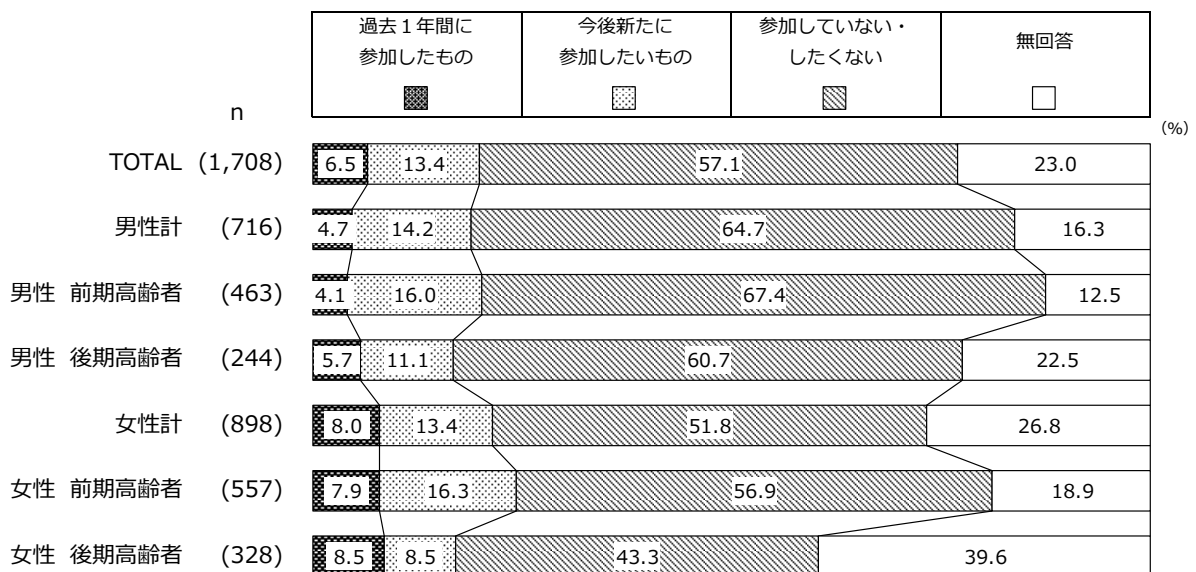


⑮ ボランティア活動（上記以外の活動）

前述以外のボランティア活動については、「過去1年間に参加したもの」が6.5%、「今後新たに参加したいもの」が13.4%となっている。

性別でみると、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で男女に大きな違いはみられない。また、性年代別でみると、「過去1年間に参加したもの」では男女ともに加齢に伴う大きな違いがみられない。一方、「今後新たに参加したいもの」で、男性では加齢に伴う大きな違いがみられないのに対して、女性では加齢に加齢に伴い低下している。

図表3-6-16 ボランティア活動（上記以外の活動）への参加状況・参加意向：性年代別

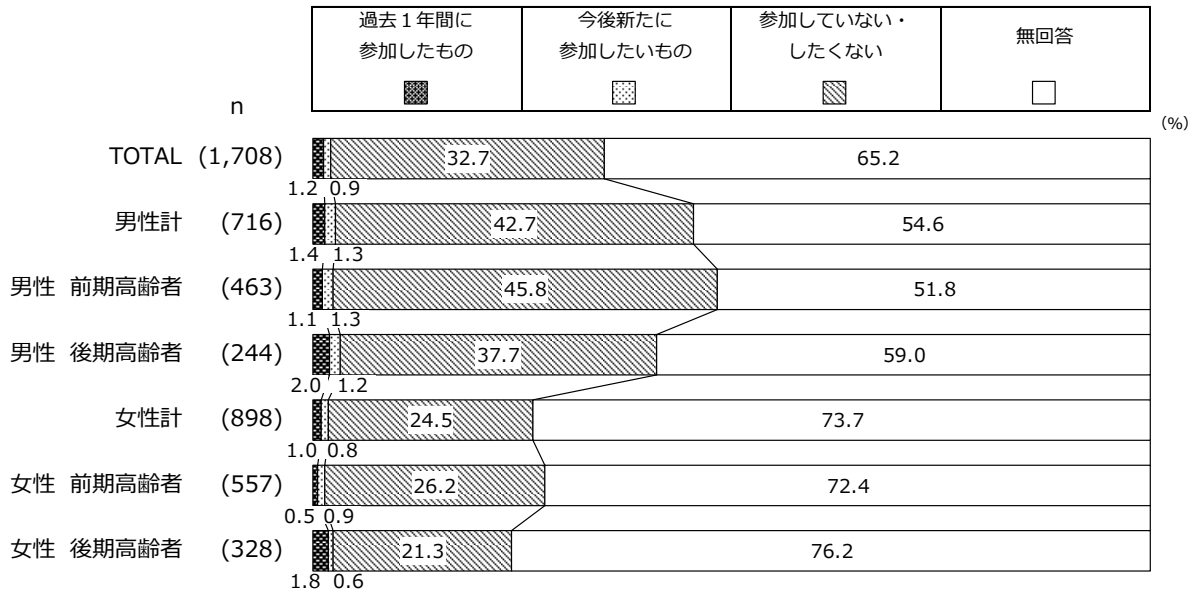


⑩その他の活動

その他の活動については、「過去1年間に参加したもの」が1.2%、「今後新たに参加したいもの」が0.9%となっている。

性別・性年代別では、「過去1年間に参加したもの」「今後新たに参加したいもの」の両方で、男女差・加齢に伴う大きな違いはみられない。

図表3-6-17 その他の活動への参加状況・参加意向：性年代別



(2) 過去1年間に最も多く参加した活動

【問27で「過去1年間に参加したもの」についておうかがいします。】

問27-1

- ① 最も多く参加したものはどれですか。前ページ問27の記号ア～タまでのいずれか1つをご記入ください。
- ② その活動にどのくらいの頻度で参加しましたか。去年と今年についてお答えください。(それぞれ○は1つ)
- ③ その活動を始めたきっかけは何ですか。(○は1つのみ)

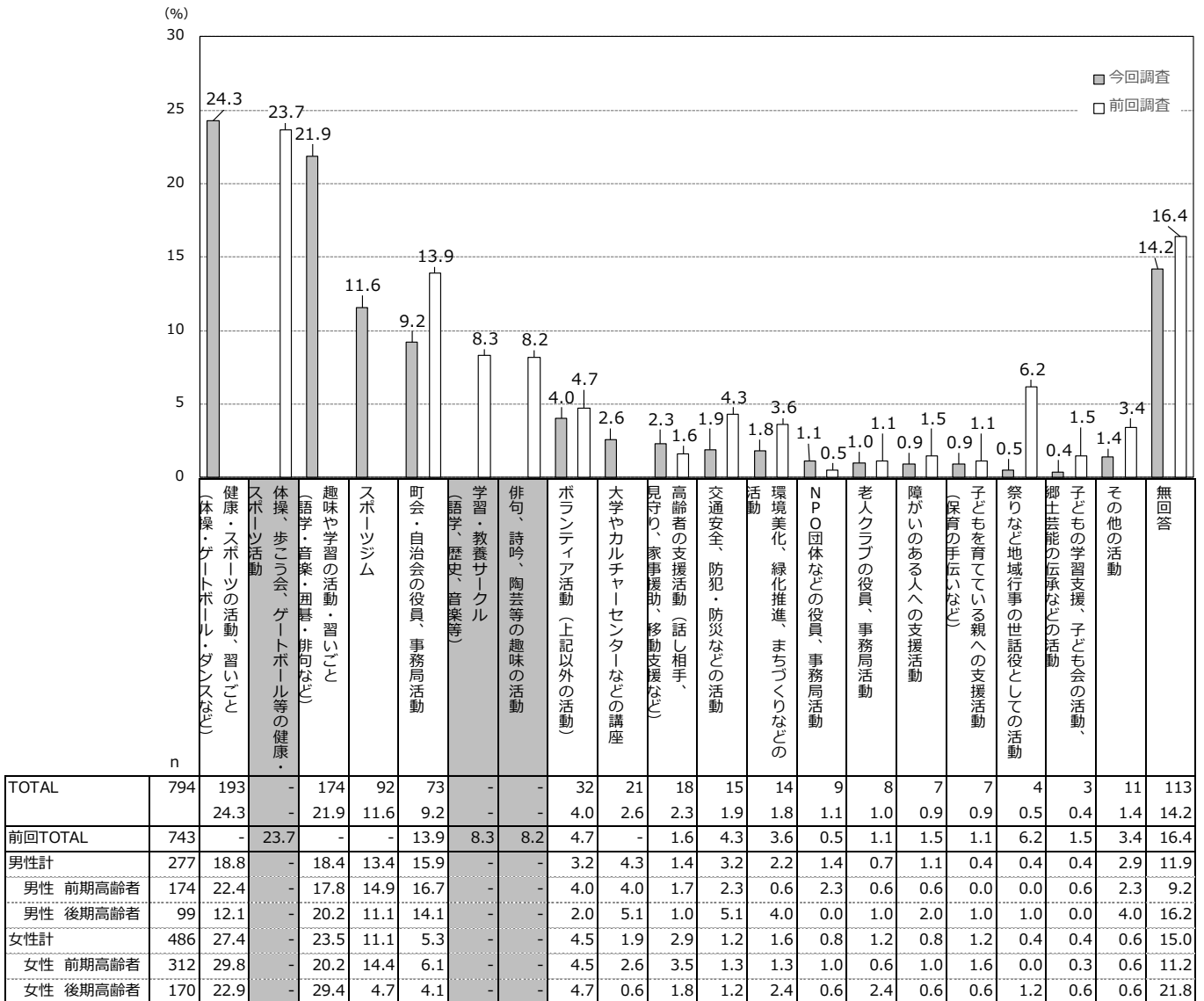
①過去1年間に最も多く参加した活動

過去1年間に最も多く参加した活動については、「健康・スポーツの活動、習いごと（体操・ゲートボール・ダンスなど）」が24.3%と最も高く、次いで「趣味や学習の活動・習いごと（語学・音楽・囲碁・俳句など）」が21.9%、「スポーツジム」が11.6%、「町会・自治会の役員、事務局活動」が9.2%、「ボランティア活動（上記以外の活動）」が4.0%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「町会・自治会の役員、事務局活動（15.9%）」が高く、女性では男性よりも「健康・スポーツの活動、習いごと（体操・ゲートボール・ダンスなど）（27.4%）」「趣味や学習の活動・習いごと（語学・音楽・囲碁・俳句など）（23.5%）」が高くなっている。性年代別で見ると、男女ともに加齢に伴って「健康・スポーツの活動、習いごと」が低く（男性10.3ポイント・女性6.9ポイント）なっている。また、女性では加齢に伴って「趣味や学習の活動・習いごと」が9.2ポイント上昇、「スポーツジム」が9.7ポイント低下している。

前回調査と比較すると、「祭りなど地域行事の世話役としての活動（0.5%）」が5.7ポイント低下している。

図表3-6-18 最も多く参加した活動：性年代別



※前回調査では「俳句、詩吟、陶芸等の趣味の活動」「学習・教養サークル（語学、歴史、音楽等）」
 「体操、歩こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動」としていた選択肢を、
 今回調査では「趣味や学習の活動・習いごと（語学・音楽・囲碁・俳句など）」
 「大学やカルチャーセンターなどの講座」「健康・スポーツの活動、習いごと（体操・ゲートボール・ダンスなど）」
 に変更している。
 また、今回調査では「スポーツジム」の選択肢を追加している。

②最も多く参加した活動への参加頻度

最も多く参加した活動への参加頻度について、去年（2019年）・今年（2020年）と前回調査とを比較すると、前回から去年（2019年）にかけては、「年に数回」「不定期」が低下、それ以外の項目が上昇している。一方、去年（2019年）から今年（2020年）にかけて、参加したと回答している人の中では、「不定期」以外の項目で低下している。また、「参加していない」が2.9%から19.9%と17.0ポイント上昇している。

このことから、去年（2019年）までには活動への参加頻度が上がっていたのに対して、今年は新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響を受けて活動頻度が大きく下がったことがわかる。

図表3-6-19 最も多く参加した活動への参加頻度：経年比較

	n	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	月2～3回	月に1回	年に数回	不定期	参加していない 去年/今年は	無回答
TOTAL (2020年)	794	6.8	17.9	15.2	-	11.1	9.4	5.4	7.6	19.9	6.7
TOTAL (2019年)	794	9.1	25.2	19.0	-	16.9	10.6	6.5	3.9	2.9	5.9
前回TOTAL	743	7.7	12.4	13.9	26.5	-	-	15.5	9.0	-	15.1

※前回調査では「月1～3回」としていた選択肢を、

今回調査では「月2～3回」「月に1回」に変更している。

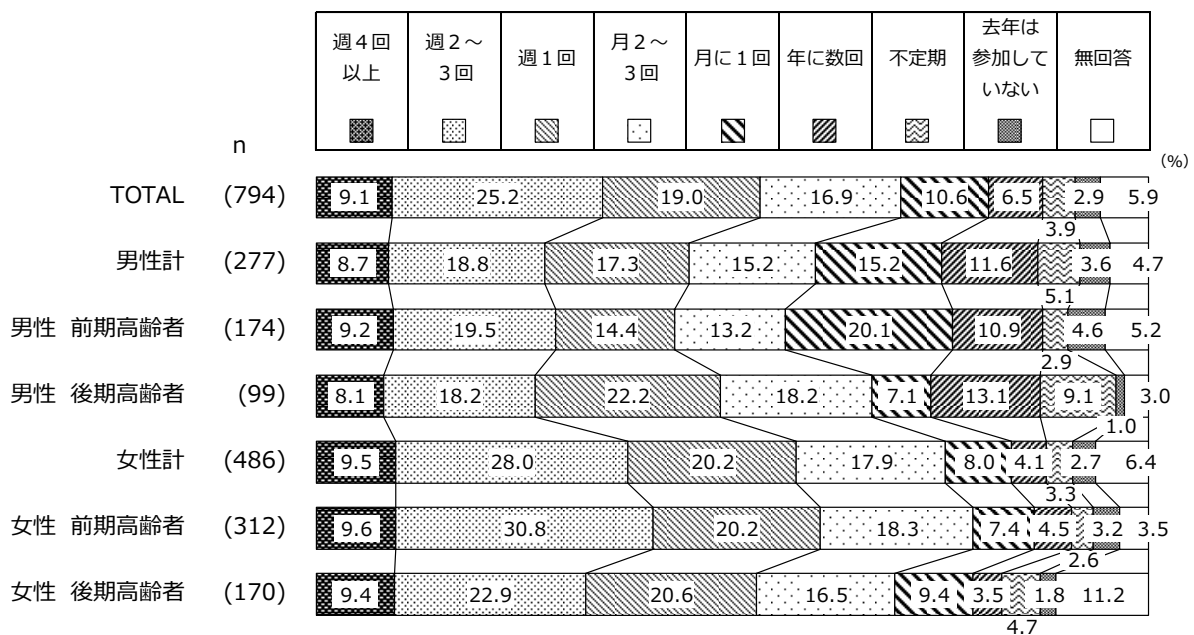
また、今回調査では「去年は参加していない」「今年は参加していない」の選択肢を追加している。

②-1 去年（2019年）最も多く参加した活動への参加頻度

去年（2019年）最も多く参加した活動への参加頻度について、参加したと回答している人の中では、「週2～3回」が25.2%と最も高く、次いで「週1回」が19.0%、「月2～3回」が16.9%の順となっている。一方、「去年は参加していない」は2.9%となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「月に1回（15.2%）」「年に数回（11.6%）」が高く、女性では男性よりも「週2～3回（28.0%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性後期高齢者では前期高齢者と比べて「週1回（22.2%）」「月2～3回（18.2%）」「不定期（9.1%）」が高く、「月に1回（7.1%）」が低くなっている。一方、女性後期高齢者では「週2～3回（22.9%）」が前期高齢者と比べて低くなっている。

図表3-6-20 去年（2019年）最も多く参加した活動への参加頻度：性年代別

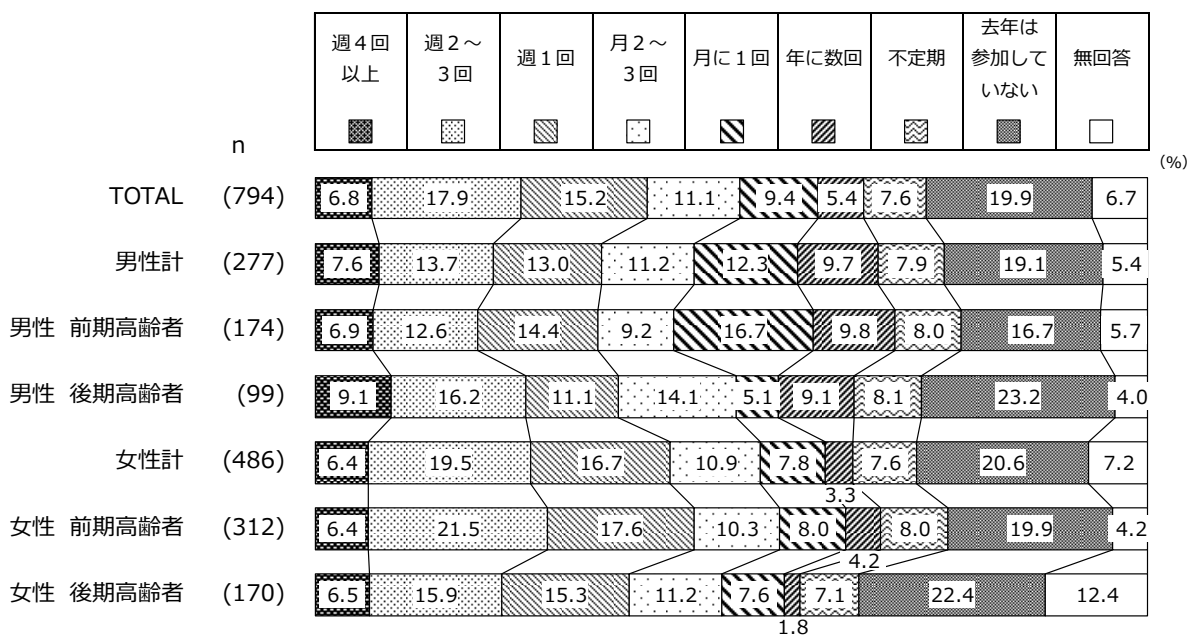


②-2 今年（2020年）最も多く参加した活動への参加頻度

今年（2020年）最も多く参加した活動への参加頻度について、参加したと回答している人の中では、「週2～3回」が17.9%と最も高く、次いで「週1回」が15.2%、「月2～3回」が11.1%の順となっている。一方、「今年は参加していない」は19.9%となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「年に数回（9.7%）」が高く、女性では男性よりも「週2～3回（19.5%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性後期高齢者では前期高齢者と比べて「今年は参加していない（23.2%）」が高く、「月に1回（5.1%）」が低くなっている。一方、女性後期高齢者では「週2～3回（15.9%）」が前期高齢者と比べて低くなっている。

図表3-6-21 今年（2020年）最も多く参加した活動への参加頻度：性年代別



③最も多く参加した活動を始めたきっかけ

最も多く参加した活動を始めたきっかけについては、「個人の意思（自分がやりたいことや、問題意識・解決したい課題がある）」が29.8%と最も高く、次いで「友人・知人の勧め」が22.5%、「町会・自治会、老人クラブからの誘い」が10.2%の順となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「友人・知人の勧め（24.9%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性では加齢に伴って「家族の勧め」が8.6%から3.0%と5.6ポイント、女性では加齢に伴って「個人の意思」が33.7%から22.4%と11.3ポイント、それぞれ低下している。

図表3-6-22 最も多く参加した活動を始めたきっかけ：性年代別

n	友人・知人の勧め	家族の勧め	町会・自治会、 老人クラブからの誘い	活動団体からの呼びかけ	区ホームページその他 （「広報いたばし」、 区からの情報	（広報紙、ホームページその他 活動団体からの情報	町会・自治会、老人クラブ、 活動団体からの情報	問題意識・解決したい課題がある	個人の意思 （自分がやりたいことや、 問題意識・解決したい課題がある）	その他	特になし	無回答
TOTAL	794	22.5	4.7	10.2	4.2	6.3	1.8	29.8	6.8	3.5	10.2	
男性計	277	18.1	6.5	11.6	5.8	4.7	2.2	32.1	6.5	4.0	8.7	
男性 前期高齢者	174	18.4	8.6	9.8	6.3	4.0	1.7	33.9	5.2	3.4	8.6	
男性 後期高齢者	99	18.2	3.0	14.1	4.0	6.1	3.0	29.3	9.1	5.1	8.1	
女性計	486	24.9	3.1	9.3	3.1	7.2	1.6	29.6	7.4	3.1	10.7	
女性 前期高齢者	312	23.7	3.8	8.3	2.9	6.7	1.0	33.7	9.0	3.5	7.4	
女性 後期高齢者	170	26.5	1.8	11.2	3.5	8.2	2.9	22.4	4.7	2.4	16.5	

(3) 活動に参加していない理由

【問27でア～タのすべてに「3」と回答した方におうかがいします。】

問27-2

- ① 参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)
- ② 参加をするきっかけになると思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

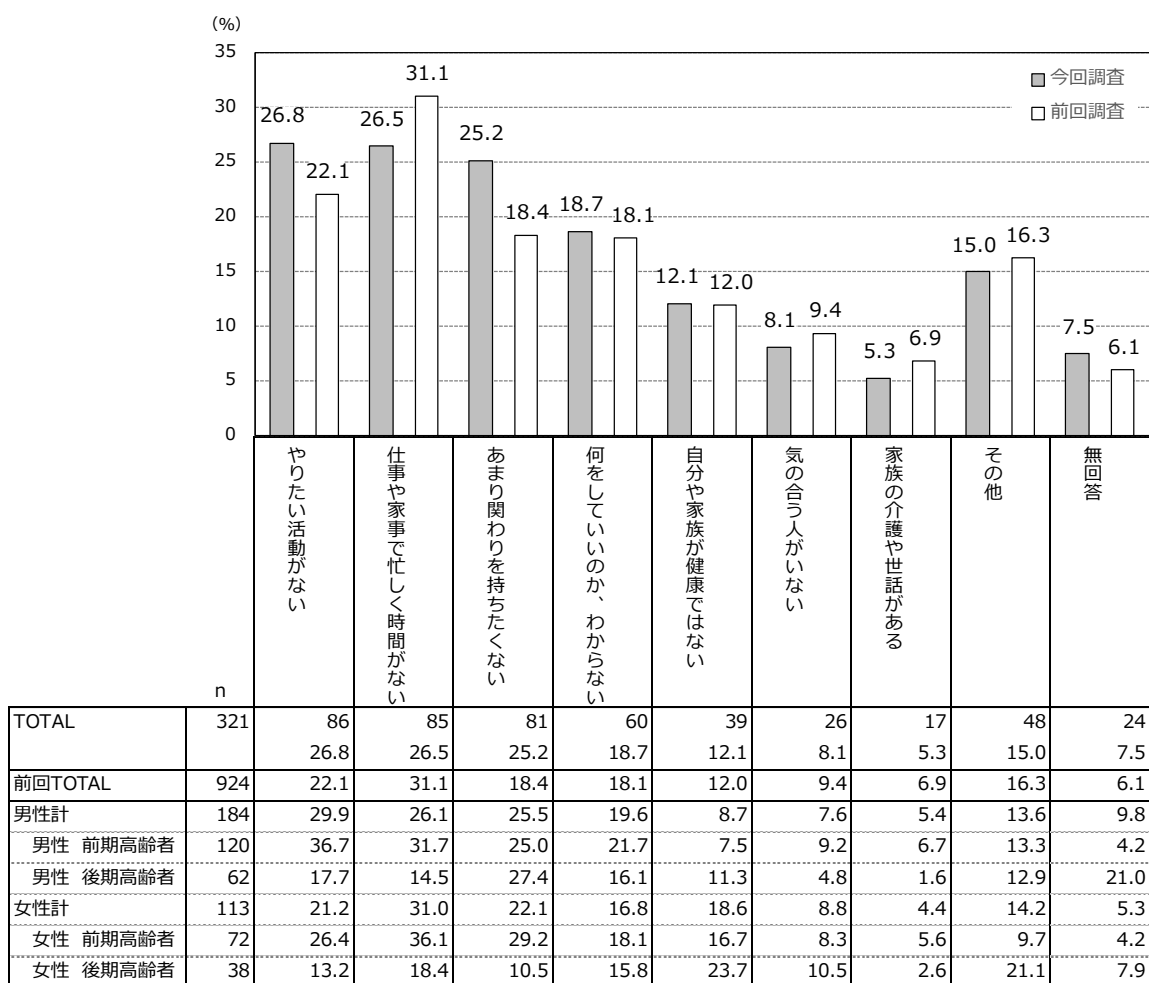
①活動に参加していない理由

活動に参加していない理由については、「やりたい活動がない」が26.8%と最も高く、次いで「仕事や家事で忙しく時間がない」が26.5%、「あまり関わりを持ちたくない」が25.2%の順となっている。

性別でみると、男性では女性よりも「やりたい活動がない(29.9%)」が高く、女性では男性よりも「自分や家族が健康ではない(18.6%)」が高くなっている。また、性年代別でみると、男性前期高齢者では「やりたい活動がない(36.7%)」「仕事や家事で忙しく時間がない(31.7%)」が、女性前期高齢者では「仕事や家事で忙しく時間がない(36.1%)」が、女性後期高齢者では「自分や家族が健康ではない(23.7%)」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。男性後期高齢者では、全体と比べて高くなっている項目がみられない。

前回調査と比較すると、「あまり関わりを持ちたくない」が6.8ポイント上昇している。

図表3-6-23 活動に参加していない理由：性年代別



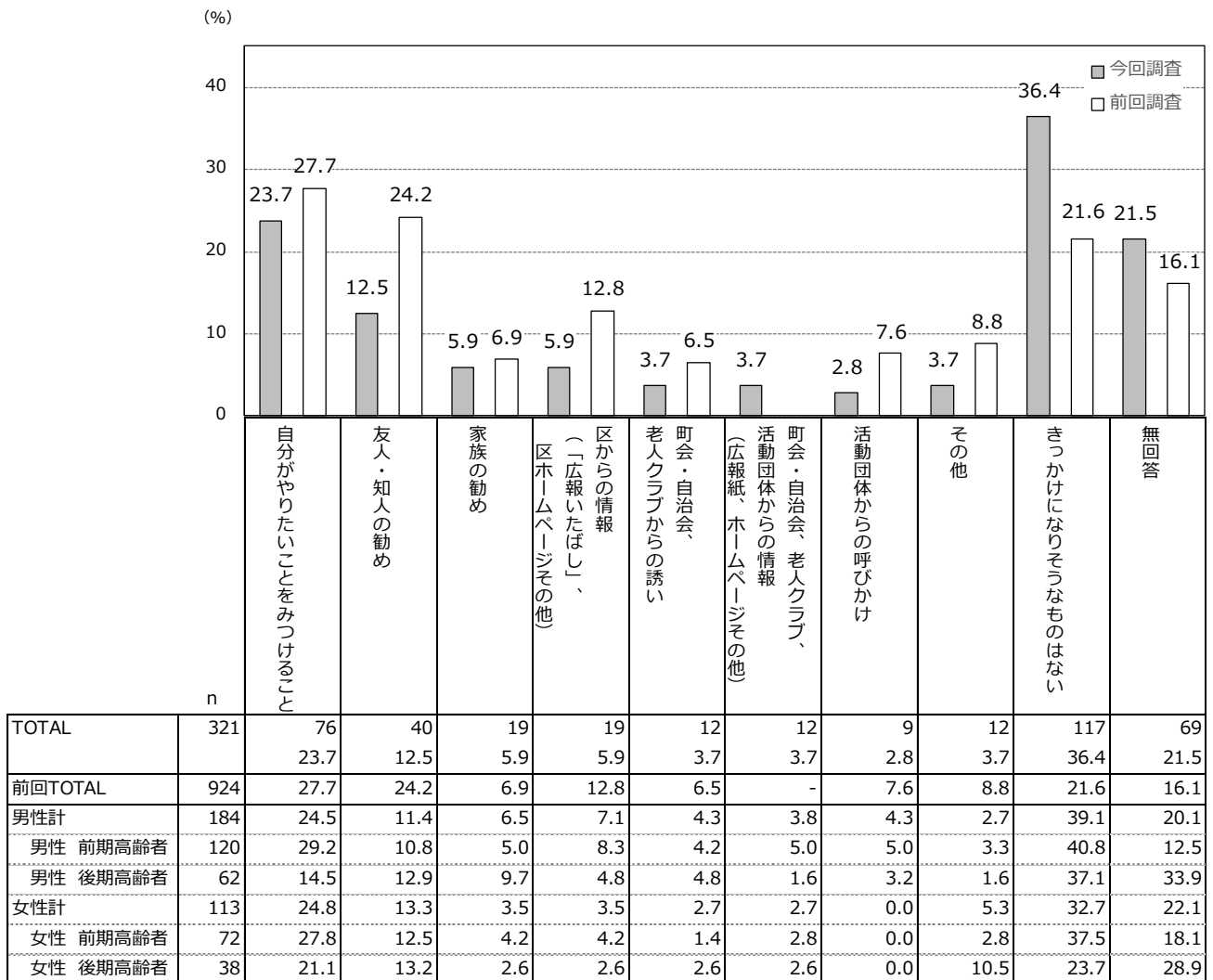
②活動に参加するきっかけになると思うこと

活動に参加するきっかけになると思うことについては、「きっかけになりそうなものはない」が36.4%と最も高く、次いで「自分がやりたいことをみつけること」が23.7%、「友人・知人の勧め」が12.5%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「きっかけになりそうなものはない(39.1%)」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「自分がやりたいことをみつけること(29.2%)」が、女性後期高齢者では「その他(10.5%)」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。男性後期高齢者・女性前期高齢者では、全体と比べて高くなっている項目がみられない。

前回調査と比較すると、「きっかけになりそうなものはない(36.4%)」が14.8ポイント上昇し、「友人・知人の勧め(12.5%)」が11.7ポイント、「区からの情報(「広報いたばし」、区ホームページその他)(5.9%)」が6.9ポイント、「その他(3.7%)」が5.1ポイント、それぞれ低下している。

図表3-6-24 活動に参加するきっかけになると思うこと



※今回調査では「町会・自治会、老人クラブ、活動団体からの情報(「広報紙、ホームページその他)」の選択肢を追加している。

(4) 老人クラブへの加入状況

①老人クラブへの加入状況

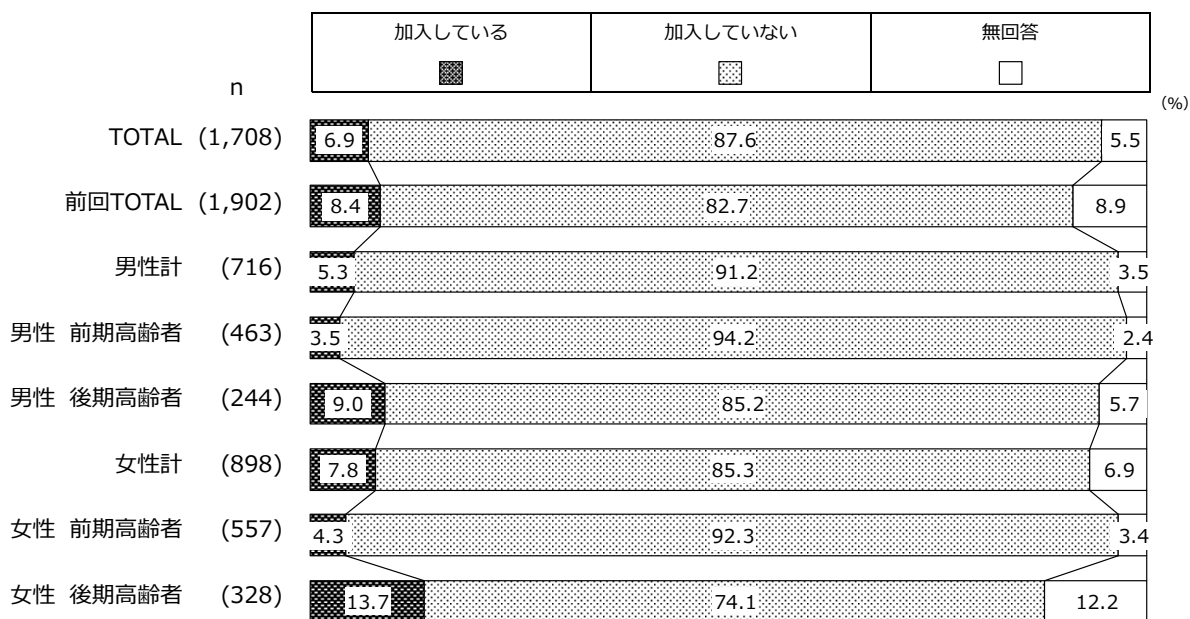
問28 あなた（宛名のご本人）は現在、老人クラブ（区内の60歳以上の方が加入できる自主的な組織で、教養の向上・健康の増進・社会奉仕を目的として様々な活動を行っています。）に加入していますか。（○は1つのみ）

老人クラブへの加入状況については、「加入している」が6.9%、「加入していない」が87.6%となっている。

性別で見ると、「加入している」では男性が5.3%で女性が7.8%と大きな違いはみられない。一方、「加入していない」では男性（91.2%）の方が女性（85.3%）よりも5.9ポイント高くなっている。性年代別で見ると、「加入している」は、どの年代においても女性の方が男性よりも高くなっており、また、男女ともに加齢に伴い上昇している。

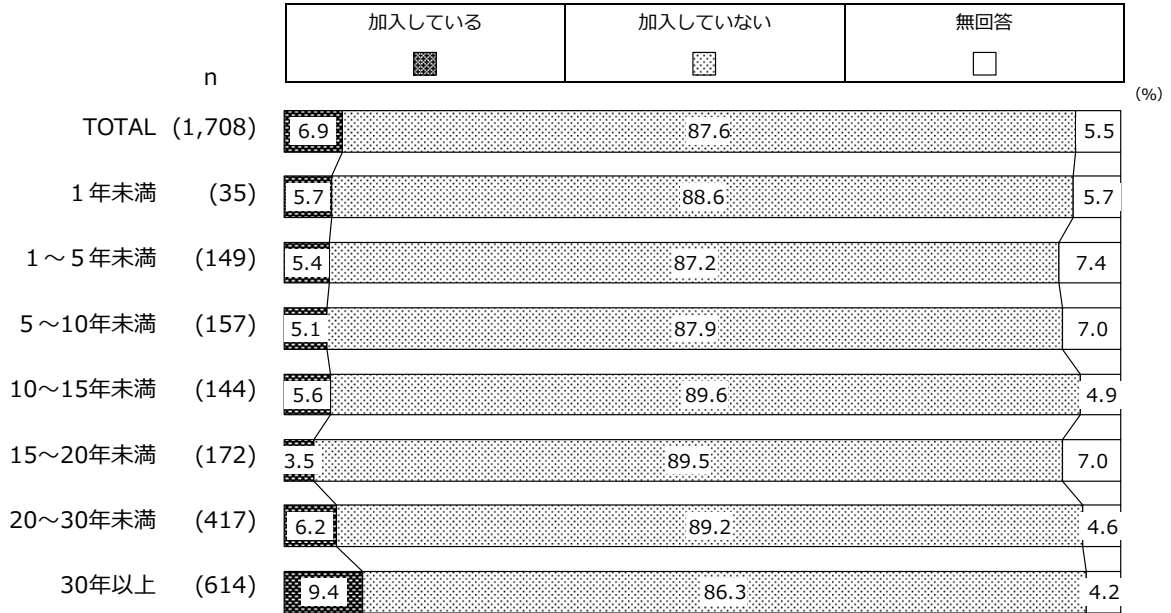
前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表3-6-25 老人クラブへの加入状況：性年代別



現在の地区での居住年数別による大きな違いはみられないものの、「加入している」が「30年以上」では9.4%とやや高く、「15～20年未満」では3.5%とやや低くなっている。

図表3-6-26 老人クラブへの加入状況：現在の地区での居住年数別



②老人クラブに加入していない理由

【問28で「2. 加入していない」とお答えの方におうかがいします。】

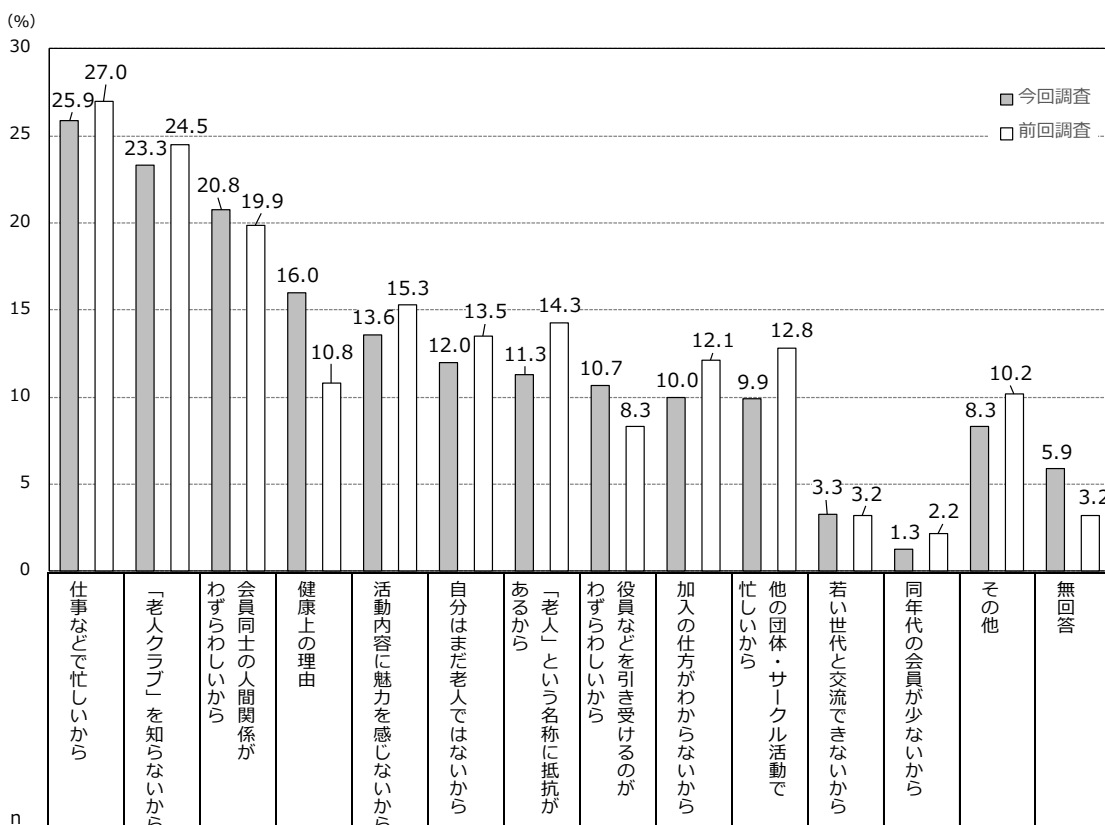
問28-1 加入していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

老人クラブに加入していない理由については、「仕事などで忙しいから」が25.9%と最も高く、次いで「老人クラブ」を知らないから」が23.3%、「会員同士の間関係がわずらわしいから」が20.8%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「仕事などで忙しいから（29.6%）」「老人クラブ」を知らないから（26.3%）」「自分はまだ老人ではないから（15.0%）」が高く、女性では男性よりも「健康上の理由（18.0%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「仕事などで忙しいから（35.1%）」「自分はまだ老人ではないから（17.4%）」が、男性後期高齢者では「加入の仕方がわからないから（15.9%）」が、女性後期高齢者では「健康上の理由（26.3%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。女性前期高齢者では、全体と比べて高くなっている項目がみられない。

前回調査と比較すると、「健康上の理由（16.0%）」が5.2ポイント上昇している。

図表3-6-27 老人クラブに加入していない理由：性年代別



n	理由														
	仕事などで忙しいから	「老人クラブ」を知らないから	会員同士の間関係がわずらわしいから	健康上の理由	活動内容に魅力を感じないから	自分はまだ老人ではないから	「老人」という名称に抵抗があるから	役員などを引き受けるのがわずらわしいから	加入の仕方がわからないから	忙しいから	他の団体・サークル活動で	若い世代と交流できないから	同年代の会員が少ないから	その他	無回答
TOTAL	1,496	388	349	311	240	204	180	169	160	150	148	49	20	124	88
		25.9	23.3	20.8	16.0	13.6	12.0	11.3	10.7	10.0	9.9	3.3	1.3	8.3	5.9
前回TOTAL	1,573	27.0	24.5	19.9	10.8	15.3	13.5	14.3	8.3	12.1	12.8	3.2	2.2	10.2	3.2
男性計	653	29.6	26.3	20.8	13.0	15.5	15.0	11.9	10.7	10.7	8.1	2.8	0.6	6.1	5.1
男性 前期高齢者	436	35.1	28.2	20.2	10.3	16.5	17.4	12.4	11.9	8.3	9.6	3.0	0.5	5.7	3.9
男性 後期高齢者	208	17.3	23.1	22.1	18.8	13.5	10.1	11.1	8.2	15.9	5.3	2.4	1.0	7.2	7.2
女性計	766	23.4	20.8	21.0	18.0	12.7	9.8	11.2	11.1	9.5	11.9	3.7	2.1	9.8	6.7
女性 前期高齢者	514	28.6	22.0	22.6	14.2	13.8	13.0	14.8	12.8	9.9	13.8	4.1	2.9	8.2	5.1
女性 後期高齢者	243	12.3	18.5	18.5	26.3	10.3	2.9	3.7	7.8	9.1	7.8	2.9	0.4	13.2	9.9

詳細な年齢区分別でみると、65～69歳では「仕事などで忙しいから（37.0%）」が、男性65～69歳では「仕事などで忙しいから（44.2%）」「老人クラブ」を知らないから（34.0%）」が、女性75～79歳では「健康上の理由（26.6%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-6-28 老人クラブに加入していない理由：性年代別（詳細）

	n	仕事などで忙しいから	「老人クラブ」を知らないから	会員同士の人間関係がわずらわしいから	健康上の理由	活動内容に魅力を感じないから	自分はまだ老人ではないから	「老人」という名称に抵抗があるから	役員などを引き受けるのがわずらわしいから	加入の仕方がわからないから	他の団体・サークル活動で忙しいから	若い世代と交流できないから	同年代の会員が少ないから	その他	無回答
TOTAL	1,496	25.9	23.3	20.8	16.0	13.6	12.0	11.3	10.7	10.0	9.9	3.3	1.3	8.3	5.9
65～69歳	467	37.0	30.6	19.5	10.5	14.3	17.6	16.1	11.8	10.9	12.4	3.4	2.1	4.9	3.6
70～74歳	501	26.7	20.2	23.4	14.4	15.4	13.0	11.4	13.0	7.4	11.2	3.8	1.4	8.8	5.4
75～79歳	354	15.8	20.1	21.5	22.9	13.3	7.1	8.2	9.6	12.7	6.5	3.1	0.6	10.2	7.3
80～84歳	146	12.3	19.2	16.4	23.3	7.5	2.7	4.1	3.4	10.3	6.8	2.1	0.7	13.7	10.3
男性65～69歳	206	44.2	34.0	18.4	10.2	14.1	17.0	15.0	11.2	11.2	9.2	2.9	1.0	3.4	2.4
男性70～74歳	230	27.0	23.0	21.7	10.4	18.7	17.8	10.0	12.6	5.7	10.0	3.0	0.0	7.8	5.2
男性75～79歳	153	16.3	23.5	24.2	18.3	14.4	11.8	11.8	9.2	17.6	4.6	2.6	0.7	5.9	7.8
男性80～84歳	55	20.0	21.8	16.4	20.0	10.9	5.5	9.1	5.5	10.9	7.3	1.8	1.8	10.9	5.5
女性65～69歳	255	31.8	27.5	19.6	10.2	14.5	17.6	16.9	12.5	10.6	15.3	3.9	3.1	6.3	4.7
女性70～74歳	259	25.5	16.6	25.5	18.1	13.1	8.5	12.7	13.1	9.3	12.4	4.2	2.7	10.0	5.4
女性75～79歳	173	13.9	17.9	19.7	26.6	12.1	4.0	5.2	9.8	9.8	8.7	3.5	0.6	12.7	6.9
女性80～84歳	70	8.6	20.0	15.7	25.7	5.7	0.0	0.0	2.9	7.1	5.7	1.4	0.0	14.3	17.1

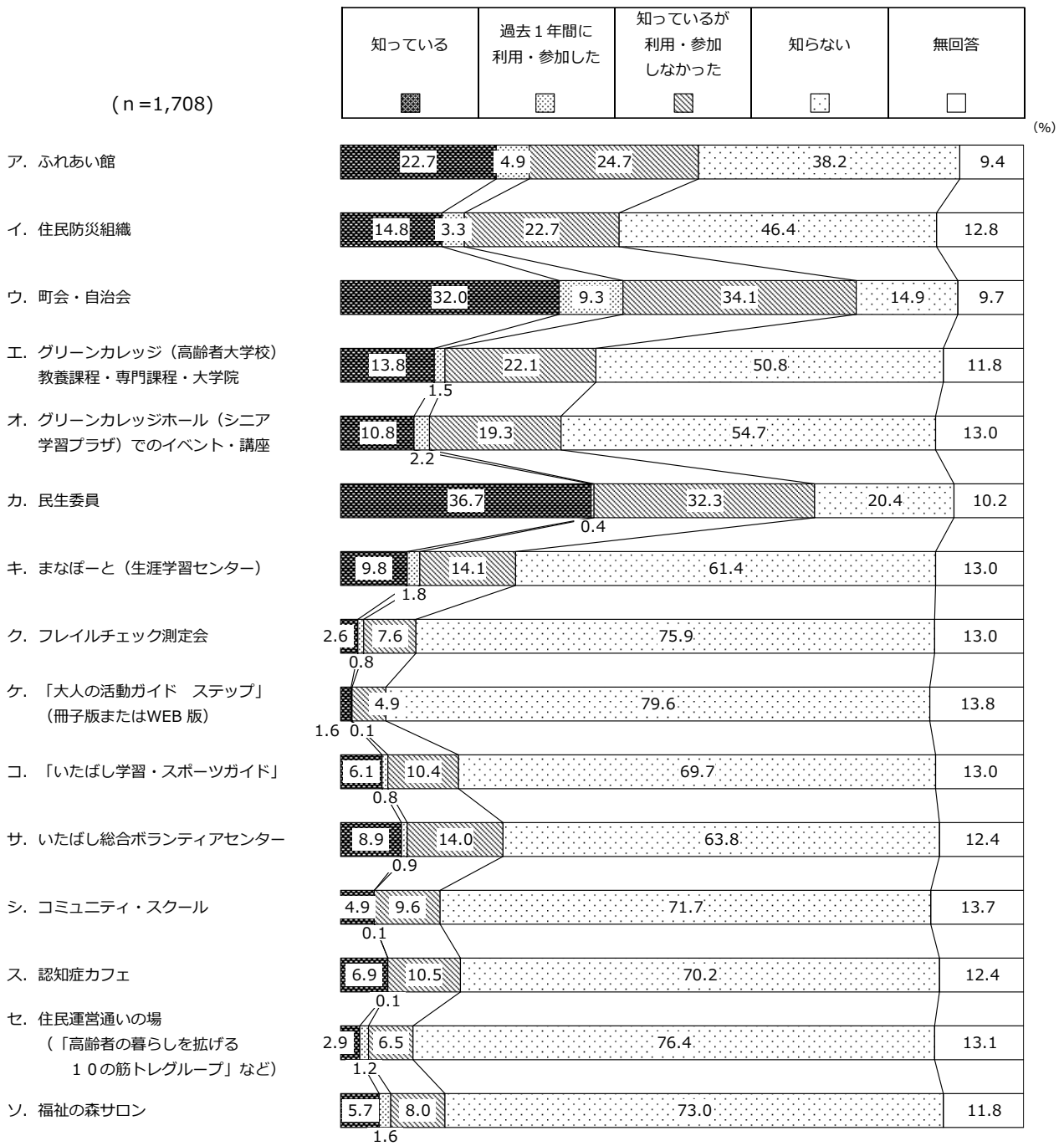
7. 区の事業について

(1) 区の事業に対する認知度・利用または参加状況

問29 あなた（宛名のご本人）は、区が行っている次の事業を知っていますか。また、過去1年間に利用・参加したものはありますか。それぞれあてはまる番号をお選びください。

区の事業に対する認知度・利用または参加状況について、「知っている」「過去1年間に利用・参加した」「知っているが利用・参加しなかった」を合わせた『認知度』は、「町会・自治会」が75.4%と最も高く、次いで「民生委員」が69.4%、「ふれあい館」が52.3%の順となっている。また、「過去1年間に利用・参加した」では、「町会・自治会」が9.3%と最も高く、次いで「ふれあい館」が4.9%、「住民防災組織」が3.3%の順となっている。

図表3-7-1 区の事業に対する認知度・利用または参加状況

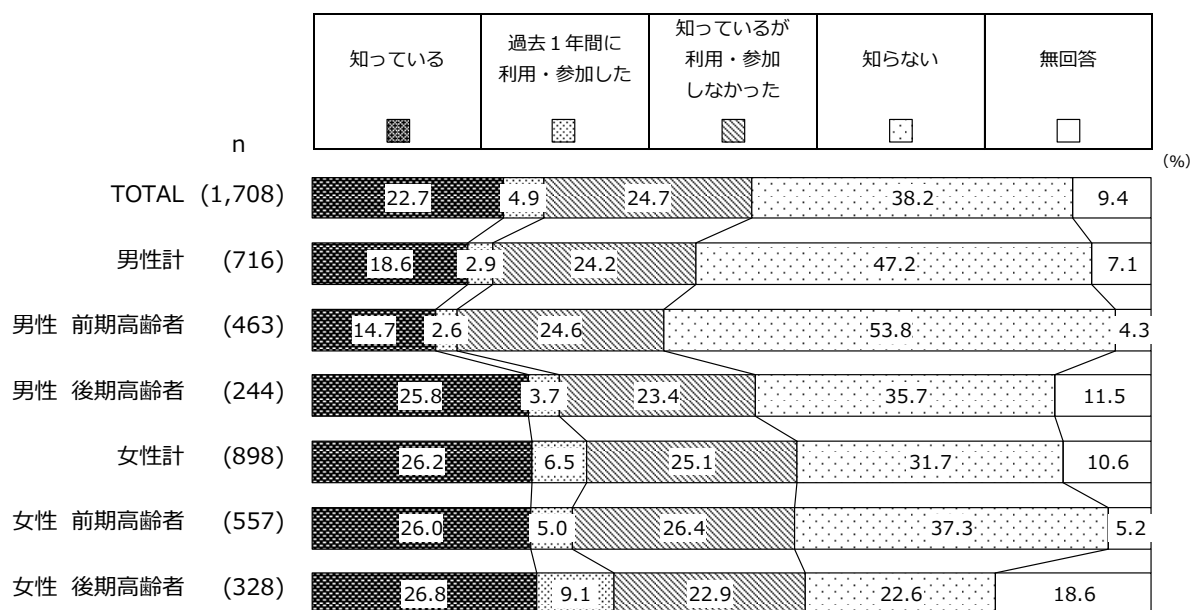


①ふれあい館

ふれあい館については、『認知度』が52.3%、「過去1年間に利用・参加した」が4.9%となっている。

性別で見ると、『認知度』では女性（57.8%）の方が男性（45.7%）よりも12.1ポイント高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」では男性が2.9%で女性が6.5%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』『過去1年間に利用・参加した』の両方で、女性後期（認知度58.8%・過去9.1%）、女性前期（57.4%・5.0%）、男性後期（52.9%・3.7%）、男性前期（41.9%・2.6%）の順に高くなっている。

図表3-7-2 ふれあい館に対する認知度・利用状況：性年代別

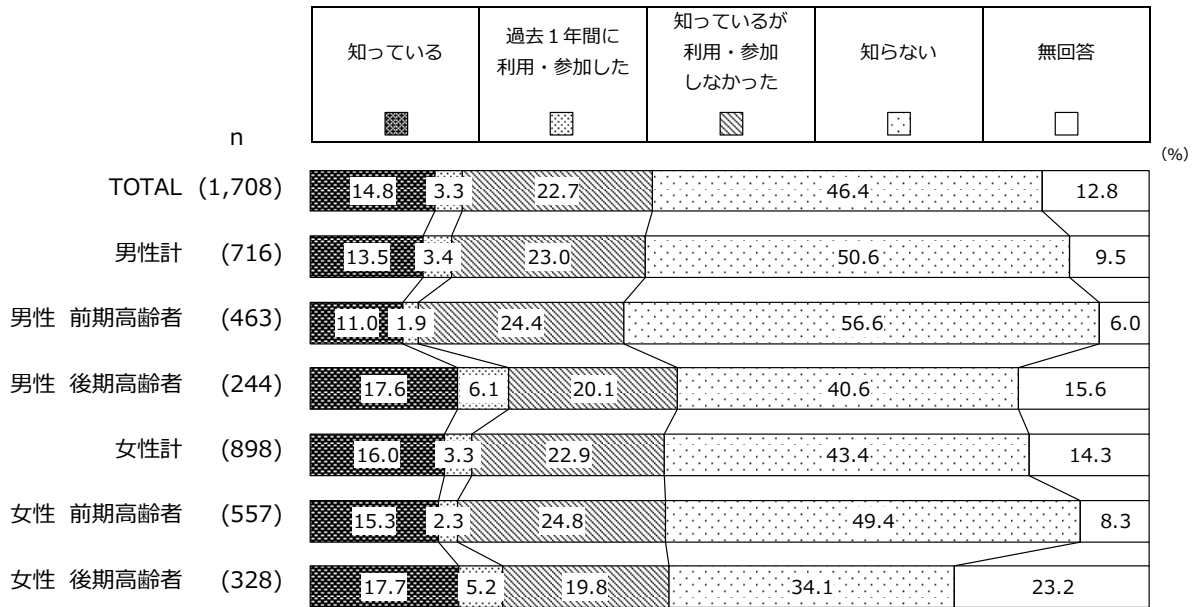


②住民防災組織

住民防災組織については、『認知度』が40.8%、「過去1年間に利用・参加した」が3.3%となっている。

性別で見ると、『認知度』『過去1年間に利用・参加した』の両方で男女に大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』『過去1年間に利用・参加した』の両方で、男性後期（認知度43.8%・過去6.1%）、女性後期（42.7%・5.2%）、女性前期（42.4%・2.3%）、男性前期（37.3%・1.9%）の順に高くなっている。

図表3-7-3 住民防災組織に対する認知度・参加状況：性年代別



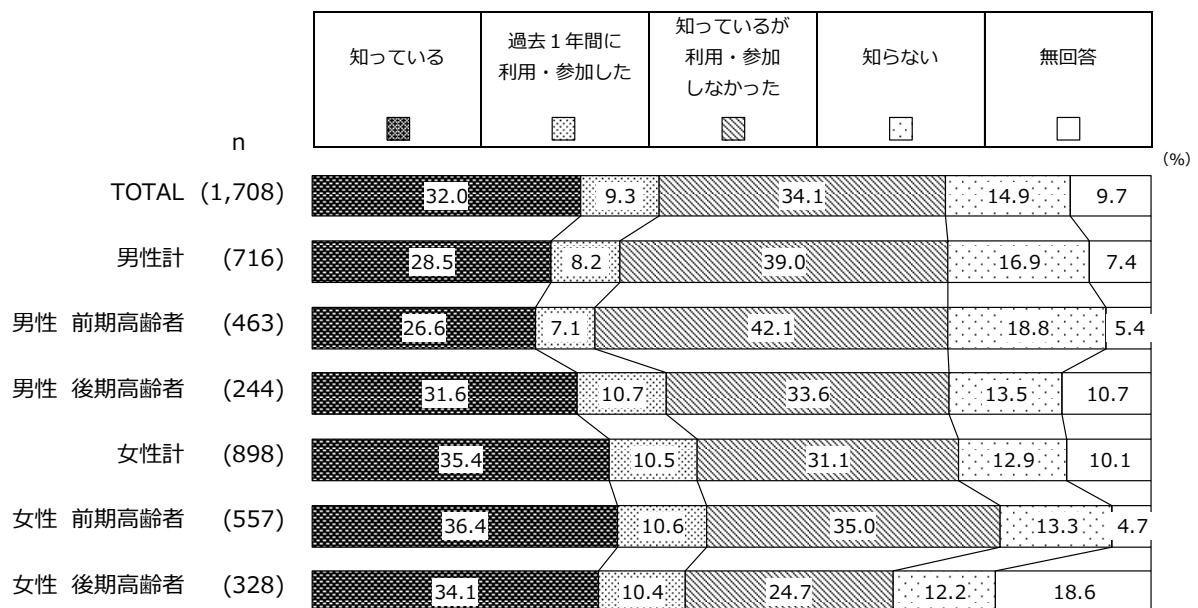
③町会・自治会

町会・自治会については、『認知度』が75.4%、「過去1年間に利用・参加した」が9.3%となっている。

性別で見ると、『認知度』「過去1年間に利用・参加した」の両方で男女に大きな違いはみられない。

性年代別で見ると、『認知度』は女性前期（82.0%）、男性後期（75.9%）、男性前期（75.8%）、女性後期（69.2%）の順に、「過去1年間に利用・参加した」は男性後期（10.7%）、女性前期（10.6%）、女性後期（10.4%）、男性前期（7.1%）の順に、それぞれ高くなっている。

図表3-7-4 町会・自治会に対する認知度・参加状況：性年代別

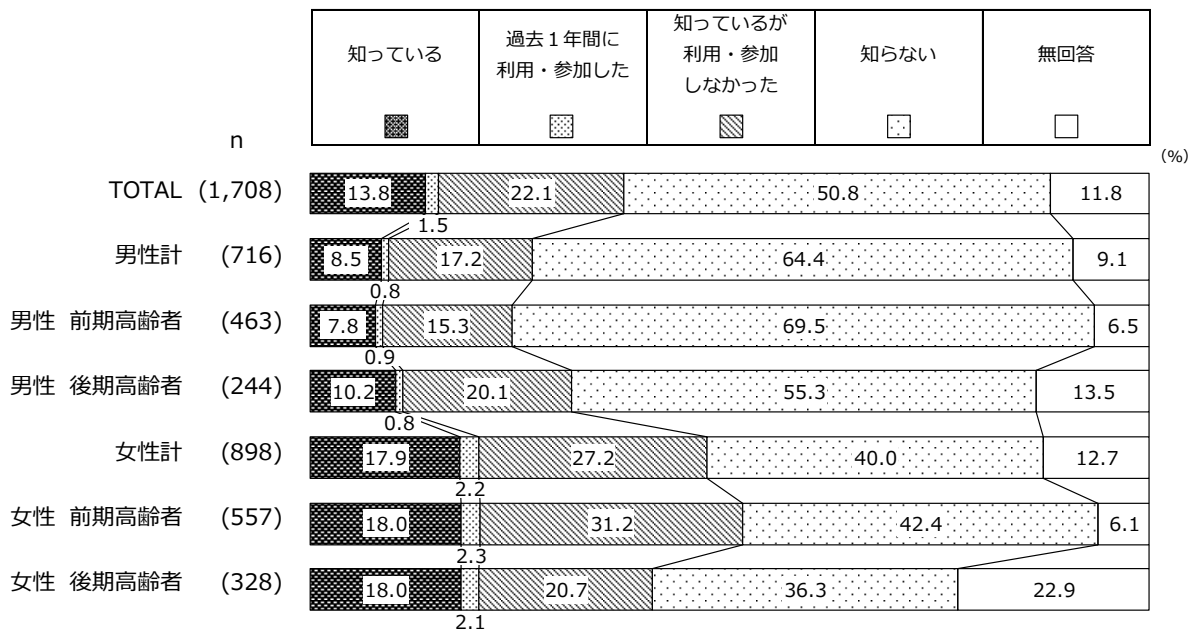


④グリーンカレッジ（高齢者大学校）教養課程・専門課程・大学院

グリーンカレッジ（高齢者大学校）教養課程・専門課程・大学院については、『認知度』が37.4%、「過去1年間に利用・参加した」が1.5%となっている。

性別でみると、『認知度』では女性（47.3%）の方が男性（26.5%）よりも20.8ポイント高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」では男性が0.8%で女性が2.2%と大きな違いはみられない。性年代別でみると、『認知度』は女性前期（51.5%）、女性後期（40.8%）、男性後期（31.1%）、男性前期（24.0%）の順に、「過去1年間に利用・参加した」は女性前期（2.3%）、女性後期（2.1%）、男性前期（0.9%）、男性後期（0.8%）の順に、それぞれ高くなっている。

図表3-7-5 グリーンカレッジに対する認知度・参加状況：性年代別

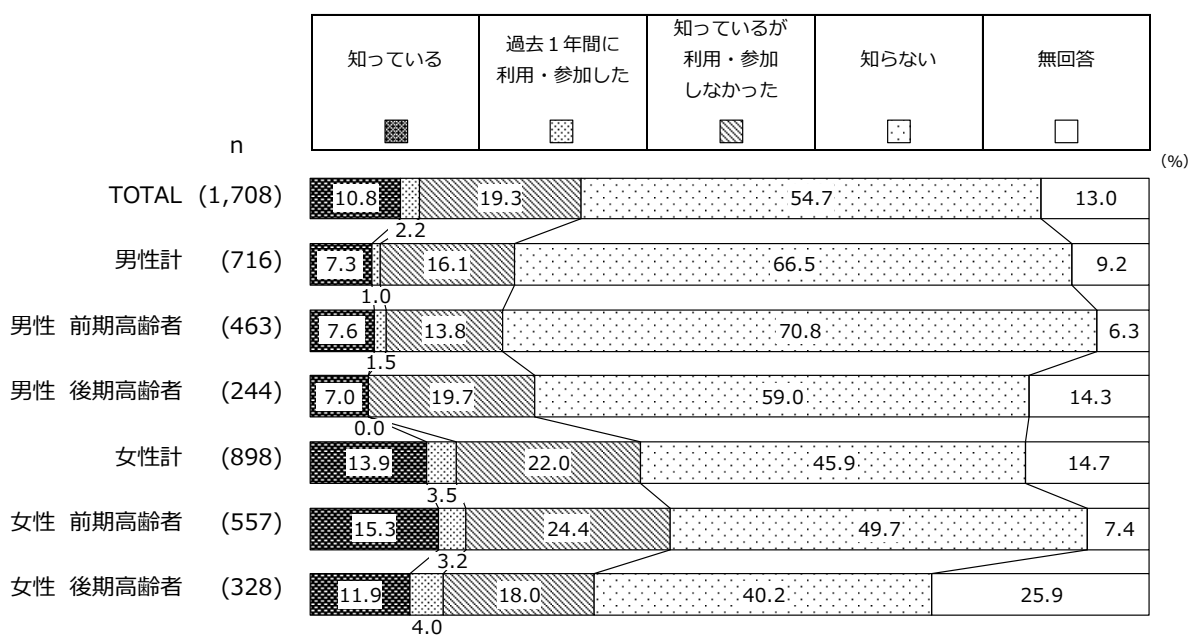


⑤グリーンカレッジホール（シニア学習プラザ）でのイベント・講座

グリーンカレッジホール（シニア学習プラザ）でのイベント・講座については、『認知度』が32.3%、「過去1年間に利用・参加した」が2.2%となっている。

性別で見ると、『認知度』では女性（39.4%）の方が男性（24.4%）よりも15.0ポイント高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」では男性が1.0%で女性が3.5%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』は女性前期（42.9%）、女性後期（33.9%）、男性後期（26.7%）、男性前期（22.9%）の順に、「過去1年間に利用・参加した」は女性後期（4.0%）、女性前期（3.2%）、男性前期（1.5%）、男性後期（0.0%）の順に、それぞれ高くなっている。

図表3-7-6 グリーンカレッジホールでのイベント・講座に対する認知度・参加状況：性年代別

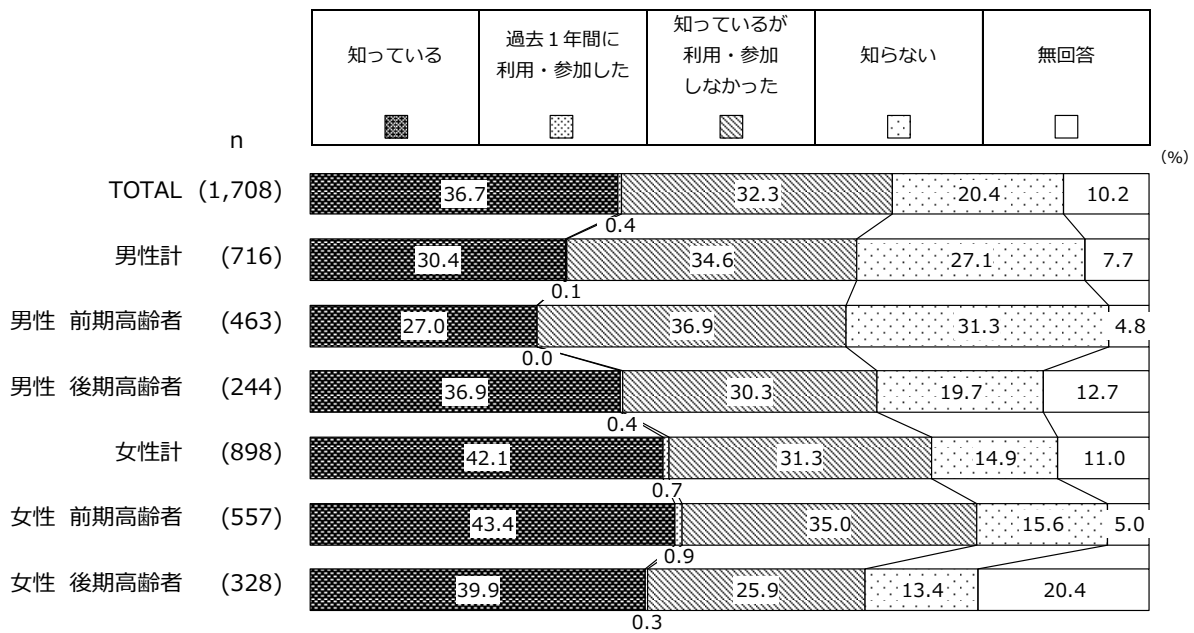


⑥ 民生委員

民生委員については、『認知度』が69.4%、「過去1年間に利用・参加した」が0.4%となっている。

性別で見ると、『認知度』では女性（74.1%）の方が男性（65.1%）よりも9.0ポイント高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」では男性が0.1%で女性が0.7%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』『過去1年間に利用・参加した』の両方で、女性前期（認知度79.3%・過去0.9%）、男性後期（67.6%・0.4%）、女性後期（66.1%・0.3%）、男性前期（63.9%・0.0%）の順に高くなっている。

図表3-7-7 民生委員に対する認知度・参加状況：性年代別

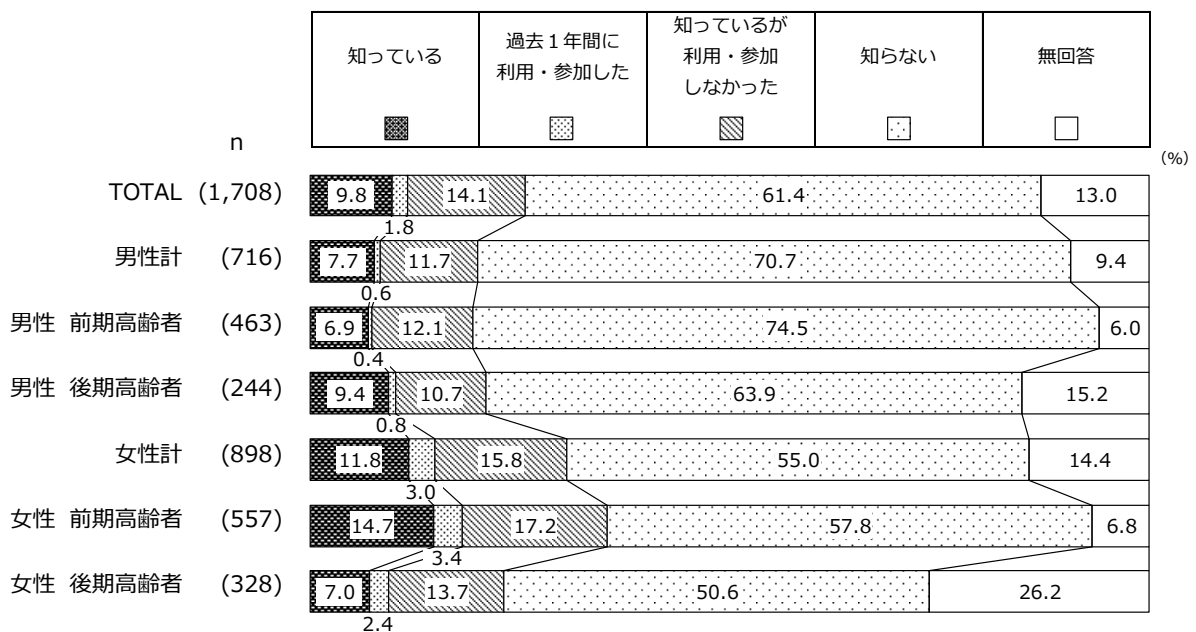


⑦まなぼーと（生涯学習センター）

まなぼーと（生涯学習センター）については、『認知度』が25.7%、「過去1年間に利用・参加した」が1.8%となっている。

性別で見ると、『認知度』では女性（30.6%）の方が男性（20.0%）よりも10.6ポイント高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」では男性が0.6%で女性が3.0%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』『過去1年間に利用・参加した』の両方で、女性前期（認知度35.3%・過去3.4%）、女性後期（23.1%・2.4%）、男性後期（20.9%・0.8%）、男性前期（19.4%・0.4%）の順に高くなっている。

図表3-7-8 まなぼーとに対する認知度・利用状況：性年代別

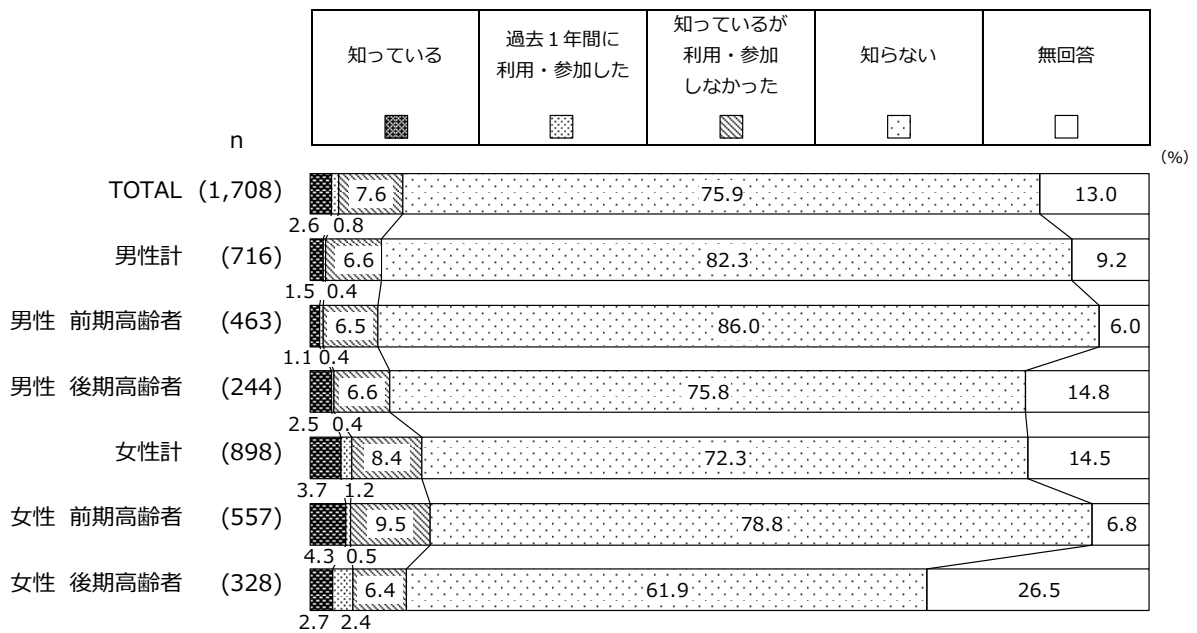


⑧フレイルチェック測定会

フレイルチェック測定会については、『認知度』が11.0%、「過去1年間に利用・参加した」が0.8%となっている。

性別で見ると、『認知度』「過去1年間に利用・参加した」の両方で男女に大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』は女性前期（14.3%）、女性後期（11.5%）、男性後期（9.5%）、男性前期（8.0%）の順に、「過去1年間に利用・参加した」は女性後期（2.4%）、女性前期（0.5%）、男性前期・男性後期（ともに0.4%）の順に、それぞれ高くなっている。

図表3-7-9 フレイルチェック測定会に対する認知度・参加状況：性年代別

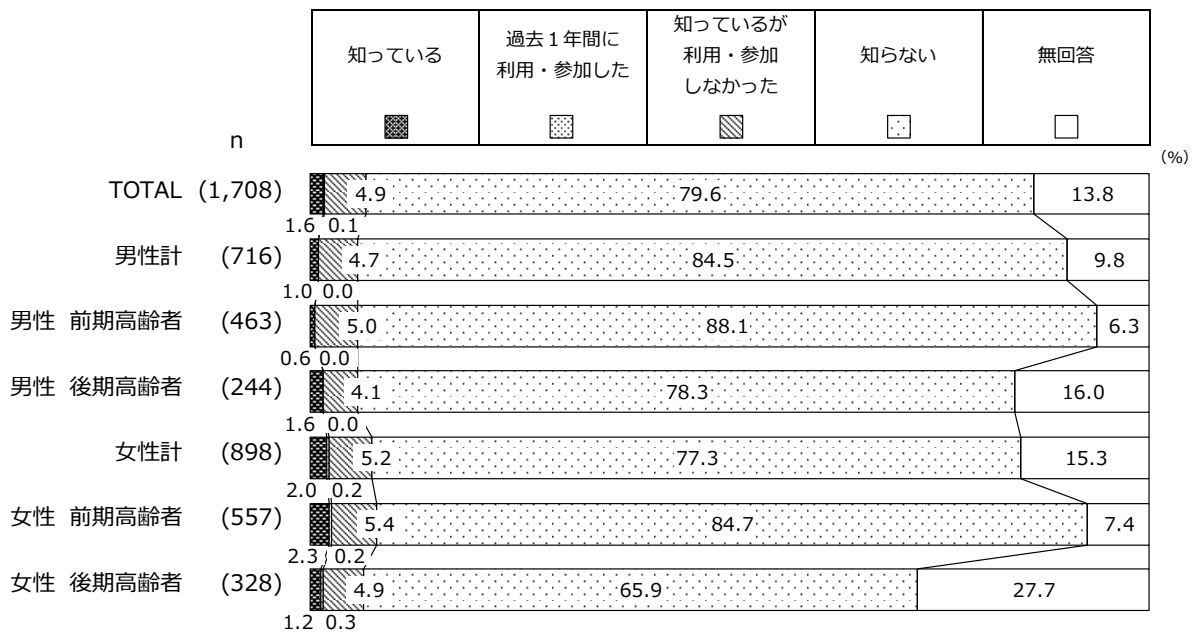


⑨ 「大人の活動ガイド ステップ」(冊子版またはWEB版)

「大人の活動ガイド ステップ」については、『認知度』が6.6%、「過去1年間に利用・参加した」が0.1%となっている。

性別で見ると、『認知度』「過去1年間に利用・参加した」の両方で男女に大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』は女性前期(7.9%)、女性後期(6.4%)、男性後期(5.7%)、男性前期(5.6%)の順に高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」は女性では後期で0.3%、前期で0.2%であるのに対して、男性では前期後期ともに0.0%となっている。

図表3-7-10 「大人の活動ガイド ステップ」に対する認知度・利用状況：性年代別

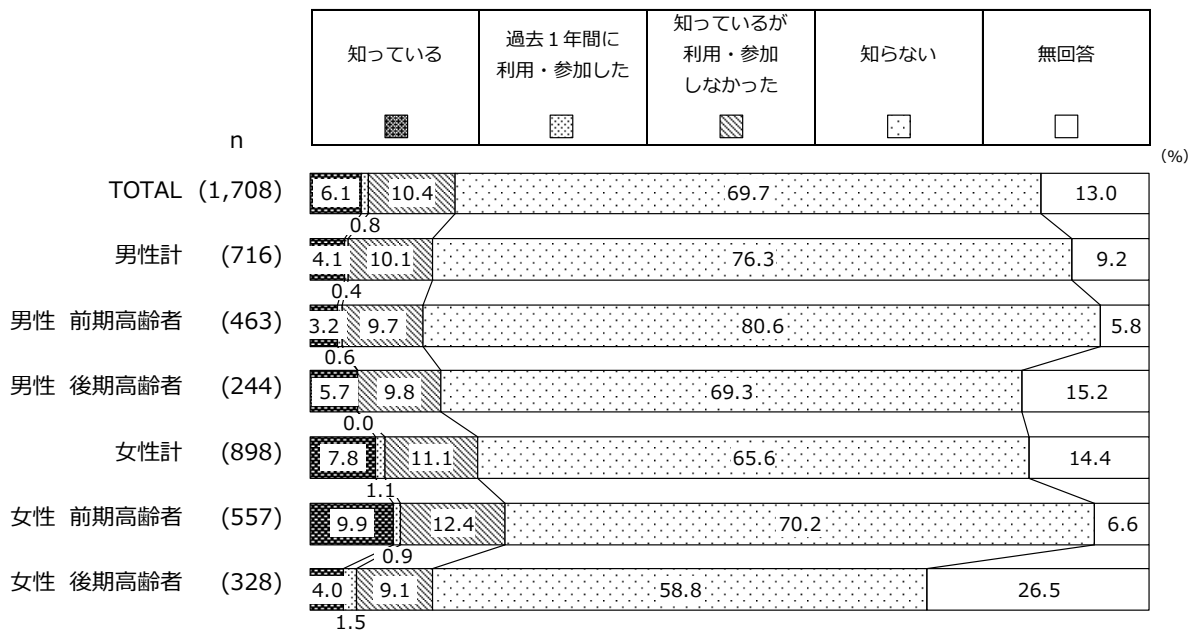


⑩ 「いたばし学習・スポーツガイド」

「いたばし学習・スポーツガイド」については、『認知度』が17.3%、「過去1年間に利用・参加した」が0.8%となっている。

性別で見ると、『認知度』では女性（20.0%）の方が男性（14.6%）よりも5.4ポイント高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」では男性が0.4%で女性が1.1%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』は女性前期（23.2%）、男性後期（15.5%）、女性後期（14.6%）、男性前期（13.5%）の順に、「過去1年間に利用・参加した」は女性後期（1.5%）、女性前期（0.9%）、男性前期（0.6%）、男性後期（0.0%）の順に、それぞれ高くなっている。

図表3-7-11 「いたばし学習・スポーツガイド」に対する認知度・利用状況：性年代別

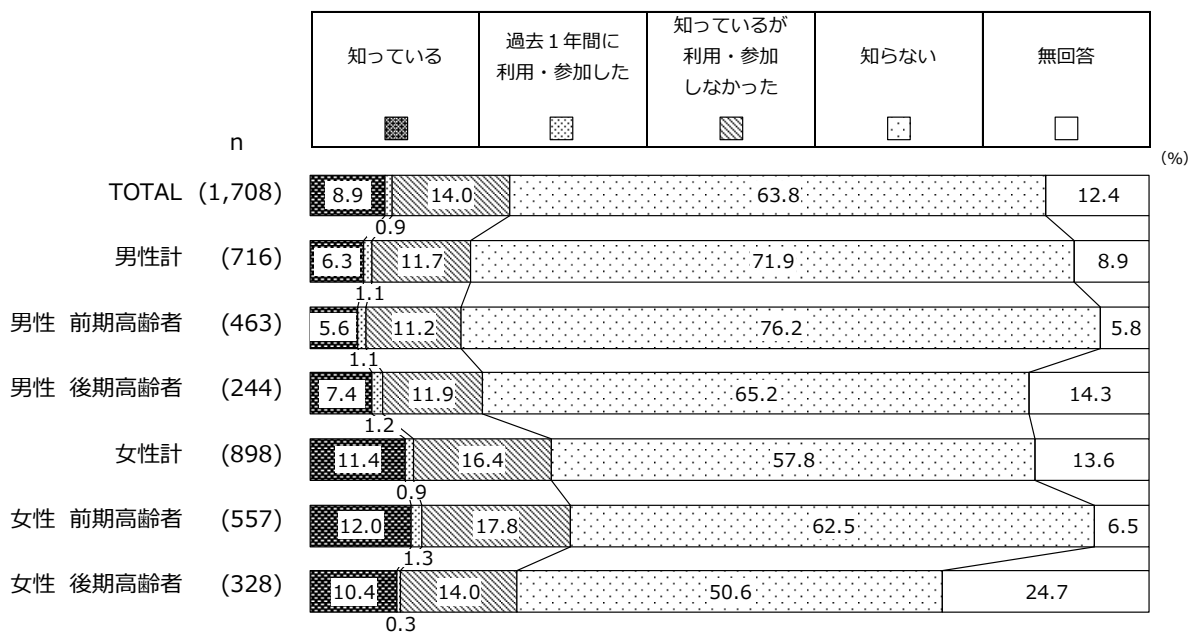


⑪いたばし総合ボランティアセンター

いたばし総合ボランティアセンターについては、『認知度』が23.8%、「過去1年間に利用・参加した」が0.9%となっている。

性別で見ると、『認知度』では女性（28.7%）の方が男性（19.1%）よりも9.6ポイント高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」では男性が1.1%で女性が0.9%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』は女性前期（31.1%）、女性後期（24.7%）、男性後期（20.5%）、男性前期（17.9%）の順に、「過去1年間に利用・参加した」は女性前期（1.3%）、男性後期（1.2%）、男性前期（1.1%）、女性後期（0.3%）の順に、それぞれ高くなっている。

図表3-7-12 いたばし総合ボランティアセンターに対する認知度・利用状況：性年代別

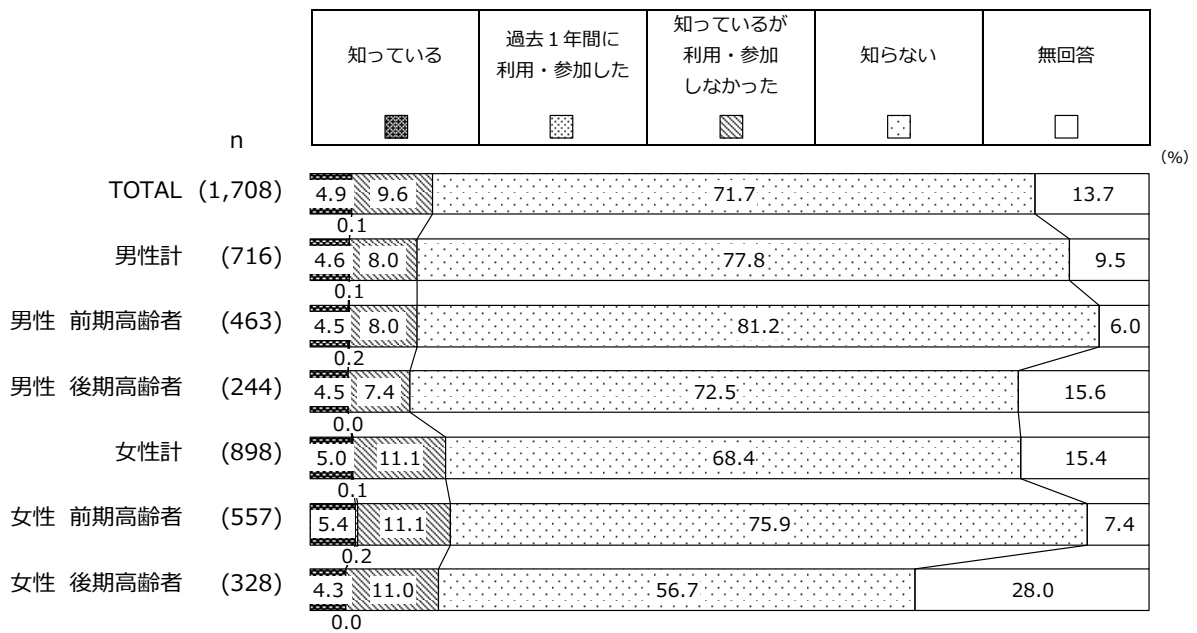


⑫コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールについては、『認知度』が14.6%、「過去1年間に利用・参加した」が0.1%となっている。

性別で見ると、『認知度』「過去1年間に利用・参加した」の両方で男女に大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』は女性前期（16.7%）、女性後期（15.3%）、男性前期（12.7%）、男性後期（11.9%）の順に高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」は前期で男女ともに0.2%であるのに対して、後期では男女ともに0.0%となっている。

図表3-7-13 コミュニティ・スクールに対する認知度・利用状況：性年代別

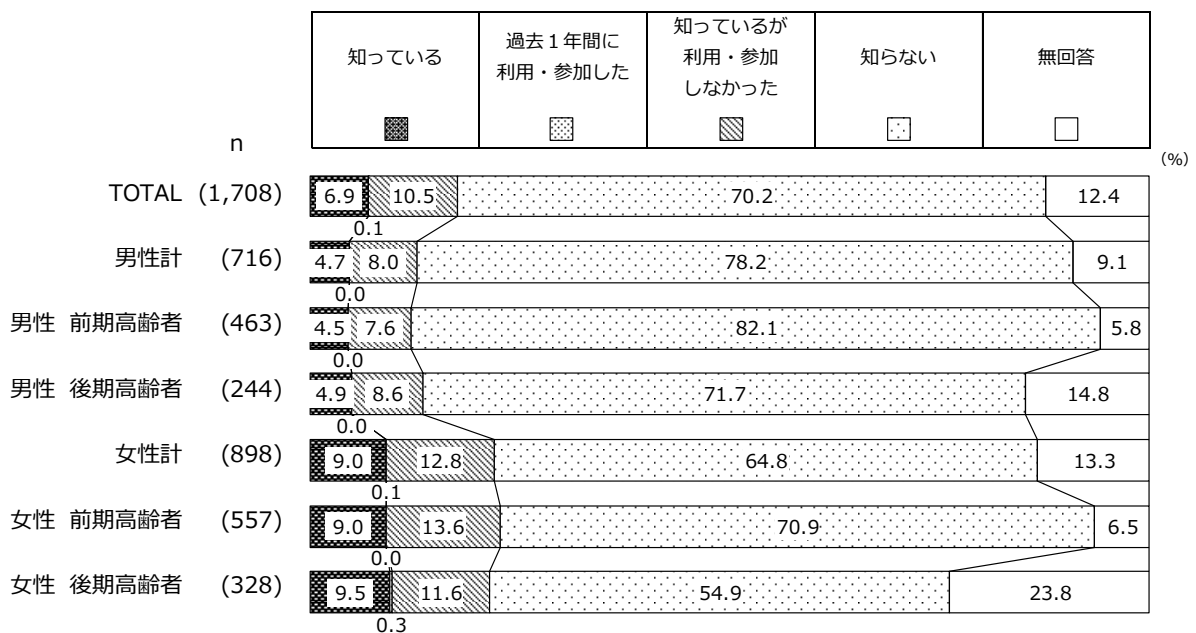


⑬認知症カフェ

認知症カフェについては、『認知度』が17.5%、「過去1年間に利用・参加した」が0.1%となっている。

性別で見ると、『認知度』では女性（21.9%）の方が男性（12.7%）よりも9.2ポイント高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」では男性が0.0%で女性が0.1%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』は女性前期高齢者（22.6%）、女性後期高齢者（21.4%）、男性後期高齢者（13.5%）、男性前期高齢者（12.1%）の順に高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」は女性後期で0.3%であるのに対して、男性前期・男性後期・女性後期では0.0%となっている。

図表3-7-14 認知症カフェに対する認知度・利用状況：性年代別

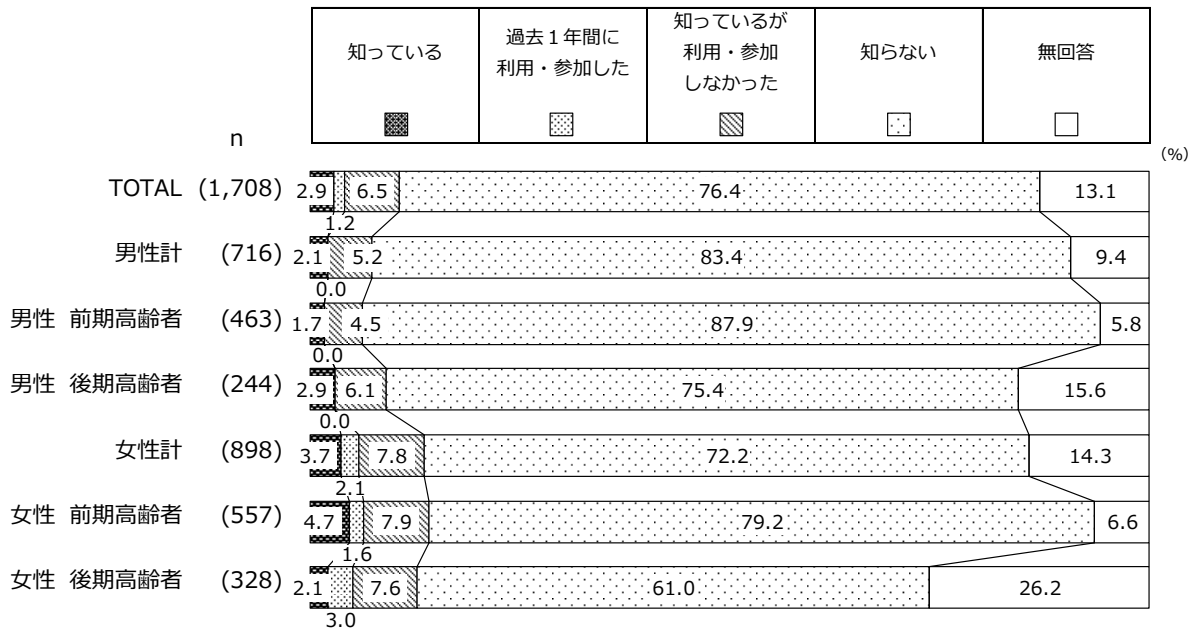


⑭住民運営通いの場（「高齢者の暮らしを拓げる10の筋トレグループ」など）

住民運営通いの場については、『認知度』が10.6%、「過去1年間に利用・参加した」が1.2%となっている。

性別で見ると、『認知度』では女性（13.6%）の方が男性（7.3%）よりも6.3ポイント高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」では男性が0.0%で女性が2.1%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』は女性前期（14.2%）、女性後期（12.7%）、男性後期（9.0%）、男性前期（6.2%）の順に高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」は女性では後期で3.0%、前期で1.6%であるのに対して、男性では前期後期ともに0.0%となっている。

図表3-7-15 住民運営通いの場に対する認知度・参加状況：性年代別

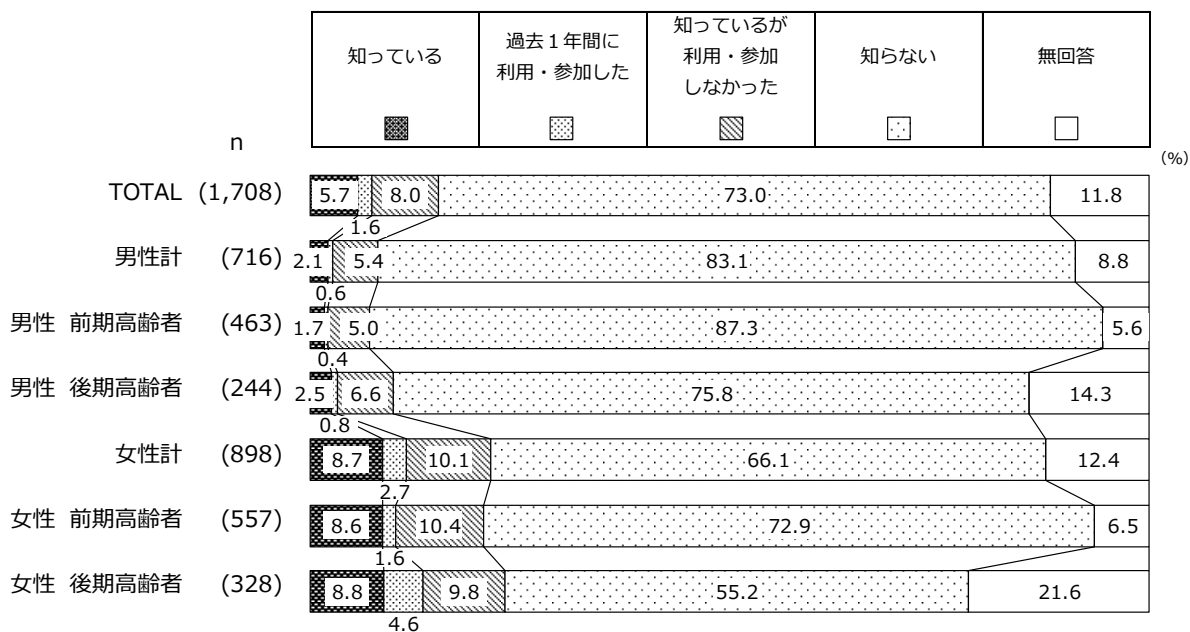


⑮ 福祉の森サロン

福祉の森サロンについては、『認知度』が15.3%、「過去1年間に利用・参加した」が1.6%となっている。

性別で見ると、『認知度』では女性（21.5%）の方が男性（8.1%）よりも13.4ポイント高くなっている。一方、「過去1年間に利用・参加した」では男性が0.6%で女性が2.7%と大きな違いはみられない。性年代別で見ると、『認知度』『過去1年間に利用・参加した』の両方で、女性後期（認知度23.2・過去4.6%）、女性前期（20.6%・1.6%）、男性後期（9.9%・0.8%）、男性前期（7.1%・0.4%）の順に高くなっている。

図表3-7-16 福祉の森サロンに対する認知度・利用状況：性年代別



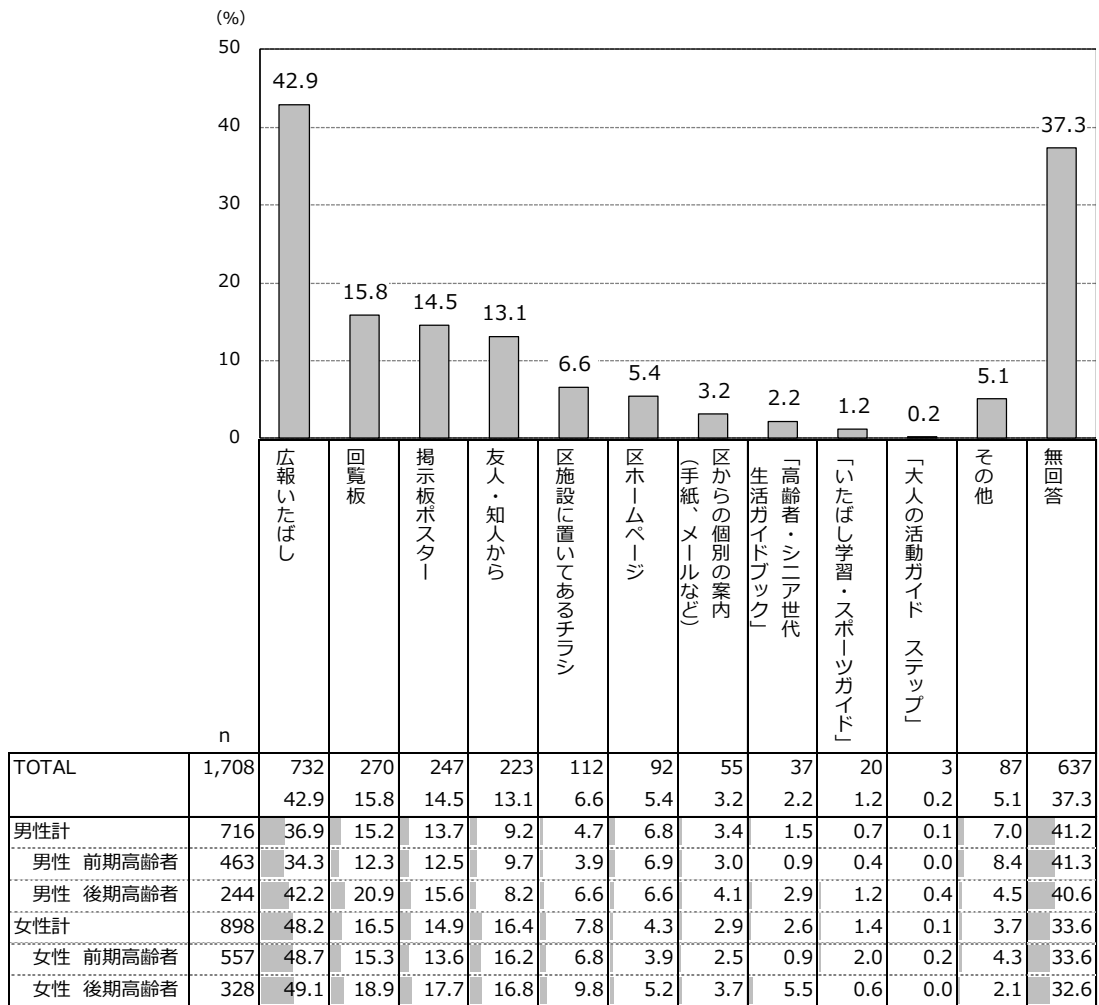
(2) 区の事業を知った情報源

問30 あなた（宛名のご本人）は、利用・参加した区の事業を何で知りましたか。（あてはまるものすべてに○）

区の事業を知った情報源については、「広報いたばし」が42.9%と最も高く、次いで「回覧板」が15.8%、「掲示板ポスター」が14.5%の順となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「広報いたばし（48.2%）」「友人・知人から（16.4%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性後期高齢者では「回覧板（20.9%）」が、女性では前期後期ともに「広報いたばし（前期48.7%・後期49.1%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。男性前期高齢者では、全体と比べて高くなっている項目がみられない。

図表3-7-17 区の事業を知った情報源：性年代別



第3章 調査結果の詳細

詳細な年齢区分別でみると、75～79歳では「広報いたばし（48.3%）」が、男性75～79歳では「回覧板（21.8%）」が、女性65～69歳では「広報いたばし（50.0%）」が、女性75～79歳では「広報いたばし（53.8%）」「友人・知人から（19.7%）」が、女性80～84歳では「回覧板（23.8%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-7-18 区の事業を知った情報源：性年代別（詳細）

n	広報いたばし	回覧板	掲示板ポスター	友人・知人から	区施設に置いてあるチラシ	区ホームページ (手紙、メールなど)	区からの個別の案内 (生活ガイドブック)	「高齢者・シニア世代 生活ガイドブック」	「いたばし学習・スポーツガイド」	「大人の活動ガイド ステップ」	その他	無回答	
TOTAL	1,708	42.9	15.8	14.5	13.1	6.6	5.4	3.2	2.2	1.2	0.2	5.1	37.3
65～69歳	489	42.5	14.9	13.5	14.3	5.1	5.3	2.5	1.0	1.0	0.2	5.7	36.0
70～74歳	550	41.3	13.1	12.7	12.2	5.6	5.1	3.1	0.7	1.5	0.0	6.7	38.4
75～79歳	435	48.3	18.9	17.7	14.3	8.3	7.8	4.6	5.1	1.4	0.5	3.0	33.1
80～84歳	200	40.5	20.0	16.0	10.5	10.0	1.5	3.0	3.0	0.0	0.0	3.0	42.5
男性65～69歳	215	33.5	12.6	9.3	13.0	3.7	5.6	2.3	0.5	0.0	0.0	8.8	38.6
男性70～74歳	248	35.1	12.1	15.3	6.9	4.0	8.1	3.6	1.2	0.8	0.0	8.1	43.5
男性75～79歳	174	40.8	21.8	16.1	6.9	6.3	8.6	5.2	3.4	1.7	0.6	4.6	40.2
男性80～84歳	70	45.7	18.6	14.3	11.4	7.1	1.4	1.4	1.4	0.0	0.0	4.3	41.4
女性65～69歳	268	50.0	16.8	17.2	15.7	6.3	5.2	2.6	1.5	1.9	0.4	3.4	33.6
女性70～74歳	289	47.4	13.8	10.4	16.6	7.3	2.8	2.4	0.3	2.1	0.0	5.2	33.6
女性75～79歳	223	53.8	16.6	18.4	19.7	9.4	7.2	3.6	6.3	0.9	0.0	1.8	28.7
女性80～84歳	105	39.0	23.8	16.2	10.5	10.5	1.0	3.8	3.8	0.0	0.0	2.9	41.0

今年（2020年）のインターネット利用状況別では、「ほぼ毎日利用する」と「全く利用しない」とを比較すると、「広報いたばし」「区ホームページ」では「ほぼ毎日利用する」人の方が高い割合になっているものの、それ以外の項目では大きな違いがみられない。「広報いたばし」に着目すると、「2～3日おきに利用する」「週に1回程度利用する」「月に1回程度利用する」人では50.0%を超えているのに対して、「年に数回程度利用する」人では34.4%と顕著に低くなっている。また、「年に数回程度利用する」人においては、「友人・知人から（21.9%）」「区施設に置いてあるチラシ（12.5%）」「区からの個別の案内（手紙、メールなど）（9.4%）」が全体の傾向よりも高くなっているなど、他の利用頻度の人と比べて情報源が異なるという特徴がみられる。

図表3-7-19 区の事業を知った情報源：今年（2020年）のインターネット利用状況別

	n	広報いたばし	回覧板	掲示板ポスター	友人・知人から	区施設に置いてあるチラシ	区ホームページ	区からの個別の案内 (手紙、メールなど)	「高齢者・シニア世代生活ガイドブック」	「いたばし学習・スポーツガイド」	「大人の活動ガイド ステップ」	その他	無回答
TOTAL	1,708	42.9	15.8	14.5	13.1	6.6	5.4	3.2	2.2	1.2	0.2	5.1	37.3
ほぼ毎日利用する	623	45.9	13.6	13.8	13.0	5.9	10.1	2.7	1.6	1.4	0.3	6.1	33.5
2～3日おきに利用する	108	50.9	23.1	13.9	27.8	5.6	7.4	2.8	0.9	1.9	0.0	2.8	25.9
週に1回程度利用する	84	51.2	19.0	16.7	10.7	10.7	4.8	2.4	0.0	3.6	0.0	6.0	25.0
月に1回程度利用する	59	54.2	13.6	13.6	6.8	10.2	1.7	0.0	3.4	0.0	0.0	3.4	35.6
年に数回程度利用する	32	34.4	9.4	12.5	21.9	12.5	3.1	9.4	0.0	3.1	0.0	3.1	50.0
全く利用しない	646	40.1	15.6	15.5	11.0	6.7	1.5	4.0	3.1	0.6	0.2	5.3	40.6

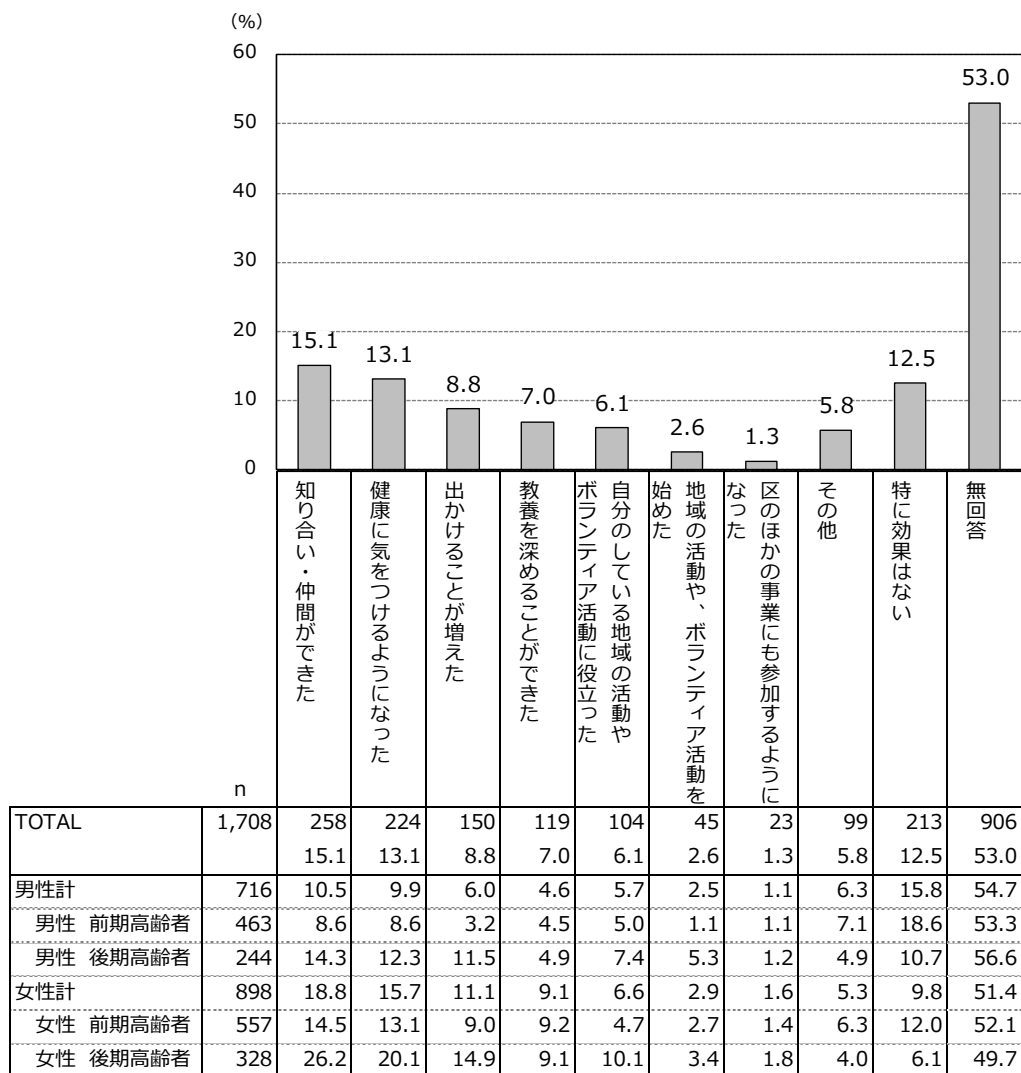
(3) 区の事業への参加による効果

問31 あなた(宛名のご本人)は、区の事業に参加することでどんな効果があったと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

区の事業への参加による効果について、効果があったと回答している人の中では、「知り合い・仲間ができた」が15.1%と最も高く、次いで「健康に気をつけるようになった」が13.1%、「出かけることが増えた」が8.8%の順となっている。一方、「特に効果はない」は12.5%となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「特に効果はない(15.8%)」が高く、女性では男性よりも「知り合い・仲間ができた(18.8%)」「健康に気をつけるようになった(15.7%)」「出かけることが増えた(11.1%)」が高くなっている。また、性年代別で見ると、女性後期高齢者では「知り合い・仲間ができた(26.2%)」「健康に気をつけるようになった(20.1%)」「出かけることが増えた(14.9%)」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-7-20 区の事業への参加による効果：性年代別



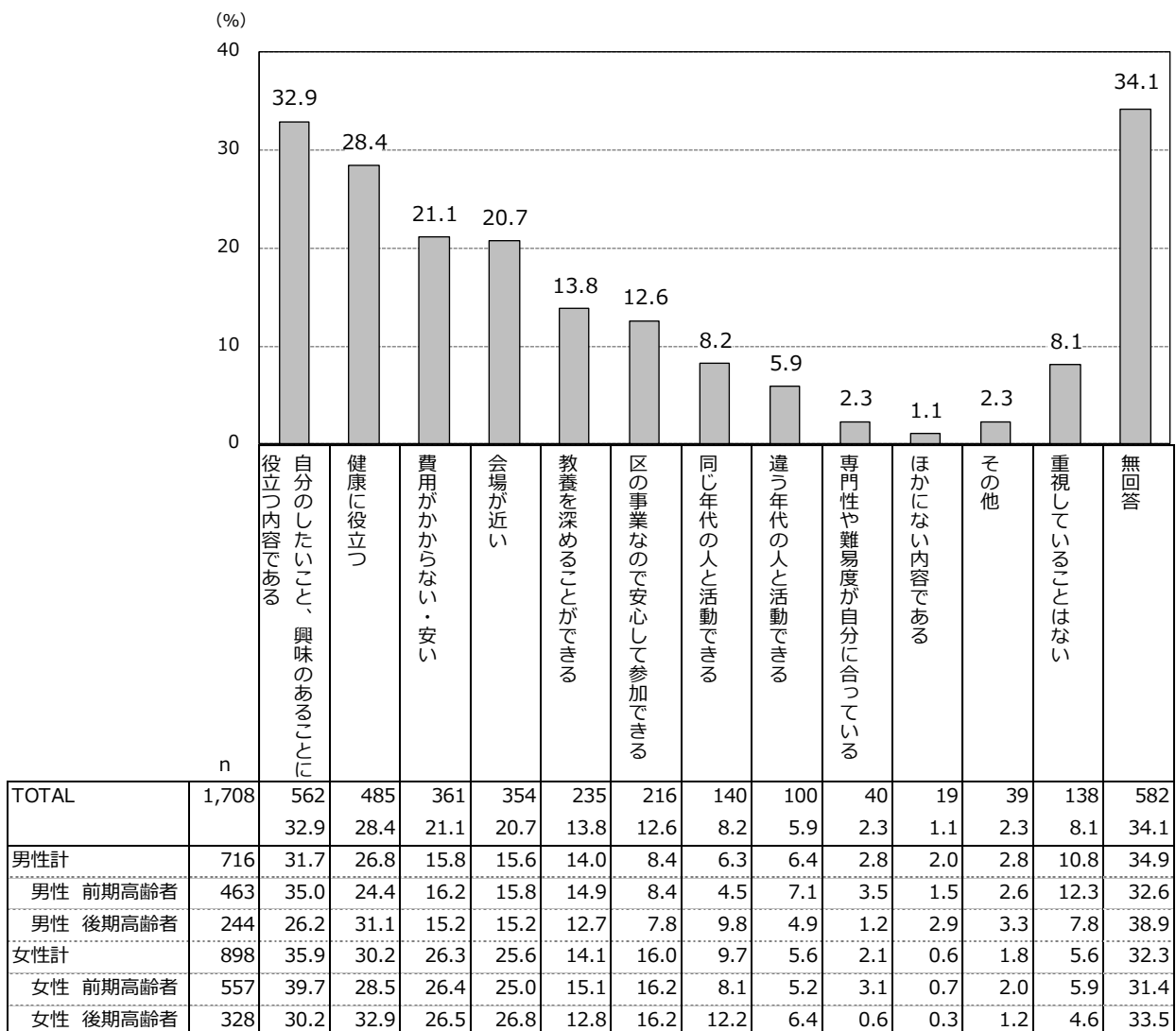
(4) 区の事業に参加するときに重視すること

問32 あなた(宛名のご本人)は区の事業に参加するときに、どんなことを重視しますか。上位3つに○をつけてください。(○は3つまで)

区の事業に参加するときに重視することについて、重視することがあると回答している人の中では、「自分のしたいこと、興味のあることに役立つ内容である」が32.9%と最も高く、次いで「健康に役立つ」が28.4%、「費用がかからない・安い」が21.1%の順となっている。一方、「重視していることはない」は8.1%となっている。

性別でみると、男性では女性よりも「重視していることはない(10.8%)」が高く、女性では男性よりも「費用がかからない・安い(26.3%)」「会場が近い(25.6%)」「区の事業なので安心して参加できる(16.0%)」が高くなっている。また、性年代別でみると、女性前期高齢者では「自分のしたいこと、興味のあることに役立つ内容である(39.7%)」「費用がかからない・安い(26.4%)」が、女性後期高齢者では「会場が近い(26.8%)」「費用がかからない・安い(26.5%)」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-7-21 区の事業に参加するときに重視すること：性年代別



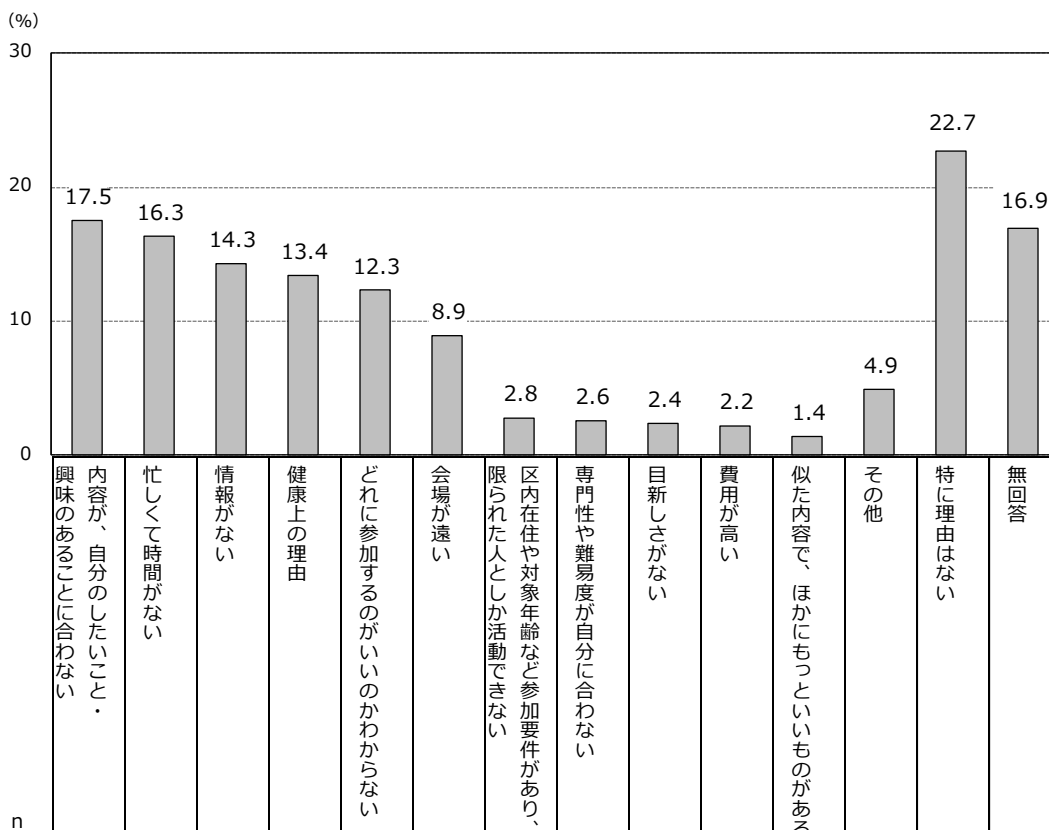
(5) 区の事業に参加しない理由

問33 あなた（宛名のご本人）が区の事業に参加しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

区の事業に参加しない理由については、「特に理由はない」が22.7%と最も高く、次いで「内容が、自分のしたいこと・興味のあることに合わない」が17.5%、「忙しくて時間がない」が16.3%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「特に理由はない（27.0%）」が高く、女性では男性よりも「会場が遠い（11.8%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「内容が、自分のしたいこと・興味のあることに合わない（24.6%）」「情報が無い（21.0%）」が、男性後期高齢者では「特に理由はない（28.7%）」が、女性前期高齢者では「忙しくて時間がない（23.2%）」が、女性後期高齢者では「健康上の理由（18.9%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-7-22 区の事業に参加しない理由：性年代別



	n	興味のあることに合わない	内容が、自分のしたいこと・忙しくて時間がない	情報が無い	健康上の理由	どれに参加するのがいいのかわからない	会場が遠い	限られた人しか活動できない	区内在住や対象年齢など参加要件があり、	専門性や難易度が自分に合わない	目新しさがない	費用が高い	似た内容で、ほかにもっといいものがある	その他	特に理由はない	無回答
TOTAL	1,708	299	279	245	229	210	152	47	45	41	38	24	83	387	289	
		17.5	16.3	14.3	13.4	12.3	8.9	2.8	2.6	2.4	2.2	1.4	4.9	22.7	16.9	
男性計	716	20.7	15.4	17.5	13.5	12.4	5.4	2.4	3.1	2.7	1.8	1.3	3.2	27.0	13.1	
男性 前期高齢者	463	24.6	19.7	21.0	11.7	11.2	5.4	2.2	3.2	3.0	2.2	1.1	3.9	25.9	9.1	
男性 後期高齢者	244	13.1	7.8	11.1	17.2	14.8	5.7	2.9	2.9	2.0	1.2	1.6	2.0	28.7	20.1	
女性計	898	16.4	17.5	12.7	12.9	12.0	11.8	3.0	2.6	2.3	2.8	1.7	6.0	19.4	19.2	
女性 前期高齢者	557	19.0	23.2	14.2	9.5	14.4	12.7	3.4	3.2	3.1	3.2	1.8	7.0	18.5	13.3	
女性 後期高齢者	328	11.9	7.3	10.7	18.9	8.2	10.4	2.4	1.5	1.2	2.1	1.5	4.6	21.3	28.7	

8. 新型コロナウイルス感染症の影響・今後の意向・希望する支援施策について

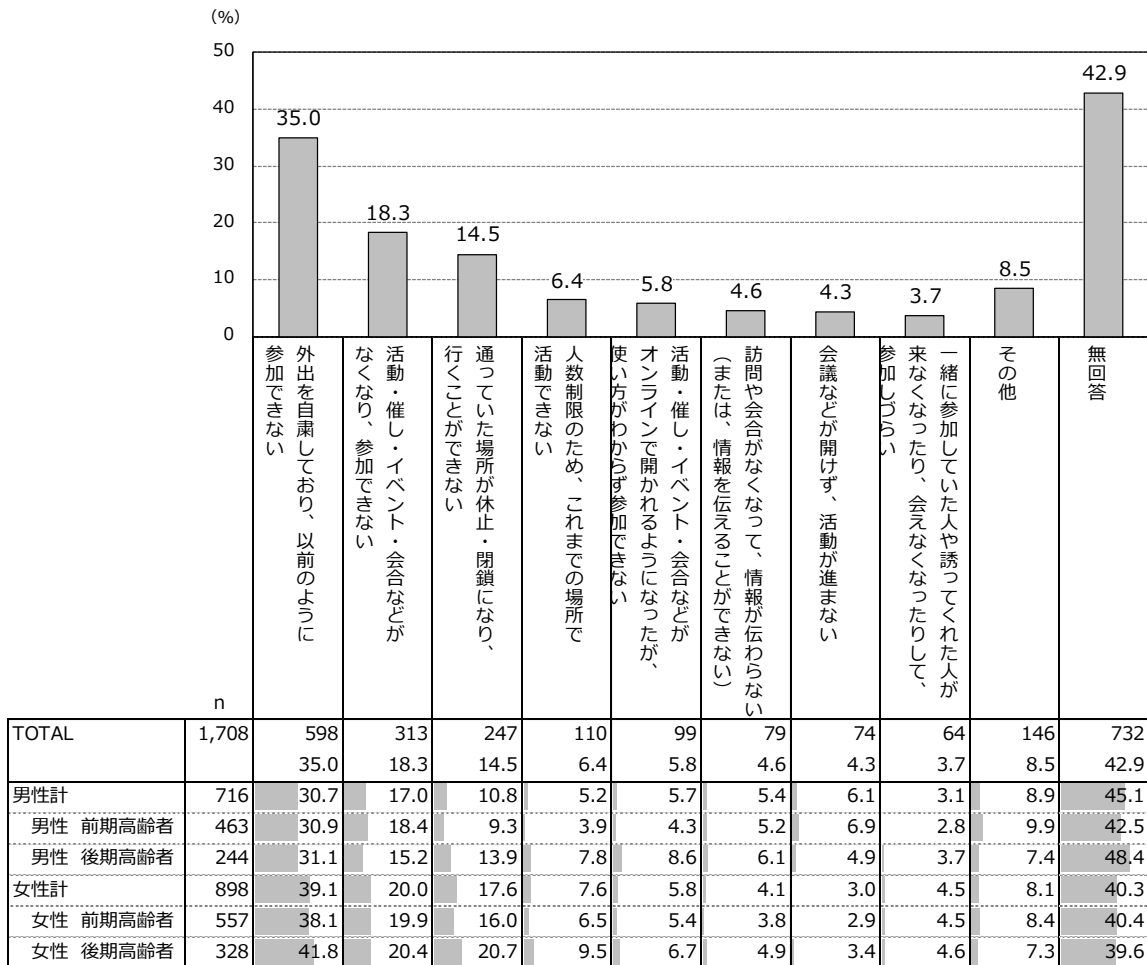
(1) 「社会参加」に対する新型コロナウイルス感染症の影響

問34 「社会参加」に関して、新型コロナウイルス感染症の影響でこれまでに困ったことや、現在困っていることはありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)
 ※「社会参加」…仕事、町会・自治会や老人クラブなど地域での活動、ボランティア、学習、芸能の伝承、趣味・習い事など、他の人と一緒に行うことであれば、すべて「社会参加」としてください。

「社会参加」に対する新型コロナウイルス感染症の影響については、「外出を自粛しており、以前のように参加できない」が35.0%と最も高く、次いで「活動・催し・イベント・会合などがなくなり、参加できない」が18.3%、「通っていた場所が休止・閉鎖になり、行くことができない」が14.5%の順となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「外出を自粛しており、以前のように参加できない（39.1%）」「通っていた場所が休止・閉鎖になり、行くことができない（17.6%）」が高くなっている。また、性年代別で見ると、女性後期高齢者では「外出を自粛しており、以前のように参加できない（41.8%）」「通っていた場所が休止・閉鎖になり、行くことができない（20.7%）」が全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-8-1 「社会参加」に対する新型コロナウイルス感染症の影響：性年代別



(2) 今後、今まで以上に取り組みたい・心がけたいもの

問35 あなた(宛名のご本人)は、今後、今まで以上に取り組みたい・心がけたいものはありますか。
あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

今後、今まで以上に取り組みたい・心がけたいものについて、取り組みたい・心がけたいものがあると回答している人の中では、「体を動かす(ウォーキングやスポーツなど)」が43.3%と最も高く、次いで「友人・知人との交流」が36.6%、「子や孫など、家族・親族(同居していない場合を含む)との交流」が30.3%の順となっている。一方、「特にない」は14.0%となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「特にない(17.9%)」が高く、女性では男性よりも「友人・知人との交流(42.3%)」「趣味の活動(主に外出して行うもの)(34.4%)」「趣味の活動(主に自宅で行うもの)(17.3%)」「学習活動(講座・講習会、学習サークルなど)(13.1%)」が高くなっている。

また、性年代別で見ると、男性前期高齢者では「仕事、就職活動(13.0%)」が、男性後期高齢者では「特にない(19.7%)」が、女性前期高齢者では「体を動かす(52.6%)」「友人・知人との交流(44.7%)」「趣味の活動(主に外出して行うもの)(38.8%)」「子や孫など、家族・親族(同居していない場合を含む)との交流(37.7%)」「趣味の活動(主に自宅で行うもの)(20.1%)」が、女性後期高齢者では「ご近所とおつきあい(20.1%)」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

前回調査と比較すると、「友人・知人との交流」が15.8ポイント、「ご近所とおつきあい」が13.6ポイント、それぞれ顕著に低下している。

図表3-8-2 今後、今まで以上に取り組みたい・心がけたいもの：性年代別

n	体を動かす (ウォーキングやスポーツなど)	友人・知人との交流	子や孫など、家族・親族 (同居していない場合を含む)との交流	旅行やイベントなど	趣味の活動(主に外出して行うもの: 習い事、趣味のサークル活動)	趣味の活動(主に自宅で行うもの: 読書、手芸、オンラインで行うものなど)	ご近所のおつきあい	地域活動・ボランティア活動	ケア、介護	配偶者や親など、家族・親族 (同居していない場合を含む)の	学習活動(講座・講習会、 学習サークルなど)	家屋や庭の維持、メンテナンス (日曜大工、庭いじりなど)	ボランティア活動
TOTAL	1,708	43.3	36.6	30.3	30.0	14.7	13.5	-	11.0	10.4	10.2	8.5	
前回TOTAL	1,902	50.7	52.4	39.6	36.4	24.3	27.1	13.5	16.6	-	14.0	-	
男性計	716	43.7	30.2	28.5	26.3	12.0	12.0	-	11.6	7.3	11.5	7.8	
男性 前期高齢者	463	46.9	29.2	28.9	28.5	13.6	9.9	-	13.2	8.2	11.9	8.4	
男性 後期高齢者	244	38.5	32.4	27.9	23.0	9.4	16.4	-	9.0	5.7	11.1	7.0	
女性計	898	44.7	42.3	32.0	34.4	17.3	15.1	-	11.0	13.1	9.4	9.4	
女性 前期高齢者	557	52.6	44.7	37.7	38.8	20.1	12.0	-	12.6	15.3	11.0	9.3	
女性 後期高齢者	328	32.0	39.0	23.5	27.4	11.9	20.1	-	8.8	9.5	6.4	9.8	

n	仕事、就職活動	インターネットの活用	就労(自営での営業を含む)	住んでいる地域での、町会・自治会、 老人クラブなどの活動	新しい仲間やネットワークづくり	資格の取得や知識・技術の習得、 学習活動	資格の取得	やりたいもの・こと	左記以外で取り組んでみたい、 やりたいもの・こと	特にない	無回答
TOTAL	1,708	8.0	7.3	-	6.6	4.7	-	2.0	1.6	14.0	11.2
前回TOTAL	1,902	-	13.6	7.3	-	7.5	4.7	-	1.7	-	11.3
男性計	716	9.4	9.4	-	7.1	5.4	-	2.1	1.3	17.9	9.8
男性 前期高齢者	463	13.0	10.6	-	5.6	5.8	-	2.4	0.9	16.4	6.7
男性 後期高齢者	244	2.9	7.4	-	10.2	4.9	-	1.6	2.0	19.7	14.8
女性計	898	7.2	5.9	-	6.3	4.5	-	1.9	2.0	10.4	11.2
女性 前期高齢者	557	9.7	7.4	-	3.8	5.2	-	2.7	2.2	8.4	6.5
女性 後期高齢者	328	3.0	3.7	-	11.0	3.0	-	0.6	1.8	12.8	18.9

※前回調査では「地域活動・ボランティア活動」としていた選択肢を今回調査では「住んでいる地域での、町会・自治会、老人クラブなどの活動」「ボランティア活動」に、同じく「資格の取得や知識・技術の習得、学習活動」を「学習活動(講座・講習会、学習サークルなど)」「資格の習得」に、「就労(自営での営業を含む)」を「仕事、就職活動」に、それぞれ変更している。

また、今回調査では「特にない」の選択肢を追加している。

第3章 調査結果の詳細

詳細な年齢区分別でみると、65～69歳では「体を動かす（ウォーキングやスポーツなど）（54.8%）」が、男性65～69歳では「体を動かす（53.5%）」が、男性80～84歳では「特にない（24.3%）」が、女性65～69歳では「体を動かす（56.3%）」「友人・知人との交流（47.0%）」「子や孫など、家族・親族（同居していない場合を含む）との交流（41.0%）」「趣味の活動（主に外出して行うもの）（40.7%）」が、女性80～84歳では「ご近所とおつきあい（25.7%）」「住んでいる地域での、町会・自治会、老人クラブなどの活動（17.1%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。

図表3-8-3 今後、今まで以上に取り組みたい・心がけたいもの：性年代別（詳細）

n	体を動かす (ウォーキングやスポーツなど)	友人・知人との交流	子や孫など、家族・親族 (同居していない場合を含む)との交流	旅行やイベントなど	趣味の活動(主に外出して行うもの… 読書、手芸、オンラインで行うものなど)	ご近所とおつきあい	ケア、介護	学習活動(講座・講習会、 学習サークルなど)	配偶者や親など、家族・親族 (同居していない場合を含む)の	家屋や庭の維持、メンテナンス (日曜大工、庭いじりなど)
	TOTAL	1,708	43.3	36.6	30.3	30.0	14.7	13.5	11.0	10.4
65～69歳	489	54.8	39.7	36.4	36.4	20.0	12.5	12.5	15.1	12.5
70～74歳	550	44.7	35.6	31.3	32.0	14.5	9.8	12.7	9.5	10.7
75～79歳	435	38.4	35.4	26.0	25.7	11.3	16.1	10.1	8.0	9.0
80～84歳	200	26.0	37.0	25.0	22.0	10.0	21.5	6.0	6.5	6.5
男性65～69歳	215	53.5	30.2	30.2	30.2	17.2	13.0	14.0	10.2	14.0
男性70～74歳	248	41.1	28.2	27.8	27.0	10.5	7.3	12.5	6.5	10.1
男性75～79歳	174	41.4	29.9	28.7	21.8	9.8	14.9	9.8	4.6	12.1
男性80～84歳	70	31.4	38.6	25.7	25.7	8.6	20.0	7.1	8.6	8.6
女性65～69歳	268	56.3	47.0	41.0	40.7	22.0	12.3	11.6	18.7	10.4
女性70～74歳	289	49.1	42.6	34.6	37.0	18.3	11.8	13.5	12.1	11.4
女性75～79歳	223	35.9	40.8	22.9	30.0	12.6	17.5	10.8	10.8	6.3
女性80～84歳	105	23.8	35.2	24.8	21.9	10.5	25.7	4.8	6.7	6.7

n	ボランティア活動	仕事、就職活動	インターネットの活用	住んでいる地域での、町会・自治会、 老人クラブなどの活動	新しい仲間やネットワーキング	資格の取得	左記以外で取り組んでみたい、 やりたいもの・こと	特にない	無回答	
	TOTAL	1,708	8.5	8.0	7.3	6.6	4.7	2.0	1.6	14.0
65～69歳	489	11.7	13.7	11.5	4.3	6.5	3.3	1.6	10.0	4.5
70～74歳	550	6.7	8.9	6.5	4.7	4.5	1.8	1.5	14.0	8.7
75～79歳	435	8.7	3.4	5.1	9.9	4.1	1.8	1.8	14.5	15.6
80～84歳	200	7.0	2.5	5.5	11.5	2.5	0.5	1.5	19.5	21.0
男性65～69歳	215	10.7	16.3	12.1	5.1	6.0	2.8	0.9	12.1	3.7
男性70～74歳	248	6.5	10.1	9.3	6.0	5.6	2.0	0.8	20.2	9.3
男性75～79歳	174	7.5	2.9	5.7	12.1	5.2	2.3	1.7	17.8	13.8
男性80～84歳	70	5.7	2.9	11.4	5.7	4.3	0.0	2.9	24.3	17.1
女性65～69歳	268	11.9	11.2	10.8	3.7	6.7	3.7	2.2	8.6	5.2
女性70～74歳	289	6.9	8.3	4.2	3.8	3.8	1.7	2.1	8.3	7.6
女性75～79歳	223	10.3	3.6	4.5	8.1	3.6	0.4	2.2	12.1	16.6
女性80～84歳	105	8.6	1.9	1.9	17.1	1.9	1.0	1.0	14.3	23.8

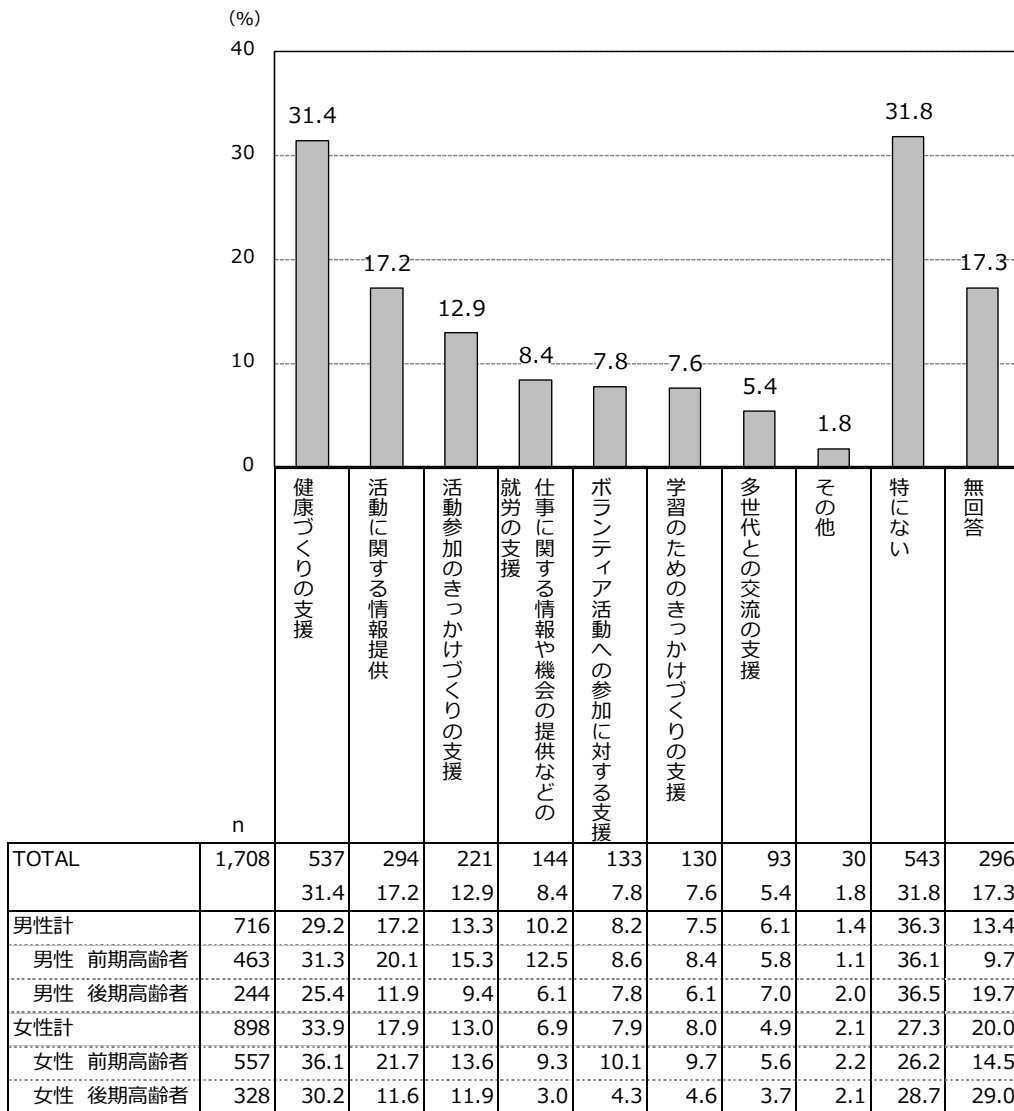
(3) 行政で行ってほしいと思う支援施策

問36 行政で行ってほしいと思う支援施策はありますか。(あてはまるものすべてに○)

行政で行ってほしいと思う支援施策について、行ってほしいと思う支援施策があると回答している人の中では、「健康づくりの支援」が31.4%と最も高く、次いで「活動に関する情報提供」が17.2%、「活動参加のきっかけづくりの支援」が12.9%の順となっている。一方、「特にない」は31.8%となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「特にない（36.3%）」が高くなっている。性年代別で見ると、男女ともに加齢に伴って「健康づくりの支援」「活動に関する情報提供」「仕事に関する情報や機会の提供などの就労の支援」が低くなっている。また、男性では「活動参加のきっかけづくりの支援」が、女性では「ボランティア活動への参加に対する支援」「学習のためのきっかけづくりの支援」が、それぞれ加齢に伴って低くなっている。

図表3-8-4 行政で行ってほしいと思う支援施策：性年代別



9. 自由意見

問39 ここまでの質問以外のことなど、ご自由にお書きください。

質問以外のことなどの自由意見については、213人からの回答があった。

主な内容としては、「生きがい・社会参加について」が49人と最も多く、次いで「前掲以外の行政への要望・相談・意見等、その他」が43人、「アンケートに関すること」が31人、「生活について」が30人の順となっている。

図表3-9 自由意見

番号	記入内容	件数
(1)	就労・仕事について	17
(2)	健康について	13
(3)	生きがい・社会参加について	49
(4)	介護保険制度・介護について	3
(5)	生活について	30
(6)	情報提供・デジタル化について	9
(7)	新型コロナウイルス感染症について	18
(8)	アンケートに関すること	31
(9)	前掲以外の行政への要望・相談・意見等、その他	43
計		213

(1) 就労・仕事について (17人)

- 71歳になったが、フルタイムで正社員として仕事をしている。年齢の割には元気で、パソコン等もそこそこ使える。仕事をする上ではパソコンが必需品だと思うが、スマホもパソコンも、なくても生活に支障はないと思う。60代後半から、郵送で健康診断的なものをしてもらえる機関があることを知り、自分も高齢者の1人と認識した。今年も先月したが、やはり1年間で体力と記憶の衰えを感じた。こういう機関があることには感謝している。いろいろな支援がある。仕事をリタイアしたら、趣味、講座などに参加したい。また人の役にも立てるよう心がけたいと思っている。ありがとうございました。
- 仕事があるので区の行政と関わる時間がなく、必要も感じない。
- 現在の生活をいつまで維持できるか、仕事を介して社会貢献を続けていけたらと思う。反面、できなくなった時の身の振り方を考える。
- 働くことができればよい。
- 企業には定年があり、その後は労働条件が悪くなるのが通常だが、納得できない事例をいろいろ見てきた。働けるだけでありがたいという考えの方もいるが、もっと積極的に自信を持って働き続けたいと思う。高齢者が実際に多くの職場で活躍できる社会になってほしい。同一労働差別賃金は是正してほしい。

- 48歳で妻を亡くし、現在は年金のみでは生活費を賄いきれないと考え、健康維持も兼ねて仕事を続けている。体力を考えると70歳までは不可能かと思うし、他のことで社会参加もしたいと考えているが、具体的なものは特にない。
- 退職後どんな生活になるか、考えたくない心境である。1日でも長く勤めていたいと思っている。
- 預金もなく年金も少ないため、高齢になっても働かないと生活できない。しかし、企業からは年齢を伝えただけで断られる。あたりまえだと思うが、元気な高齢者ができる仕事があればチャンスを与えてほしい。欲を言えば、生活できる程度の年金がほしい。
- 退職後、毎日どう過ごすか、不安でいっぱいである。
- 足腰が弱り、歩行もままならないが、無理のない運動で体力をつけて楽しく仕事ができるようになりたい。
- 今は働いているので家賃が払えるが、働けなくなったら住む所がなくなる。どうしたらよいか悩む。
- インターネット、スマホは使用していない。携帯電話だけ。今も元気で、それなりに自己管理をして、80歳まで働こうと思っている。
- 1人暮らしのため先々が心配である。現在はアルバイトをしているが、終わると生活面が大変である。
- 去年まで週1回、NPOで受付をしていた。楽しかったので、そうした仕事があったら、週1回程度は働きたい。しかし、今の時期後期高齢者では難しいと思うので、コロナ対策として3密を避けての高齢者の暮らし方を例示してほしい。
- 区内で働く場所があれば、区報で知らせてもらいたい。
- 体の不調が続き、長い間立ってられない。金銭的にも苦しいので働きたいのだが。
- マンションの管理人として住んでおり、マンションの清掃の仕事をしている。元気な限り続けていきたいと思っている。

(2) 健康について (13人)

- 平成28年に2週間入院し、酸素をつけて退院した。今は在宅で呼吸器を使っている。
- この先、体を大切に、人に迷惑をかけないよう頑張ります。ありがとうございました。
- 病気療養・休職中。
- 何をすることも健康第一と、自分の体調を考えて回答するが、自分の考えとはほど遠いアンケートで、よく書くことが難しい。健康上の理由で、重いものや早いものにはついていけない。
- 病気治療中。
- 健康に留意し、他人の迷惑にならないよう明るく楽しく生きていきたい。
- まだまだ元気なので、人を頼らずなんでも自分でしていこうと思っている。
- まだ健康で薬の世話にもならず生活できているので、維持していきたい。のんき(呑気)・こんき(根気)・げんき(元気)で過ごすことをモットーにしている。
- 元気で長生きできる政策・環境作りを希望する。健康診断の充実(安価、希望箇所、年齢を問わない人間ドック)、ウォーキングなど簡単な健康維持ができ気軽に使用できる(安価、時間帯)スポーツ施設。結果的に医療費削減につながる。
- 比較的健康で、夫婦とも問題なく生活しているが、やはり健康上の懸念は否定できない。テニスクラブやスポーツのグループに所属しているが、今は健康でも明日の我が身は予想できない。その上、新型コロナの流行で不安は尽きない。国の施策は後手後手で、頭の良い官僚がやることと

安心していが、みごとに裏切られた。このような健康上の不安を身近な自治体で解消してもらえれば幸いである。

- 年を重ねるごとに、心配なのは「健康」である。医者に行く前に症状について気軽に相談できる窓口があるとよい。受診前に片づけば、医療費の負担も少なくすむのでは。
- 日々健康で穏やかに過ごすことを願う。
- 病気で体が不自由な上、老いて体が思うように動かないが、自身の判断でできることは一生懸命頑張っているようにしている。

(3) 生きがい・社会参加について (49人)

- スキーや卓球など、これまで職場やサークルで楽しんでいたことが継続できればそれで十分だと考えている。
- ストレッチ体操等を教わりたい。
- 年金生活の中で上手に活用できることには積極的に参加したい。利用範囲が広がることは望ましいし、声かけも大事だと思っている。
- 区での高齢者向け体操、脳トレ、趣味・学習活動を増やしてほしい。ヨガ等があっても、抽選で参加できない。区だと安心で、参加費用が安い（もう少し高くしてもよい）。
- 洋服のオーダーを30年近くやっていたので、やってみたい人のためになりたい。今は、マスクを自分で考えた型で、あてもなくたくさん作っている。どうしたら皆さんに知ってもらえるかわからない。
- 子育て支援（幼～）、時間、空間、友人が必要とされる。徒歩圏内にいつでも利用できる場所が必要である。
- 人が生きていく上で、好きなことがあることが大事だと感じている。「子ども時代にそれを見つけた」、それが一生のエネルギーになるのだと、この年齢になり思っている。区がいろいろと提供してくれることに感謝している。
- 区の事業に参加したいが、場所・時間が合わず、参加したことがない。1つの事業の実施場所・時間帯を複数設けるなど、多くの人に参加できるようにしてほしい。
- 生活が安定したら、健康第一で、ボランティア活動などで人の役に立ちたい。ありがとうございました。
- 誰かと関わってほしい。自分の好きなこと、できることで人の役に立ちたい。
- 人間関係がわずらわしい人は、どうすればよいのか。
- 地域やNPO活動に必要な資金援助をしてほしい。
- 今は1人で行動することができるが、今後空き時間には他の人と関わっていきことができたらと思う。きっかけがない。
- 家族を早くなくし、長く付き合える人もなく、血のつながった人もいない。現在一緒に暮らしている相手が生きがいである。それしかない。
- マンション暮らしなので近所のつきあいがいい。また昨年まで会社勤めで、会社関係の知人・友人とのつきあいがほとんどであり、地元とのつきあいはない。マンションは町会、自治会にあまり縁がない。何かボランティア等をしたと思っているが、行動できない（キッカケがない）。
- 体力・気力など、この年齢になって感じるものがたくさんある。健康で、いつまでも人のためにできることをやれたらよいと思う。
- 今はシニア時代がいろいろ参加しやすくなっていると思う。もっと多くの人が入りやすい環境ができるとよい。

- 健康でボランティア活動をライフワークにしたい。
- 北区での趣味のボランティアが3月から中止になり、いつ再開かわからない。北区では1回100円、年間5000円まで出ることになっている。自分は板橋区在住なので出ないが、生きがいの体力のつく限り続けたい。月に6か所あった。
- ボランティア活動等について知らせてほしい。アンケートを書いて、もっと積極的にいろいろな活動をしたと思った。今年はコロナ感染で自粛していたが、収束したらもっと意欲的になりたい。今までどおり「広報いたばし」等で知らせてほしい。
- 2年前に自営業をやめた。健康ならボランティアをするつもりだったが、足が悪くなってしまい、歩くのがつらく、何とか頑張って1日6000歩を目標に歩くようにしている。残念だが今の状態では迷惑がかかるのでできない。
- 2年前までは仕事や旅行などいろいろな活動できていたが、昨年からは健康上の理由で今までのような活動ができなくなった。また、今年は新型コロナウイルスによる自粛も加わり、活動できない状態である。
- 中学、高校の数学の教員だったため、学習支援の手伝い等ができればと思っている。
- 気軽に近くの高齢者と交流できる場所があるとよい。コロナの影響もあり、皆家に閉じこもっている。お茶を飲みながら身体も動かせて、おしゃべりできる場所があればと思う。公的な施設は申請が必要で、費用がかかる。経済的に大変な人ほど忘れられ、放っておかれている。人生の後半を少しでも楽しく過ごせる板橋区なら住み続けたいと思うだろう。
- 趣味の所で書道、読書会、カラオケ、植木盆栽。年なので日帰りバス旅など計画してほしい。
- コロナ感染を怖れ、他県への山登りなどを控え、近くの公園などでウォーキングをしている。板橋は緑、木々が多く歩きやすい。
- 今春からグリーンカレッジに通うことになっていたが、コロナで中止となり残念である。今年度の参加者は来年度ぜひ参加させてほしい。
- ボランティアをしたが、どこも長く続けられなかった。行った先でいつも居心地が悪く、なぜなのか、何が変なのか自分ではわからない。勉強不足。
- 70代後半になり、気力も体力も衰えてきたが、もう少し外出も多くして楽しいことを見つけて、あと10年は元気に頑張る。
- あまり役に立てず申し訳ない。80歳過ぎて、人の交流もつらくなる時がある。
- 井戸端会議などの復活をどうするか。ご近所とのふれあい、助け合いをどう進めるか。みんなが孤立状態になってきているので、その対応。ご近所とどうしたら気軽に交流できるか。
- 83歳になるが1人暮らしで、近くに娘がいるが頼らず、自分より若い近所の人に手料理を分けたりしている。ふれあい館で入浴、運動、折り紙、書道等で生きがいを感じている。最後まで健康で天寿を全うしたいと思う。
- 独身で収入が少なく、明日のことしか考えられない。アパート暮らしなので、先の事が心配である。アンケートの内容と自分との関係がどんな意味を持つかわからない。生活できる内容でないと参加は無理である。新たな活動を始めることは不安でできない。時間とお金、両方とも余裕がないと、ボランティア等に関われない。
- フルタイムで38年働いたのでもう仕事をするつもりはないが、先のことを考えたとき、自分の楽しみだけでなく、週1、2回のボランティアならやってもよいかと思っている。しかし、体が動かなくなってきているため、やれることが限られてきている。
- 長寿社会を支えるのに、高齢者のみならず幅広い年代が利用交流できる場を増やしてほしい。コロナで外出を自粛している人が多くいるが、少しずつ動き出すためには、近くに活動できる場が必要である。イベントの冊子があることは知っているが、わざわざ出張所まで取りに行かない

と、いろいろな活動があることすらわからない。区の広報紙等を使い、幅広く、老若男女に知れ渡る方法を模索してほしい。活動の場を増やし、イベントなどの活動を広く広報していかないと、大きく看板をかかげても名折れになってしまう。

- 区の事業等いろいろあるようだが、仕事の疲れがたまり、休日は身体を休めることに専念するのみ。
- 72歳で、登山と街歩きが趣味、東京の街で新たな発見をすることが好き。なるべく医者にかからないようにしている。
- 板橋は安心して暮らすことができ好きである。今自分にできることは続けたいと思う（自治会、老人クラブ、町会などの手伝い等）。
- 板橋区は住みやすく、行政がすぐ動いてくれて安心して暮らせる。コロナ禍だが、近隣の方に挨拶など声かけをして、支え合いを自身から発信していく。
- 14年間、IT教室のボランティアをしてきた。今年度で終了となるが、よい学びができたことに感謝している。
- 高齢のため自分の気持ちを判断しづらく、始めから最後までとてもつらい思いで記入した。諸々のボランティアもしてきた。今は不可能なことばかり、ストレスをためないでできることは何だろう。今は1つの協会にかかわっていることが好きなことであり、目的があってすることで気持ちが安定し、体も楽になり、自分でも驚くほどのアイデアも浮かぶ。好きなことを自分のペースですることが、シニアには一番大切だと強く思っている。
- シニア世代と言っても幅広く、生活もこれまでの経験もかなり違う。ひとくりにせず、その人なりに社会的な活動に参加できるような仕組みを作れないか。地域に根ざした活動ばかりではなく、共通してこれから必要となる健康維持や世代間の協力など、関心事とつながった活動が少ないように思える。
- 4年前に妻に先立たれ、知人・友人、周囲の人に励まされて、少しずつ悲しみも寂しさも薄らいできた。近所に住む息子家族と週1回夕食を共にするのが楽しみのひとつだが、今はコロナ禍でお互いに自粛している。
- 30年以上住んでいるが、板橋区民としての意識が低く、行政が行う事業についてほとんど知らずに生活していることに気づかされた。昼間の大部分を過ごす他区への地域愛は強く感じている。まだ元気なうちに現所在地周辺で行動が起こせたらと感じさせられたアンケートだった。
- 初めての所に引越し、土地勘がなく知人もいない。今はコロナで出歩く勇気もなく、徒歩で行けるところへ食料を買いに行くだけ、バスや電車は病院に行く時だけである。でも子ども2人が1週間に1度ずつ電話をくれ、1人での生活も長いので寂しくはない。コロナ前は毎週来てくれていたが、今は来たくても来られない。自分のことは自分でやっていたら健康でいられると思ひ、努力している。心の支えは子どもたちである。自分だけの楽しみがなかったが、老年になって今いちばん幸せを感じている。
- 共働き世帯の親族を助けたいので、社会参加もそれに役立つものになりたいと思っている。
- 1年半ほど前まではボランティアや運動サークル等で活動していた。体調を崩し、今はほとんど回復したが、いったん休止したらおっくうになりそのままになってしまった。いろいろ参加していると生活に張り合いがあり楽しかった。
- 会社勤務の後、地域活動・サークル活動などをしてきたが、80歳を過ぎてから体調不良で、最近ではほとんど活動していない。
- 団体の役員をしているが、コロナ禍で休止した後再開し、参加者も大変喜んでいて。活動支援も大いに受けていると思う。高齢者が多い中ありがたいことと感謝している。

(4) 介護保険制度・介護について (3人)

- 年収の割に介護保険が高すぎる。生活が困窮している。
- 全て母親の介護。
- 配偶者の介護が始まったばかりでどんな問題が発生するか予想できないが、今後相談していきたい。

(5) 生活について (30人)

- 板橋区になるべく迷惑をかけないで終わりたいと思って生きている。
- 美容業を40年営業し、ここ1年は何も考えておらず遊んでいる。
- 生活保護で生活をしており、収入はない。車椅子のため自分で思うように動けない。
- 身障者で、まだまだバリアーが高い。
- 収入の少ない高齢者が最も困っていることは、健康であれば、おそらく住宅問題である。
- 平成26年から生活保護を受給しながらの生活である。テレビはない。あまり長生きすると国のために申し訳なく思っているが、寿命がくるまでよろしく願います。ありがとうございます。
- 生活保護を受けているが、家賃の安い所へ引越さなければならず、金銭的に大変困っている。いろいろな活動をしたいと思うが身動きできない。
- このような質問に答えているだけで、自分の生活が見えてくる。どこまで改善できるか不明だが、できるだけ頑張っ生きていきたい。
- 戦争後の生活で兄妹とも疎遠となり。家族愛の不足が悲しい。これからの世の中も。
- 生活保護も受けているが、いろいろと悩みがありきりが無い。2週間に1回通院している。買物は休み休みできるが、階段が辛い。保護を受けていることが最も辛い、今となっては仕方ない。
- 妻と子ども(愛の手帳2度)の家庭で、昼間は福祉園で見てもらっている。親がいる間はいいが、この先が心配である。
- 公社ハイムに住んでいるが、隣室との関係が悪く困っている。管理事務所にも問題があると思う。早くどこかに引越したい。
- 15歳で東京に出てきたので高学歴とは言えないが、友人、知人、家族を大事に、人生を真面目に生きてきたので、今の幸せな生活があると感じている。これからも自分の道を真っ直ぐに進むつもりである。我々高齢者に対しての配慮には感謝している。ほんとうにありがとうございます。
- 夫が今年永眠し、今は自分の生活を考え迷うことばかりである。
- 70歳まで働き、現在82歳で身体はガタガタ、足腰が痛む。毎日の生活費をものすごく考え、主人も国民年金で生活が大変である。この先病気などで入院した場合、費用を払えるか不安である。心配は多いが友達はいて、助けてくれる。
- 死亡するのを待っているだけである。
- 30年以上タクシー会社の運転手として勤めた。父親と30年あまり同居し、101歳間近で亡くなった。今はやっと落ちつき、年金でゆっくりと過ごしている。仕事で気を遣い、家で気を遣い、大変だった。
- 2人の子どもに孫が産まれて手伝いが続き、夫が仕事を続けていることもあり、忙しくしている。時々仕事の手伝いを頼まれ、元気に働けていることに感謝している。お疲れさまです。ありがとうございました。

- 52歳のときの交通事故で後遺症が残った。数年間は生きていくことも大変だった。その後、仕事は全くできないが、家族のために生きることを決意した。そのため、アンケートにも答えづらい。そして81歳になっている。
- 災害はいつ起こるかわからず、社会生活が台無しになる。地震に備えるには、まず部屋の家具を固定し整理整頓すること。当面必要な生活用品や常備薬、貴重品を非常用持出し袋に入れておくことを心掛ける。また、水害から身を守るためには、ハザードマップを入手して自宅の地域の危険度や避難情報を確認する。
- 4世代計9人家族で、病院、銀行、役所など用事がけっこうある。
- ボランティアで相談活動をしている。住宅問題が切実で、仕事がなくなり家賃滞納でアパートを出される人や、高齢者に部屋を貸してくれる所がなく困っている人が多い。民間アパートの貸間、貸家情報や支援などを知りたい。都営住宅にも申し込んでいるが、多くは生活保護につながっているのが現状である。
- 余命のわからない主人の世話をしているので、理想の答えしかできない。
- 自分勝手な生き方をしてきたので、皆に迷惑をかけた。長生きしてほしい人が短く、役に立たない人ほど長生きしているので申し訳ない。感謝している。以後よろしく。
- 引越して間もないので、高島平という町がまだよくわかっていない。
- 今は2人で何とか生活しているが、どちらかがいなくなればすぐに生活苦になり、不安である。
- 浪費しないよう工夫しながら、できるだけ工夫して生活するようにしている。健康維持に仕事、趣味などを取り入れて、生活の潤滑油としている。67歳だが、毎日夜はウォーキング(1時間)、朝はジョギング、筋力ストレッチを欠かさず続けているおかげで、少しハードな仕事だが現在も働いている。ウォーキングクラブに入会し、時には20km、30km歩く。健康の不調はまったくない。健康食品も取り入れている。
- 都営住宅に入居したい。
- 生活費、福祉が十分に受けられるか、健康、認知症など、先のことが不安である。
- 10年間という検査に協力できるか、途中で健康不安や家族の介護等が出てくるのが心配である。

(6) 情報提供・デジタル化について (9人)

- 板橋区は健康長寿医療センターがあり、病院も多く、シニアにとってはいろいろな情報が入り、多方面で活動でき、ありがたい。今はどの年代も大切にしなければならない時代である。シニアを大事にもらえることで、どの世代にも目を向けることができ、応援したい気持ちが強くなってきた。いろいろな情報発信ありがとうございます。
- 1人暮らしで情報が伝わらないので、これからのことが不安でいっぱいである。83歳で介護は受けていないが、これからお世話になると思っている。福祉のことが分からず、認知機能を失わないうちに分かりやすく教えてほしい。このようなアンケートが生きがいにつながればよいと思う。インターネットが利用できると嬉しい。健康生きがい、何より大事なことである。よろしくをお願いします。
- 友人・知人が皆スマホを持っているが、インターネットの使い方が難しくて覚えられないと言っている。高齢者には難しいのだろう。しかし、今の時代はなくてはならないので、区で教室・講座を開いて教えてもらえれば買いたいと思っている。覚えれば何かと安心、便利かと思うし、孤独感が消える。月に何回か教えてほしい。販売店で1回やさしく教えてもらっても忘れてしまう。何回も何回も区で教えてほしい。
- 広い情報提供で、仕事、ボランティア、趣味等の参加機会を増やしてもらいたい。また、気軽に

ボランティアに参加できるとよい。

- 高齢のデジタル弱者への対応を考えてほしい。
- 国では何でも電子化するようだが、私にとっては何の楽しみもなくなる。紙媒体をなくさないでほしい。
- ぜひ高齢者向けインターネットなどの講習、または被害に合わないようなレクチャーをしてほしい。広報いたばし掲載の講習会の先着順受付はやめて、抽選にしてほしい。
- 広報いたばしにサークルの募集記事が小さく掲載されているが、これからはシニアが多くなるので、サークル等の募集専門誌を発刊するとよいと思う。
- 新聞を取らない人には公報が届かないので情報が入らない。せっかくの企画も無駄になる可能性がある。まずそこから。

(7) 新型コロナウイルス感染症について (18人)

- コロナ禍のため引きこもり、母の介護でストレスがたまる。
- 令和2年は災害、コロナ感染で最悪な年だった。4月から外出もできずストレスがたまり、心も体も弱っていることを感じる。早く明るく平和になることを願っている。
- コロナが終息して、再び元の町になるよう日々祈っている。
- コロナが落ち着いたら、区の種々の事業に参加したいと思う。
- コロナのため田舎の老母に会いに行けない。
- 新型コロナでいまだに旅行に行くことができない日々、改めて自分の1日の行動を見つめなおすことができた。ありがとうございました。
- コロナワクチン開発を早急をお願いしたい。
- コロナが1日も早く終息し、前のように自由に外出したり旅行に行ったりできるようになることを祈っている。今は自由を奪われたカゴの鳥のような気持ちである。
- 今はコロナの早い収束を願う。
- 早くコロナ前の生活ができるよう、孫に会えないので寂しい。
- コロナを早く無くしてほしい(1桁に)。
- コロナで自分の趣味が楽しくできることが一番嬉しく思っている。
- コロナ前までは多くの友人とのつきあいがあったが、現在では行き来が制限され、外出した折に少し立ち話するのみである。お隣とも電話で会話している。昨年より腰痛になり、いろいろ閉鎖的になっている。
- コロナの収束を願うのみ。フィジカル・メンタル両面の活動停止中。
- なるべく家にいるなど、コロナで去年と今年の行動が大きく変わっている。運動不足で体調が悪くなる。家族や友達と会うことも控えており、楽しみがなくなっている。電話やメールでは少し寂しい。
- コロナがどの地域で発生しているかわからず、身内にも高齢者や施設入所者がいるため、外出が怖い。どこで発生しているか知りたい。
- コロナ禍の中、もっと気軽にPCR検査ができるとよい。終息が見通せない現在、区の保健センターや病院などで無料で検査ができれば、高齢者が安心して生活や社会参加ができると思う。心配しながら社会参加はできない。
- コロナ禍で、去年とすっかり変わってしまった。

(8) アンケートに関すること (31人)

- 質問が多すぎて途中でパスしようと思った。もう少し簡略にできないか。知人も、めんどうで提出するのをやめた、高齢者には無理だという意見が多かった。
- 今とてもストレスが強く、このような書類はとても疲れる。全部は書けない。気分がすぐれない。
- これで何かの参考になるのだろうか。同じような質問で、もう少し凝縮し、数を少なくするのがよいのではないか。多すぎて少々疲れた。
- 質問が多すぎる。
- 質問が多すぎて疲れた。
- アンケートの集計結果を送ってほしい。
- アンケート用紙が折りづらい。
- 調査票が自分には郵送され、夫には郵送されないのは、対象が女性のみなのか。
- 質問が多くて疲れた。
- アンケートは、自分を見つめなおす感じでよかった。ありがとうございました。
- これだけ多くの質問をした以上、調査結果を知りたい。調査票送付時に、結果をどのように知ることができるのかを記載すべきではないか。
- アンケートに協力したら、お礼の文でなく品物がほしい。行政の目的、区民のためとは言え、自発的でなく答えさせられているもので、時間をかけているので、対価報酬がほしい。回収率も上がる。LINEでのアンケートにしたら、楽にできるのでよい。LINEでできる人はこのアンケートでよいと思う。
- 問31 (区の事業への参加による効果)、問33 (区の事業に参加しない理由) は、どう答えてよいのか分かりづらい。他にも答えづらいところがあり、また問27 (過去1年間に参加した活動・今後新たに参加したい活動) のようにどちらに○をつければよいのか迷ったり、分らなかつたりしたところがあった。
- 返信用封筒が小さすぎる。
- 質問が多すぎて最後はいやになった。
- これでよろしいでしょうか。
- 質問の種類が多い。回答例(数)もわかりにくい箇所があった。2019年と比べると、新型コロナウイルスの生活と違いすぎるので回答しにくい。返信用封筒も小さい。
- アンケートの設問の意図がわからない。何かを「している」「したいと思っている」でないと、消極的なように思わせられるようである。
- 量が多過ぎる。
- 集計結果分析を広報に掲載してほしい。
- 問17 (外出頻度・外出の主な目的) の設問は答えにくかった。例えば毎日散歩と買物に出かける場合、外出する頻度は「1. 毎日2回以上」だが、どちらも外出の主目的であり、目的を1つだけ選択するのは不正確になる。
- アンケート調査を有効に役立ててほしい。
- アンケートが細かすぎる。
- アンケートが膨大すぎる。精選してほしい。
- 65歳も百人百様、行政はどこまでタッチするのか。本調査はどのように、いつ発表され反映されるのか。調査で満足してほしくない。
- 今、経済的に余裕があっても65・70歳以上で働いている方が多い。それなのにシニアという言葉にはかなり抵抗がある。仕事から帰ってきてこういう封通が届くとガックリする。公務員はど

う思うのか。他に言葉はないのだろうか。

- 集計結果が知りたい。良くできた質問紙である。
- 宝くじがまったく当たらず、このようなアンケートが当たる。笑ってしまう。
- 問37（最後に卒業した学校）について、学歴はなぜ必要か。
- 自分の思うとおり回答したので特にない。
- 質問事項が多すぎ、飽きて提出したくなくなる。何をまとめたいかが読み取れない。毎年同じ様な質問で、机の上の仕事でやっているのか、進捗具合が理解不能。仕事のムダ。

(9) 前掲以外の行政への要望・相談・意見等、その他（43人）

- 家族の介護と学習、ボランティア、家事等が金銭的に無理なく行える、両立できる支援がほしい。
- 住民税（都民税）の減額を希望する。今まで納入しなかったことはないので、介護保険料を年金から控除するはやめてほしい。理由を教えてほしい。
- 30～40代の女性の交通ルール、自転車の乗り方を注意してほしい。
- 急増する認知症を支援、共生すべく、条例を制定してほしい。自分がどう生活できるか、暮らしやすい環境をつくること。
- 板橋区の行政は他区より他方面に充実していると、日頃から感謝している。
- 高齢者の税金が高い。
- 年金受給者にとって、税金の負担が重い。国の税金の無駄遣いに納得がいかない。
- 就労時に同程度の収入で年金を掛けた人と、掛けずに退職後生活保護を受ける人との差額が大きいのはなぜか。安易な生活保護支給が多すぎる気がする。誰もが感じている。
- 不妊治療費を、無料とは言わないが早急に保険適用にすべき。身体的苦痛と生活負担をなくし、少子高齢化の解消になる。
- 大通り脇の植木を半分に減らして、ベンチを設置してほしい。
- 時代の流れとは言え、世の中があまりにも便利になりすぎ、不安と怖さを感じる。人間には感情がある。せちがらく思いやり、やさしさがなくなり、行動にマナーがない、自分さえよければという風潮を悲しく思っている。
- 現在の住居（都営アパート）が築30年を経過し、建物の内外全体が老朽化して、少しずつ自前の対策・改修も必要になる。また、高齢の世帯が増え、住みやすくするための安全対策（EVの設置など）も必要になる。「独り暮らし世帯の生活安全環境作り」や「病気・ケガ・心のケア、事故対策」、地域の見守り支援活動などにも、より一層目を向ける必要がある。支援活動で確認してもらいたい。
- 単なるアンケートを数多く投げかけているが、行政の問題点、課題を解決策と具体策につなげてほしい。行政が人を思いやる心意気が1つも伝わってこないのが悲しい。実行力と優しさがあるように思えない。高齢での板橋区の生活に大きな不安ばかりがある。例えば保険証の文字が小さく、被保険者の名前さえわかりにくい。担当課に何年前にも伝えているが、何1つ変わらない。税金は高いが高齢者に冷たい仕事をする公務員が働き続けている。
- 安楽死はどこでできるか。
- 健康面、経済面、家族が安心して生活できるよう、行政の支援に配慮願いたい。自助+公助等、協力精神の支援等々。
- 最近、自転車の交通が多くなっているが、信号無視（歩行者も含む）は自転車も車と同じ扱いのはず。右、左も関係なく走っている。高齢者は危険なので、スマホを含めて、なんとかならない

か。

- 主人が80歳になり、住まいが貸家で毎月支払うのが大変である。何か行政で支援がほしい。都営住宅は申し込んでいる。
- ありがとうございます。お疲れさまです。今後ともよろしく。
- 公のことにあまり役立っていないことに後ろめたさを感じる。
- 図書館がまもなく完成する。談話室「老人天国」茶・コーヒー無料サービスコーナーを希望。
- 区の職員には日頃大変よく対応してもらっており、年々改良されていると思う。これからも区民を愛し頑張ってもらいたい。
- 都のシルバーパスについて、シルバーの行動範囲を広げ体力アップのために利用者負担の統一。課税と非課税の差がありすぎる。シルバーパスがあるから簡単に乗り物を使い、逆に運動不足になるとの意見もあるか。板橋区の取組は他区の友人から羨ましがられる。paypayも良い。
- 健康のためになるべく散歩するようにしているが、自転車の危険をたびたび感じる。大東文化大学前の道路は自転車専用道路と歩道がはっきりと分かれていて、とても歩きやすい（高齢者にとって理想）。また、自転車に乗り始める子どもたちに小学校で自転車のルールを教えてもらえたらとてもありがたい。教わる機会がないので自己流で走っているのもひとつの原因かと思う。朝・タラッシュ時の散歩は避け、夜はライトを持って歩くようにして自衛している。板橋区は緑、公園などが多く、その点はとても満足している。
- 東京都における板橋区の順位は中位以下、よって区の予算等は少ない。都知事に頼むより国会議員に頼んで重点的な予算等の確保を。長寿社会推進課シニア活動支援など無理である。
- 年収と比較して国民健康保険料が高すぎる。
- 働けなくなった時のために自助努力をして貯え、受給しているものを、所得として恩恵が受けられないことにとっても割り切れない思いをしている。もっと公平感のある税制・給付等をしていただきたい。正直者が損をしない世にしていきたい。
- 昨年だけでも区役所に20回以上行った（境界線、隣人の建築、建築の高さ、マンション関係）。
- 区の施設は、職員の対応が悪いと足が遠のく。赤塚図書館は民間委託されてから職員の対応が悪かったため、別の図書館を利用していた。最近は改善され、安心して利用できるようになった。グリーンホールや文化会館、集会所は職員の対応や仕事ぶりの個人差が激しく、戸惑う。きたのホールの職員はとても親切でありありがたい。アクトホールの職員は不親切で、利用者に対する横柄な対応を何度も見ている。
- 赤塚体育館でとても楽しみに通っていたプログラムがあったが、コロナ対策で人数制限され、抽選になってしまった。区外の人もたくさん来る。当たり続ける人もいる中、はずれ続けて全然利用できなくなってしまった。区民として何となく納得できず、必死で申し込みに行っても無駄足で、これがいつまで続くかと思うと悲しくなる。例えば、何回か落ちたら優先的に1度参加できるなど、優遇してもらえないかと思う。
- 地形の成り立ちと現在の姿からの防災のあり方、河川と気象変化による都市型防災の遅れ、すりばち地形の現在の防災の不思議（成り行きまかせ）、武蔵野台地の台（成増台等）が起こす東京共通の問題、住居購入が生かされていない。
- 具体的な災害対策を知りたい。
- 街路樹をもっと増やしてほしい。
- このようなアンケート調査は必要だと思うが、回答が負担に感じられるような高齢者・認知症の方などの声をどう吸い上げるかも考えてほしい。公立保育園の外部委託化が進んでいるが、安易に外注して保育の質を低下させることは避けてほしい。このことは高齢者施設についても言えると思う。弱者への視点を大切にして、行政を行ってほしい。

- 施策を高年齢者より若い世代に向けるべき。
- 年金で生活できる社会（区）を考えてほしい。路上喫煙の禁止・区内の公園の整備を希望する。
- 住民の福祉向上、安心して暮らせる区政を実現してほしい。
- まだ老人とっていない。
- 長年払い続けたにも関わらず、国民年金では生活できない。全く年金を納めず生活保護を受ける方が毎月の収入が多いのは、不自然で理解できない。先細りの年金生活では、長生きするの模とうかと思うようになる。
- 医療費の自己負担を20%に引き上げる政府案があるとのことだが、現行の10%でも大変である。10%継続を強く願う。
- 国民・区民としてなさなければならないこと（税金など）の総括的な情報は、毎年度通知してもらいたい。できれば個人宛に。
- 1人暮らしの高年齢者支援相談窓口、老人ホーム入居相談窓口などは区役所にあるか。
- 尊厳死を望み、延命治療拒否の方法を相談したい。去年頃から思っていたが、コロナのため電話でもできるとよい。
- 生活の支援をしてほしい。

第4章 調査結果の分析

調査結果の分析を述べる前に、前提条件として、本調査を行った2020年度時点の状況について説明する。2019年12月に中国で確認された新型コロナウイルス感染症が世界的に広がり、日本国内においても感染拡大防止の対策が実施された。不要不急の外出自粛などを要請する緊急事態宣言が2020年度内に複数回発令されたほか、宣言期間以外においても、特に高齢者は重症化する割合が高いことから、人との接触を避けるなど行動を大きく制限せざるを得ない状況にあった。したがって、今回の調査結果を前回調査（2016年度）や今後の調査と比較する際は、新型コロナウイルス感染症対策による諸影響があったことに留意する必要がある。

1. 仕事、働くことについて

- 現在の仕事・雇用形態・働き方において、男性はフルタイムで働く、女性はパートで働くなど、男女差がみられる。
- 今年（2020年）、仕事の量が増えたのは「調理、洗い場」。また、自分の暮らし向きが良くなったと
思っている人ほど「仕事の量が多くなった」と回答している。
- 後期高齢者の方が現在の仕事に「生きがい」を感じている割合が高い。また、自分を健康だと思っている人ほど仕事への「生きがい」を感じている。
- 前期高齢者では今後も働きたいとの回答が多い。あと5～10年は働き続けたいとの傾向がみられる。
また、今後働く上で重視するのは「体力的に無理なく続けられること」。その上で、現在の職種で引き続き働くことを希望する人が多い。
- 仕事を探す方法は人からの紹介や求人広告が主。情報を提供する施設などの認知度・利用状況は「ハローワーク」「シルバー人材センター」「インターネット（求人情報サイトなど）」の割合が高い。

現在何らかの仕事をしていると回答している人は計34.3%で、このうち、男性のみ回答している職業が「建設、電気、土木（5.3%）」「輸送、運転（3.9%）」「警備（2.2%）」、男性の方が比較的割合が高いのが「会社・団体の役員、管理職（7.0%）」「管理人（4.1%）」、女性の方が比較的割合が高いのが「清掃、配達（5.8%）」「事務（3.8%）」「介護職、理・美容、その他サービス（3.3%）」となっており、大きな差ではないものの性別による職業の違いがあることがわかる。（問10：図表3-2-1）

また、雇用形態においては、男性では女性よりも「自営業主、自由業（22.3%）」が、女性では男性よりも「パート・アルバイト・契約社員（54.8%）」が高く、性別による明確な違いが生じている。（問10-1：図表3-2-3）

現在の働き方においても、男性では女性よりも「フルタイムで働いている（おおむね週に35時間以上）（41.8%）」が、女性では男性よりも「定期的に働いているが、週に35時間より少ない（53.1%）」が高くなっている。（問10-2：図表3-2-4）

したがって、男性は長時間仕事に集中し、女性は生活と仕事を両立させている、という役割分担があることがうかがえる。

現在の仕事の量が1年前からどう変わったかについて、全体の傾向としては「変わらない」が50.9%と最も高く、『増えた』が8.0%、『減った』が36.7%となっている。現在の職業別でも、仕事の量が『減った』は「製造・加工、機械整備・修理（82.2%）」「輸送、運転（67.8%）」「建設、電気、土木（54.8%）」「介護職、理・美容、その他サービス（43.6%）」「専門技術者、教員、医療職（42.9%）」で高くなっている。その中で、「調理、洗い場」では仕事の量が『増えた』との回答が22.2%と顕著に高くなっている。また、現在の暮らし向き別でみると、『よくなった』では『増えた』が22.3%、『悪くなった』では『減った』が56.8%となっている。（問10-3：図表3-2-7・図表3-2-8・図表3-2-9）

これらのことから、新型コロナウイルス感染症が就労状況に与えている影響が業種によって異なること、そして仕事量の増減と暮らし向きの良し悪しとは直結しているということがわかる。

現在の仕事に「生きがい」を感じているかについて、全体の傾向としては、『感じる』が70.9%、『感じない』が24.7%となっている。その中で性年代別でみると、男女ともに加齢に伴って『感じる』が高くなっている（男性9.4ポイント・女性6.4ポイント）。前期高齢者よりも後期高齢者の方が「生きがい」を感じている人が多いという結果であるため、前期高齢者は生活のための収入を得ることを仕事の目的にしているのに対して、後期高齢者は生活のため以外の目的を持って仕事をしている、という傾向がうかがえる。また、健康に対する自己認識別でみると、仕事に「生きがい」を『感じる』は『健康（75.2%）』の方が『不健康（44.8%）』よりも30.4ポイント高くなっており、仕事をするそのものではなく「元気に仕事ができる」ということが生きがいにつながるということがいえる。（問10-4：図表3-2-10・図表3-2-12）

今後の就業意向については、「今は働いておらず、今後も働く予定はない」が48.9%と最も高くなっているものの、「今も働いており、今後も働き続けたい」が29.4%、「今は働いていないが、今後働きたい」が6.9%となっている。性年代別でみると、男女ともに前期高齢者では「今も働いており、今後も働き続けたい」が高く（男性43.2%・女性31.2%）なっている。（問11：図表3-2-14）

加えて、何歳まで働きたいかについて、全体の傾向では「70～74歳」が32.0%と最も高くなっており、性年代別でも、男性前期高齢者では「70～74歳（40.4%）」「75～79歳（32.6%）」が、男性後期高齢者では「80～84歳（51.3%）」「85歳以上（16.7%）」が、女性前期高齢者では「70～74歳（44.3%）」が、女性後期高齢者では「80～84歳（41.5%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっている。このことから、男性はあと10年程度、女性はあと5年程度、働き続けたいと考えている人が多い傾向にあるといえる。（問11-1：図表3-2-15）

働くことを決めるときに重視することについては、「体力的に無理なく続けられること」が73.0%と最も高く、次いで「自宅から近いこと」が38.4%、「自分のペースで進められること」が30.5%の順となっている。詳細な年齢区分別でみると、男性65～69歳では「自分の能力を發揮できること（44.2%）」、女性80～84歳では「以前と同じ勤務先であること（25.0%）」も全体の傾向よりも高くなっている。（問11-3：図表3-2-18・図表3-2-19）

また、希望する職種についてを現在の職業別でみると、「会社・団体の役員、管理職」「その他」以外の職業で、現在の職業をそのまま継続して続けたいという回答が6割以上となっている。（問11-5：図表3-2-23）

これらのことから、仕事を決める上で重視しているのは肉体的・精神的にストレスを感じることなく働ける環境であるかどうか、ということがわかる。

現在の仕事をどこで探したかについて、就職活動をしている人の中では、「友人・知人・家族などの紹介」が21.8%と最も高く、次いで「求人情報誌や求人広告」が18.7%、「その他」が9.4%、「シルバー人材センター」が7.2%の順となっている。一方、「再雇用」は7.7%となっている。（問10-5：図表3-2-13）

また、仕事に関する情報を提供している施設などの認知度・利用状況については、『認知度』『利用状況』『利用して就労につながった』のすべてにおいて「ハローワーク（認知度66.8%・利用状況16.7%・利用して就労につながった6.9%）」が最も高く、次いで「シルバー人材センター（65.7%・7.0%・4.0%）」、「インターネット（求人情報サイトなど）（37.0%・3.5%・2.0%）」の順となっている。一方、施設などを実際に利用して就労につながった割合を「利用して就労につながった」÷『利用状況』で算出すると、「シルバー人材センター（利用して就労につながった4.0%／『利用状況』7.0%）」「インターネット（2.0%／3.5%）」がともに57.1%と最も高く、次いで「ハローワーク」が41.3%（6.9%／16.7%）、「はつらつシニアいたばし」が30.8%（0.4%／1.3%）、「東京しごと財団」が28.6%（0.2%／0.7%）、「WORK'S（ワークス）高島平」が25.0%（0.1%／0.4%）の順となっており、認知度が高い上に実際に就労につなげることができたという意味で最も優れているのは「シルバー人材センター」であるということがいえる。（問12：図表3-2-25）

2. 健康について

- 「介護予防・生活支援サービス事業対象者」の該当率は60.8%。特に女性後期高齢者の「運動」リスクが高くなっている。一方、女性前期高齢者では「自分を健康である」と感じている人が多い。
- 心配ごとや悩みごととして多いのは「自分の健康のこと」。前回調査からは「家族・親族の健康のこと」が上昇。また、男性は配偶者に、女性は子どもや友人に、悩みを相談する傾向がある。なお、自分を不健康だと感じている人の相談相手は「友人・知人」が低下し「かかりつけ医」が上昇。

「介護予防・生活支援サービス事業対象者」の該当率は60.8%となっており、そのうち、「運動」該当者は12.8%、「栄養」は1.9%、「口腔」は22.8%、「閉じこもり」は4.4%、「認知症」は33.1%、「うつ」は34.1%、「総合」は3.5%となっている。性年代別でみると、女性後期高齢者では事業対象者が67.7%と高く、特に「運動（20.4%）」が前期女性高齢者から10.3ポイント上昇している。（問15・問16：図表3-3-5）

一方、健康に対する自己認識については、『健康』が74.0%、『不健康』が23.3%となっており、性年代別でみると、男女ともに加齢に伴って『健康』の割合が低下しているものの、女性前期高齢者では『健康』が78.5%と全体の傾向よりも高く、女性後期高齢者では70.1%と低くなっている。（問13：図表3-3-1）

したがって、女性後期高齢者は自己認識においても実際の生活上においても健康に不安を感じている人が多い、ということがいえる。

現在の心配ごとや悩みごとについては、「自分の健康のこと」が60.0%と最も高く、次いで「家族・親族の健康のこと」が40.7%、「生活費など経済的なこと」が27.1%の順となっている。前回調査と比較すると、心配ごとの内容の順位は変わっていないものの、「家族・親族の健康のこと」が5.0ポイント上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響がうかがえる。また、女性では加齢に伴って「自宅や外出先での転倒・事故」が16.3%から27.7%と11.4ポイント上昇しており、女性後期高齢者が病気だ

けでなくけがなどの心配を抱えていることがわかる。(問14：図表3-3-2)

心配ごとや悩みごとの相談先について、全体の傾向としては「配偶者」が47.8%と最も高く、次いで「子ども」が39.5%、「友人・知人」が33.5%、「その他の家族・親族」が24.9%、「かかりつけ医(医師・歯科医師・看護師など)」が17.1%の順となっている。ただし、性別で見ると、「配偶者」が男性では60.3%であるのに対して女性では38.4%に留まっており、また、女性では男性よりも「子ども(49.3%)」「友人・知人(41.1%)」「その他の家族・親族(30.6%)」が高くなっているなど、明確な男女差がみられる。前回調査と比較すると、「友人・知人」が6.8ポイント、「その他の家族・親族」が5.0ポイント上昇し、「子ども」が9.1ポイント低下している。この理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響で、近所の人への相談が増え、遠方に住む子どもには相談する機会が減った、ということが考えられる。加えて、健康に対する自己認識別で見ると、『不健康』では『健康』よりも「かかりつけ医」が7.3ポイント上昇、「友人・知人」が11.7ポイント低下しており、健康状態が悪いということを友人・知人には相談しづらい、という傾向がうかがえる。(問14-1：図表3-3-3)

3. 外出・人とのつきあいについて

- 外出頻度は前回調査(2016年度)から一貫して低下しているものの、全く外出しないという人は少ない。ただし、自分を不健康だと思っている人ほど外出頻度は少なくなっている。
- 外出の目的は去年(2019年)と今年(2020年)とで変わらない。最も多い目的は「買い物」。
- 「予定がなくても気軽に行ける場所がある」と回答している人の割合は71.3%。その場所としては「公園」「図書館」「喫茶店」が挙げられ、今回調査では「デパート、大型商業施設」「店舗・買い物施設」も多くなっている。また、その場所への移動手段としては「鉄道・バス」の利用が顕著に低下している。
- 男性よりも女性、前期高齢者よりも後期高齢者の方が、そして現在の地区での居住年数が長い人ほど、近所とのつき合いが深い傾向となっている。一方、ひとり暮らしの人では近所づきあいが少ないという人が比較的多い。近所づきあいが少ない理由として多いのは「機会がないから」。
- 友人・知人・別居の家族などと会ったり連絡をとったりする頻度は、去年(2019年)から今年(2020年)にかけて低下。

去年(2019年)・今年(2020年)と前回調査とを比較すると、「2～3日に1回程度」が一貫して上昇し、「毎日2回以上」が一貫して低下しているため、外出頻度が少なくなっていることがわかる。ただし、「ほとんど外出しない」は1.1%(2016年度)→1.3%(2019年)→2.2%(2020年)とわずかな上昇に留まっており、今年(2020年)は新型コロナウイルスの影響があるとはいっても、外出そのものを控えているのではなく、出かける機会を絞って外出している、という傾向がうかがえる。(問17：図表3-4-1～図表3-4-3)

一方、健康に対する自己認識別で見ると、健康だと認識しているほど「毎日2回以上」が高く、「ほとんど外出しない」は『不健康(6.3%)』の方が『健康(0.9%)』よりも5.4ポイント高くなっているため、不健康な人ほど外出頻度が少ないという傾向があることがわかる。(問17：図表3-4-4)

外出の主な目的は去年(2019年)から今年(2020年)にかけて順位の変化がなく、「買い物(去年

66.9%・今年66.3%)」、「運動、散歩 (36.6%・36.4%)」、「仕事 (31.6%・28.9%)」の順となっている。2020年には新型コロナウイルス感染症の影響でマスクや日用品の買い占め・買いためが起こるという事象が発生していたものの、「買い物」の割合自体には2019年から大きな変化がなかった。一方、女性前期高齢者では「友人・知人と会う」が去年 (2019年) 22.3%、今年 (2020年) 14.2%と、8.1ポイント低下しており、外出を控えているかまたは友人・知人間での感染症拡大防止を控えて動いている、といったことがうかがえる。(問17：図表3-4-5～図表3-4-7)

特に予定がなくても『気軽に行ける場所がある』と回答している人の割合は71.3%となっており、前回調査からの大きな違いはみられない。(問21：図表3-4-19)

気軽に行ける具体的な場所については、「公園」が289件と最も高く、次いで「図書館」が269件、「喫茶店」が133件、「デパート、大型商業施設」が108件、「店舗・買い物施設」が91件の順となっている。前回調査と比較すると、上位3位は変わらないものの、4位・5位が「友人、知人の家」「家族、親類の家」から「デパート、大型商業施設」「店舗・買い物施設」に入れ替わりをみせており、生活必需品を買うために店には行かなければならないが、人と会うのはなるべく避けたい、という傾向があるのではないかと考えられる。(問21-1：図表3-4-20)

気軽に行ける場所への交通手段については、「徒歩」が60.9%と最も高く、次いで「自転車」が32.5%、「鉄道 (地下鉄を含む)・バス」が28.0%の順となっている。なお、「鉄道 (地下鉄を含む)・バス」は前回調査から9.5ポイント低下している。それ以外の交通手段では前回調査からの違いがみられないため、今年 (2020年) は新型コロナウイルス感染症対策として不特定多数の他人と同じ空間にいることになる鉄道・バスの利用を避けるようになった、ということが考えられる。(問21-2：図表3-4-21)

近所づきあいの程度について、全体の傾向としては「立ち話をする程度の人がいる」が35.5%と最も高く、次いで「あいさつをする程度の人がいる」が34.1%、「お互いに訪問しあう人がある」が10.7%の順となっている。一方、「つきあいはない」は13.5%となっている。性別で見ると、男性では女性よりも「あいさつをする程度の人がある (43.0%)」「つきあいはない (19.1%)」が高く、女性では男性よりも「立ち話をする程度の人がある (41.4%)」「お互いに訪問しあう人がある (15.1%)」が高くなっており、女性の方が近所づきあいの程度が深いことがわかる。性年代別で見ると、男女ともに加齢に伴って「お互いに訪問しあう人がある」「立ち話をする程度の人がある」が高く、「あいさつをする程度の人がある」「つきあいはない」が低くなっており、後期高齢者の方が近所づきあいをしているという結果となっている。また、現在の地区での居住年数別で見ると、居住年数が長くなるのにしたがって、「お互いに訪問しあう人がある」「立ち話をする程度の人がある」が高く、「あいさつをする程度の人がある」「つきあいはない」が低くなる傾向となっている。一方、世帯構成別で見ると、「ひとり暮らしでは「つきあいはない (18.6%)」が全体の傾向よりも高くなっている。(問18：図表3-4-8・図表3-4-10・図表3-4-11)

近所づきあいが無い理由としては、「ふだんつきあう機会がないから」が53.9%と最も高く、次いで「ご近所と知り合うきっかけがないから」が29.1%、「あまり関わりを持ちたくないから」が25.2%の順となっており、機会がないからつきあいをしていないという人と、そもそもつきあいをする気がない人と、二極化している傾向がうかがえる。(問18-1：図表3-4-12)

友人・知人・別居の家族・親戚と会う頻度については、去年 (2019年)・今年 (2020年) と前回調査とを比較すると、「週に2回以上」「週に1回程度」「月に2～3回」が一貫して低下している。一方、「月に1回より少ない/全くない」は一貫して上昇しており、特に去年 (2019年) (19.8%) から今年

(2020年) (28.1%) にかけては8.3ポイント上昇している。(問19: 図表3-4-13~図表3-4-15)

友人・知人・別居の家族・親戚と連絡をとる頻度についても、去年(2019年)・今年(2020年)と前回調査とを比較すると、「週に2回以上」「月に2~3回」が一貫して低下し、「月に1回程度」「月に1回より少ない/全くない」は一貫して上昇している、という結果となっている。(問20: 図表3-4-16~図表3-4-18)

会う頻度が少なくなっているのは新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためであろうと推察できるが、連絡を取る頻度の方も少なくなっているため、新型コロナの影響だけではなく、そもそも人と関わりを持ちたくないと考えている人が増えている、という傾向がうかがえる。

4. インターネットなどの利用について

- よく使う電子端末は、「スマートフォン」「携帯電話」「パソコン」の順となっている。
スマートフォン・タブレットでの利用率では男女差はみられないが、携帯電話・パソコンでは男性の方が高い利用率となっている。
また、フィーチャーフォンのみを利用している人の割合は8.5%。
- インターネットの利用頻度は前回調査(2016年度)から一貫して上昇している。
- 今年、インターネットでよく利用したことや新しく始めたこととしては、「インターネットのニュースを読むこと」「メールやLINEなどでやりとりをすること」が多い。今後利用を増やしたいことや新しく始めたいことも同様の傾向をみせている。
- インターネットの利用に関して教わりたいことは、「パソコンやスマートフォンの使い方」「インターネットの利用上の注意」。

携帯電話・スマートフォン・パソコンなどの利用状況について、『使っている』との回答は、「スマートフォン」が57.5%と最も高く、次いで「携帯電話」が42.9%、「パソコン」が33.5%、「タブレット」が14.3%の順となっている。また、性別による電子端末の利用状況は下記のようになっており、スマートフォン・タブレットでの利用率では男女差はみられないが、携帯電話・パソコンでは男性の方が高い利用率となっている。(問22: 図表3-5-1・図表3-5-2・図表3-5-9・図表3-5-16・表3-5-23)

- ・携帯電話 (『使っている』男性46.1%・『使っている』女性40.2%)
- ・スマートフォン (57.2%・59.6%)
- ・タブレット (16.5%・13.7%)
- ・パソコン (42.9%・27.1%)

また、携帯電話を「今年(2020年)から」または「それより前から」使っていると回答し、スマートフォン・タブレット・パソコンについては「使っていない」と回答した対象者を「フィーチャーフォンのみ使用者」とすると、フィーチャーフォンのみの使用者は8.5%となっている。(問22: 図表3-5-30)

インターネットの利用状況について、去年(2019年)・今年(2020年)と前回調査とを比較すると、「ほぼ毎日利用する」が一貫して上昇しており、特に前回調査(23.8%)から去年(2019年)(35.1%)にかけては11.3ポイント上昇している。(問23: 図表3-5-31)

インターネットの利用に関して、今年新しく始めたこと・今後増やしていきたいことについては、「インターネットのニュースを読むこと（今年66.3%・今後17.9%）」が最も高く、次いで「メールやLINEなどでやりとりすること（63.7%・20.9%）」、「インターネットで買い物をすること（31.6%・13.2%）」の順となっている。（問24：図表3-5-36、問25：図表3-5-37）

なお、これらの要望は、新型コロナウイルス関連症対策として日常生活で行っていることへの不満がそのまま反映されているとも解釈できる。「インターネットのニュースを読むこと」は最新の情報や行政からの発表をいち早く知るため、「メールやLINEなどでやりとりすること」は感染可能性を抑えつつ遠方に住む家族と連絡をとるため、「インターネットで買い物をすること」はなるべく外出する機会を抑えて必要な品物を購入するため、といったことが考えられるからである。

インターネットの利用に関する希望については、「パソコンやスマートフォンの使い方を教えてほしい（16.5%）」「インターネットの利用上の注意を教えてほしい（12.5%）」「メールやLINEの使い方を教えてほしい（6.4%）」の割合が高くなっている。また、今年（2020年）のインターネット利用状況別でみると、「パソコンやスマートフォンの使い方を教えてほしい」は利用頻度の増加に伴って低下している。また、「2～3日おきに利用する」では「インターネットの利用上の注意を教えてほしい」が28.7%、「月に1回程度利用する」では「オンライン会議システム（Zoomなど）の使い方を教えてほしい」が10.2%、「年に数回程度利用する」では「メールやLINEの使い方を教えてほしい」が15.6%と、その他の利用頻度と比べて高くなっており、このことから、インターネットの利用頻度によって希望する項目が明確に異なっていることがうかがえる。（問26：図表3-5-38・図表3-5-39）

5. 地域活動などへの参加状況について

- 過去1年間に参加した活動や今後新たに参加したい活動で多いのは「健康・スポーツの活動、習いごと」「趣味や学習の活動・習いごと」。今後新たに参加したいものとしては「何らかのボランティア活動」も多くなっている。
- 活動への参加頻度は前回調査（2016年度）から去年（2019年）にかけては上昇傾向にあったのに対して、去年から今年（2020年）にかけては低下。「何も参加していない」という回答が19.9%に。
- 活動に参加していない人の理由としては、「やりたい活動がない」「仕事や家事で忙しく時間がない」「あまり関わりを持ちたくない」が多く挙げられている。もし活動に参加するとしたら、そのきっかけになりそうだと思うものは、「自分がやりたいことをみつけること」「友人・知人の勧め」で、これらは既に活動を始めている人の活動を始めたきっかけと共通している。
- 老人クラブに加入しているのは6.9%で、女性後期高齢者では加入率が高く、男性前期高齢者では低くなっている。加入していない理由で最も多いのは「仕事などで忙しいから」。

過去1年間に参加した活動・最も多く参加した活動・今後新たに参加したい活動については、下記の項目の割合が高くなっている。

- ・健康・スポーツの活動、習いごと（体操・ゲートボール・ダンスなど）
（過去22.0%・最多24.3%・今後15.5%）

- ・趣味や学習の活動・習いごと（語学・音楽・囲碁・俳句など）
（22.0%・21.9%・14.1%）
- ・スポーツジム（12.0%・11.6%・11.9%）
- ・町会・自治会の役員、事務局活動（10.6%・9.2%・2.8%）
- ・ボランティア活動（上記以外の活動）（6.5%・4.0%・13.4%）

時系列順にみると、スポーツ活動や学習活動については、過去1年間だけでなく今後も続けていきたいという傾向が強くなっている。また、「ボランティア活動（上記以外の活動）」は過去1年間の活動では6.5%に留まっているのに対して今後参加したい活動では13.4%に上昇しており、ボランティア活動を行っていききたいという意識が高まっている状況がうかがえる。一方、「町会・自治会の役員、事務局活動」は過去1年間での10.6%から今後参加したいの2.8%へと急激に低下しており、人気のある活動と不人気な活動とに二分化されていることがわかる。（問27：図表3-6-1、問27-1①：図表3-6-18）

最も多く参加した活動への参加頻度について経年比較を行うと、前回調査（2016年度）から去年（2019年）にかけては、「年に数回」「不定期」が低下、それ以外の項目が上昇しており、参加頻度が上がっていたことがわかる。一方、去年（2019年）から今年（2020年）にかけて、参加したと回答している人の中では、「不定期」以外の項目で低下し、また、「参加していない」が2.9%から19.9%と17.0ポイント上昇している。このことから、活動への参加頻度が年々上がっていたのにも関わらず、今年（2020年）は新型コロナウイルスによる外出自粛の影響を受けて活動頻度が大きく下がったことがわかる。（問27-1②：図表3-6-19）

活動に参加していない理由については、「やりたい活動がない」が26.8%と最も高く、次いで「仕事や家事で忙しく時間がない」が26.5%、「あまり関わりを持ちたくない」が25.2%の順となっている。（問27-2①：図表3-6-23）

また、活動に参加するきっかけになると思うことについては、「自分がやりたいことをみつけること（23.7%）」「友人・知人の勧め（12.5%）」の割合が高くなっている。（問27-2②：図表3-6-24）

ちなみに、前述の最も多く参加した活動を始めたきっかけについては、「個人の意思（自分がやりたいことや、問題意識・解決したい課題がある）」が29.8%と最も高く、次いで「友人・知人の勧め」が22.5%、「町会・自治会、老人クラブからの誘い」が10.2%の順となっている。（問27-1③：図表3-6-22）

これらのことから、活動に参加するきっかけとしては、「自分のやりたいことと合致する活動を見つけること」と「人からの勧められること」という2要因が重要になる、ということがわかる。

老人クラブに加入していない理由については、「仕事などで忙しいから」が25.9%と最も高く、次いで「老人クラブ」を知らないから」が23.3%、「会員同士の間関係がわずらわしいから」が20.8%の順となっている。忙しくて時間がとれないという理由を改善するのは難しいため、それ以外の理由に着目する必要があると考える。例えば、性別・年代別でみると、男性65～69歳では「老人クラブ」を知らないから（34.0%）、男性前期高齢者では「自分はまだ老人ではないから（17.4%）」、男性後期高齢者では「加入の仕方がわからないから（15.9%）」、女性75～79歳では「健康上の理由（26.6%）」が、それぞれ全体の傾向よりも高くなっているなど、性別・年代別で非加入理由が異なるため、老人クラブへの加入を促すためには、各性別・各年代に合わせた個別のアプローチが必要となる。（問28-1：図表3-6-27・図表3-6-28）

6. 区の事業について

- 区の事業で認知度が高いのは「町会・自治会」「民生委員」「ふれあい館」。ただし、「住民運営通いの場」「福祉の森サロン」など、認知度が低くても、認知している人の利用参加率が比較的高い事業も。
 - 事業を知る上での情報源として最も多いのは「広報いたばし」。女性では「友人・知人から」も多くなっている。
 - 事業に参加したことによる効果としては「知り合い・仲間ができた」「健康に気をつけるようになった」が挙げられる。
 - 事業に参加する際に重視するのは、自分のしたいことや興味のあることに役立つ内容であること。
- 一方、事業に参加していない人の不参加理由も同様に「内容が、自分のしたいこと・興味のある

ことに合わない」。

区の事業に対する認知度・利用または参加状況について、『認知度』は、「町会・自治会」が75.4%と最も高く、次いで「民生委員」が69.4%、「ふれあい館」が52.3%の順となっている。また、「過去1年間に利用・参加した」では、「町会・自治会」が9.3%と最も高く、次いで「ふれあい館」が4.9%、「住民防災組織」が3.3%の順となっている。

なお、知っている施設などを実際に利用・参加した割合を「過去1年間に利用・参加した」÷『認知度』で算出すると下記の順となっており、認知度の高さがそのまま利用・参加につながるわけではないということがわかる。(問29：図表3-7-1)

順位	項目	過去1年間に 利用・参加 ÷認知度	過去1年間に 利用・参加	認知度
1	町会・自治会	12.3%	9.3%	75.4%
2	住民運営通いの場（「高齢者の暮らしを 広げる10の筋トレグループ」など）	11.3%	1.2%	10.6%
3	福祉の森サロン	10.5%	1.6%	15.3%
4	ふれあい館	9.4%	4.9%	52.3%
5	住民防災組織	8.1%	3.3%	40.8%
6	フレイルチェック測定会	7.3%	0.8%	11.0%
7	まなぼーと（生涯学習センター）	7.0%	1.8%	25.7%
8	グリーンカレッジホール（シニア学習 プラザ）でのイベント・講座	6.8%	2.2%	32.3%
9	「いたばし学習・スポーツガイド」	4.6%	0.8%	17.3%
10	グリーンカレッジ（高齢者大学校） 教養課程・専門課程・大学院	4.0%	1.5%	37.4%
11	いたばし総合ボランティアセンター	3.8%	0.9%	23.8%
12	「大人の活動ガイド ステップ」 （冊子版またはWEB版）	1.5%	0.1%	6.6%
13	コミュニティ・スクール	0.7%	0.1%	14.6%
14	民生委員	0.6%	0.4%	69.4%
14	認知症カフェ	0.6%	0.1%	17.5%

区の事業を知った情報源については、「広報いたばし」が42.9%と最も高く、次いで「回覧板」が15.8%、「掲示板ポスター」が14.5%の順となっている。性別で見ると、女性では男性よりも「広報いたばし（48.2%）」「友人・知人から（16.4%）」が高くなっている。(問30：図表3-7-17)

区の事業への参加による効果については、「知り合い・仲間ができた」が15.1%と最も高く、次いで「健康に気をつけるようになった」が13.1%、「出かけることが増えた」が8.8%の順となっている。(問31：図表3-7-20)

区の事業に参加するときに重視することについては、「自分のしたいこと、興味のあることに役立つ内容である」が32.9%と最も高く、次いで「健康に役立つ」が28.4%、「費用がかからない・安い」が

21.1%の順となっている。(問32：図表3-7-21)

一方、区の事業に参加しない理由については、「内容が、自分のしたいこと・興味のあることに合わない(17.5%)」、「忙しくて時間がない(16.3%)」が高くなっており、事業への参加理由としては自分のしたいことや興味のあることに役立つ内容であることかどうか最も重要視されている、ということがわかる。(問33：図表3-7-22)

7. 新型コロナウイルス感染症の影響・今後の意向・希望する支援施策について

- 「社会参加」に対する新型コロナウイルス感染症の影響として挙げられるのは、外出の自粛、活動・催し・イベント・会合などがなくなる、通っていた場所が休止・閉鎖、そのせいで参加できなくなったといったものである。
- 今後、今まで以上に取り組みたい・心がけたいものは、体を動かすことと人との交流。ただし、前回調査(2016年度)よりも「友人・知人との交流」「ご近所とのおつきあい」の割合が顕著に低下している。
- 行政に望む支援施策は「健康づくりの支援」「活動に関する情報提供」「活動参加のきっかけづくりの支援」が多くなっている。

「社会参加」に対する新型コロナウイルス感染症の影響については、「外出を自粛しており、以前のように参加できない」が35.0%と最も高く、次いで「活動・催し・イベント・会合などがなくなり、参加できない」が18.3%、「通っていた場所が休止・閉鎖になり、行くことができない」が14.5%の順となっている。(問34：図表3-8-1)

今後、今まで以上に取り組みたい・心がけたいものについては、「体を動かす(ウォーキングやスポーツなど)」が43.3%と最も高くなっており、フレイル対策を意識する人が増えていることが類推される。また、前回調査と比較すると、「友人・知人との交流」が15.8ポイント、「ご近所とのおつきあい」が13.6ポイント、それぞれ顕著に低下している。その上で、今後今まで以上に取り組みたいことで体を動かすことに続けて多いのは「友人・知人との交流(36.6%)」「子や孫など、家族・親族(同居していない場合を含む)との交流(30.3%)」となっているため、今年激減してしまった他者との交流を今後は改善したいと考えている人が多いということがわかる。(問35：図表3-8-2)

行政で行ってほしいと思う支援施策については、「健康づくりの支援」が31.4%と最も高く、次いで「活動に関する情報提供」が17.2%、「活動参加のきっかけづくりの支援」が12.9%の順となっている。(問36：図表3-8-4)

新型コロナウイルス感染症の流行という先行きの見えない状況の中、健康づくりに関する支援の要望が多いということに加えて、活動をしたい・新たに始めたいと思っているが、情報やきっかけが不足しているので行政からの情報提供や支援が必要であると考える人が一定数いることがうかがえる。

シニア世代の生活・健康・生きがい・仕事についてのアンケート

調 査 票

板橋区では、シニア世代の皆様が生き生きと活躍されることを目指し、地域活動や就労を支援する「シニア世代活動支援プロジェクト」を推進しています。皆様の生活・健康・生きがい・お仕事などの状況やご意見をお聞きし、今後のプロジェクトに活かしていくため、この調査を実施いたします。

実施にあたり、区内在住の65歳から84歳の方3,000名を無作為に選ばせていただきました。皆様からの回答は統計的に処理し、個人が特定されることはありません。また、本調査の目的以外に利用いたしません。

お手数をおかけし誠に恐縮でございますが、皆様のご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和2年 10 月

板橋区 長寿社会推進課

《 ご回答にあたってのお願い 》

- できる限り宛名のご本人がご回答ください。
ご本人による記入が難しい場合は、ご本人の意思に基づき、代理の方がご記入くださいますよう、ご協力をお願いいたします。
- 回答が終わりましたら、**同封の返信用封筒（切手不要）**に入れ、

11月20日（金）までに郵便ポストにご投函ください。

※返信用封筒に、住所・氏名の記入は必要ありません。

【 この調査についてのお問い合わせ先 】

板橋区役所 健康生きがい部 長寿社会推進課 シニア活動支援係
電話：03-3579-2376 FAX：03-3579-2309

【1】あなたの年齢、お住まいの地区、世帯の状況などについて

問1 この調査票を記入するのはどなたですか。○をつけてください。(○は1つのみ)

1. あなた(宛名のご本人)	2. ご家族	3. その他
----------------	--------	--------

問2 あなた(宛名のご本人)は現在、どちらに住んでいますか。(○は1つのみ)

1. ご自宅(ショートステイ利用を含む) 2. 区内の親族などの家	問3へお進みください。 ここでアンケートは終了です。 ご協力ありがとうございました。 同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに投函してください。
3. 施設に入所 4. その他(入院中、区外転出、亡くなったなど)	

問3 あなた(宛名のご本人)の性別と、令和2年8月1日現在の満年齢をお答えください。

(それぞれ○は1つ)

性別	1. 男性	2. 女性		
年齢	1. 65~69歳	2. 70~74歳	3. 75~79歳	4. 80~84歳

問4 あなた(宛名のご本人)のお住まいはどちらですか。あてはまる地区に○をつけてください。丁目がある場合は、あてはまる丁目にも○をつけてください。

(それぞれ○は1つ)

1. 相生町	13. 大山金井町	25. 志村	37. 成増	49. 三園
2. 赤塚	14. 大山西町	26. 新河岸	38. 西台	50. 南町
3. 赤塚新町	15. 大山東町	27. 大門	39. 蓮沼町	51. 南常盤台
4. 小豆沢	16. 加賀	28. 高島平	40. 蓮根	52. 宮本町
5. 泉町	17. 上板橋	29. 東新町	41. 東坂下	53. 向原
6. 板橋	18. 熊野町	30. 常盤台	42. 東山町	54. 大和町
7. 稲荷台	19. 小茂根	31. 徳丸	43. 氷川町	55. 弥生町
8. 大原町	20. 幸町	32. 中板橋	44. 富士見町	56. 四葉
9. 大谷口	21. 栄町	33. 仲宿	45. 双葉町	57. 若木
10. 大谷口上町	22. 坂下	34. 中台	46. 舟渡	
11. 大谷口北町	23. 桜川	35. 仲町	47. 本町	
12. 大山町	24. 清水町	36. 中丸町	48. 前野町	

丁目がある場合は、
あてはまる丁目にも
○をつけてください。



1. 一丁目	4. 四丁目	7. 七丁目
2. 二丁目	5. 五丁目	8. 八丁目
3. 三丁目	6. 六丁目	9. 九丁目

問5 あなた（宛名のご本人）は、問4でお答えの地区にどのくらい住んでいますか。
※同じ地区内で転居や増改築などをされた場合は、通算してお答えください。
（○は1つのみ）

1. 1年未満	2. 1～5年未満	3. 5～10年未満	4. 10～15年未満
5. 15～20年未満	6. 20～30年未満	7. 30年以上	

問6 あなた（宛名のご本人）の世帯の状況をお選びください。（○は1つのみ）

1. ひとり暮らし	2. 配偶者と二人暮らし	3. 配偶者や子、孫などと同居
4. 配偶者を除く、子や孫などと同居	5. その他	

問7 あなた（宛名のご本人）は現在、ご家族などの介護をしていますか。（○は1つのみ）

1. 現在介護をしている	2. 現在介護をしていない
--------------	---------------

問8 あなた（宛名のご本人）は、定期的な収入をどこから得ていますか。（○はいくつでも）

1. 公的年金や恩給	2. 給与など	3. 株式の配当
4. 土地・家屋の家賃収入	5. 親族などからの仕送り	6. その他 ()

問9 あなた（宛名のご本人）の世帯の現在の暮らし向きは、1年前と比べていかがですか。
（○は1つのみ）

1. とてもよくなった	2. ややよくなった	3. 変わらない
4. やや悪くなった	5. とても悪くなった	

【2】仕事、働くことについて

問10 あなた（宛名のご本人）の現在の職業をお答えください。副業があるなど複数の仕事をお持ちの場合は、主な職業1つだけに○をつけてください。（○は1つのみ）

1. 会社・団体の役員、管理職	2. 専門技術者、教員、医療職
-----------------	-----------------

3. 事務	4. 販売、営業
5. 調理、洗い場	6. 管理人
7. 警備	8. 介護職、理・美容、その他サービス
9. 農業	10. 製造・加工、機械整備・修理
11. 輸送、運転	12. 建設、電気、土木
13. 清掃、配達	14. その他 ()
15. 主婦・主夫（専業）	16. 学生
17. 無職・仕事からは引退した	

▶ 【15, 16, 17は5ページの「問 11」へお進みください。】

【問 10 で「1. 会社・団体の役員、管理職」～「14. その他」とお答えの方におうかがいします。】

問 10-1 現在のお仕事の主な雇用形態は次のどれにあてはまりますか。(○は1つのみ)

自営業	雇われている方	団体等役員・その他
1. 自営業主、自由業 2. 家族従業（家業などの手伝い）	3. 正社員・正規職員・正規従業員 4. パート・アルバイト・契約社員 5. 嘱託社員・嘱託職員 6. 人材派遣企業の派遣社員 7. その他の雇用者	8. 会社や団体などの役員・管理職 9. 家庭での内職 10. その他（前掲 1～9 以外） []

問 10-2 あなた（宛名のご本人）の現在の働き方は、どれにあてはまりますか。(○は1つのみ)

1. フルタイムで働いている（おおむね週に35時間以上） 2. 定期的に働いているが、週に35時間より少ない 3. 不定期的に働いている
--

問 10-3 あなた（宛名のご本人）の現在の仕事の量は、1年前と比べていかがですか。(○は1つのみ)

1. とても増えた	2. やや増えた	3. 変わらない
4. やや減った	5. とても減った	6. 1年前は仕事をしていなかった

問 10-4 現在の仕事に「生きがい」を感じていますか。(○は1つのみ)

1. とても感じる	2. まあまあ感じる	3. あまり感じない	4. 全く感じない
-----------	------------	------------	-----------

問 10-5 現在の仕事は、どこで探しましたか。(○はいくつでも)

1. 友人・知人・家族などの紹介	2. 求人情報誌や求人広告
3. アクティブシニア就業支援センター 「はつらつシニアいたばし」	4. シルバー人材センター
6. ハローワーク	5. WORK'S（ワークス）高島平
8. インターネット（求人情報サイトなど）	7. 東京しごと財団
10. 就職活動はしていない （自営業、定年前など）	9. 再雇用
	11. その他 ()

【 すべての方におうかがいします。 】

問 11 あなた（宛名のご本人）は今後、働こうと思っていますか。（○は1つのみ）

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 今も働いており、今後も働き続けたい | 2. 今は働いていないが、今後働きたい |
| 3. 今は働いているが、できるだけ早く引退したい | 4. 今は働いておらず、今後も働く予定はない |

▶【3, 4は6ページの「問 12」へお進みください。】

【問 11で「1. 今も働いており、今後も働き続けたい」「2. 今は働いていないが、今後働きたい」とお答えの方におうかがいします。】

問 11-1 何歳まで働きたいと思いますか。現在の仕事とは違う仕事をする場合を含みます。（○は1つのみ）

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 65～69歳 | 2. 70～74歳 | 3. 75～79歳 |
| 4. 80～84歳 | 5. 85歳以上 | 6. わからない |

問 11-2 あなた（宛名のご本人）は現在、仕事（就職・転職先）を探していますか。（○は1つのみ）

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 仕事を探している | 2. 仕事を探していない |
|-------------|--------------|

問 11-3 あなた（宛名のご本人）は、働くことを決めるとき、どんなことを重視しますか。上位3つまで○をつけてください。（○は3つまで）

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 体力的に無理なく続けられること | 2. 自分のペースで進められること |
| 3. 自分の能力を発揮できること | 4. 勤務日や勤務時間を選べること |
| 5. 経験したことのある職種であること | 6. 気心の知れた仲間がいること |
| 7. 以前と同じ勤務先であること | 8. 経験したことのある業界であること |
| 9. 事業目的・経営ビジョンに共感が持てること | 10. 給料が良いこと |
| 11. 自宅から近いこと | 12. 社会の役に立つ仕事であること |

問 11-4 あなた（宛名のご本人）は、働く場所として、次のどれを希望しますか。（○は1つのみ）

- | |
|---------------------------------|
| 1. 通勤して行く場所（電車・バスを使わずに行ける、自宅近く） |
| 2. 通勤して行く場所（通勤時間30分以内） |
| 3. 通勤して行く場所（通勤時間1時間以内） |
| 4. 通勤して行く場所（通勤時間1時間以上でも可） |
| 5. 自宅（オンライン・リモートワークを含む） |

問 11-5 あなた（宛名のご本人）は、働く場合、どの職種を希望しますか。

（○は1つのみ）

1. 会社・団体の役員、管理職	2. 専門技術者、教員、医療職
3. 事務	4. 販売、営業
5. 調理、洗い場	6. 管理人
7. 警備	8. 介護職、理・美容、その他サービス
9. 農業	10. 製造・加工、機械整備・修理
11. 輸送、運転	12. 建設、電気、土木
13. 清掃、配達	14. その他
()	

問 11-6 あなた（宛名のご本人）は、働く場合、どの雇用形態を希望しますか。

（○は1つのみ）

自営業で働く	雇われて働く	団体等役員・その他
1. 自営業主、自由業	3. 正社員・正規職員・正規従業員	8. 会社や団体などの役員・管理職
2. 家族従業（家業などの手伝い）	4. パート・アルバイト・契約社員	9. 家庭での内職
	5. 嘱託社員・嘱託職員	10. その他（前掲 1～9 以外）
	6. 人材派遣企業の派遣社員	[]
	7. その他の雇用者	

【 すべての方におうかがいします。 】

問 12 仕事に関する情報を提供している施設などについてうかがいます。それぞれあてはまる番号をお選びください。（それぞれ○は1つ）

（それぞれの項目にお答えください）	つ な が つ た	利 用 中	就 労 の た め	な か つ た	利 用 し た が	な い	利 用 し た こ と は	知 つ て い る が	知 ら な い
ア. アクティブシニア就業支援センター 「はつらつシニアいたばし」	1	2	3	4	5				
イ. シルバー人材センター	1	2	3	4	5				
ウ. WORK'S（ワークス）高島平	1	2	3	4	5				
エ. ハローワーク	1	2	3	4	5				
オ. 東京しごと財団	1	2	3	4	5				

カ. インターネット (求人情報サイトなど)	1	2	3	4	5
---------------------------	---	---	---	---	---

【3】健康について

問 13 あなた（宛名のご本人）は、ふだん、ご自分で健康だと思いますか。（○は1つのみ）

- | | | | |
|----------|-----------|-------------|----------|
| 1. とても健康 | 2. まあまあ健康 | 3. あまり健康でない | 4. 健康でない |
|----------|-----------|-------------|----------|

問 14 あなた（宛名のご本人）には、現在次のような心配ごとや悩みがありますか。

（○はいくつでも）

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1. 自分の健康のこと | 2. 家族・親族の健康のこと |
| 3. 病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと | 4. ひとり暮らしや孤独になること |
| 5. 生活費など経済的なこと | 6. 安心して住める場所がないこと |
| 7. 趣味や生きがいがないこと | 8. 自宅や外出先での転倒・事故 |
| 9. 地震など災害時の避難のこと | 10. その他 |

11. 心配ごとや悩みはない



()

【11は「問 15」へお進みください。】

【問 14で「1. 自分の健康のこと」～「10. その他」とお答えの方におうかがいします。】

問 14-1 あなた（宛名のご本人）は、心配ごとや悩みごとができた場合、誰に話を聞いてもらったり、相談したりしますか。（○はいくつでも）

- | | |
|---------------|-----------------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 子ども |
| 3. その他の家族・親族 | 4. 老人クラブや町会・自治会の人 |
| 5. 趣味や学習の仲間 | 6. 隣近所の人 |
| 7. 友人・知人 | 8. 民生委員・児童委員 |
| 9. 区の相談窓口 | 10. おとしより相談センター（地域包括支援センター） |
| 11. 社会福祉協議会 | 12. かかりつけ医（医師・歯科医師・看護師など） |
| 13. ケアマネージャー | 14. その他（) |
| 15. 相談する人はいない | |

【 すべての方におうかがいします。 】

問 15 あなた（宛名のご本人）の日常の活動状況についておうかがいします。質問ごとに、「している」「できるだけしていない」「できないのでしていない」でお答えください。（それぞれ○は1つ）

（それぞれの項目にお答えください）	している	できるだけしていない	できないのでしていない
ア. バスや電車を使って1人で外出していますか	1	2	3
イ. 日用品の買い物をしていますか	1	2	3

ウ. 預貯金の出し入れをしていますか	1	2	3
--------------------	---	---	---

問 16 あなた（宛名のご本人）のふだんの生活について、「はい（できる）」「いいえ（できない）」のどちらかをお選びください。（それぞれ○は1つ）

※身長・体重の欄には、小数点第1位までの数字をご記入ください。

ア. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. はい	2. いいえ
イ. いすに座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. はい	2. いいえ
ウ. 15分くらい続けて歩いていますか	1. はい	2. いいえ
エ. 週に1回以上は外出していますか	1. はい	2. いいえ
オ. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	2. いいえ
カ. この1年間に転んだことがありますか	1. はい	2. いいえ
キ. 転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	2. いいえ
ク. 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい	2. いいえ
ケ. 現在の身長・体重をご記入ください。※小数点第1位まで記入 身長（ _____ . _____ cm） 体重（ _____ . _____ kg）		
コ. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	2. いいえ
サ. お茶や汁物などでむせることがありますか	1. はい	2. いいえ
シ. 口の渇きが気になりますか	1. はい	2. いいえ
ス. 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると 言われますか	1. はい	2. いいえ
セ. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	1. はい	2. いいえ
ソ. 今日が何月何日か、わからない時がありますか	1. はい	2. いいえ
タ. 友人の家を訪ねていますか	1. はい	2. いいえ
チ. 家族や友人の相談にのっていますか	1. はい	2. いいえ
ツ. 新聞を読んでいますか	1. はい	2. いいえ
テ. 本や雑誌を読んでいますか	1. はい	2. いいえ
ト. 健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい	2. いいえ
ナ. 若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい	2. いいえ

ニ. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1. はい	2. いいえ
ヌ. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1. はい	2. いいえ
ネ. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1. はい	2. いいえ
ノ. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	1. はい	2. いいえ
ハ. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1. はい	2. いいえ

【4】外出、活動などについて

問17 あなた(宛名のご本人)が、ふだん、仕事・買い物・散歩・通院などで外出する頻度はどれくらいですか。また、外出の主な目的は何ですか。去年と今年についてお答えください。(それぞれ○は1つ)

《去年(2019年)》

【外出する頻度】

1. 毎日2回以上	2. 毎日1回
3. 2～3日に1回程度	4. 1週間に1回程度
5. ほとんど外出しない	

【1～4の場合、外出の主な目的】

1. 仕事	2. 買い物
3. 運動、散歩	4. 友人・知人と会う
5. 家族・親族と会う	6. 地域の活動(町会・自治会や老人クラブなど)
7. ボランティア活動	8. 趣味や学習の活動
9. 通院やリハビリ	10. その他()

《今年(2020年)》

【外出する頻度】

1. 毎日2回以上	2. 毎日1回
3. 2～3日に1回程度	4. 1週間に1回程度
5. ほとんど外出しない	

【1～4の場合、外出の主な目的】

1. 仕事	2. 買い物
3. 運動、散歩	4. 友人・知人と会う
5. 家族・親族と会う	6. 地域の活動(町会・自治会や老人クラブなど)
7. ボランティア活動	8. 趣味や学習の活動
9. 通院やリハビリ	10. その他()

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 週に2回以上 | 2. 週に1回程度 |
| 3. 月に2～3回 | 4. 月に1回程度 |
| 5. 月に1回より少ない/全くない | |

問21 あなた（宛名のご本人）は、特に予定がなくても気軽に行ける場所がありますか。どのくらいあるかをお答えください。（○は1つのみ）

- | | | | |
|----------|----------|------------|-------|
| 1. 1か所ある | 2. 2か所ある | 3. 3か所以上ある | 4. ない |
|----------|----------|------------|-------|

【4は11ページの「問22」へお進みください。】←

【問21で「1. 1か所ある」「2. 2か所ある」「3. 3か所以上ある」とお答えの方に、その場所についておうかがいします。】

問21-1 それはどのような場所ですか。1か所だけ具体的にご記入ください。

記入例：○○喫茶、△△図書館、□□公園など

--

問21-2 問21-1でお答えになった場所に行くのに、ふだん使われている交通手段はどれですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------|------------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 |
| 3. 自家用車 | 4. 鉄道（地下鉄を含む）・バス |
| 5. その他（ ） | |

【 すべての方におうかがいします。 】

問22 あなた（宛名のご本人）は、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどを使っていますか。また、いつから使っているかをお答えください。（それぞれ○は1つ）

（それぞれの項目にお答えください）	今年 (2020年) から	それより 前から	使って いない
ア. 携帯電話（二つ折りで数字ボタンを押すもの）	1	2	3
イ. スマートフォン	1	2	3
ウ. タブレット	1	2	3
エ. パソコン	1	2	3

問23 あなた（宛名のご本人）は、インターネットをどのくらい利用していますか。去年と今年についてお答えください。（それぞれ○は1つ）

《去年（2019年）》

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. ほぼ毎日利用する | 2. 2～3日おきに利用する |
| 3. 週に1回程度利用する | 4. 月に1回程度利用する |
| 5. 年に数回程度利用する | 6. 全く利用しない |

《今年（2020年）》

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. ほぼ毎日利用する | 2. 2～3日おきに利用する |
| 3. 週に1回程度利用する | 4. 月に1回程度利用する |
| 5. 年に数回程度利用する | 6. 全く利用しない |

【6は12ページの「問25」へお進みください。】 ←

問27 あなた（宛名のご本人）は過去1年間に、個人・団体で次のような活動に参加したことがありますか（手伝いも含む）。また、「今後新たに参加したいもの」はありますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

（それぞれの項目にお答えください）	過去1年間に参加したもの	今後新たに参加したいもの	参加していない・したくない
ア. 趣味や学習の活動・習いごと （語学・音楽・囲碁・俳句など）	1	2	3
イ. 大学やカルチャーセンターなどの講座	1	2	3
ウ. 健康・スポーツの活動、習いごと （体操・ゲートボール・ダンスなど）	1	2	3
エ. スポーツジム	1	2	3
オ. 町会・自治会の役員、事務局活動	1	2	3
カ. 老人クラブの役員、事務局活動	1	2	3
キ. NPO団体などの役員、事務局活動	1	2	3
ク. 祭りなど地域行事の世話役 としての活動	1	2	3
ケ. 環境美化、緑化推進、まちづくり などの活動	1	2	3
コ. 子どもの学習支援、子ども会の活動、 郷土芸能の伝承などの活動	1	2	3
サ. 交通安全、防犯・防災などの活動	1	2	3
シ. 高齢者の支援活動（話し相手、見守り、 家事援助、移動支援など）	1	2	3
ス. 障がいのある人への支援活動	1	2	3
セ. 子どもを育てている親への支援活動 （保育の手伝いなど）	1	2	3
ソ. ボランティア活動（上記以外の活動）	1	2	3
タ. その他 （ ）	1	2	3

【ア～タすべてに「3」とお答えの方は、15ページの「問27-2①」へお進みください。】

【問27で「過去1年間に参加したもの」についておうかがいします。】

問27-1① 最も多く参加したものはどれですか。前ページ問27の記号ア～タまでのいずれか1つをご記入ください。

--

② その活動にどのくらいの頻度で参加しましたか。
去年と今年についてお答えください。(それぞれ○は1つ)

《去年(2019年)》

1. 週に4回以上	2. 週に2～3回	3. 週に1回
4. 月に2～3回	5. 月に1回	6. 年に数回
7. 不定期	8. 去年は参加していない	

《今年(2020年)》

1. 週に4回以上	2. 週に2～3回	3. 週に1回
4. 月に2～3回	5. 月に1回	6. 年に数回
7. 不定期	8. 今年は参加していない	

③ その活動を始めたきっかけは何ですか。(○は1つのみ)

1. 友人・知人の勧め
2. 家族の勧め
3. 町会・自治会、老人クラブからの誘い
4. 活動団体からの呼びかけ
5. 区からの情報(「広報いたばし」、区ホームページその他)
6. 町会・自治会、老人クラブ、活動団体からの情報(広報紙、ホームページその他)
7. 個人の意思(自分がやりたいことや、問題意識・解決したい課題がある)
8. その他()
9. 特にない

【問27-1の次は、15ページの「問28」へお進みください。】

【問27でア～タのすべてに「3」と回答した方におうかがいします。】

問27-2① 参加していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 仕事や家事で忙しく時間がない | 2. 何をしたいのか、わからない |
| 3. あまり関わりを持ちたくない | 4. やりたい活動がない |
| 5. 自分や家族が健康ではない | 6. 家族の介護や世話がある |
| 7. 気の合う人がいない | 8. その他 |

② 参加をするきっかけになると思うことは何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 友人・知人の勧め |
| 2. 家族の勧め |
| 3. 町会・自治会、老人クラブからの誘い |
| 4. 活動団体からの呼びかけ |
| 5. 区からの情報(「広報いたばし」、区ホームページその他) |
| 6. 町会・自治会、老人クラブ、活動団体からの情報(広報紙、ホームページその他) |
| 7. 自分がやりたいことをみつけること |
| 8. その他() |
| 9. きっかけになりそうなものはない |

【 すべての方におうかがいします。 】

問28 あなた(宛名のご本人)は現在、老人クラブ(区内の60歳以上の方が加入できる自主的な組織で、教養の向上・健康の増進・社会奉仕を目的として様々な活動を行っています。)に加入していますか。(○は1つのみ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 加入している | 2. 加入していない |
|-----------|------------|

▶【1は16ページの「問29」へお進みください。】

【問28で「2. 加入していない」とお答えの方におうかがいします。】

問28-1 加入していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 「老人クラブ」を知らないから | 2. 仕事などで忙しいから |
| 3. 他の団体・サークル活動で忙しいから | 4. 健康上の理由 |
| 5. 加入の仕方がわからないから | 6. 「老人」という名称に抵抗があるから |
| 7. 自分はまだ老人ではないから | 8. 活動内容に魅力を感じないから |
| 9. 同年代の会員が少ないから | 10. 若い世代と交流できないから |
| 11. 会員同士の間人間関係がわずらわしいから | |
| 12. 役員などを引き受けるのがわずらわしいから | |
| 13. その他() | |

【 すべての方におうかがいします。 】

問29 あなた（宛名のご本人）は、区が行っている次の事業を知っていますか。また、過去1年間に利用・参加したものはありますか。それぞれあてはまる番号をお選びください。

(それぞれの項目にお答えください)	知っている	利用・参加した 過去1年間に	利用・参加しなかった	知らない
ア. ふれあい館	1	2	3	4
イ. 住民防災組織	1	2	3	4
ウ. 町会・自治会	1	2	3	4
エ. グリーンカレッジ（高齢者大学校） 教養課程・専門課程・大学院	1	2	3	4
オ. グリーンカレッジホール（シニア学習 プラザ）でのイベント・講座	1	2	3	4
カ. 民生委員	1	2	3	4
キ. まなぽーと（生涯学習センター）	1	2	3	4
ク. フレイルチェック測定会	1	2	3	4
ケ. 「大人の活動ガイド ステップ」 （冊子版またはWEB版）	1	2	3	4
コ. 「いたばし学習・スポーツガイド」	1	2	3	4
サ. いたばし総合ボランティアセンター	1	2	3	4
シ. コミュニティ・スクール	1	2	3	4
ス. 認知症カフェ	1	2	3	4
セ. 住民運営通いの場（「高齢者の暮らしを 広げる10の筋トレグループ」など）	1	2	3	4
ソ. 福祉の森サロン	1	2	3	4

問33 あなた（宛名のご本人）が区の事業に参加しない理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 内容が、自分のしたいこと・興味のあることに合わない
2. 似た内容で、ほかにもっといいものがある
3. 目新しさがない
4. 専門性や難易度が自分に合わない
5. 会場が遠い
6. 費用が高い
7. 区内在住や対象年齢など参加要件があり、限られた人としてしか活動できない
8. 情報がない
9. 忙しくて時間がない
10. 健康上の理由
11. どれに参加するのがいいのかわからない
12. その他（）
13. 特に理由はない

問34 「社会参加」に関して、新型コロナウイルス感染症の影響でこれまでに困ったことや、現在困っていることはありますか。あてはまるものに○をつけてください。

（○はいくつでも）

※「社会参加」…仕事、町会・自治会や老人クラブなど地域での活動、ボランティア、学習、芸能の伝承、趣味・習い事など、他の人と一緒に行うことであれば、すべて「社会参加」としてください。

1. 外出を自粛しており、以前のように参加できない
2. 活動・催し・イベント・会合などがなくなり、参加できない
3. 活動・催し・イベント・会合などがオンラインで（インターネットを使って）開かれるようになったが、使い方がわからず参加できない
（または、慣れておらず参加しづらい）
4. 通っていた場所が休止・閉鎖になり、行くことができない
5. 一緒に参加していた人や誘ってくれた人が来なくなったり、会えなくなったりして、参加しづらい
6. 訪問や会合がなくなって、情報が伝わらない
（または、情報を伝えることができない）
7. 人数制限のため、これまでの場所で活動できない
8. 会議などが開けず、活動が進まない
9. その他（）

問35 あなた（宛名のご本人）は、今後、今まで以上に取り組みたい・心がけたいものはありますか。あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

1. 子や孫など、家族・親族（同居していない場合を含む）との交流
2. 配偶者や親など、家族・親族（同居していない場合を含む）のケア、介護
3. 仕事、就職活動
4. ご近所とおつきあい
5. 友人・知人との交流
6. 新しい仲間やネットワークづくり
7. 住んでいる地域での、町会・自治会、老人クラブなどの活動
8. ボランティア活動
9. 学習活動（講座・講習会、学習サークルなど）
10. インターネットの活用
11. 体を動かす（ウォーキングやスポーツなど）
12. 家屋や庭の維持、メンテナンス（日曜大工、庭いじりなど）
13. 趣味の活動（主に外出して行うもの：習い事、趣味のサークル活動、旅行やイベントなど）
14. 趣味の活動（主に自宅で行うもの：読書、手芸、オンラインで行うものなど）
15. 資格の取得
16. 前掲1～15以外で取り組んでみたい、やりたいもの・こと
()
17. 特にない

問36 行政で行ってほしいと思う支援施策はありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 仕事に関する情報や機会の提供などの就労の支援
2. ボランティア活動への参加に対する支援
3. 多世代との交流の支援
4. 学習のきっかけづくりの支援
5. 健康づくりの支援
6. 活動に関する情報提供
7. 活動参加のきっかけづくりの支援
8. その他 ()
9. 特にない

【5】あなたご自身のことについて

問37 あなた(宛名のご本人)が最後に卒業された学校をお答えください。(○は1つのみ)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 中学校(高等小学校を含む) | 2. 高等学校(旧制中学校を含む) |
| 3. 専門学校 | 4. 大学(短大・旧制高校を含む) |
| 5. 大学院 | 6. 答えたくない |

問38 あなた(宛名のご本人)の年収(年金を含む)をお答えください。(○は1つのみ)

- | | | |
|----------------|------------------|----------------|
| 1. 80万円未満 | 2. 80～120万円未満 | 3. 120～200万円未満 |
| 4. 200～300万円未満 | 5. 300～400万円未満 | 6. 400～550万円未満 |
| 7. 550～700万円未満 | 8. 700～1,000万円未満 | 9. 1,000万円以上 |
| 10. 答えたくない | | |

【6】その他

問39 ここまでの質問以外のことなど、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

お名前、ご住所は記入不要です。

同封の返信用封筒に入れて、**切手を貼らず**にポストに投函して下さい。

※返信用封筒の郵便番号「173-8790」、承認番号「2495」、
バーコードは、アンケートの回答を板橋区役所に郵送するためのもので、

板橋区高齢者ニーズ調査

シニア世代の生活・健康・生きがい・仕事についての
アンケート調査報告書

令和3年3月発行

発行：板橋区健康生きがい部長寿社会推進課シニア活動支援係

〒173-8501 板橋区板橋2丁目66番1号

TEL 03(3579)2376

FAX 03(3579)2309

刊行物番号

R02-135